

2024年度（令和6年度）

医学科履修要項

旭川医科大学

目 次

- ・旭川医科大学の理念, 使命
- ・旭川医科大学医学部の教育理念, 目標
- ・旭川医科大学医学部医学科(学士課程)ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)
- ・旭川医科大学医学部医学科(学士課程)カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)
- ・旭川医科大学医学部医学科(学士課程)医学科2024カリキュラム カリキュラムマップ
- ・旭川医科大学アセスメント・ポリシーについて
- ・医学科授業科目の単位数及び履修年次(第1学年)

【必修科目(第1学年)】

1. 医学英語 I A	1	14. 基礎生物学実習	21
2. 医学英語 I B	3	15. 医用物理学実習	22
3. 早期体験実習 I	6	16. 情報科学実習	23
4. 地域医療学	7	17. 基礎化学実習	24
5. 医療概論 I	8	18. 心理・コミュニケーション実習	25
6. 症候学	9	19. データサイエンス	26
7. 基礎生物学	10	20. 数学	27
8. 医用物理学	12	21. 初年次セミナー	28
9. 統計学	14		
10. 情報リテラシー	15		
11. 基礎化学	16		
12. 心理学	18		
13. 発生遺伝学	20		

【選択必修科目(第1学年)】

22-1. 自然科学入門(物理系)	29
22-2. 自然科学入門(化学系)	30
22-3. 自然科学入門(生物系)	31

- ・旭川医科大学医学部医学科(学士課程)カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)
- ・旭川医科大学医学部医学科(学士課程)医学科2022カリキュラム カリキュラムマップ
- ・医学科授業科目の単位数及び履修年次(第2~3学年)

【必修科目(第2学年)】

23. 医学英語 II A	33	33. 生化学 II	51
24. 医学英語 II B	35	34. 免疫学	53
25. 早期体験実習 II	37	35. 形態学実習 I	55
26. 医学チュートリアル I	38	36. 形態学実習 II	57
27. 医療社会学	39	37. 生化学実習	59
28. 医療概論 II	40	38. 微生物学	61
29. 分子生物学	41	39. 寄生虫学	63
30. 機能形態基礎医学 I	42	40. 薬理学	64
31. 機能形態基礎医学 II	45	41. 基礎医学特論	66
32. 生化学 I	49	42. 生理学実習・演習	67

【必修科目(第3学年)】

43. 医学英語 III	69	52. 心肺病態制御医学	83
44. 医学チュートリアル II~III	73	53. 生体調節医学	86
45. 医療社会学実習	74	54. 生体防御医学	88
46. 医療概論 III	75	55. 消化器医学	90
47. 病理学	76	56. 精神・神経病態医学	92
48. 薬理学実習	78	57. 感覚器病態医学	95
49. 微生物学実習	79	58. 生殖発達医学	98
50. 寄生虫学実習	81	59. 臨床放射線学	102
51. 病理学実習	82	60. 臨床検査学	103

【選択必修科目（第3学年）】

61-1. 選択必修コースⅠ 生体構造機能蛋白・病態解析コース…	105	62-1. 選択必修コースⅡ 臨床薬理学コース……………	107
61-2. 選択必修コースⅠ 救急・プライマリーケアコース……………	106	62-2. 選択必修コースⅡ 糖尿病・内分泌Up・Dateコース……………	108

- ・旭川医科大学医学部医学科(学士課程)カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)
- ・旭川医科大学医学部医学科(学士課程)医学科2015カリキュラム カリキュラムマップ
- ・医学科授業科目の単位数及び履修年次(第4～6学年)

【必修科目（第4学年）】

63. 医学チュートリアルⅢ～Ⅴ ……	109	73. 救急医学……………	122
64. 医療概論Ⅳ ……	110	74. 症候別・課題別講義……………	123
65. 腫瘍学2 ……	111	75. 臨床放射線学……………	125
66. 衛生・公衆衛生……………	112	76. 臨床検査学……………	126
67. 法医学……………	114	77. 臨床薬剤・薬理・治療学……………	127
68. 衛生・公衆衛生実習……………	115	78. 臨床疫学……………	129
69. 法医学実習・演習……………	117	79. 健康弱者のための医学……………	130
70. 医療情報学……………	118	80. 医療安全……………	132
71. 整形外科学……………	119	81. 共用試験C B T……………	133
72. 麻酔科学……………	121	82. 臨床実習序論……………	134

【医学研究特論（第4学年）】

83-01. 解剖学講座(機能形態学分野) ……	135	83-22. 外科学講座(消化管外科学分野)	146
83-02. 解剖学講座(顕微解剖学分野) ……	135	83-23. 整形外科学講座……………	147
83-03. 生理学講座(自律機能分野) ……	136	83-24. 皮膚科学講座……………	147
83-04. 生理学講座(神経機能分野) ……	136	83-25. 腎泌尿器外科学講座……………	148
83-05. 生化学講座……………	137	83-26. 眼科学講座……………	148
83-06. 薬理学講座……………	137	83-27. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	149
83-07. 病理学講座(腫瘍病理分野) ……	138	83-28. 産婦人科学講座……………	149
83-08. 病理学講座(免疫病理分野) ……	138	83-29. 放射線医学講座……………	150
83-09. 感染症学講座(微生物分野) ……	139	83-30. 麻酔・蘇生学講座……………	150
83-10. 社会医学講座……………	139	83-31. 脳神経外科学講座……………	151
83-11. 感染症学講座(寄生虫学講座) ……	140	83-32-01. 歯科口腔外科学講座……………	151
83-12. 法医学講座……………	140	83-32-02. 歯科口腔外科学講座……………	152
83-13. 先端医科学講座……………	141	83-33. 救急医学講座……………	152
83-14. 内科学講座 (循環器・腎臓内科学分野) ……	141	83-34. 心理学講座……………	153
83-15. 内科学講座(内分泌・ 代謝・膠原病内科学分野) ……	142	83-35. 化学……………	153
83-16. 内科学講座 (消化器内科学分野)……………	143	83-36. 先進医工学研究センター……………	154
83-17. 精神医学講座……………	143	83-37. リハビリテーション科……………	154
83-18. 小児科学講座……………	144	83-38. 形成・再建外科学講座……………	155
83-19. 外科学講座(血管・呼吸・ 腫瘍病態外科学分野) ……	145	83-39. 薬剤部……………	155
83-20. 外科学講座 (心臓大血管外科学分野) ……	145	付: オフィスアワー一覧……………	157
83-21. 外科学講座 (肝胆膵・移植外科学分野) ……	146	付: 令和6年度学年暦……………	164
		令和6年度カレンダー……………	165
		付: 医学科 実務経験のある教員等による 授業科目の一覧表……………	166

旭川医科大学の理念，使命

大学の理念

旭川医科大学は，豊かな自然環境の中で，真摯な教育及び研究活動を行い，医学・看護学の発展に尽くすとともに，地域及び国際社会における保健・医療・福祉の向上に貢献する。

大学の使命

旭川医科大学は，少子・高齢化及び人口減少が急速に進む北海道の地域医療を支えることに重点を置き，献身的かつ有能な医師及び看護職者を育成することで地域社会の保健・医療・福祉を安定的に向上させる。また，独自性の高い研究活動と先進的な医療活動を通して医学・看護学の発展に貢献する。

旭川医科大学医学部医学科の教育理念，目標

教育の理念

旭川医科大学は，豊かな人間性と高い倫理観を備え，高度な知識・技能と幅広い学問的視野を持ち，医学・医療・福祉の向上を通じて社会に貢献する強い意志を有する医療人及び研究者を育成する。

教育の目標

1. 広く深い教養とコミュニケーション能力を身につけ，他者を思いやることのできる豊かな人間性を育む。
2. 生命を尊重するとともに，倫理的配慮の下に病める人々の人権及び多様性を擁護し，信頼関係を築くことができる。
3. 進歩した専門的知識・技能を修得するとともに，生涯にわたり学修及び研究を継続する強い意欲を持つ。
4. 地域住民の医療や福祉の実際を理解し，問題点の解決に実質的に貢献するための能力を身につける。
5. 医学・医療・福祉の向上を通じて地域及び国際社会の発展に尽そうとする幅広い視野と意欲を涵養する。

旭川医科大学医学部医学科（学士課程） ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

旭川医科大学医学部医学科では、教育の目標に沿って編成された年次カリキュラムを履修し、基準となる単位数を修得し、次の資質と能力を身につけたと認められる学生に対し学位(学士(医学))を授与します。

「倫理観とプロフェッショナリズム」（態度）

生命の尊厳を尊重し、医の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。

「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」（知識）

幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性とその方法を説明できる。

「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力」（技能）

豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。

患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。

急性もしくは慢性の健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。

「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」（思考・判断）

基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。

また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的研究計画を立案できる。

「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」（意欲・関心）

医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会及び国際社会に貢献する必要性とその方法を説明できる。

旭川医科大学医学部医学科（学士課程）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医学科では、医療分野における多様な価値観等に触れるための基礎教育科目、医師のプロフェッショナリズム涵養に結びつく横断的な内容を身につけるためのICM(Introduction to Clinical Medicine)科目、より専門的な内容を学び、実践的な力を身につけるための基礎医学科目、臨床医学科目による教育課程を整備し、これらの体系的な履修を促します。また、日進月歩である医学の発展に教育課程として柔軟に対応するために「選択・必修コース」をICM科目の中に配置し、基礎医学・臨床医学の発展に即した教育課程となるよう努めています。

医学科では、医学科の学位授与の方針を実現するために、上記の方針を以下のとおり具体化して、カリキュラムを編成しています。

① 「倫理観とプロフェッショナリズム」（態度）

生命の尊厳を尊重し、医の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。

1. 医学者としての倫理原則や臨床医として患者さんに対応するための行動科学を理解するために、ICM科目に「医療概論Ⅰ～Ⅳ」を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

② 「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」（知識）

幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性とその方法を説明できる。

2. 文化、社会、自然等に関する幅広い知識を身につけ、多様な価値観等に触れるために、教養科目を基礎教育科目と位置づけ履修を個人の希望に合わせた選択としています。
3. 医師のプロフェッショナリズム涵養に結びつく横断的な内容を身につけるためのICM科目を設定し履修を必修としています。
4. 専門分野の学問の内容と方法を説明でき、自学自習の態度を涵養し、確実に知識を獲得するために、講義・実習科目としての基礎教育科目、基礎医学科目、臨床医学科目のみでなく、ICM科目として「医学チュートリアルⅠ～Ⅲ」を演習科目として配置し、2年次から系統的に履修できるように展開しています。

③ 「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力」(技能)

豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。

患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。

急性もしくは慢性の健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。

5. 心理学的背景を理解した上で、医療コミュニケーションを円滑に行うために、基礎教育科目に「心理・コミュニケーション実習」を1年次に配置しています。

6. 主要徴候に基づく健康問題の診断と治療の原則を理解するために、1年次に「症候学」を導入し、ICM科目の「医学チュートリアルⅡ」と臨床医学科目を連動させ配置しています。

7. 臨床実習に必要な基本的診療能力と臨床推論能力を身に付けるために、臨床医学科目の「臨床実習序論」とICM科目のTBL型演習である「医学チュートリアルⅢ」を連動させ配置し、4年次に展開しています。

8. 臨床実習は、4年次～5年次に配置するベッドサイドラーニングで全ての臨床科目をローテートし、引き続き配置する実習ではクリニカルクラークシップ(診療参加型実習)を採用し3～4週間を一単位として基本診療科を中心に5年次～6年次に必修で展開しています。

④ 「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」(思考・判断)

基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。

また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的研究計画を立案できる。

9. 自らの思考・判断のプロセスや結果を、論述等で論理的に的確に説明できるように、基礎教育科目に「基礎生物学実習」、「医用物理学実習」、「基礎化学実習」、基礎医学科目には「生化学実習」、「形態学実習Ⅰ、Ⅱ」、「生理学実習・演習」、「薬理学実習」、「微生物学実習」、「寄生虫学実習」、「衛生・公衆衛生学実習」、「法医学実習・演習」等の実習科目を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

10. 臨床情報に基づく研究を行うために臨床医学科目に「臨床疫学」を配置し、獲得した様々な知識を用いて現実の問題解決に取り組む活動を行なう医学研究者としての素養を養うため、4年次に研究室に所属する必修科目としてICM科目に「医学研究特論」を配置しています。

⑤「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」（意欲・関心）

医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会及び国際社会に貢献する必要性とその方法を説明できる。

11. 地域医療の問題点を知るための「地域医療学」、旭川近郊および北海道での医療ニーズの探索ための「早期体験実習Ⅰ、Ⅱ」、医療に関わる社会的問題を知り解決するための「医療社会学」、「医療社会学実習」をICM科目に配置しています。また地域における病める者の医療ニーズを知るために臨床医学科目に「健康弱者のための医学」を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

12. 医学研究を通じて国際社会に貢献する方法を知るために「医学研究特論」を4年次に配置しています。

学習成果の評価の方針

1. 講義の学習成果は、試験・レポート・授業での課題等により、演習や実習では課題の実施状況やレポート等で総合的に評価します。医学研究特論は、取り組み状況、研究成果の発表により評価します。臨床実習は、各診療科の評価基準（ルーブリック評価、レポートなど）に従って評価します。
2. 各卒業時到達目標、コンピテンシーの達成度、および各学年で身につけた知識、技能、態度等の総合的評価は「医学科コンピテンシー・評価対応表」により行います。
3. 本学の医学教育をより良いものにするため、カリキュラムの評価と検証を継続的に行います。その評価・検証体制は「アセスメント・ポリシー」に示されています。

旭川医科大学医学部医学科2024カリキュラム カリキュラムマップ

基礎教育科目
ICM科目
基礎医学科目
臨床医学科目

領域	態度	知識	技能	思考・判断	意欲・関心	
キーワード	倫理観とプロフェッショナリズム	医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力	全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力	問題解決能力、発展的診療能力、研究心	地域社会・国際社会へ貢献するための能力	
ディプロマ・ポリシー	生命の尊厳を尊重し、医学の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。	幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性とその方法を説明できる。	豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。 患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。 急性もしくは慢性の健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。	基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。 また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的研究計画を立案できる。	医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会及び国際社会に貢献する必要性とその方法を説明できる。	
6年	統合演習試験/ 臨床実習後OSCE	臨床実習 III				
5年		臨床実習 II				
		臨床実習 I				
4年	OSCE/CBT	臨床薬剤・薬理・治療学 形成外科学 リハビリテーション医学 麻酔科学 救急医学 整形外科学 腫瘍学	衛生・公衆衛生 法医学 臨床ゲノム医学	子医学 ユートリアル III	臨床実習序論 医学研究特論 健康弱者のための医学 症候別・課題別講義	医療社会学実習 臨床疫学 衛生・公衆衛生学実習 法医学実習・演習
		医療概論IV 医療安全 医療情報学				
3年		選択必修コース 生殖発達医学 感覚器病態医学 精神・神経病態医学 消化器医学 生体防御医学 生体調節医学 心肺病態制御医学 病理学 臨床放射線 臨床検査学	医学 ユートリアル II	病理学実習 寄生虫学実習 薬理学実習 微生物学実習	医療社会学実習	
		医療概論III				
2年		機能形態基礎医学 I・II 寄生虫学 薬理学 微生物学 免疫学 生化学 I・II	子医学 ユートリアル I	基礎医学特論 形態学実習 I・II 生化学実習 生理学実習・演習	医療社会学 早期体験実習 II	
		医療概論II				
1年		基礎教育科目 (教養科目)		症候学	地域医療学 早期体験実習 I	
		医療概論I				

旭川医科大学医学部アセスメント・ポリシー

令和6年3月13日改正

1. 成績の評価について

- (1) 評価方法をシラバスに明示する。
- (2) 到達目標に対する評価の基準を明確にする。そのため、筆記試験では問題と解答の開示を、レポートなどでは評価のためのルーブリックの公開を推進する。
- (3) 成績評価に対する異議申し立て期間を設ける。

2. 成績の評語、評点、評価の基準について

成績は以下の基準に基づき、評語をもって表し、秀、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験後の評価は、可を上限とする。

評語	評価の基準
秀	シラバスに示す到達目標を達成し、極めて優秀な成果を修めている。
優	シラバスに示す到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。
良	シラバスに示す到達目標を達成し、良好な成績を修めている。
可	シラバスに示す到達目標を達成している。
不可	シラバスに示す到達目標を達成していない。

注1) 各評語に対する評点（100点満点）の目安は以下の通りとする。

秀：90-100；優：80-89；良：70-79；可：60-69；不可：59点以下。

注2) 科目履修者における各評語の割合の目安は以下の通りとする。

- ① 「秀」は、医学科、看護学科いずれにおいても履修者数の5%を超えないことが望ましい。
- ② 医学科においては、「秀・優」の合計は、30%程度が望ましい。
- ③ 看護学科においては、「秀・優」の合計は、「良・可」の合計を超えない程度とし、「可」の割合は「良」の割合以下とするのが望ましい。
- ④ なお、各評語の割合については、履修者数や科目の特性に応じ、授業科目担当教員が判断できる余地を残すこととする。

3. 「合格・不合格」判定を行う科目について

必修科目において、「秀・優・良・可・不可」の評語がなじまない科目については、「合格・不合格」のみ判定を行い、GPA 判定に含めない。「合格・不合格」判定を行う科目については、教育センターカリキュラム部門にて検討し、明示する。

「合格・不合格」判定を行う科目

【医学科2015カリキュラム】

早期体験実習Ⅰ（医学科第1学年）	2019年度以降
基礎医学特論（医学科第2学年）	2019年度以降
選択必修コースⅠ～Ⅲ（医学科第3学年）	2019年度以降
医学研究特論（医学科第4学年）	2019年度以降
臨床実習序論（医学科第4学年）	2023年度以降

【医学科2022カリキュラム】

医用物理学実習（医学科第1学年）	
初年次セミナー（医学科第1学年）	
早期体験実習Ⅰ（医学科第1学年）	
基礎医学特論（医学科第2学年）	
選択必修コースⅠ～Ⅱ（医学科第3学年）	
医学研究特論（医学科第4学年）	
臨床実習序論（医学科第4学年）	2023年度以降

【医学科2024カリキュラム】

医用物理学実習（医学科第1学年）	
初年次セミナー（医学科第1学年）	
早期体験実習Ⅰ（医学科第1学年）	
基礎医学特論（医学科第2学年）	
選択必修コース（医学科第3学年）	
医学研究特論（医学科第4学年）	
臨床実習序論（医学科第4学年）	

【看護学科2019カリキュラム、2022カリキュラム】

早期体験実習Ⅰ（看護学科第1学年）	
初年次セミナー（看護学科第1学年）	

4. 点検と見直しについて

評価方法の選定と基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、教務・厚生委員会にて、①成績評価の分布状況、②成績評価の妥当性の事後チェック（成績評価の分布の偏りの点検）等の調査により定期的に点検・見直しを行う。

区分	授業科目	単位数	授業形式	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年	第6学年	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
臨床 医学 科目	心肺病態制御医学	4	講義					4						必修
	生体調節医学	3	〃					3						
	生体防御医学	2	〃						2					
	消化器医学	3	〃					3						
	精神・神経病態医学	4	〃						4					
	感覚器病態医学	5	〃						5					
	生殖発達医学	5	〃						5					
	腫瘍学	2	〃							2				
	整形外科学	2	〃							2				
	麻酔科学	1	〃							1				
	救急医学	1	〃							1				
	症候別・課題別講義	2	〃							2				
	臨床放射線学	1	〃						1					
	臨床検査学	1	〃						1					
	臨床薬剤・薬理・治療学	2	〃							2				
	臨床疫学	1	〃							1				
	健康弱者のための医学	1.5	〃							1.5				
	リハビリテーション医学	1	〃							1				
	形成外科学	0.5	〃							0.5				
	臨床ゲノム医学	0.5	〃							0.5				
	臨床実習序論	3	演習								3			
	臨床実習Ⅰ	21	実習								21			
	臨床実習Ⅱ	38	〃									38		
臨床実習Ⅲ	12	〃										12		
小計 (必修)		116.5												
合計		(必修)	201											
		(選択)	37											

【卒業要件単位数】

必修科目201単位及び選択科目5単位以上、合計206単位以上を習得すること。

必修科目

【第1学年】

1. 医学英語 I A (必修)

担当教員	桑名 保智		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	通年	1単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>本授業は、医療分野のニュースや一般向け医療解説記事の読解演習を通して、医療情報の収集に必要な英語の基礎力を身につけることが目的である。前期は、講義と課題演習を織り交ぜながら授業を行う。課題演習は、読解、文法、語彙等についての課題に取り組む。後期は、課題演習が中心となる。毎授業の課題演習には、予習状況を確認するためのquizが含まれる。</p>			
到達目標			
<p>①読解 欧米の著名な新聞の医療記事を一定の時間内に理解できる。平易なものであれば、150WPM(word per minute)を目標とする。</p> <p>②聴解 第2外国語レベルの医療分野のニュース(100 WPM)を聞いて理解できる。</p> <p>③語彙 一般英語語彙を5000語レベルまで増強する。医療英単語の基本的な形態素に関して、その意味を理解する。医療記事で頻度の高い専門分野の語彙について、日本語と英語の対応関係が説明できる。</p>			
授業の形式			
情報処理実習室でコンピュータを用いた演習を行う。課題および課題の解説は、電子媒体を利用する予定である。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>教員が指定した解説記事やニュース記事に関して、重要語句や文法事項について事前に調べ、覚えてくるとともに、内容についてまとめておくこと。音声教材については、ディクテーションができるまで練習しておくこと。毎回の課題の分量は、授業一回につき2時間程度となるようにする。</p>			
成績評価の基準等			
<p>A. 成績は①と②の合計点により評価する。 * ALC(自主学習e-learning): 指定された範囲を期日までに終わらせるのが単位認定の前提です。</p> <p>① 課題 70点: 毎授業で実施する課題の平均点を70点満点に換算。 ② 試験 30点: 試験を2回実施し、それらの平均点を30点満点に換算。 秀: 90点以上かつ上位5%、優: 80点~89点、良: 70点~79点、可: 65点~69点</p> <p>B. 次のいずれかに該当する場合は不合格(不可)となる。 (1) ①と②の合計点が65点に満たない場合、(2) 4回連続課題未提出、(3) 欠席が11回以上、(4) 試験の未受験、(5) ALC(自主学習e-learning)の指定された範囲が未完了、(6) 不正行為</p> <p>C. 遅刻・欠席について (1) 正当な理由のない遅刻および事前連絡のない遅刻があった場合、最終成績から減点します。 (2) 欠席した場合は欠席届を必ず提出してください。公欠は定められた手順に従ってください。</p>			
学生へのメッセージ			
<p>・英語の勉強には継続的な努力が必要です。授業の予習と毎回の課題を着実にこなしていくことで、目標の達成が可能となります。英語力が低いと感じている学生は、反復練習を行ってください。 ・授業のルール等で不明な点がある場合は必ず質問をして、確認してください。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	ガイダンス	大学における英語学習の意義・将来の英語のニーズ・本授業の年間計画	桑名
2	英語力診断	文法力についての実力診断	〃
3	文法・読解演習	文法: 進行形の特殊用法 読解: 記事の読解	〃
4	文法・読解演習	文法: 助動詞 読解: 記事の読解	〃
5	文法・読解演習	文法: SVOC と SVCO 読解: 記事の読解	〃
6	文法・読解演習	文法: SVOC と OSVC 読解: 記事の読解	〃
7	文法・読解演習	文法: 空所化 読解: 記事の読解	〃
8	文法・読解演習	文法: the + 動名詞 読解: 記事の読解	〃
9	文法・読解演習	文法: 分詞 読解: 記事の読解	〃
10	文法・読解演習	文法: if 読解: 記事の読解	〃
11	文法・読解演習	文法: 名詞化表現 読解: 記事の読解	〃
12	文法・読解演習	文法: 冠詞 読解: 記事の読解	〃
13	文法・読解演習	文法: not A and B 読解: 記事の読解	〃
14	試験	試験	〃
15	まとめ	前期のまとめと到達度に関する講評	〃

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	語彙・読解演習	文法：語形成（身体部位・消化器） 読解：記事の読解	桑名
17	語彙・読解演習	文法：語形成（循環器・呼吸器） 読解：記事の読解	〃
18	語彙・読解演習	文法：語形成（泌尿器・生殖器） 読解：記事の読解	〃
19	語彙・読解演習	文法：語形成（脳神経） 読解：記事の読解	〃
20	語彙・読解演習	文法：語形成（筋骨格系） 読解：記事の読解	〃
21	読解演習	読解：記事の読解	〃
22	読解演習	読解：記事の読解	〃
23	読解演習	読解：記事の読解	〃
24	読解演習	読解：記事の読解	〃
25	読解演習	読解：記事の読解	〃
26	読解演習	読解：記事の読解	〃
27	読解演習	読解：記事の読解	〃
28	読解演習	読解：記事の読解	〃
29	まとめ	後期のまとめと到達度に関する講評	〃
30	試験	試験	〃

2. 医学英語 I B (必修)

担当教員	Gwendolyn Gallagher (非常勤) ◎桑名 保智		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	通年	1単位	30コマ
履修目的・授業概要 In this class we will practice speaking English in clinical situations. We will use an English textbook for health professionals, and students will prepare for class by completing listening exercises for homework with the accompanying CD. Term tests will be oral, reflecting the kinds of activities emphasized in class, and there will be a written quiz. At the beginning of each lesson we will have an unstructured "news time", intended to improve students' general fluency and listening ability and to raise their comfort level in English.			
到達目標 Students will be able to describe and query basic symptoms, give basic instructions as will be useful in conducting a physical examination, and express some of the actions they might perform while conducting a physical examination.			
授業の形式 We will be using a medical English textbook with accompanying CD. A dictionary will also be useful.			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Before each class students should review the exercises in the textbook covered in the previous lesson. When assigned, students should complete listening homework using the textbook and accompanying CD. We will have an opportunity to talk about news, small or large, personal or public, at the beginning of each class. In order to participate, students should reflect on recent happenings in their life before each class and think about how to explain them in English. Students should expect to do about one hour of preparation.			
成績評価の基準等 Good attendance is absolutely essential. There will be two oral tests. Class performance(70%), tests(30%). GRADING CRITERIA: S:90 points and above, A:89~80, B:79~70, C:69~60, D(Fail): 59~0			
学生へのメッセージ			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
Vital Signs [Revised Edition]	Vivian Morooka	南雲堂	

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	Introduction	Getting to Know You; Class mechanics	Gallagher (非常勤)
2	Unit 1	Listening & Controlled Practice	"
3	"	Communicative speaking activities	"
4	Unit 2	Listening & Controlled Practice	"
5	"	Communicative speaking activities	"
6	Unit 3	Listening & Controlled Practice	"
7	"	Communicative speaking activities	"
8	Unit 4	Listening & Controlled Practice	"
9	"	Communicative speaking activities	"
10	Unit 5	Communicative speaking activities	"
11	Test Preparation	Test Practice	"
12	Test	Test	"
13	Review	Our Vacation	"
14	Unit 6	Listening & Controlled Practice	"
15	"	Communicative speaking activities	"

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	Unit 7	Listening & Controlled Practice	Gallagher (非常勤)
17	"	Communicative speaking activities	"
18	Unit 8	Listening & Controlled Practice	"
19	"	Communicative speaking activities	"
20	Unit 9	Listening & Controlled Practice	"
21	"	Communicative speaking activities	"
22	Unit 10	Listening & Controlled Practice	"
23	"	Communicative speaking activities	"
24	Unit 11	Listening & Controlled Practice	"
25	"	Communicative speaking activities	"
26	Review	Our holidays	"
27	Unit 12	Listening & Controlled Practice	"
28	"	Communicative speaking activities	"
29	Test Preparation	Test Practice	"
30	Test	Test	"

2. 医学英語 I B (必修)

担当教員	David Fairweather (非常勤)、 ◎桑名 保智		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	通年	1単位	30コマ
履修目的・授業概要			
The goal of this class is to improve students' skills and confidence in using English. Students practice speaking and listening as well as studying grammar and vocabulary in order to attain basic conversation skills.			
到達目標			
Upon completion of the class students should be able to communicate in English about a variety of topics in a variety of situations. Students will also be able to give an opinion, backed up with reasons, about topics they are discussing.			
授業の形式			
As well as the textbook there will be supplementary materials. Students will often be asked to work in pairs or groups to complete exercises. Some short class presentations will also be required.			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
Students are expected to prepare for each class by reading the pages in the textbook that will be covered in that class. In addition, there will be short presentations throughout the year that will require some preparation time.			
成績評価の基準等			
There will be two written tests which will be worth 70% of your grade. Both tests will have a listening component. 30% of your grade will come from pair and group work activities done in the classroom as well as overall effort. A score of 'S' will be given to students who achieve 90% or more on both tests as well as achieving as an average of 90% or more on the classroom assignments. Students will receive an 'A' for scores ranging from 80% to 89% on the tests and classroom assignments. A score of 'B' will be given to students who attain an average of 70% to 79% on the tests and classroom assignments. Students will be given a 'C' if they attain an average of 60% to 69% on the tests and assignments.			
学生へのメッセージ			
You will get out of this class what you put into it. Active participation in class is essential.			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
Evolve・Student's Book 3A	Leslie Anne Hendra, Mark Ibbotson, and Kathryn O'Dell	Cambridge	

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1-4	Unit 1	Making introductions. Talking about personalities. Information questions and direct questions. Writing an email to get to know someone.	Fairweather (非常勤)
5-8	Unit 2	Talking about things you own. Writing an ad for something you want. Present perfect. Using short questions to show interest. Listening to a podcast interview.	"
9-12	Unit 3	Asking and answering questions about your city. Public transportation. Asking for directions. Writing a personal statement for an application.	"
13-16	Unit 4	Describing opinions and reactions. Writing an email describing plans for an event. Offering reassurance. Writing an email describing plans for an event.	"
17-20	Unit 5	Talking about needing and giving help. Talking about surprising situations. Giving surprising news and reacting with surprise.	"
21-24	Unit 6	Talking about problems and solutions. Expressing concern and relief. Present and future real conditionals. Online comments - reacting to a podcast.	"
25-28	Exercise	Role plays and presentations	"
29	Review	Review	"
30	Review	Review	"

3. 早期体験実習 I (必修)

担当教員	◎野津 司 (地域医療教育学) 教育センター 地域医療教育部門 野中雅人 (老年看護学)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	1単位	38コマ
履修目的・授業概要 早期体験実習 I は、医学生の早期に医療・保健・福祉について基本的な事柄を学び、医療者として必要な能力・行動規範に対する関心を高める演習です。医学科・看護学科の合同科目です。			
到達目標 【一般目標】 将来活動する、地域に根差した質の高い医療者となるために、地域社会における医療・保健・福祉の役割を学び、医療者に必要とされる能力や行動規範を理解する。 【行動目標】 (1) 高齢者や介助が必要な人の視点に立ち、個別のケースでふさわしい支援方法を見つけることができる。 (2) 医科大学で学ぶ学生にふさわしい、安全で衛生的な行動ができる。 (3) 医療・保健・福祉の現場において多職種関連が必要な理由を説明できる。 (4) 実習を通して学んだ事柄から、自分自身の将来あるべき医療者の姿を説明することが出来る。			
授業の形式 授業は全てZoom及びmanabaを使って行います。 (1) グループワーク: Zoomのブレイクアウトルームあるいはmanabaのプロジェクト機能(チームスレッド)を使って、各テーマについて議論します。 (2) 学内演習: 学外施設実習で必要となる可能性がある項目のうち、高齢者体験・食事介助・車椅子・標準手洗いについても同様な形式で学習します。 (3) 反プロフェッショナリズムに関するワークショップ: 反プロフェッショナリズムに関するワークショップに参加し、医療者としての行動規範・倫理観について考察します。 (4) 発表会: 各班に与えられた課題についてまとめたことを発表し、情報の共有と意見交換を行います。 (5) 各自で思い描いた医療者としての将来像を、レポートにまとめて提出します。なお授業の内容や形式は、変更されることがあります。変更する場合は随時manabaでお知らせします。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 参考書としてあげた「アカデミック・スキルズ」などの大学でも学び(高等教育)に必要な情報が書かれた書籍を読了しておくこと。大学での学び方をすでに理解していることを前提に評価を行います。			
成績評価の基準等 出席は1) 原則2/3以上、2) 出席確認用の小テストで平均60%以上。講義科目については補講なしですが、プロフェッショナリズム、アンプロ発表会は必須授業とします。必須授業では欠席理由が妥当な場合は補講を行います。補講を受けることで、休んだ時間の2/3の出席を認めます。なお忌引・公休の場合は、その届け出を行い補講を受けることで、全て出席とします。 小テスト 得点率60%以上 (全ての平均) レポート 成績ラベルC以上 報告会の発表 合否で判定し合格が必須 3つの評価項目で全てで合格レベルに達している場合に単位を認定します。 成績は合格・不合格でつけられます。			
学生へのメッセージ 早期体験実習は、学外実習で病院・診療所・介護施設などの医療福祉現場に接することで、医療者としての必要な資質・行動規範を身をもって体験することが目的です。残念ながら今年度は実習を行えません。自己学習を通じて、可能な限り「必要な資質・行動規範」を理解できるように組んであります。しかしながらすべてを網羅することはできません。参考書を読むことで理解を深めることを期待します。			

[地域医療・社会福祉・保健行政・コミュニケーション・プロフェッショナルリズム]

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参)実践! 患者満足度アップ	前田 泉	日本評論社	1,600円+税
(参)チーム医療とは何か	細田 満和子	日本看護協会 出版社	2,640円 (税込み)
(参)超高齢社会の基礎知識	鈴木 隆雄	講談社現代新書 (電子書籍あり)	740円+税
(参)アカデミック・スキルズ (第3版) 一大学生のための知的技法入門	佐藤 望 他	慶応義塾大学出版会	1,000円+税
旭川医科大学病院 院内感染対策マニュアルVer4 2014改訂版	旭川医科大学 病院感染制御部	旭川医科大学病院ホームページ内	無料 (学内限定)

日時	コマ	主題	形式	担当
2024/5/1	4	ガイダンス	講義	野津
	5	レポート課題と書き方	講義	井上
	6	高齢者とのコミュニケーション	講義	野中
2024/5/8	4	インターネットからの引用について	講義	井上
	5	GW1	GW	井上、その他参加可能者
2024/5/13	6	Topic1	GW	佐藤、その他参加可能者
	4	医療者のプロフェッショナリズムとは1	講義+GW	井上、その他参加可能者
	5	医療者のプロフェッショナリズムとは2	講義+GW	井上、その他参加可能者
2024/5/14	6	医師の養成課程	講義	野津
	1	手洗い演習について	講義+GW	井上、その他参加可能者
	2	車椅子演習について	講義+GW	野津、その他参加可能者
	3	高齢者体験について	講義+GW	藤井、その他参加可能者
	4	食事のケアについて	講義+GW	山根、その他参加可能者
	5	看護職の養成課程	講義	山根
2024/5/15	6	医師のキャリア	講義	野津
	1	保健・福祉行政	講義	西條
	2	介護施設・制度	講義	齊藤
	3	地域包括ケア	講義	藤井
	4	養育と療育～地域で育む環境	講義	井上
	5	地域医療連携	講義	佐藤
2024/5/16	6	連携とはなにか? 失敗例から学ぶ	講義+GW	井上、その他参加可能者
	1	アンプログループワークの進め方	講義+GW	野津
	2	GW	GW	野津
	3	GW+発表	GW	野津
	4	実習施設の職員に聞く	講義	野津
	5	実習施設の職員に聞く	GW	野津
2024/5/17	6	実習施設の職員に聞く	自習	野津
	1	発表会について	講義	井上
	2	発表会準備GW1	GW	井上、その他参加可能者
	3	発表会準備GW2	GW	井上、その他参加可能者
	4	発表会準備GW3	GW	井上、その他参加可能者
2024/5/20	5	発表会準備GW4	GW	井上、その他参加可能者
	1	発表会1	GW	佐藤、その他参加可能者
	2	発表会2	GW	佐藤、その他参加可能者
	3	発表会3	GW	佐藤、その他参加可能者
	4	発表会4	GW	佐藤、その他参加可能者
	5	発表会5	GW	佐藤、その他参加可能者
	6	まとめ	講義	佐藤、その他参加可能者

4. 地域医療学(必修) [地域医療, 北海道]

担当教員	◎野津 司 (地域医療教育学)、上原 聡 (非常勤)、村上英之 (非常勤)、藤城貴教 (非常勤)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	1単位	15コマ
履修目的 北海道の地域医療の現状と課題を見据え、求められる医師像を理解する。			
到達目標 北海道の地域医療の現状とその特殊性について説明できる。 北海道の地域医療の問題点を指摘できる。 将来展望の中に地域医療への貢献を位置づけることができる。			
授業の形式 講義とグループワークで行う。講義は北海道の地域医療現場の一端で活躍中の医師の講演 (zoom) を含む。グループワークは、地域医療の現場で遭遇する問題点を記述したシナリオを使用して、もし自分達はその立場にあった場合に、どのように行動するのかを話し合い、問題点の抽出と克服プランの提言を行う。今年度のグループワークはmanaba, Zoomで行う。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 講義前には、北海道の地勢、社会、産業などについて (特に講師が話題にする医療現場の地域について)、一般的な理解に努めること。講義終了後には、北海道の地域医療の現場で求められる医師像がいかなるものか、自分なりに答えられるよう、まとめを行うこと。			
成績評価の基準等 毎回出席を厳格にとる。グループワークへの出席は必須とする。出席はmanabaの小テストで確認する。3分の2以上授業に出席かつ、グループワークに参加した学生に対して、レポートを課す。評価はレポートの内容 (ルーブリック評価)、小テスト (30%)、グループワークでの評価を併せて総合的に行う。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など) 北海道の地域医療は、地域に赴任する医師が減少したため壊滅寸前である。本学はこれに対して、地域枠入試の拡大等の対策を行い、地域医療を担う医師を育成することを最重要課題の一つに掲げている。講義を通して、北海道地域医療の真の姿、現実を学び、期待される医師像を理解して欲しい。また、将来自分が地域医療にどのような貢献ができるか考えるきっかけとして欲しい。			

〈参考図書〉教科書は指定しません。

書名	著者名	発行所	価格
(参) 地域医療は再生する	松村理司	医学書院	2800円+税
(参) 北海道市町村データブック	北海道新聞社編	北海道新聞社	1200円+税

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	オリエンテーション	この科目の履修目的、到達目標を理解する。介護制度の基本を理解する。	野津
2	総論	地域医療の意味、北海道地域医療の特殊性、現状と課題を理解する。北海道の地域医療に求められる医師像と本校が目指す地域医療の形を明らかにする。	野津
3			
4	地域医療と医師のプロフェッショナルリズム	医師のプロフェッショナルリズムとは何かについて理解する。	野津
5	地域医療の実際1	100床の大都市から離れた地域の自治体病院での医療 (斜里町国保病院)。リサーチマインドと地域医療について。	野津
6			
7	地域医療の実際2	60床、足寄町国保病院での地域医療、福祉との総合的有機的な連携について。	村上 (非常勤)
8			
9	地域医療の実際3	92床の清水赤十字病院で、消化器内科専門医として携わる地域医療について。	藤城 (非常勤)
10			
11	地域医療の実際4	都市圏の無床診療所と地域の中核病院200床規模の中標津町立病院での地域医療。地域医療と医学研究について。	上原 (非常勤)
12			
13	地域医療の問題点の抽出と克服プラン提言	シナリオを使用してグループワークと発表を行う。シナリオ上の地域医療に従事する医師が自分であるとして、その時自分はそのような行動をとるのかを、グループでまとめて発表する。全体討論を通して地域医療の問題点と、克服プランの提言を行う。	野津
14			
15			

5. 医療概論 I (必修) [医療哲学、科学哲学、医療倫理、医学史]

担当教員	◎牧野 洋 阿部 泰之 (客員教授)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	通 年	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
<p>医療は生や死、人間の尊厳、人生の意味といった「哲学的な」ものを扱う領域である。またそれを下支えする医学にも「哲学」の観点が必要とされる。今の医学教育は科学的な知見や経験則などを覚え込むことが中心となってしまっており、“考える”ことが極端に減ってしまっている。医学・医療を学び始めるこの時期に、何を学ぶか、何を覚えるか、ではなく、どう考えるかを本科目にて経験し、今後の学びを柔軟に取り入れる基礎体力を養うことを目的とする。</p> <p>また、現代人が通常、疑いなく信じている「科学」すら、たったひとつの視点に過ぎない。世界を俯瞰できるようなメタ視点の獲得を目指す。</p>			
到達目標			
<p>一般目標 (G10) 哲学・思想の眼鏡を通すことにより、メタな視点で医学や医療を俯瞰できるようになる 個別行動目標 (SB0s) ・原理的思考法について、どういったものかを説明できる ・医療においてメタ視点ができるように活かされるか説明できる</p>			
授業の形式			
2コマで1セットとする (1-14講目のみ)。1コマ目は、各回の問に対する応えとして、各時代の哲学、思想家の考えを紹介する。2コマ目は、各回の問いに対して、自分なりに考え、その結果を時間内にワークシート (manabaのレポート機能) に書き込んで提出する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
(教)となっている著作は、スライドの行間にあるコンテキストを伝える意味でも必携とする (その中から問題をだすこともあります)。シラバスに記載されているキーワード (例えば「自律」「科学」「倫理」など) について、事前に調べて考えを膨らませておくこと。			
成績評価の基準等			
<p>出席状況: 45点 (1コマ欠席につき3点減点) 小テスト (1コマ目): 1問1点×3問×7回=21点 ※2コマ目のワークシートには配点ないが、未提出の場合1コマにつき3点以内で減点とする。講義中の発言: 1回につき2点加点 最終レポート: 34点 (ルーブリック評価) 満点100点、60点以上をもって合格とする</p>			
学生へのメッセージ			
楽しく、かつ深い思考となるような工夫をしていきます。構えずに気楽に参加してください。			

〈教科書・参考図書〉

書 名	著者名	発行所	価格
(教) ナニコレ?痛み×構造構成主義	阿部 泰之	南江 堂	3,080円
(教) 正解を目指さない!? 人生最終段階の意思決定の支援	阿部 泰之	南江 堂	3,520円
(参) 構造構成主義とは何か—次世代人間科学の原理	西條 剛央	北大路書房	3,080円
(参) 医療関係者のための信念対立説明アプローチ	京 極 真	誠信書房	3,850円
(参) 哲学としての医学概論	杉岡 良彦	春秋社	3,850円
(参) 医学の歴史	梶田 昭	講談社学術文庫	1,408円
(参) わかりやすい構造構成理論—緩和ケアの本質を解く	岡本 拓也	青海社	2,420円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1・2	思想史としての医学	本科目の狙いについて理解する。医学も人間の営みである以上、時代の思想を受けてきた。各時代の思想と医学の関係について概説する	阿部(客員教授)
3・4	病気とは何か	医療は基本的に病気を持つ人に対して行われるものである。ではそもそも病気とはなんだろうか	阿部(客員教授)
5・6	なぜ人は人をケアするのか	なぜ人は人をケアする、もしくはしたいと思うのか?それは利己心からなのか、それとも利他心からなのか	阿部(客員教授)
7・8	「科学的」とはどういうことか	医療において「科学的」エビデンスをどう扱うのか。エビデンスベースのみで医療は成り立つのか	阿部(客員教授)
9・10	自律を尊重するとはどういうこと	自律を尊重するという言葉が氾濫しているが、自律とはそもそも何かを知る人は少ない。当人が決めることだけが自律なのか	阿部(客員教授)
11・12	死とどう向き合ったらよいか	死がやってくることを知らない人はいない。しかし、死が何かを知っている人もいない。1人称、2人称、3人称の死について考える	阿部(客員教授)
13・14	意見が対立したらどうしたらいいか	日常生活においても、医療現場においても、様々な場面で意見の対立は起きている。意見もしくは考えの対立をどのように調停したらいいのか	阿部(客員教授)
15	コースのまとめ	本科目で得られたことについて振り返りを行い、レポートにまとめる	阿部(客員教授)

6. 症候学(必修)〔医療コミュニケーション, 臨床推論, 消化器, 循環器〕

担当教員	◎野津司, 佐藤伸之, 齋藤江里香 (教育センター) 牧野雄一 (地域共生医育統合センター)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期, 後期	1単位	20コマ
履修目的・授業概要			
<p>本コースは、低学年から臨床医学に触れる事により、これから学習する基礎医学が、臨床医学にどのように応用されているかの理解を深め、今後の学習意欲の向上を図ることを目的に企画されました。今回は一般的な症状である腹痛・胸痛を取り上げ、それらを来す代表的な疾患について学習します。模擬医療面接を行い、これらの疾患の診断について学習し、患者さんの立場を尊重する態度、医療コミュニケーション能力の重要性について理解してもらいます。授業は、あらかじめ割り当てられた疾患について自己学習を行い、その成果を学生間で共有し、その疾患の医療面接シナリオを作成、ロールプレイを行い発表してもらいます。</p>			
到達目標			
<p>一般目標 腹痛と胸痛を来す疾患について、医療面接における鑑別ポイント及び医療面接のスキルを実践学習し、基礎・臨床医学の学習エッセンスを確認する。</p> <p>行動目標 ・腹痛・胸痛を来す代表的な疾患の概要(疫学, 原因, 診断, 治療, 予後等)について説明できる。 ・医療面接でもれなく情報を集める医療コミュニケーションの方法について説明できる。 ・医療面接を進める上での、オープンクエッション, クローズドクエッション, 共感等のコミュニケーションスキルを理解し、実践しながら鑑別を進めることができる。 ・基礎医学が臨床医学とどのようにつながっているのかを理解できる。</p>			
授業の形式(板書, プリント, 視聴覚機器の活用, 学外見学など)			
対面授業, manaba, Zoomの併用で行う予定である。自己学習を基に、グループ学習, ロールプレイ, プレゼンテーションを行う。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
割り当てられた疾患については、自己学習し、授業前までにレポートを提出してもらいます。授業当日には、割り当てられた疾患について説明できるように、パワーポイントで説明ファイルを作成しておくこと。またその担当疾患患者の医療面接のシナリオも作成してもらいます。			
成績評価の基準等			
成績評価は、課題レポートを提出した者に対して定期試験(多肢選択問題)を行います。三分の二以上の出席をもって定期試験の受験資格とします。出席確認は対面の場合は出席カード、オンラインの場合は小テストで行う予定です。成績は定期試験70%, 小テスト30%で行います。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
1年生はこれまで教養科目がほとんどで、臨床医学と接する機会が少なく、学習意欲が落ちるといった意見がありました。また基礎医学を学んでもそれが臨床医学の何につながっているのかが理解できないという指摘もあり、そのような問題の改善を考慮して企画されています。入学早期に臨床医学に触れることで、学習する意味を理解し、自ら学び、問題を解決する姿勢をこの時期に身につけてください。自己学習することが前提ですが、その上で皆さんには楽しく、のびのびと学習してもらえよう授業になることを目指しています。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
臨床推論集中講座 胸痛	山本文雄	メディカルビュー	4,800円
病気がみえる vo.11 消化器	医療情報科学研究所	メディックメディア	3,700円
聞く技術 答えは患者の中にある	山内豊明	日経BP社	6,000円
			税別

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	ガイダンス1	腹痛・胸痛を来す一般的な疾患について学ぶ	野津
2	ガイダンス2	腹痛・胸痛を来す疾患に対する医療面接の方法を学ぶ	野津
3	腹痛1	腹痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
4	腹痛2	腹痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
5	胸痛1	胸痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
6	胸痛2	胸痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
7	腹痛3	腹痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
8	腹痛4	腹痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
9	胸痛3	胸痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
10	胸痛4	胸痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
11	腹痛5	腹痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
12	腹痛6	腹痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
13	胸痛5	胸痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
14	胸痛6	胸痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
15	腹痛7	腹痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
16	腹痛8	腹痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
17	胸痛7	胸痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
18	胸痛8	胸痛疾患の概要の理解と、医療面接を実践する。	野津 佐藤
19	まとめ1	腹部エコー, 心エコーを体験	野津 佐藤 齋藤 牧野
20	まとめ2	臨床推論を実践する。 カルテを作成する。	野津 佐藤 齋藤 牧野

7. 基礎生物学(必修)〔細胞の構造と機能、遺伝、免疫、ホルモン、神経、感覚、運動、種の起源〕

担当教員	◎日下部博一、日野 敏昭 (生物学)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	2.5単位	38コマ
履修目的・授業概要			
<p>本科目の学修主題はヒトの生物学であり、細胞が営む様々な生命活動の仕組みについて分子のレベルで学ぶ。また、遺伝の法則、生体防御、内分泌系と神経系による生体調節、筋収縮、種の起源についても学ぶ。</p>			
到達目標			
<p>①細胞の構造と機能、細胞の情報連絡について説明できる。 ②細胞のエネルギー代謝(呼吸・発酵・光合成)の過程を説明できる。 ③細胞分裂の過程と細胞周期の制御機構を説明できる。 ④染色体の挙動に基づいてメンデル遺伝を説明できる。 ⑤生体防御の仕組み(自然免疫、獲得免疫)を説明できる。 ⑥ホルモンと神経による生体調節の仕組みを説明できる。 ⑦筋収縮の仕組みを説明できる。 ⑧生物の種概念を説明できる。</p>			
授業の形式			
事前に配付した講義資料に基づき講義する。講義資料はmanabaのコンテンツに公開する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
講義資料は参考図書のキャンベル生物学(原著11版)を基に作成される。資料には文字情報に加え視覚情報も多く掲載されている。それらに基づいて生命現象をイメージとして捉えること。また生物用語を正しく覚え、知識を整理して適切に利用すること。			
成績評価の基準等			
成績評価は、前期中間試験と前期定期試験の結果に基づいて行う。総合点が60%以上で単位が認定される。最終的な成績評価の基準(秀、優、良、可、不可)はアセスメント・ポリシーにしたがう。定期試験を受けるには講義時間数の3分の2以上の出席が必要である。欠席した場合には必ず欠席届を提出すること。			
学生へのメッセージ			
本科目の内容は、1年次後期の発生遺伝学および2年次に展開される基礎医学科目の土台となるものです。この点を十分に認識して学修に取り組んでください。質問は随時受け付けます。manabaの個別質問コーナーを利用できます。教員室への訪問も歓迎します。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) キャンベル生物学 (原著11版)	池内昌彦・他 監訳	丸善出版	15,000円
(参) エッセンシャルキャンベル生物学 (原著6版)	池内昌彦・他 監訳	丸善出版	7,000円
(参) 生命科学 改訂第3版	東京大学生命科学教科書編集委員会	羊土社	2,800円
(参) 1年次図解7刷新版・大学生物学の教科書第1巻細胞生物学、第2巻分子遺伝学、第3巻生化学・分子生物学、アルファ版	石崎・丸山訳	講談社	各2,000円
(参) 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版	和田 勝	羊土社	3,200円
(参) Essential細胞生物学 原著 第5版	中村・松原 監訳	講談社	8,000円
(参) 新しい人体の教科書 (上・下)	山科正平	講談社	(上)1,680円 (下)2,000円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	ガイダンス、生命の化学(1)	本科目の目的、講義内容、講義形式、成績評価基準を把握する。炭水化物と脂質の構造と機能を学ぶ。	日下部
2	生命の化学(2)	タンパク質と核酸の構造と機能を学ぶ。	日下部
3	細胞の構造と機能(1)	細胞の基本的特徴と細胞研究法について学ぶ。また、原核細胞と真核細胞(高等動・植物)の違いについて理解する。	日下部
4	細胞の構造と機能(2)	真核生物の構造物(細胞小器官)のうち、核、核小体、小胞体、ゴルジ装置、リソソームの働きについて学ぶ。	日下部
5	細胞の構造と機能(3)	細胞小器官であるミトコンドリア、細胞骨格、細胞接着機構などについて学ぶ。	日下部
6	膜の構造と機能(1)	細胞の膜の流動モザイクモデルを理解する。また、膜タンパク質の機能と選択的透過性について理解する。	日下部
7	膜の構造と機能(2)	能動輸送、エキソサイトーシス、エンドサイトーシスの仕組みについて理解する。	日下部
8	代謝の基礎	ATPの構造と役割、酵素の特性と働きについて理解する。	日下部
9	細胞呼吸と発酵(1)	細胞呼吸(解糖系・ピルビン酸の酸化・クエン酸回路・電子伝達系)の過程を理解する。	日下部
10	細胞呼吸と発酵(2)	タンパク質と脂肪の異化および発酵によるエネルギー獲得について理解する。	日下部
11	光合成(1)	生物圏における光合成の役割を学ぶ。また、葉緑体の基本構造と光化学系の特徴を理解する。	日下部
12	光合成(2)	光合成の2つの過程：明反応とカルビン回路について理解する。	日下部
13	細胞の情報連絡(1)	細胞外シグナルと細胞内シグナルの伝達機構を学び、細胞における情報伝達の概要を理解する。	日下部
14	細胞の情報連絡(2)	細胞内情報伝達(シグナル伝達系)の分子機構を学び、それらに関わる生命現象を理解する。	日下部
15	細胞周期(1)	真核細胞における細胞周期の特徴および各時期(G1、S、G2、M)で起こる事象について学ぶ。	日下部

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	細胞周期(2)	M期における染色体分配の分子機構について理解する。	日下部
17	細胞周期(3)	細胞周期の制御機構について理解する。	日下部
18	減数分裂と有性生活環(1)	減数分裂の意義および分裂の過程を理解する。	日下部
19	減数分裂と有性生活環(2)	減数分裂時に起こる対合やキアズマ形成等の現象とそれらの役割について理解する。	日下部
20	メンデルと遺伝子の概念(1)	遺伝現象の解明のためにメンデルが行った実験とメンデルの遺伝モデルについて理解する。	日下部
21	メンデルと遺伝子の概念(2)	メンデルの遺伝様式にあてはまる遺伝現象について理解する。	日下部
22	染色体の挙動と遺伝(1)	メンデル遺伝の媒介物としての染色体の役割、連鎖、乗換えおよび遺伝的組換えについて理解する。	日下部
23	染色体の挙動と遺伝(2)	"	日下部
24	遺伝の分子機構(1)	デオキシリボ核酸(DNA)が遺伝物質であることを証明した実験や、DNAの分子構造について理解する。	日下部
25	遺伝の分子機構(2)	DNAの複製様式と複製の仕組みを理解する。	日下部
26	遺伝子の発現(1)	遺伝子からタンパク質への遺伝情報の流れ(セントラルドグマ)および遺伝暗号について理解する。	日下部
27	遺伝子の発現(2)	遺伝子発現における転写と翻訳の基本原則と仕組み(開始から終結まで)を理解する。	日下部
28	免疫系(1)	自然免疫の仕組みを理解する。	日野
29	免疫系(2)	獲得免疫(体液性免疫・細胞性免疫)の仕組みを理解する。	日野
30	免疫系(3)	抗体の多様性と免疫寛容の仕組みを理解する。	日野

コマ数	履修主題(テキスト章)	履修内容	担当教員
31	ホルモンと内分泌系(1)	ホルモンの種類、産生器官および標的器官への作用について理解する。	日野
32	ホルモンと内分泌系(2)	各種ホルモンによる生体機能の調節機構を理解する。	日野
33	神経、シナプス、シグナル(1)	神経系(中枢神経系、末梢神経系)の構成を理解する。	日下部
34	神経、シナプス、シグナル(2)	活動電位(興奮)の発生、興奮の伝導と伝達の仕組みを理解する。	日下部
35	感覚と運動のメカニズム(1)	各感覚器官の構造と機能を学ぶ。	日下部
36	感覚と運動のメカニズム(2)	"	日下部
37	運動のメカニズム	骨格筋の構造と収縮の分子機構について理解する。	日下部
38	種の起源	生物の種はどう定義されているのかを理解する。	日下部

8. 医用物理学(必修)

担当教員	◎本間龍也、稲垣克彦		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	通年	2.5単位	38コマ
履修目的・授業概要			
物理学の基礎的な概念や論理的な思考方法の習得を目指すと共に、学習した概念が、医学の世界でどのように利用されているかを学びます。			
到達目標			
生体物理現象やその計測方法がどのような原理に基づいているのか？物理学の知識を用いて理解できるようになることを目標とします。目標達成のために、前期には「医用物理学実習」が開講されています。本講義と合わせて、理解が深まることを期待します。興味を持って積極的に受講して下さい。			
授業の形式			
manabaに登録した資料(著作権の関係で一部白紙)を使って講義を展開します。講義資料(白紙部分のないmanabaに登録した資料を印刷したもの)を事前に配布予定です。小テストは、講義に出席した学生を対象に実施します。受講に支障のない範囲で、講義中及び引き続き休憩時間に解答してください。講義を欠席した学生には小テストの解答権はありません(解答しても後日0点とします)。物理学の説明では、図や手書きの絵を使う必要があります。そこで、質問のある学生には、休憩時間中や放課後に対面に対応します。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
manabaには音声データを添付しますので、予習・復習に利用して下さい。教科書の章末問題の解答例もmanabaに登録してあります。少し難しいかもしれませんが、問題を熟読した上で、解答例で学ぶことも、物理学的な考え方の理解に役立つと思います。			
成績評価の基準等			
評価は筆記試験(以下、試験)、課題レポート(以下、レポート)と小テストで行います。6月下旬にレポート、9月上旬に試験、11月上旬にレポート、2月上旬に試験(各100点満点)を実施します。他にmanaba上で小テスト(5点満点。合計で100点満点に換算)を実施します。評価配分は、試験が～40%、レポートが～40%、小テストが～20%です。試験とレポートの範囲は講義の進捗度によって決定されます。詳細は、講義中、もしくはmanaba上で案内されます。試験、レポート、及び小テストの合計点(500点満点)が300点(得点率60%)に達した者を合格とします。この他、出欠状況(資料のダウンロード状況等で判断)等を踏まえ総合的に評価します。不合格者は試験とレポートの難易度(得点分布にて評価)・得点の伸び率等を考慮して判定されます。2月の試験を除く評価をmanaba上で公表する予定です。なお受験資格には3分の2以上の出席が必要です。			
学生へのメッセージ			
本講義を理解するには授業はもとより自己学習が欠かせません。特に講義内容をノートに(考えながら)整理することは理解を深める最良の方法です。ノートの代わりに事前に配布する資料、またはmanaba上で配布する資料を印刷し、そこに書き込むのも一つの方法です。manabaに登録した資料は受講日以降も年度末まで利用できます。資料を何度も見直すと共に、音声データを聞き直し、疑問点の解消に努めて下さい。答えはきっとそこに隠されているはずですよ。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) 医歯系の物理学	赤野松太郎 他	東京教学社	4,400円
(参) 物理のための数学	和達三樹	岩波書店	2,860円
(参) 高校生用の物理の教科書			

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	はじめに	医用物理学の履修について説明を聞く。	本間(物理学)(1)
2	質点の力学	力のベクトル表示ができ、力の合成と分解を理解する。	本間(物理学)(2)
3		位置ベクトル、速度ベクトル、加速度ベクトルについて学習する。	本間(物理学)(3)
4		ニュートンの運動方程式について理解を深める。	本間(物理学)(4)
5		等速円運動を理解する。	本間(物理学)(5)
6		空気抵抗などがある場合の運動方程式について学習する。	本間(物理学)(6)
7		仕事や力学的エネルギー保存則を理解する。	本間(物理学)(7)
8		回転運動(遠心力)を理解する。	本間(物理学)(8)
9		回転運動(回転エネルギー)を理解する。	本間(物理学)(9)
10		遠心分離機の原理が理解できる。	本間(物理学)(10)
11		安定・不安定の現象について学習する。	本間(物理学)(11)
12	全般	演習問題 & 時間調整	本間(物理学)(12)
13	弾性体の力学	ヤング率を学ぶ(1)。	稲垣(物理学)(1)
14		ヤング率を学ぶ(2)。	稲垣(物理学)(2)
15		ヤング率の測定原理 —たわみ変形が扱える—	稲垣(物理学)(3)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	流体力学	圧力、流量について学ぶ。	本間 (物理学) (13)
17		ベルヌーイの定理を理解する。	本間 (物理学) (14)
18		流動抵抗を理解する。	本間 (物理学) (15)
19		ハーゲンポアズイユの法則を学ぶ。	本間 (物理学) (16)
20	流体力学のまとめ	演習問題 & 時間調整	本間 (物理学) (17)
21	波動・振動	波動現象の表現方法を学ぶ。	稲垣 (物理学) (4)
22		波の合成・分解の仕方を理解する。	稲垣 (物理学) (5)
23		ドップラー効果を理解する。	稲垣 (物理学) (6)
24		共鳴現象、減衰現象について学習する。	稲垣 (物理学) (7)
25	反射・屈折	反射率・透過率、音響インピーダンスがわかる。	稲垣 (物理学) (8)
26		平面での反射・屈折を理解する。	稲垣 (物理学) (9)
27		曲面での反射・屈折を理解する。	稲垣 (物理学) (10)
28	波動現象のまとめ	演習問題 & 時間調整	稲垣 (物理学) (11)
29	電磁気学	コンデンサーの性質を理解する。	本間 (物理学) (18)
30		コンデンサーの接続について学ぶ。	本間 (物理学) (19)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	電磁気学	電圧、電流、電気抵抗について理解を深める。	本間 (物理学) (20)
32		抵抗の接続について学ぶ。	本間 (物理学) (21)
33		充電・放電などの過渡現象を学び、心臓ペースメーカーの動作原理を理解する。	本間 (物理学) (22)
34	電磁気学のまとめ	演習問題 & 時間調整	本間 (物理学) (23)
35	放射線物理学の基礎	放射線の基礎的性質を理解する。	本間 (物理学) (24)
36		物理学的半減期、吸収線量について学ぶ	本間 (物理学) (25)
37		放射線の“遮蔽（しゃへい）”と“透過”について学ぶ。	本間 (物理学) (26)
38		放射線の物理学的効果と生物学的効果の違いを理解する。	本間 (物理学) (27)

9. 統計学(必修)〔統計学の基礎〕

担当教員	◎ 加藤 勲		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	1単位	15コマ
授業の概要（履修目的・到達目標） [履修目的] 医学を修める上で、統計学の基本概念を把握しておくことは基本的素養の一つです。新薬開発における臨床試験や、手術後の生存率の解析、および一般の治療などにおいても、統計学を駆使して、その有効性を検定していくことが重要です。このように最近では医学、医療、保健分野においても統計学の普及は著しく、その知識なくしては医学研究の進歩はないといっても過言ではありません。			
到達目標 ・高校までの数学（順列、組み合わせ、確率）を計算できる ・記述統計学（観測データの特徴を知る）を理解する ・推測統計学（記述統計学から推測する）を理解する ・代表的な確率分布（二項分布、正規分布）を学び、分布表から知りたい情報を引き出すこと ・標本分布（カイ二乗分布、F分布、t分布）による推定と検定手順を学習し、実践できるようになる			
授業の形式 対面授業（講義実習棟2階第6講義室）、座学です。出席カードにより出欠確認をします。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 授業内容を理解するために予習を適宜行うことが望ましいです（教科書は指定しないのでどのテキストを使っても構いません）。復習に関しては、講義資料を manaba に掲載予定なので役立ててください。			
成績評価の基準等 出席状況、レポート、期末試験を総合的に判断し、5段階評価します。それぞれ10%、30%、60%程度で、合計で60%以上なら合格です。なお期末試験を受けるには3分の2以上の講義出席が必要です。			
学生へのメッセージ 講義はできるだけ丁寧に行うつもりですが、高校の時と比較するとスピードが速く感じられるかもしれません。質問があればいつでもしてください。また自分の使いやすいテキストを探して勉強すると良いでしょう。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税抜)
(参)データ科学の数理統計学講義	稲垣宣生ら	裳華房	2,100円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	データの整理	データの種類、データの代表値	加藤
2	データの整理	度数分布表、二変数の分布	〃
3	確率	順列と組み合わせ	〃
4	確率	条件つき確率と乗法定理	〃
5	確率	確率変数、分布関数	〃
6	確率	期待値と分散	〃
7	確率	二項分布、正規分布	〃
8	標本分布	母集団と標本、中心極限定理	〃
9	標本分布	カイ二乗分布、t分布、F分布	〃
10	標本分布	推定の考え方、母平均の推定	〃
11	推定	母分散、母分散の比の推定	〃
12	推定	仮説検定の考え方、母平均の検定	〃
13	仮説検定	母平均の差の検定、分散分析	〃
14	仮説検定	カイ二乗検定、Fisherの直接法	〃
15	仮説検定	リスク比とオッズ比、生存時間解析、U検定	〃

10. 情報リテラシー(必修)

担当教員	◎高橋龍尚(数理情報) 岡崎知也, 熊本慎也(情報基盤センター)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
<p>当該科目ではコンピュータを用いてデータを収集・加工・発信できる情報処理能力を習得します。現代の情報化社会においては、ネットワークや情報機器を用いた情報処理技術が、一般の社会のみならず、医療の現場でも重要な役割を果たしています。ネットワークと情報機器を正しく理解し、適切な処理能力を身につけることを目標とします。また、医学に必要な基本統計量と解析、グラフ作成技術、医学情報検索についても学びます。数理・データサイエンス・人工知能(AI)に関する知識・技能が一部含まれている。</p>			
到達目標			
<p>メール、ワード、エクセル、パワーポイント、マクロVBAなどのソフトの使い方を理解し、レポートの作成や研究発表・論文の作成に使うことができる。エクセルを用いた数値計算やデータ処理ができ、基本統計量の説明ができる。様々なデータ形式に適したグラフを作成することができる。ホームページの作成では、ネットワークへの情報発信技術を習得する。医学論文で使われている統計学について説明ができる。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>情報処理実習室でパソコンを利用して行います。教科書を配布します。毎回講義の最後に小テストを行います※[新型コロナウイルス対策] 大学の方針に沿って、対面授業とオンライン授業とを併用する場合があります。グループ分けと日程は授業時間割に準ずる。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>授業は教科書に従って進みます。教科書は配布されていますので、予習復習は各自行うこと。苦手なところや分からないところは、講義中または講義後に質問してください。</p>			
成績評価の基準等			
<p>受講態度、課題に対するレポートの内容、提出状況、出席状況、筆記試験の結果に基づいて総合的に評価します。原則として3分の2以上の出席を筆記試験の受験資格とします。出席(30%)、小テスト、課題、レポートなど(20%)、定期テスト(50%)。筆記試験の内容は、授業で学んだ基礎知識を問う問題です。上記内容の合計点は100点満点となります。そのうち60点以上を合格とする。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>情報処理実習室の空き時間を利用して積極的に学習しワークに慣れて下さい。質問等は実習時間内に限らずいつでも対応しますので、遠慮せず積極的にお尋ね下さい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税込)
わかりやすいデータ解析と統計学	高橋龍尚	オーム社	3,300円
(参)Easy to understand data analysis and statistics. ISBN978-4274700613	Tatsuhisa Takahashi	オーム社	3,960円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	はじめに	コンピュータ・インターネットのしくみについて学ぶ	高橋岡崎熊本
2	基本操作	タイピング練習、ログオン・ログオフの方法、パスワードの設定について学ぶ	〃
3	電子メール	電子メールの送信・受信・返信・転送、ファイル添付、ネチケット(ネットワーク・エチケット)について学ぶ	〃
4	ワードの基本操作1	ファイル名・ファイルの保存方法、フォント、文字飾り、漢字変換、特殊文字、外字登録、IMEパッド、インターネット検索について学ぶ	〃
5	ワードの基本操作2	書式変更、表作成、ページレイアウト、ページ設定、段組設定、英語文章入力、図形の描画、画像の取り込み、画像描画、印刷について学ぶ	〃
6	情報収集と取り扱い	データの収集方法、著作権、ライセンス、個人情報保護、データの取り扱い、蔵書検索(OPAC)、研究論文のスタイル、論文検索	〃
7	エクセルの基本操作1	データ入力、数式入力、行・列の挿入・削除、表計算、相対セル参照、絶対セル参照について学ぶ	〃
8	エクセルの基本操作2	棒グラフ、グラフエリアの書式設定、グラフの種類変更、追加データのグラフへの挿入、円グラフと補助グラフについて学ぶ	〃
9	統計解析1	基本統計量、ヒストグラム、相関、回帰分析、95%信頼区間について学ぶ	〃
10	統計解析2	対応のある2群間のt検定、対応のない2群間のt検定、母分散の検定、分散分析(ANOVA)について学ぶ	〃
11	プレゼンテーション	パワーポイントの基本操作、表の作成、図の作成・取込み、グラフの作成・取込み、アニメーション設定、配布資料の作成について学ぶ	〃
12	WWW作成	ソフトの基本操作、リンク、表の作成、箇条書きシンボル、文字飾り、画像の取込み、画像の表示、画像のリンクについて学ぶ	〃
13	WWW作成	医学研究ページの作成	〃
14	VBA 1	コンピュータプログラム、アンケート結果のデータ入力; VBA (Visual Basic Editor)を使用したデータ入力のためのユーザーインターフェース作成を学ぶ	〃
15	VBA 2	マクロ; セキュリティ; ユーザーフォーム; テキストボックス; フレーム; オプションボタン; コマンドボタン	〃

11. 基礎化学(必修) [生物物理化学、生物有機化学、生物無機化学、分析化学、ソフトマター物理化学]

担当教員	◎眞山博幸、室崎喬之(化学)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	通年	2.5単位	38コマ
履修目的・授業概要			
<p>本科目は1年次で開講される基礎化学実習と並行して開講され、2年次以降で開講される科目(特に生化学、生理学、薬理学分野)への準備・接続教育として位置づけられる。</p> <p>将来、疾病と治療法の理解に到達するためには、生命・生体の基本原理を理解する必要がある。生体を構成する分子や分子集合体の分子構造と高次構造。それらの構造安定性を維持する基本原理、化学変化や化学反応を駆動する法則を学ぶ。これらを通して、自己組織化、恒常性など生命に特徴的な性質を化学的に考察する能力を養う。</p>			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 化学の理解に必要な基礎知識を説明し、能動計算などの基本技能を実施できる。 原子の構造と性質、分子軌道と反応性を説明できる。 熱力学の法則、自由エネルギー、化学ポテンシャルを説明できる。 平衡状態の熱力学的基本原理を説明できる。 生体を構成する有機化合物、無機化合物の代表的な性質と医学との関係を説明できる。 化学変化の速度(反応速度論)の基本原理を説明できる。 生体のソフトマター(コロイド、界面、高分子、液晶)としての基本原理を説明できる。 			
授業の形式			
講義は講義資料のスライドを提示しながら行う。講義資料、補足プリント、小テストをmanabaに掲載する。小テストは指定された時間帯にmanaba上で提出する(出席の記録となる)。また、manabaに掲載されたレポート課題を解いて、指定された期日までにmanaba上に提出する。manaba上でのレポート課題の提出方法は別途説明する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
講義資料は講義の前日の夜までにmanabaに掲載するので、講義資料を予習してください。講義後は理解の定着(復習)のためにmanabaに掲載するレポート課題を解いて指定された期日までに必ず提出してください。提出期限後に解答例を掲載しますので、分からなかった問題を解いて確認し、理解の定着につなげてください。分からなかった部分は積極的に質問してください。			
成績評価の基準等			
前期2回、後期2回の筆記試験を行う。3分の2以上の出席を筆記試験の受験資格とする。試験の成績、レポート課題の提出状況と解答状況(約40%)、出席状況と受講態度(約40%)を含めた総合的な評価で60%以上の得点を合格とする。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>基礎化学は高校化学の延長ではありません。術語を単純に暗記するだけでは、背景にある論理や概念、医学とのつながりなどを理解することはできません。基礎化学では暗記に頼った勉強の仕方をする、最終的に良い評価(成績)に結びつきません。勉強方法も含めて“わからない”ことを早くみつけて積極的に質問してください。</p> <p>現在、医学教育では短い時間で上級科目に必要な知識・技能を確実に身に付けることが要求されています。さらに大学の勉強を理解するには高等学校よりも質的に数段高い思考(帰納・演繹・抽象化・論理展開など)が必要です。そのためには時間を空けずに復習することが重要です。毎日十分な学習時間を確保して勉強に取り組んでください。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) 生命系のための有機化学I 基礎有機化学	斉藤 勝裕 著	裳華房	2,640円
(教) 生命系のための有機化学II 有機反応の基礎	斉藤 勝裕 著	裳華房	2,860円
(参) 「量子化学」のことが一冊でまるごとわかる	斉藤 勝裕 著	ベレ出版	1,870円
(参) 生命科学系のための物理化学	Chang 著	東京化学同人	5,390円
(参) 生命化学のための物理化学 上・下	アゼルバグ、カサズ 著	培風館	各4,290円
(参) エピソード物理化学 第2版	後藤了・小暮健太郎	京都廣川書店	8,800円
(参) Innovated物理化学大義 第2版 - 事象と理論の融合 -	青木宏光・三輪嘉尚	京都廣川書店	7,040円
(参) 現代物理化学	寺嶋 正秀ら	化学同人	6,050円
(参) 生命科学のための物理化学15講	功刀滋、内藤晶 著	講談社	3,080円
(参) スタンダード薬学シリーズII 2 物理系薬学 I 物質の物理的性質	日本薬学会編	東京化学同人	5,390円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	原子の構造(1)	量子力学の歴史的背景、量子仮説、原子モデル、ボーアの原子模型、光と電子の二重性、ド・ブロイの物質波、ハイゼンベルクの不確定性原理を学ぶ。	室崎
2	原子の構造(2)	水素原子を考えたときのシュレーディンガーの波動方程式と電子の波のエネルギー準位を学ぶ。	〃
3	原子の構造(3)	シュレーディンガーの波動方程式から、電子のエネルギー準位と電子の波の形を考える(原子軌道)。	〃
4	原子の構造(4)	電子のスピン、フントの規則、パウリの排他律、水素原子からカルシウム原子の電子配置を考える。	〃
5	分子の構造(1)	水素原子から水素分子が形成されるとき結合性分子軌道と反結合性分子軌道から分子が形成される理由を考える。	〃
6	分子の構造(2)	炭素原子の電子配置、sp ³ 混成軌道、sp ² 混成軌道、sp混成軌道、分子軌道、共有結合(σ結合、π結合)、共役二重結合の性質を理解する。	〃
7	炭素と水素以外の原子を含む分子の結合の性質	炭素、水素原子以外の原子を含む分子の結合、非共有電子対(孤立電子対)、配位結合、カルボン酸の解離平衡について理解する。	〃
8	原子の電子配置と電気陰性度	量子力学の基本原理と元素の周期表に基づいて、各原子の電子配置と原子軌道、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度について理解する。	〃
9	共鳴、誘起効果、分子の極性	共鳴と誘起効果の基本原則、分子の極性と双極子モーメントを理解する。	眞山
10	置換基と化合物の種類、構造式と命名法	有機化合物の置換基と分類、構造式と命名法について理解する。	〃
11	立体効果、異性体、旋光性	立体効果を理解する。有機化合物の異性体を理解し、鏡像異性体と旋光性の関係を理解する。	〃
12	芳香族性、求核性・求電子性	芳香族性、分子軌道法、ヒュッケル則を理解する。求核性と求電子性を理解し、反応性との関連を理解する。	〃
13	酸・塩基、置換基効果と有機化合物の酸・塩基	アレニウス、ローリー・ブレンステッド、ルイスの酸塩基理論を理解する。立体効果、誘起効果、共鳴効果を基本として有機化合物の酸性・塩基性を理解する。	〃
14	分子構造とスペクトル分子分光法と医学	電子のエネルギーと電磁波のエネルギーとの関係、各種電磁波と分子構造との関係を理解する。	〃
15	生体熱力学(1)	熱力学と医学との関係に触れるとともに単位の意味、単位換算、力、仕事、エネルギーの概念の確認をする。	〃

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	生体熱力学(2)	熱力学第一法則の概念を学び、定圧過程、定積過程、等温過程、断熱過程における理想気体の内部エネルギー、外界が理想気体が外界にする仕事、外界が理想気体に与える熱を考える。エンタルピーの概念を確認する。	眞山
17	生体熱力学(3)	熱力学第一法則に基づいて等温過程と断熱過程を組み合わせたカルノーサイクルとその熱効率を理解する。	〃
18	生体熱力学(4)	カルノーサイクルと熱に不可逆性の比較から熱力学第二法則（クラウジウスの定理）を理解し、エントロピー増大の概念を理解する。	〃
19	生体熱力学(5)	エンタルピーとエントロピーの概念から、ギブスの自由エネルギーを理解する。	〃
20	生体熱力学(6)	気体の混合、化学反応、発熱反応、吸熱反応を考え、自然現象とギブスの自由エネルギーの変化の関係を確認する。	〃
21	生体熱力学(7)	ギブスの自由エネルギーと化学平衡、平衡定数の関係を確認する。	〃
22	生体熱力学(8)	化学ポテンシャルの概念を確認し、混合気体から多成分系溶液へ概念を拡張する。	〃
23	溶液と平衡(1)	自由エネルギーと現象の方向性、溶液中の平衡状態と平衡定数とのつながりを理解する。	〃
24	溶液と平衡(2)	束一的性質（沸点上昇・凝固点降下・浸透圧・ラウールの法則・ヘンリーの法則）を理解する。	〃
25	溶液と平衡(3)	電気化学ポテンシャルと各種化学平衡の条件を理解する。	〃
26	物質輸送	生体膜を介した物質輸送の基本原則を理解する。分配係数と膜透過の関係を理解する。	〃
27	相と相律	相図と相律を理解する。	〃
28	酸化還元熱力学	酸化還元反応の熱力学、電池、起電力、標準還元電位を理解する。	〃
29	酸化的リン酸化熱力学	酸化的リン酸化におけるATP合成の熱力学的基本原則を理解する。	〃
30	化学反応速度論(1)	化学反応速度、一次反応速度式、半減期について学ぶ。	室崎

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	化学反応速度論(2)	擬一次反応、0次反応、2次反応の速度式について学ぶ。	室崎
32	化学反応速度論(3)	反応速度定数、繊維状態と活性化エネルギー、アレニウスの式について学ぶ。	〃
33	生体高分子の構造と機能(1)	アミノ酸の酸・塩基平衡と等電点、緩衝作用を理解する。	眞山
34	生体高分子の構造と機能(2)	タンパク質分子内の相互作用と構造を理解する。	〃
35	生体高分子の構造と機能(3)	糖質の構造と性質を理解する。	〃
36	生体高分子の構造と機能(4)	脂質の構造と性質を理解する。	〃
37	ソフトマター物理化学(1)	生体を構成する高分子の性質について学ぶ。	室崎
38	ソフトマター物理化学(2)	生体の高分子ゲルとしての性質について学ぶ。	〃

12. 心理学(必修)

〔基礎心理学、
発達心理学、臨床心理学〕

担当教員	◎池上将永・高橋雅治 (心理学)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	2単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>本講義では心理学の3分野（基礎・発達・臨床）について幅広く学習する。基礎心理学とは、人間の心理・行動の基本的な性質を研究する分野である。基礎心理学を理解することは、発達心理学や臨床心理学等の応用分野を学ぶ上で欠かすことができない。発達心理学は、心理・行動の発達の变化全般を研究する分野であり、個人のライフサイクルを理解するための基盤となる。臨床心理学は、心理学の知見を応用して、心理・行動面の障害の治療と援助を目指す心理学の実践的分野である。本講義ではこれらの学習を通して、医療分野に役立つ心理学の基礎知識を習得する。</p>			
到達目標			
<p>①基礎心理学：感覚、知覚、注意、記憶、学習、動機づけ、情動についての基礎知識を説明できる。 ②発達心理学：乳児期から老年期までの心理的・行動的变化についての基礎知識を説明できる。 ③臨床心理学：心理的な不適応状態を把握し、それを適応的な状態へ戻すための基礎知識を説明できる。</p>			
授業の形式			
主に講義形式で行うが、テーマによっては、簡単な実験実習やビデオの視聴も取り入れる。必要に応じてプリント資料を配布する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
各回で配布されるプリントにもとづき、学習内容のまとめを行うこと。心理学で学習する内容は多岐にわたるため、こまめな復習が重要となる。			
成績評価の基準等			
成績評価は、出席および筆記試験の成績に基づいて総合的に行う。各分野において3分の2以上の出席を前提とする。総合点が60点以上を合格とする。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
心理学は、人間の心理行動を自然科学的な視点に立って多角的に研究する興味深い研究分野である。心理学がもたらした様々な知識は、将来の医療活動にとって重要であるのみならず、現在の自分の成り立ちや自分という人間の今後の展開を考える上で有用である。学生諸君の積極的な参加を望む。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) 現代心理学辞典	子安増生・他	有斐閣	7,040円 (税抜)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	心理学の歴史	心理学が実証科学として成立してきた歴史について学ぶ。	高橋(雅)
2	基礎心理学(視覚1)	人間が視覚を通して外界の情報を処理する仕組みについて学ぶ。	〃
3	基礎心理学(視覚2)	視覚において観察される心理現象について理解を深める。	〃
4	基礎心理学(聴覚他)	視覚以外の知覚(聴覚・触覚等)の性質について理解を深める。	〃
5	基礎心理学(短期記憶)	入力情報の一部を処理し、その結果を一時的に保存する短期記憶の仕組みを理解する。	〃
6	基礎心理学(長期記憶)	数分から数十年に及ぶ長期的な記憶の性質について理解を深める。	〃
7	基礎心理学(学習1)	人間や動物が経験により行動を変化させる仕組み(学習)について学ぶ。	〃
8	基礎心理学(学習2)	人間や動物の学習に関する諸現象について学ぶ。	〃
9	基礎心理学(動機づけ)	人間や動物を行動に駆り立てる動機づけのメカニズムについて学ぶ。	〃
10	基礎心理学(情動)	人間の情動の性質と生理学的な機構について理解を深める。	〃
11	発達心理学(方法論)	発達心理学の概要、歴史、方法論等について理解を深める。	〃
12	発達心理学(知覚の発達)	知覚発達を研究する手法、視覚と聴覚の発達過程について学ぶ。	〃
13	発達心理学(運動の発達)	運動(座る、立つ、歩くなど)の発達について理解する。	〃
14	発達心理学(認知の発達)	様々な概念の形成、思考の発達、推論の発達、メタ認知の発達について理解する。	〃
15	発達心理学(言語の発達)	言語の機能、音韻の獲得、音声の弁別、語彙の発達、言語を用いたコミュニケーションの発達について学ぶ。	〃

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	発達心理学 (社会性の発達)	乳児期の遊び、児童期の遊び、社会的関係の発達について理解する。	高橋 (雅)
17	発達心理学 (人格の発達)	自己と他者の分化、自尊感情の発達、社会的感情の発達について理解する。	〃
18	発達心理学 (情動の発達)	親と子の相互作用、育児と発達、愛着などについて理解を深める。	〃
19	発達心理学 (社会性の発達)	青年期以降の心理的発達（自我同一性、自立等）について理解する。	〃
20	発達心理学 (社会性の発達)	中年期以降の心理行動的な特徴、ストレス、危機等について学ぶ。	〃
21	臨床心理学 (方法論)	臨床心理学の概要、歴史、方法論について理解を深める。	池上
22	臨床心理学 (基礎理論)	臨床心理学の主要な基礎理論について理解を深める。	〃
23	臨床心理学 (アセスメント1)	心理アセスメントの重要性、心理検査の種類、心理面接等について理解を深める。	〃
24	臨床心理学 (アセスメント2)	ビッグ・ファイブ等のパーソナリティ理論について学ぶ。	〃
25	臨床心理学 (アセスメント3)	質問紙によるパーソナリティの測定、投影法について学ぶ。	〃
26	臨床心理学 (異常心理学)	心理的問題の分類や診断についての考え方（異常心理学）の基礎を学ぶ。	〃
27	臨床心理学 (心理的諸問題1)	代表的な心理的問題について理解を深める（気分障害等）。	〃
28	臨床心理学 (心理的諸問題2)	代表的な心理的問題について理解を深める（不安障害等）。	〃
29	臨床心理学 (心理的諸問題3)	代表的な心理的問題について理解を深める（パーソナリティ障害等）。	〃
30	臨床心理学 (心理的諸問題4)	乳児期・児童期・青年期の心理的発達とそれに伴う心理的問題について理解する（発達障害等）。	〃

13. 発生遺伝学(必修)

[人体発生学、人類遺伝学]

担当教員			
◎日下部博一(生物学/内線2730, email:hkusa55@~) 蒔田芳男(遺伝子診療カウンセリング室/ 内線2870, email:makita5p@~) (@の後はasahikawa-med. ac. jp)			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	後期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
この科目は人体発生学と遺伝医学の分野から構成されている。人体発生学では、配偶子形成、受精・卵割・着床および胚葉分化と器官形成を中心に学び、それらを基盤にして先天異常と染色体異常の成因について理解する。 遺伝医学では、単因子遺伝形式から染色体異常症までの広範囲の内容について最近の知見を含めて学修し、ヒトの遺伝性疾患の特徴を正しく理解・説明するための知識を習得する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ヒトの卵巣・精巣の構造と発生および精子形成と卵子形成の過程を説明できるようにする。 受精前後の精子と卵子の細胞生理学的変化、受精～着床の過程を説明できるようにする。 各胚葉の分化とそれらに由来するおもな組織・器官を説明できるようにする。 配偶子における染色体異常の生成機序を説明できるようにする。 先天異常の原因としての環境因子を列挙できるようにする。 遺伝性疾患家族の抱える問題が生じる原因を説明できるようにする。 メンデル遺伝病について適切な用語を用いて説明できるようにする。 メンデル遺伝病の分離比を乱す要因について概説できるようにする。 臨床における遺伝学的検査の応用を概説し、その問題点を列挙できるようにする。 			
授業の形式			
人体発生学分野・遺伝医学分野ともに、事前に配付したパワーポイント資料に基づき講義を進めます。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
授業の前にmanabaに公開された講義資料に目を通しておくこと。専門用語については下記の参考書等で予習しておくこと。遺伝医学分野に関しては、履修内容に記載されているキーワードを下記の教科書(臨床遺伝学テキストノート)を用いて予習することが求められる。			
成績評価の基準等			
成績評価は、全講義終了後に行う筆記試験の結果に基づいて行う。試験の点数配分は人体発生学分野と遺伝医学分野を同じにする。成績の評語は本学セサメント・ポリシー(履修要項:教育理念・目標)にしたがい、原則として90~100点を秀、80~89点を優、70~79点を良、60~69点を可とし、60点未満の場合には再試験が課される。再試験においても成績が不振の場合には、単位は認定されない。受験には全講義時間数の3分の2以上の出席が必要である。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
本科目は、基礎医学分野の人体発生学と遺伝医学のエッセンスを限られた時間で学ぶ構成になっています。下記のテキストや参考書を利用して授業内容の予習と復習を行ってください。知識を正しく理解しているか、知識の整理ができていないか、知識の関連付けができていないかを自ら点検してください。質問がある場合は、授業中はもちろんmanabaの個別質問コーナーも利用してください。また、研究室への訪問も歓迎します。ただし、不在のこともあるのでメールで教員の都合を確認してください。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教)コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート	日本人類遺伝学会	診断と治療社	3,500円
(参)カラー図解 人体発生学講義ノート 第2版	塩田浩平著	金芳堂	5,900円
(参)キャンベル生物学(原著11版)	池内昌彦・他 監	丸善出版	15,000円
(参)ラングマン人体発生学第11版	安田・山田 翻	メディカルサイエンス・インターナショナル	8,400円
(参)ひと目でわかる ビジュアル人体発生学	山田重人・ 山口豊著	羊土社	3,600円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	人類遺伝学 1 人類遺伝学入門	ビデオの供覧を通じて遺伝性疾患家族が抱える諸問題を述べるができる。演習を通じて家系図の記載ができる。	蒔田-1 (遺伝子診療 カウンセ リング室)
2	人体発生学 1 生殖器の構造と発生	男性・女性の生殖器系の構造を解剖学的に学び、それらの器官の発生過程について理解する。	日下部-1 (生物学)
3	人類遺伝学 2 メンデル遺伝病1	常染色体劣性(潜性)遺伝について、遺伝子頻度、保因者、Hardy-Weinbergの法則、などの用語を使って説明できる。	蒔田-2 (遺伝子診療 カウンセ リング室)
4	人体発生学 2 精子形成と卵子形成	精巣と卵巣の構造を組織学的に学び、配偶子(精子と卵子)の形成過程およびそれを調節するホルモンのたらきを理解する。	日下部-2 (生物学)
5	人類遺伝学 3 メンデル遺伝病2	常染色体優性(顕性)遺伝について、適合度、新生変異、ハプロ不全、優性阻害効果、機能獲得変異などの用語を使って説明できる。	蒔田-3 (遺伝子診療 カウンセ リング室)
6	人類遺伝学 4 メンデル遺伝病3	X染色体連鎖性疾患について、 Lyonization、偽常染色体領域などの用語を使って説明できる。	蒔田-4 (遺伝子診療 カウンセ リング室)
7	人体発生学 3 性周期と排卵	性周期における卵巣の変化(卵胞発育、排卵、黄体形成)および子宮内膜の変化を学び、それらを調節するホルモンのたらきを理解する。	日下部-3 (生物学)
8	人類遺伝学 5 単一遺伝病	メンデル遺伝病の分離比を乱す要因について表現促進、インプリンティング、生殖細胞モザイクなどの用語を用いて概説できる。	蒔田-5 (遺伝子診療 カウンセ リング室)
9	人体発生学 4 受精・卵割着床	受精機構、多精子受精防止機構、初期卵割および着床の過程を学ぶ。	日下部-4 (生物学)
10	人体発生学 5 胚葉の分化	胚盤の発達、胚葉の分化、器官形成、胎盤機能について学ぶ。出生前後における血液循環の変化について理解する。	日下部-5 (生物学)
11	人類遺伝学 6 人類遺伝学と医療	ヒトの多様性を規定する遺伝学的因子(SNP,CNV)を概説できる。遺伝学的検査の応用における問題点を保因者診断、新型出生前診断を通じて概説できる。	蒔田-6 (遺伝子診療 カウンセ リング室)
12	人体発生学 6 発生異常の原因	多胎妊娠、発生異常、胚淘汰について学ぶ。発生異常の原因としての母体要因と環境要因について理解する。	日下部-6 (生物学)
13	人類遺伝学 7 細胞遺伝学の基礎	染色体の構造、細胞周期、分析法について述べるができる。	蒔田-7 (遺伝子診療 カウンセ リング室)
14	人体発生学 7 染色体異常の生成機序	配偶子と受精卵に生じる染色体異常の生成機序について学ぶ。環境変異原(放射線・化学物質)による染色体傷害について理解する。	日下部-7 (生物学)
15	人類遺伝学 8 臨床細胞遺伝学	細胞遺伝学の臨床応用を、常染色体トリソミー、均衡型転座、融合遺伝子などの用語を使って説明することができる。	蒔田-8 (遺伝子診療 カウンセ リング室)

14. 基礎生物学実習(必修) (哺乳動物の構造と機能、発生と遺伝)

担当教員	◎日下部博一、日野敏昭(生物学) 津村直美(生命科学)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	1単位	45コマ
履修目的・授業概要			
この実習は、並行して開講されている基礎生物学の内容に関連づけながら、生命現象を正確に把握するための観察や実験の手法・原理を学ぶとともに、その生命現象に潜む法則性を洞察する能力を養う。			
到達目標			
①細胞や組織の構造的特徴を説明できる。②ヒトの各染色体の形態的特徴を説明できる。③哺乳類の胚発生過程を説明できる。④実験方法の原理を説明できる。			
授業の形式			
授業支援システム「manaba」によるeラーニング形式(オンライン形式)と、対面での実技形式で行う。eラーニング形式では、出欠確認と成績評価の判断材料のために、実習時間(+10分)内で、manabaを利用した小テストを行う。実習テーマによっては、ドリル形式の演習問題にとりくんでもらうか、または課題・レポート等を提出期限内(実習日から2週間程度)に提出することが求められる。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
manabaのコンテンツのみならず、参考書や信頼のおけるサイト等から積極的に情報を得ることを勧める。基礎生物学で使用するテキストにも実習テーマに関連した内容が載っているので、それを読んで実習内容の理解を深めること。			
成績評価の基準等			
成績評価は全出席した学生に対して行われる。評価は、小テストの結果(20%)や、課題・レポートなどの提出物の内容と学修態度(80%)を点数化し、概ね上位30%以内を優(または秀)とする。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
実技形式での実習は、18コマ(6回)を予定しており、講義実習棟3階の第4実習室で行われる。第4実習室は土足厳禁のため、予め履きを用意しておくこと(運動靴など動きやすいものとし、安全面や災害時避難に支障のあるサンダル、スリッパ、踵の高い靴等は禁止とする)。第4実習室内では白衣を着用し、学生証(IDカード)を白衣の上に身につけること。なお、白衣は学生食堂前の購買部で購入できるので、自分の最初の履修日までに用意しておくこと。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) 実習人体組織学図譜(第5版)	藤田尚男・石村和敬	医学書院	11,880円
(参) 機能を中心とした図説組織学(第5版)	澤田元・他訳	医学書院	9,500円
(参) 受精卵からヒトになるまで(原著第6版)	瀬口春道・小林俊博・他訳	医歯薬出版	8,400円
(参) 新染色体異常アトラス	阿部達生・藤田弘子編	南江堂	16,000円
(参) 超実践バイオ実験イラストレイテッド	西方敬人・真壁和裕著	秀潤社	3,800円
(参) キャンベル生物学(原書11版)	池内昌彦・他監訳	丸善	15,000円
(参) 改訂第3版 遺伝子工学実験ノート上 DNA実験の基本をマスターする	田村隆明編	羊土社	3,800円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1 2 3	ガイダンス、ヒト末梢血細胞の観察(I)	実習の受講方法のガイダンスを受ける。ヒトの末梢血塗抹標本を用いて、血球の顕微鏡観察の方法を学ぶ。(eラーニング)	日下部 日野 津村
4 5 6	ヒト末梢血細胞の観察(II)	ヒトの末梢血塗抹標本を用いて血球を顕微鏡下で観察し、その観察結果をスケッチに表現する方法を学ぶ。(実技)	〃
7 8 9	ヒトの染色体(I)	ヒト末梢血の培養細胞から作製した染色体標本を観察し、正常核型における各染色体の特徴を理解する。(実技)	〃
10 11 12	ヒトの染色体(II)	ヒト新生児にみられる染色体異常症の核型やそれらの生成機序について学ぶ。(eラーニング)	〃
13 14 15	組織標本の観察(I)	組織標本とは何かを学ぶ。さらに、ブタの肝臓の組織標本を観察し、肝臓の基本構造および機能を細胞レベルで理解する。(実技)	〃
16 17 18	組織標本の観察(II)	マウスやハムスターの各種組織標本を用いて組織を顕微鏡下で観察し、その組織の構造的特徴や機能などについて理解する。(eラーニング)	〃
19 20 21	哺乳動物の解剖	チャイニーズハムスターの内臓諸器官の観察をとおして、それらの特徴と存在位置を理解する。(eラーニング)	〃
22 23 24	哺乳動物の発生(I) 未着床胚	哺乳類の卵子成熟、受精、卵割の様子などをマウス卵の全体標本を用いて観察し、哺乳類の着床までの初期発生過程を理解する。(実技)	〃
25 26 27	哺乳動物の発生(II) 着床胚	マウスの胚仔および胎仔の液浸標本の観察方法を学び、各器官の形成過程を理解する。(eラーニング)	〃
28 29 30	ヒトの味覚テスト	5つの基本味(甘、酸、塩、苦、うま味)の全口腔法による味覚閾値の求め方などを学ぶ。(eラーニング)	〃
31 32 33	PCR法と電気泳動法による遺伝子解析	PCR法と電気泳動法の実験操作と、遺伝子解析を体験することによって、分子生物学的アプローチによる実験結果の解釈方法を学ぶ。(実技)	〃
34 35 36	プラスミドDNAの電気泳動	分子生物学の研究で使用される制限酵素とプラスミドDNAの特徴を学び、プラスミドDNAの制限酵素断片の電気泳動法による解析方法を理解する。(eラーニング)	〃
37 38 39	酵素反応	ヒト消化酵素の酵素活性の測定方法を学び、酵素の特性と生体内における役割について理解する。(実技)	〃
40 41 42	グリセリン筋を用いる筋収縮の実験	ニワトリ骨格筋から作製したグリセリン筋を用いる筋収縮の実験方法を学び、横紋筋の特徴や筋収縮のしくみを理解する。(eラーニング)	〃
43 44 45	実習予備日	補講やレポート作成の時間にあてる。	〃

15. 医用物理学実習(必修)

担当教員 本間龍也 ◎稲垣克彦 藤井敏之			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	0.5単位	24コマ
履修目的・授業概要 初年次教育における実験とは、既知の現象を再現して測定を行い、結果を分析してその現象を理解することである。この実習では、医用物理学の講義で扱う現象を課題として実験的手法を体得することを目的とする。			
到達目標 この実習では、第1学年に開講されている講義科目「医用物理学」で学ぶ内容と関連した実験課題に取り組む。実験方法や技術、実験結果のまとめ方を習得すると共に、自然科学的思考力を養い、これらの課題が医療機器とどのように関連しているか理解する。 課題1 血圧測定を通してベルヌーイの定理を理解する。 課題2 ドップラー効果を理解する。 課題3 放射線(β線)の遮蔽(しゃへい)効果を理解する。			
授業の形式 A組には金曜日、B組には火曜日に開講されます。各組はさらに2班に分かれます。各班、週ごとに講義室での思考実験と実習室での実験を交互に受講し、7週にわたって3課題の実験を行います。1週目は講義室で各課題の資料を読んで実験結果を予測します(思考実験)。2週目に実習室で装置を使って実験を行います。予測の結果、および実験の結果についてそれぞれレポートを提出します。実習の進め方、レポートの書き方の詳細についてはガイダンスで説明します。なお、体調不良等の場合、1週目の思考実験はオンラインで受講することができますが、2週目の実験は予備日に補講を受けることになります。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 各課題において思考実験が予習に相当します。実験室での実験の前には、資料にもう一度目を通し、装置の使い方等を確認してください。実験の結果をまとめてレポートを提出することが復習となります。			
成績評価の基準等 成績は合否のみで判定されます。すべての課題を積極的に取り組み、レポートを提出し、添削を受けて提出期限内に受理されたら合格の判定を受けると考えてください。			
学生へのメッセージ 思考実験では資料を読んで文章から必要な情報を抽出し、実験の仕組みを理解するとともに実験結果を予測します。また、提出したレポートは教員が添削を行います。ここでいう添削とは、書き手の主張が矛盾なく読み手に伝わる文章に到達するための助言であって、修正が必要な箇所の指摘や代案の提示だけではありません。指摘を参考にして文章を見直し、他に同様な問題が含まれていないか何度も推敲してください。			

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1 3	ガイダンス	実習の進め方、実習を受ける際を守るべき事柄、およびレポートの書き方について理解する。	本間 (物理学) 稲垣 (物理学) 藤井 (物理学)
4 9	課題1 血圧測定 -ベルヌーイ の定理の応 用-	人の測定部位による血圧の違いがベルヌーイの定理によって説明されることを理解する。	
10 15	課題2 ドップラー 効果	運動する音源から発する超音波の周波数は音源の速度に応じて変化する。実験を通してこの現象(ドップラー効果)を理解する(血流速度の測定原理と関連している)。	
16 21	課題3 放射線の 遮蔽効果	放射線を板にあてると一部は吸収される。放射線の遮蔽効果と呼ばれる。実験では、放射線の中間のβ(ベータ)線を厚紙や発泡スチロールなど身近にあるもので作った板にあてることで、遮蔽効果を観察してもらう。実験を通して“放射線の遮蔽”という考え方を理解してもらう。	
22 24	予備日	実験予備日	

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) 医歯系の物理学(医用物理学の教科書)	赤野松太郎 他	東京教学社	4,200円

16. 情報科学実習 (必修)

担当教員	◎高橋龍尚 (数理情報科学)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	後期	0.5単位	21コマ
履修目的・授業概要 パソコンを使用して、収集したデータ・情報を統計学的に処理・解析する技術を習得します。特に、統計学についてはExcelを利用しながら理解を深めます。また、医学論文では、統計学が必須です。論文に書かれている統計や解析手法について理解し、更に自身でも統計解析やグラフ作成の技術を身につけます。			
到達目標 前期に学んだ情報リテラシーと統計学の技術と知識を用いて具体的な統計量の計算を行うことができる。統計学の知識を深めると共に実践的なノウハウを身につける。数値計算などのデータ処理やグラフ作成ができる。医学論文の作成に必要な基本技術を習得する。論文読解に必要なデータ処理の流れや統計学について論理的に説明ができる。			
授業の形式 [新型ウィルス対策] 大学の方針に沿って、対面授業とオンライン授業とを併用する場合があります。グループ分けと日程は授業時間割に準ずる。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 予習の内容については、授業の終わりに次の授業の予習すべきポイントとして説明される。レポートの結果については、次の授業の初めに注意すべき点として説明がなされる。苦手なところや理解不足のところを中心に復習する。わからないところは授業中に確認する。			
成績評価の基準等 受講態度、課題に対するレポートの内容、提出状況、出席状況などを総合的に判断して評価します。出席については、原則すべて出席しなければならない(課題内容が毎回違うこと、課題を遂行するにあたり積み重ねが欠かせない事から)。レポートについては、課題内容の理解が十分になるまで再提出が指示されます。レポートの平均点が60点以上で単位が認定される。			
学生へのメッセージ 情報処理実習室の空き時間を利用して積極的に学習シワークに慣れて下さい。質問等は実習時間内に限らずいつでも対応しますので、遠慮せず積極的にお尋ね下さい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税込)
わかりやすいデータ解析と統計学 ISBN 978-4-274-22111-8	高橋龍尚	オーム社	3,300円
(参)Easy to understand data analysis and statistics. ISBN 978-4274700613	Tatuhisa Takahashi	Ohmsha, Ltd	3,960円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1 ∩ 3	Excelの基本操作	データ入力, データ修正, 行列挿入について学ぶ	高橋(数理情報)
4 ∩ 6	表計算	式と関数の利用, 相対セル番地, 絶対セル番地について学ぶ	〃
7 ∩ 9	グラフの作成	棒グラフ, 折れ線グラフ, 散布図, 回帰直線について学ぶ	〃
10 ∩ 12	各種グラフの書式設定	棒グラフ, 面グラフ, 円グラフ, 3Dグラフについて学ぶ	〃
13 ∩ 15	データベースの検索	オートフィルタ, データの並べ替え, 条件を満たすデータの抽出, 移動平均, クロス集計について学ぶ	〃
16 ∩ 18	ヒストグラム・基本統計量	度数分布とヒストグラムの作成について学ぶ。平均値, 標準偏差, 相関係数について学ぶ	〃
19 ∩ 21	t検定分散分析	関連2群のt検定, 独立2群のt検定, 分散分析について学ぶ	〃

17. 基礎化学実習(必修)

(秤量、定量、吸光度測定、高分子ゲル、濡れ現象、振動反応)

担当教員	◎眞山博幸、室崎喬之 (化学)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	後期	0.5単位	24コマ
履修目的・授業概要			
<p>本実習は今後展開される生命科学系の講義・実習の基礎となるものである。具体的には今後の実験・実習に必要な測定器や器具の基本操作法ならびに基礎知識を学ぶ。また、実験・観察・結果の記録・レポート作成を通じて自然科学の方法を学ぶ。毎回の実習では実験前に内容説明、測定器や器具の使用法と取り扱いの際の注意点、実験操作で注意すべき点、試薬や溶液の廃棄法、実験後の器具等の片づけについて説明する。</p>			
到達目標			
<p>濃度表記、SI接頭辞、酸解離定数などの知識が身につけていることを確認し、数値処理法、図表作成法を習得する。また、基本操作として純水使用法、ガラス器具使用法・洗浄法、容量・質量測定法、試薬・試料の取扱法、資料溶液の調製法、分析機器使用を反復練習により習得する。さらに、試料溶液の廃棄法、有害廃液の処理法、反応性の高い薬品をこぼした際の対応法についても習得する。</p>			
授業の形式			
<p>グループ分けをし、登校のグループは実習を行い、登校しないグループは自宅でレポート課題に取り組む。manabaに実習内容、実習資料、グループ分け、登校の日程表、実習に当たっての諸注意、レポート課題等の必要事項を掲載する(必ず参照すること)。なお、実習資料は印刷したものを実習時に配布する。実習は1名で行う。レポート課題は全体で4回行う。レポート課題では基礎化学の講義内容と実習と関係した内容の問題を出題する(レポート課題の解答例は提示しない)。実習レポートとレポート課題は個人で作成し、指定された期日までにmanaba上で必ず提出する。登校しないグループはレポート課題の提出をもって出席とする(小テストはしない)。manaba上での実習レポートとレポート課題の提出方法は別途説明する。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>実習資料は実習前日までにmanabaに掲載するので、予習すること。試薬を扱う実習では予習が重要であり、安全に円滑に実習を行うことができる。「自然科学入門(化学系)」で学習する程度の基礎知識・技能と「基礎化学」での学習内容が必須である。この実習は今後展開される生命科学系の講義・実習の基礎となるもので、実習期間内にしっかりと基礎知識ならびに基本操作を習得・理解することが重要である。レポート作成にあたっては、実験事実・結果を正確かつ客観的・定量的に記述し、論理的に考察するという自然科学の基本姿勢が要求される。本実習の背景には、化学における“定量”理論と操作、分光分析化学、ゲル形成・マイクロカプセル・Drug Delivery System、自己組織化(振動化学反応によるリズムと空間パターン形成)、濡れ現象、コロイドという医学・生命科学における重要な項目があり、これらについて理解を深めてほしい。</p>			
成績評価の基準等			
<p>成績評価は実習の受講態度と出席状況にレポートの評価を加えて総合的に行う。単位取得のためには4回の実習実施と実習レポートを提出しなければならない。正当な理由で欠席した場合のみ後日追実習(補習)を行う(可能な限り事前に連絡し、病欠は快復後できるだけ早く教員に連絡する)。レポート(60%)と実習態度(40%)の合計点で評価する。総合的な評価で60%以上の得点を合格とする。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>実習は遅刻・無断欠席は現金であることから、事情がある場合は事前に化学教室または一般教育事務室へ連絡すること。実習室への入室にあたっては、飲食物・不要な物品(靴・外套・バック等)の持ち込み禁止、スリッパ・サンダル等や床に傷をつける履物は禁止で、入室“前”に必ず白衣を正しく着用し、長髪は前傾姿勢になったときに前に垂れ下がらないようにまとめること。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教)基礎化学実習資料(配布資料)	旭川医大・化学教室編		
(参)エピソード物理化学	後藤了・小暮健太郎	京都廣川書店	8,800円
(参)アトキンス物理化学(上・下)	Peter Atkins, Julio de Paule	東京化学同人	上6,720円 下6,380円
(参)現代物理化学	寺嶋正秀ら	化学同人	6,050円
(参)非線形科学-分子集合体のリズムとかたち	吉川健一	学会出版センター	3,000円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	ガイダンス	化学実験における安全教育、基礎化学実験の内容と注意事項を理解する。	眞山 室崎
2 3	紙オムツの吸収体の含水率	医療現場で用いられる紙オムツの吸収体(ゲルの一種のキセロゲル)の原理を学び、吸収体が溶媒(水、生理食塩水、アルコール)をどれだけ吸収するか実際に測定する。	
4 6	色素溶液の吸光度測定	生化学実験に欠かせない正しいマイクロピペットの操作法を習得する。また、分光光度計の操作、分光セルの取扱い、吸光度と濃度の関係、グラフの作成法について学ぶ。	
7 9	濡れと表面張力	親水性表面と疎水性表面における水滴の接触角を測定し、生体で起こる現象と密接に関係している表面張力および濡れ現象の基本原則を理解する。	
10 12	BZ反応の観察	代謝振動反応のモデルでもあるBZ反応の時間変化(リズム)と空間変化(パターン)を観測し、基本原則を理解する。	
13 15	レポート課題1	濃度計算、浸透圧、希釈率	
16 18	レポート課題2	吸光度測定の原理	
19 21	レポート課題3	化学平衡、酸塩基平衡、平衡定数	
22 24	レポート課題4	解離平衡	

18. 心理・コミュニケーション実習(必修)

(実験心理学, 臨床心理学, コミュニケーション, 医療面接, ユマニチュード, 認知症)

担当教員			
高橋 雅治, ◎池上 将永, 阿部 泰之, 本田 美和子, 大島 寿美子, 佐藤 伸之			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	後期	1単位	45コマ
履修目的・授業概要			
<p>本実習の目的は、心理学・医療面接・ユマニチュードの実習を通して、人間を理解する能力、コミュニケーション能力、および、医療面接の能力を向上させることである。</p> <p>心理学実習では、科学的な人間理解の方法とカウンセリング論について体験的に学ぶ。さらに、模擬患者を招いた患者-医師コミュニケーションの実習において、患者とのコミュニケーションの取り方を実践的に身につける。</p> <p>ユマニチュードの実習では、知覚、感情、言語を併用する包括的コミュニケーション法としての「ユマニチュード」について学ぶ。</p>			
到達目標			
<p>心理行動を科学的に理解する方法、面接を適切に行うためのカウンセリング論、患者との実践的なコミュニケーション法、認知症ケア技術であるユマニチュードの技法を体得する。</p>			
授業の形式			
<p>実験実習・ロールプレイ・模擬患者実習等を行う。実習は基本として数名のグループによる共同作業で進める。認知症ケア実習では、学外施設での体験実習が予定されている。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>事前に配布される実習の手引き等の資料を確認した上で実習に臨むこと。実習後に作成するレポートによって、実習内容の理解を深めること。</p>			
成績評価の基準等			
<p>出席、レポート、実習への参加態度等を総合的に評価する。成績評価には全ての実習テーマに参加することが必要である。</p>			
学生へのメッセージ			
<p>本実習で学ぶ手法は、他者の心理・行動を行動科学的な立場から理解する上で大きな助けとなる。また、模擬患者実習および認知症ケアの体験実習で学ぶ実践的な技能は、将来の職業活動の質の大幅な向上につながる。本実習への積極的な参加を期待する。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参)現代心理学辞典	子安増生・他	有斐閣	7,040円
(参)Humanitide「老いと看護の画期的な書」	イヴ ジネスト(著)	トライアリスト 東京	2,750円
(参)ユマニチュード入門	本田美和子	医学書院	2,200円
(参)ナニコレ?痛み×構造構成主義	阿部泰之	南江堂	3,080円
(参)家族のためのユマニチュード	イヴ ジネストラ(著)	誠文堂新光社	1,760円
(参)「絆」を築くケア技法 ユマニチュード	大島寿美子	誠文堂新光社	1,980円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1 2 3	ユマニチュードとは(1)	知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションに基づいたケア技法であるユマニチュードについて学ぶ(講義と実習)。	阿部 本田 大島
4 5 6	ユマニチュードとは(2)	"	"
7 8 9	認知症ケア実習1日目	近隣の介護福祉施設において、認知症ケアの体験実習に参加する。	阿部
10 11 12	認知症ケア実習2日目	"	"
13 14 15	認知症ケア実習まとめ	「医師に必要なコミュニケーションとは何か」をテーマとしてグループでまとめを行い、発表する。	"
16 17 18	心理学ガイダンス・視覚運動協応過程	レポート作成に関するガイダンス、逆転眼鏡や鏡映描写装置を用いて視覚運動協応過程を分析する方法について学ぶ。	高橋 池上
19 20 21	弁別と錯視	弁別閾の測定や錯視の実験を通して、知覚・感覚に関する心理学実験について学ぶ。	"
22 23 24	セルフ・コントロール	自己制御を規定する心理社会的要因を分析する実習を行う。	"
25 26 27	心理検査1	MMPI等の心理検査を体験することで、その実施方法と解釈について学ぶ。	"
28 29 30	心理検査2	ロールシャッハ等の心理検査を体験することで、その実施方法と解釈について学ぶ。	"
31 32 33	知能検査	知能検査を体験することで、その理論・実施方法と解釈について学ぶ。	"
34 35 36	集団極性化	集団極性化の実習を通じて、同調と社会的圧力について学ぶ。	"
37 38 39	臨床心理面接法	臨床心理学における面接技法の基礎と応用について学ぶ。	"
40 41 42	医療現場におけるリスク・コミュニケーション	医療現場におけるリスク・コミュニケーションについて学ぶ。	佐藤
43 44 45	患者-医師コミュニケーション	模擬患者の助けを借りて、患者とのコミュニケーションの取り方について学ぶ。	"

19. データサイエンス(必修) [データ分析, プログラミング]

担当教員	◎ 加藤 勲		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	後期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
<p>現代社会では、情報通信技術の進歩により大量のデータを比較的容易に入手できます。大量のデータの中から必要なものを取り出し、適切に活用し、新たな価値を生み出すことのできる人材の育成が以前にも増して求められるようになりました。医療分野においても、AI（人工知能）を活用した医療支援がなされており、データサイエンスを学ぶことの重要性が高まりつつあります。この講義では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）に準拠した内容を扱います。社会におけるデータ・AI活用及び留意点、データリテラシー、前期「統計学」で学習した内容のいくつかを実際にExcel、Pythonを用いて動かすことで、データサイエンス技術の向上を目指します。</p>			
到達目標			
<p>データサイエンス、AIが身近に用いられている例を学び、データサイエンスに関する基礎知識を習得します。また情報倫理、セキュリティを学び、データを扱う際の注意点を理解することが目標です。Excelでは、データを視覚化する方法を学び、傾向や特徴を直感的に掴めるようになること、さらに検定を用いてデータ分析を行い、特徴を正しく検証できるようになることが目標です。またPythonの初歩を学び、プログラミングの基礎を固めます。</p>			
授業の形式			
<p>対面授業（講義実習棟2階 第6講義室）で座学。各自 pc を持参。出席カードにて出欠確認を行います。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>Excelソフトを使用する予定なので、pcにインストールしておくことが望ましいです。また Pythonでは、Google Colaboratoryシステムを利用するため、Google アカウントを各自取得しておいてください。詳細は、講義中に指示する予定です。</p>			
成績評価の基準等			
<p>レポート、出席状況を総合的に判断し、5段階評価します。それぞれ70%、30%程度で、合計が60%以上なら合格です。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>講義はできるだけ丁寧に行うつもりですが、高校の時と比較するとスピードが速く感じられるかもしれません。質問があればいつでもしてください。また自分の使いやすいくテキストを探して勉強すると良いでしょう。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税抜)
(参)データサイエンス入門	竹村彰通ら	学術図書	2,000円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	ガイダンス	履修目的、到達目標	加藤
2	導入	データサイエンスの導入1 Society 5.0	〃
3	導入	データサイエンスの導入2 情報倫理 ELSI	〃
4	導入	データサイエンスの導入3 機械学習、ディープラーニング	〃
5	導入	データサイエンスの導入4 クラスタリング、決定木	〃
6	データの可視化	Excel1 基本統計量の計算	〃
7	データの可視化	Excel2 平均、標準偏差の出力、グラフ表示	〃
8	データの可視化	Excel3 折れ線グラフ、複数データのグラフ作成	〃
9	データの可視化	Excel4 箱ひげ図、散布図の作成	〃
10	データの可視化	Excel5 度数分布表、ヒストグラムの作成、相関係数	〃
11	プログラミング	Python1 基本的なデータ型/変数	〃
12	プログラミング	Python2 組み込み関数/メソッド	〃
13	プログラミング	Python3 比較演算とブール演算/条件分岐/リスト	〃
14	プログラミング	Python4 繰り返し モジュールと標準ライブラリ	〃
15	まとめ	まとめ	〃

20. 数学(必修) [線形代数学, 微分積分学]

担当教員	◎ 加藤 勲		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
現代科学技術の基礎となる数学において、線形代数と微分積分は最も基本的であると同時に、他分野への応用も広いため、総合大学の多くが導入年次の授業科目として採用しています。医学における生命現象とそれをとらえる物理化学の原理を理解するため、それらを支える数学的知識を習得します。また自らデータを分析し価値を引き出せる人材を養成すべく、リテラシーレベルの数理・データサイエンス技術を習得するための基礎知識の理解を深めます。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・行列、逆行列、行列式の性質を学び、計算できる ・行列を用いて連立1次方程式を解ける ・テイラー展開できる ・2変数関数の偏微分を計算し、極値問題を解けるようになる ・変数分離形などの代表的な微分方程式を解ける ・定数係数の2階線形微分方程式を解けるようになる 			
授業の形式			
対面授業（講義実習棟2階 第6講義室）、座学です。毎回講義中に小課題を載せたプリントを配布します。それを解いて講義終了時に提出してください。これと出席カードにより出欠確認を行います。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
授業内容を理解するために予習を適宜行うことが望ましいです（教科書は指定しません）。復習については、講義資料をmanaba にあがる予定なので役立ててください。			
成績評価の基準等			
レポート、期末試験、出席状況を総合的に判断し、5段階評価します。それぞれ30%、60%、10%程度で、合計60%以上なら合格です。なお期末試験を受けるには3分の2以上の講義出席が必要です。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
講義はできるだけ丁寧に行うつもりですが、高校の時と比較するとスピードが速く感じられるかもしれません。質問があればいつでもしてください。また自分の使いやすいテキストを探して勉強すると良いでしょう。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税抜)
(参)入門線形代数	三宅敏恒	培風館	1,650円
(参)入門微分積分	三宅敏恒	培風館	2,100円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	ガイダンス	学習目的、到達目標	加藤
2	線形代数	行列とベクトル	〃
3	線形代数	2次行列式、3次行列式	〃
4	線形代数	逆行列、連立1次方程式の解法	〃
5	線形代数	ベクトルの内積・外積	〃
6	基礎解析	実数と関数	〃
7	基礎解析	微分法と平均値の定理	〃
8	基礎解析	テイラー展開	〃
9	基礎解析	偏微分	〃
10	基礎解析	極大・極小	〃
11	微分方程式	微分方程式の基本概念	〃
12	微分方程式	1階微分方程式の解法	〃
13	微分方程式	数学モデルと微分方程式	〃
14	微分方程式	2階線形微分方程式の解法	〃
15	まとめ	まとめ	〃

21. 初年次セミナー(必修)〔3つのポリシー、マネジメント、アカデミックスキルズ、アウトプット〕

担当教員	◎井上裕祐、佐藤伸之(教育センター)、野津司、齊藤江里香、長谷川博亮、その他		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
<p>大学での学びは、高校までのものとは異なる側面を持つ。知識・技術の習得は大前提であるが、学士取得のためにはそれらを如何に使うか成果を上げるのかが重要である。初年時セミナーでは、学士課程で必要とされる成果(アウトプット)とは何かを理解するために、思考方法や協働作業・レポート作成に必要な技術を学ぶ。なお授業日程は本稿記載時には決まっていますので、後日manabaで配信する。</p>			
到達目標			
【一般目標】			
<p>学士課程で必要とされる能力を身につけるため、大学で必要とされる「事象の客観的理解」「論理的・批判的思考」「レポート作成」などに関する課題に取り組み、初年次に必要とされる到達レベルをクリアする。</p>			
【個別目標(行動目標)】			
<p>1)ディプロマ・ポリシーとコンピテンシーについて学ぶ 2)アカデミックスキルズを理解する 3)適切な情報収集を学ぶ 4)自分自身のマネジメントを改善する 5)各種レポートの記載方法を学ぶ 6)文章作成・読解に必要なパラグラフ構造を理解する 7)著作権を守る引用方法を理解する 8)協働作業によるアウトプット方法を学ぶ</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>manaba上にアップされた資料を読んで予習をします。授業時間内に小テストを提出してください。なお授業中にmanabaやZoomにアクセスすることが多いので、必ずノートパソコンやタブレットを持参してください。またオンデマンド視聴は原則ありません。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>事前に講義テーマに該当する部分をLMS上にある講義資料・テキスト・参考書などで確認しておいてください。manaba上には必要な資料を事前に掲載します。資料で解説した内容について、毎回小テストを解いて理解度を確認してください。なお時間内に小テストに回答することで出席とします。また複数の提出課題があります。</p>			
成績評価の基準等			
<p>科目の成績は「合格」「不合格」で表記されます。評価項目は「知識」と「問題解決能力」です。知識に関する評価は、小テストで測定します。問題解決能力については、レポート課題で評価します。小テスト3割・レポート7割で総合評価します。また小テスト・レポートを含めて、不正行為が発覚した場合には、当該年度の単位を認定しません。また出席が2/3以上(10コマ以上)の学生を評価対象とします。出席が2/3に満たない場合は、当該年度の単位を認定することができません。なお中間レポート・最終レポートの提出がなかった場合、履修放棄として単位認定を行いません。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>シラバス作成時に講義担当者の予定が未確定の部分もあるので、講義開始前にmanaba上で講義日程・主題を確認してください。教科書は今後のレポート作成に役立ちます。1年生前期に読了しておくようにしてください。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) ダメ例から学ぶ実験レポートをうまくはやく書けるガイドブック	堀 一成	羊土社	1,800円+税
(教) 思考を鍛えるレポート・論文作成法第3版	井下千以子	慶應義塾大学出版会	1,320円+税
(参) アカデミックスキルズ第3版	佐藤 望	慶應義塾大学出版会	1,100円+税
(参) ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方	石井 一成	ナツメ社	1,100円+税
(参) 論理的に読む技術	福澤 一吉	SBクリエイティブ	1,047円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	学士課程で身につけるコンピテンシーについて(講義)	科目履修オリエンテーション。Diploma Policy・コンピテンシーについて。シラバス・カリキュラムマップ	野津
2	医学科で必要なレポート作成能力(講義)	医学科で必要となるレポート作成能力と、医師に必要な論文作成能力の連続性について知る。またアウトカム基盤型カリキュラムを理解し、学生時代に実践すべきことを知る。	野津
3	協働作業(講義・演習)	KJ法やマインドマップによるブレインストーミングをグループワークで行ってみる。	井上
4	論理的思考とパラグラフ構造(講義)	自分の思考を論理的に伝える手法の一つとして、パラグラフ構造を学ぶ。	井上
5	学修管理にICTを利用する(講義・演習)	学修管理に役立つICTツールを学ぶ。(manaba、大学メール、G-mail、スケジュール、SNS、Zoom、Officeアプリ)	井上
6	ICTを利用した学修環境を整える(講義・演習)	ICTを利用した学修環境を実際に作ってみる。	井上
7	アウトライン作成(講義・演習)	レポートのアウトラインを考え、作成してみる。	井上
8	引用について(講義・演習)	著作権と引用の方法について学ぶ。直接引用・間接引用を使ってみる。グループワークでエビデンスレベルを考慮した引用について議論し、各自のレポートに適用する。	井上
9	課題の評価を理解する(講義・演習)	科目レポート課題の評価基準を使って、ルーブリック評価について学ぶ。評価項目と達成基準についてグループワークを行い、評価内容に対する理解を深める。	井上
10	情報検索(講義・演習)	各グループでレポート作成に必要な追加情報を検索・収集し、レポート作成の準備を行う。	井上
11	論述型レポート1(講義・演習)	グループワークで、自分達のレポート記述がパラグラフ構造を効果的に使っているかを検討し、修正を加える。	井上
12	論述型レポート2(講義・演習)	グループワークで、自分たちの記述したレポートが、適切な引用を行って自分自身の意見を強調できるように修正を加える。	井上
13	論述型レポート3(講義・演習)	グループワークで、各自で作成したレポートが指定した書式に準じているのか確認していく。	井上
14	ストレスマネジメント(講義)	学生が実践できるストレスマネジメントを学ぶ。	長谷川
15	論述型レポート4(講義・演習)	グループワークで、各自で作成したレポートの論理的検証を行う。各自でリファレンスの整理を行い、最終成果物を作成・提出する。	井上

選 択 必 修 科 目

【第1学年】

22-1. 自然科学入門(物理系)(選択必修)

担当教員	◎藤井敏之		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	1単位	20コマ
履習目的・授業概要			
医学教育では、物理的な知識や理解を必要とする科目が多いので物理学を学んでおくことは大切です。この講義の目的は、高校で物理を履修していない学生、又は苦手とする学生に物理の基礎を理解してもらうことです。主に物体の運動を記述する「力学」を勉強する中で、物理学的な考え方を学びます。必修科目の「医用物理学」では物理を中心とした内容が展開されますが、講義の内容をよく理解するためには本科目の履修が欠かせません。			
到達目標			
「ニュートンの運動の法則」を学び、力学の基礎（物体の運動、仕事とエネルギー）を理解する。			
授業の形式			
下記に記載した教科書「ワンフレーズ力学」を基に、要点をまとめた資料を配付します。質問は掲示板にて随時受け付けます。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
講義で使用する教科書を使って予習（一度はゆっくり考えながら読んでおくこと）して下さい。講義後は、教科書・ノートを使って、しっかり復習して下さい。分からないことがあったら、遠慮せず担当教員に質問して下さい。			
成績評価の基準等			
各自の理解度を確認するために、100点満点の試験を2回実施します。受験するには3分の2以上の出席（小テストの提出）が必要です。試験の難易度（得点分布）を考慮しつつ概ね60点以上のものを合格とします。不合格の者は、後日再試験を実施します。難易度を考慮しつつ合格点（概ね60点）に達するまで再試験を実施します。小テストを10%、2回の試験を各45%として評価します。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
初学者にも分かりやすく講義をすすめる予定ですが、開講期間が短く、進度の早い講義です。各自が予習・復習をするとともに、質問掲示板を利用して理解を着実なものにして下さい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) ワンフレーズ力学	原 康 夫	学術図書出版	1,500円 (税抜き)
(参) 医歯系の物理学(第2版)	赤野松太郎 他	東京教学社	4,000円 (税抜き)
(参) 高校の物理の教科書			
(参) 物理入門コース1力学	戸 田 盛 和	岩 波 書 店	2,400円

コマ数	履修主題	履 修 内 容	担当教員
1	導入	なぜ力学を学ぶかについて考える。	藤井 (物理学)
2	物体の直線運動	速度、加速度について学び、物体の直線運動を理解する。	
3			
4			
5	物体の曲線運動	ベクトルを導入し、物体の曲線運動（放物運動）について理解する。	
6			
7			
8	ニュートンの運動の法則	運動の第一法則、第二法則、第三法則を理解する。	
9			
10	中間試験		
11	円運動	円運動について学び、向心力と遠心力を理解する。	
12	運動量と力積	運動量と運動量保存法則を学ぶ。	
13			
14			
15	仕事とエネルギー	仕事の定義を学び、運動エネルギーと位置エネルギーを理解する。	
16			
17		エネルギー保存則を学び、例として重力による運動やバネの伸縮による運動におけるエネルギー保存則を理解する。	
18			
19	最終試験		
20	最終試験		

22-2. 自然科学入門(化学系)(選択必修)〔電子構造、化学結合、分子構造、分子の極性、酸塩基、化学平衡、酸化還元〕

担当教員	◎眞山博幸、室崎喬之(化学)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	1単位	20コマ
履修目的・授業概要			
医学を学ぶ上で生体を構成する分子や基本的な生体を維持する化学反応を理解していなければならない。本科目は1年通年開講の基礎化学(物理化学、分析化学、有機化学、無機化学、熱力学、反応速度論など含む)との接続に必要な化学の基礎を習得することを目的としている。			
到達目標			
原子の電子構造から出発し、化学結合、分子構造、分子の極性を理解することで無機化合物や有機化合物の構造と性質を説明できるようになる。また、物質の状態(固体・液体・気体)、反応速度、化学平衡、溶液の性質、酸化還元反応を学び、生体で起こっている化学反応とのつながりを説明できるようになる。			
授業の形式			
講義は講義資料のスライドを提示しながら行う。manabaには講義資料、小テストを掲載する。小テストは指定された時間帯にmanaba上で提出する(出席の記録となる)。また、必要に応じてmanaba上でレポート課題を課す。レポート課題は指定された期限までにmanaba上で提出する。manaba上でのレポート課題の提出方法は別途説明する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
化学は分子生物学や生理学で学ぶ生体分子や代謝を理解する上で基礎となる学問であるため、初期段階での理解が重要である。授業で配布された講義資料と演習問題やレポート、参考書を用いて予習と復習を行うこと。			
成績評価の基準等			
毎回のレポート課題2割と筆記試験(60点以上合格)8割を目安として総合的に評価する。なお、筆記試験を受けるためには3分の2以上の出席が必要である。筆記試験ができない場合、出席状況とレポート課題の提出状況により総合的に評価する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
化学は暗記教科ではない。本科目では原理的な観点から化学を学んでゆき、医学とのつながりを自ら考えながら勉強することを強く望む。授業にあたって教科書は指定しないが、高等学校の化学の教科書(年度・出版社は問わない)および市販の参考書を用意すること。質問を歓迎します。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参)新しい高校化学の教科書	左巻健男	講談社	1,430円
(参)高校で教わりたかった化学	渡辺正 北條博彦	日本評論社	2,090円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	ガイダンス	化学の歴史、他の学問とのつながりを俯瞰するとともに、単位の意味、単位換算、有効数字を学ぶ。	眞山 室崎
2	化学数学	化学で扱う基本の数学(微分、偏微分、積分、指数、対数)の基本的な問題を解き、理解を深める。	
3	物質の構造(1)	原子の電子構造からイオンの形成や化学結合を理解する。また、原子量、分子量、モル、濃度の概念を理解し、計算技能を身につける。	
4	物質の状態(2)	分子の極性、結合エネルギー、分子間力と水素結合を学ぶ。	
5	無機物質(1)	周期表と電子構造の関係、水素、希ガス、ハロゲン、酸素と硫黄、炭素とケイ素の性質を学ぶ。	
6	無機物質(2)	アルカリ金属、2族元素、遷移金属について学ぶ。	
7	有機化合物(1)	有機化合物の特徴、分類を理解し、代表的な有機化合物を学ぶ。また、有機化合物の元素分析を学ぶ。	
8	有機化合物(2)	代表的な生物体の構成物質を理解するために、アミン、カルボン酸、芳香族化合物、アミノ酸を学び、代表的な生体分子との関連を学ぶ。	
9	まとめ(1)	これまで学習した内容を総括する。	
10	物質の状態(1)	物質の三態(気体、液体、固体)、気液平衡と蒸気圧の概念を理解する。	
11	物質の状態(2)	理想気体の状態方程式と分圧の概念、理想気体と実在気体の相違点を理解する。	
12	物質の状態(3)	物質の溶解と分子の極性の関係を理解する。また、溶解度から濃度を計算する。	
13	物質の状態(4)	溶液の沸点上昇・凝固点降下、浸透圧、コロイド溶液について学ぶ。	
14	反応速度論	反応速度論を学び、反応速度に影響を与える因子を理解する。	
15	化学平衡	可逆反応と化学平衡、ル・シャトリエの原理、電解水溶液における平衡、緩衝溶液を理解する。	
16	溶液の性質	化学反応熱、酸、塩基、pH、中和を理解する。	
17	酸化還元反応	酸化還元反応、電池と電気分解の原理を理解する。	
18	高分子と食品	日常生活で使用している高分子の種類や食品に含まれている代表的な有機化合物を理解する。	
19	生物体の構成物質	生体における水の役割、タンパク質、脂質、糖、核酸、生体を維持する化学反応を理解する。	
20	まとめ(2)	これまで学習した内容を総括する。	

22-3. 自然科学入門(生物系)(選択必修)

(生物、遺伝子、体内環境)

担当教員	◎日野敏昭 (生物学)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第1学年	前期	1単位	20コマ
履修目的・授業概要			
<p>高校「生物基礎」の教科書をベースにして、医学と関連深い3領域(生物の特徴・遺伝子とその働き・体内環境)について集中的に学び、このあとに展開される「基礎生物学」や「基礎生物学実習」の理解に必要な知識や思考力を身につける。</p>			
到達目標			
<p>①細胞小器官の構造と機能を説明できる。 ②異化と同化によるエネルギーの流れを説明できる。 ③DNAや遺伝子、ゲノム、染色体といった言葉の意味を説明できる。 ④遺伝情報からタンパク質が合成されるまでのしくみを説明できる。 ⑤生体が、外部環境の変化に対して恒常性を維持するためにからだのなかでどのようなことを行なっているか説明できる。 ⑥自然免疫と獲得免疫の違いや、予防接種と血清療法の違いを説明できる。</p>			
授業の形式			
<p>PDF資料を配布し、PCプロジェクターを利用して授業を進める。原則、全員登校による対面授業とする(新型コロナの感染状況により、オンライン授業に変更する可能性あり)。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>履修内容を参考に、図説や教科書等を読み、あらかじめその日に行う授業の内容についてある程度理解しておくこと。本授業は短期間に集中して行われることから、1日の授業が終わったら、その日のうちに復習すること。</p>			
成績評価の基準等			
<p>授業毎に行う小テスト(manaba上)と、最終試験(記述式)の成績で評価する。小テストを20点、最終試験を80点とし、合計60点以上を合格とする。出席数がコマ数3分の2以上に満たない者は不合格とする。</p>			
学生へのメッセージ			
<p>生物学を習得するには継続的な努力が必要です。予習と復習(とくに復習)は欠かせず行って下さい。生物学は医学の土台でもあります。生物学的な思考力は、医学を理解し習得する上で欠かせませんが、不断の努力なしにこの思考力は身につけません。言葉の暗記に終始せず、点化する知識同士を関連付けながら、時間軸に沿ってすすむ生命現象の流れを理解するよう、心掛けて下さい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参)新課程 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録	嶋田正和 監	数研出版	1,045円 (税込)
(参)三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録	鈴木考仁 監	数研出版	1,243円 (税込)
(参)キャンベル生物学 原書11版	池内昌彦、伊藤元己、 著本春樹 監訳	丸善出版	16,500円 (税込)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	生物の特徴	生物の多様性と共通性について学ぶ。	日野 (生物学)
2		生体内における代謝(異化、同化)のしくみや、ATP、酵素のはたらきについて学ぶ。	〃
3			〃
4			葉緑体やミトコンドリアの構造と機能を学び、光エネルギーがどのようにして生体エネルギーに変換されるか理解する。
5	遺伝子とその働き	DNAの構造と機能や、DNAと遺伝情報との関係について学ぶ。	〃
6		遺伝情報の転写・翻訳について学び、タンパク質合成のしくみを理解する。	〃
7			〃
8		細胞分裂と細胞周期について学び、遺伝情報がどのようにして次世代の細胞に分配されるか理解する。	〃
9	体内環境	体液(血液、組織液、リンパ液)や体内環境、恒常性について学ぶ。	〃
10			〃
11		腎臓や肝臓の構造と機能について学び、両者が恒常性の維持に果たす役割を理解する。	〃
12			〃
13	皮膚・粘膜による物理的・化学防御や、自然免疫、獲得免疫のしくみ、ならびに予防接種、血清療法について学ぶ。	体内環境の維持に対する自律神経系とホルモンの役割を学ぶ。	〃
14			〃
15			〃
16			〃
17			〃
18			〃
19			〃
20		最終試験	〃

旭川医科大学医学部医学科（学士課程）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医学科では、医療分野における多様な価値観等に触れるための基礎教育科目、医師のプロフェッショナリズム涵養に結びつく横断的な内容を身につけるためのICM(Introduction to Clinical Medicine)科目、より専門的な内容を学び、実践的な力を身につけるための基礎医学科目、臨床医学科目による教育課程を整備し、これらの体系的な履修を促します。また、日進月歩である医学の発展に教育課程として柔軟に対応するために「選択・必修コースⅠ～Ⅲ」をICM科目の中に配置し、基礎医学・臨床医学の発展に即した教育課程となるよう努めています。

医学科では、医学科の学位授与の方針を実現するために、上記の方針を以下のとおり具体化して、カリキュラムを編成しています。

① 「倫理観とプロフェッショナリズム」（態度）

生命の尊厳を尊重し、医の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。

1. 医学者としての倫理原則や臨床医として患者さんに対応するための行動科学を理解するために、ICM科目に「医療概論Ⅰ～Ⅳ」を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

② 「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」（知識）

幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性とその方法を説明できる。

2. 文化、社会、自然等に関する幅広い知識を身につけ、多様な価値観等に触れるために、教養科目を基礎教育科目と位置づけ履修を個人の希望に合わせた選択としています。
3. 医師のプロフェッショナリズム涵養に結びつく横断的な内容を身につけるためのICM科目を設定し履修を必修としています。
4. 専門分野の学問の内容と方法を説明でき、自学自習の態度を涵養し、確実に知識を獲得するために、講義・実習科目としての基礎教育科目、基礎医学科目、臨床医学科目のみでなく、ICM科目として「医学チュートリアルⅠ～Ⅴ」を演習科目として配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

③ 「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力」(技能)

豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。

患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。

急性もしくは慢性の健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。

5. 心理学的背景を理解した上で、医療コミュニケーションを円滑に行うために、基礎教育科目に「心理・コミュニケーション実習」を1年次に配置しています。

6. 主要徴候に基づく健康問題の診断と治療の原則を理解するために、1年次に「症候学」を導入し、ICM 科目の「医学チュートリアルⅢ～Ⅳ」と臨床医学科目の「症候別・課題別講義」を連動させて配置しています。

7. 臨床実習に必要な基本的診療能力と臨床推論能力を身に付けるために、臨床医学科目の「臨床実習序論」とICM科目のTBL型演習である「医学チュートリアルⅤ」を連動させ配置し、4年次に展開しています。

8. 臨床実習は、4年次～5年次に配置するベッドサイドラーニングで全ての臨床科目をローテートし、引き続き配置する実習ではクリニカルクラークシップ(診療参加型実習)を採用し4週間を一単位として基本診療科を中心に5年次～6年次に必修で展開しています。

④ 「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」(思考・判断)

基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。

また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的研究計画を立案できる。

9. 自らの思考・判断のプロセスや結果を、論述等で論理的に的確に説明できるように、基礎教育科目に「基礎生物学実習」、「医用物理学実習」、「基礎化学実習」、基礎医学科目には「生化学実習」、「形態学実習Ⅰ、Ⅱ」、「生理学実習・演習」、「薬理学実習」、「微生物学実習」、「寄生虫学実習」、「衛生・公衆衛生学実習」、「法医学実習・演習」等の実習科目を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

10. 臨床情報に基づく研究を行うために臨床医学科目に「臨床疫学」を配置し、獲得した様々な知識を用いて現実の問題解決に取り組む活動を行なう医学研究者としての素養を養うため、4年次に研究室に所属する必修科目としてICM科目に「医学研究特論」を配置しています。

⑤「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」（意欲・関心）

医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会及び国際社会に貢献する必要性とその方法を説明できる。

11. 地域医療の問題点を知るための「地域医療学」、旭川近郊および北海道での医療ニーズの探索ための「早期体験実習Ⅰ、Ⅱ」、医療に関わる社会的問題を知り解決するための「医療社会学」、「医療社会学実習」をICM科目に配置しています。また地域における病める者の医療ニーズを知るために臨床医学科目に「健康弱者のための医学」を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

12. 医学研究を通じて国際社会に貢献する方法を知るために「医学研究特論」を4年次に配置しています。

学習成果の評価の方針

1. 講義の学習成果は、試験・レポート・授業での課題等により、演習や実習では課題の実施状況やレポート等で総合的に評価します。医学研究特論は、取り組み状況、研究成果の発表により評価します。臨床実習は、各診療科の評価基準（ルーブリック評価、レポートなど）に従って評価します。
2. 各卒業時到達目標、コンピテンシーの達成度、および各学年で身につけた知識、技能、態度等の総合的評価は「医学科コンピテンシー・評価対応表」により行います。
3. 本学の医学教育をより良いものにするため、カリキュラムの評価と検証を継続的に行います。その評価・検証体制は「アセスメント・ポリシー」に示されています。

旭川医科大学医学部医学科2022カリキュラム カリキュラムマップ

基礎教育科目
ICM科目
基礎医学科目
臨床医学科目

領域	態度	知識	技能	思考・判断	意欲・関心	
キーワード	倫理観とプロフェッショナリズム	医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力	全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力	問題解決能力、発展的診療能力、研究心	地域社会・国際社会へ貢献するための能力	
ディプロマ・ポリシー	生命の尊厳を尊重し、医の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。	幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性和その方法を説明できる。	豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。 患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。 急性もしくは慢性の健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。	基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。 また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的研究計画を立案できる。	医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会及び国際社会に貢献する必要性とその方法を説明できる。	
6年	卒業試験/ 臨床実習後OSCE	臨床実習 III				
5年		臨床実習 II				
		臨床実習 I				
4年	OSCE/CBT	臨床薬剤・薬理・治療学 形成外科学 リハビリテーション医学 麻酔科学 救急医学 整形外科学 腫瘍学	衛生・公衆衛生 法医学 臨床ゲノム医学	医学 子 ユ ー ト リ ア ル I V V	臨床実習序論 健康弱者のための医学 症候別・課題別講義	医学研究特論 臨床疫学 衛生・公衆衛生学実習 法医学実習・演習
		医療概論IV 医療安全 医療情報学				
3年		選択必修コース I～II 生殖発達医学 感覚器病態医学 精神・神経病態医学 消化器医学 生体防御医学 生体調節医学 心肺病態制御医学 病理学 臨床放射線 臨床検査学	医学 子 ユ ー ト リ ア ル II III	病理学実習 寄生虫学実習 薬理学実習 微生物学実習	医療社会学実習	
		医療概論III				
2年		機能形態基礎医学 I・II 寄生虫学 薬理学 微生物学 免疫学 生化学 I・II	医学 子 ユ ー ト リ ア ル I	基礎医学特論 形態学実習 I・II 生化学実習 生理学実習・演習	医療社会学 早期体験実習 II	
		医療概論II				
1年		基礎教育科目 (教養科目)		症候学	地域医療学 早期体験実習 I	
		医療概論I				

区分	授業科目	単位数	授業形式	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年	第6学年	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
臨床 医学 科目	心肺病態制御医学	4	講義					4						必修
	生体調節医学	3	〃					3						
	生体防御医学	2	〃						2					
	消化器医学	3	〃					3						
	精神・神経病態医学	4	〃						4					
	感覚器病態医学	5	〃						5					
	生殖発達医学	5	〃						5					
	腫瘍学	2	〃							2				
	整形外科学	2	〃							2				
	麻酔科学	1	〃							1				
	救急医学	1	〃							1				
	症候別・課題別講義	2	〃							2				
	臨床放射線学	1	〃						1					
	臨床検査学	1	〃						1					
	臨床薬剤・薬理・治療学	2	〃							2				
	臨床疫学	1	〃							1				
	健康弱者のための医学	1.5	〃							1.5				
	リハビリテーション医学	1	〃							1				
	形成外科学	0.5	〃							0.5				
	臨床ゲノム医学	0.5	〃							0.5				
	臨床実習序論	4	演習								4			
	臨床実習Ⅰ	21	実習									21		
	臨床実習Ⅱ	38	〃										38	
臨床実習Ⅲ	12	〃										12		
小計 (必修)		117.5												
合計		(必修)	205											
		(選択)	37											

【卒業要件単位数】

必修科目205単位及び選択科目5単位以上、合計 210単位以上を習得すること。

必修科目

【第2学年】

23. 医学英語ⅡA(必修)〔英文読解・英文情報整理〕

担当教員	◎三好 暢博		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	通年	1単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>学術レベルの英文の読解演習を通して、迅速な英文の情報整理や細かい読解技術を習得し、医学論文読解のための基盤を作る。</p>			
到達目標			
<p>－学術レベルの英文で使用される構文を正確に解析できる。 －医療記事・行政文書・医学論文の大きな情報構造を把握し、英文情報の収集・整理を行うことができる。 －120WPM程度のスピードの音声を一定の精度で聴解できる。</p>			
授業の形式			
<p>〔演習形式〕 毎時間のオンライン課題の提出を行います。読解演習に関しては、web上にある医療従事者を対象とした医療記事・医療関係の行政文書・電子ジャーナルの論文等を教材とし、テーマを固定して英文の難度を上げていくことで読解力を育成します。なお、課題は、予習を前提としています。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>予習を中心とした読解課題を課します。分量は1時間程度を目安としています。予習内容に関係した授業課題を課します。</p>			
成績評価の基準等			
<p>ALC NET Academy NEXTの「英単語パワーアップコース 医学・医療編：1. 人体の構造」を終了していることを前提とし、授業課題(10×29)の成績で判定します。合格：授業課題の合計が200点以上であること・不正行為を行っていないことを前提とします。総点で、270点以上でかつ上位5%の学生を秀、270点以上を優、240点以上270点未満を良、200点以上240点未満を可とします。総点で200点未満は不可となります。</p>			
学生へのメッセージ			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	ガイダンス	授業の進め方・勉強方法について	三好
2	到達度確認	到達度確認テスト・調査	〃
3	演習	Cycle1：一般向け医療情報の読解	〃
4	〃	Cycle1：医療従事者向け医療ニュースの読解	〃
5	〃	Cycle1：抄録の読解	〃
6	〃	Cycle1：医学論文読解 (Introduction)	〃
7	〃	Cycle1：医学論文読解 (Methods)	〃
8	〃	Cycle1：医学論文 (Results I)	〃
9	〃	Cycle1：医学論文 (Results II)	〃
10	〃	Cycle1：医学論文 (Discussion I)	〃
11	〃	Cycle1：医学論文 (Discussion II)	〃
12	〃	Editorialの読解	〃
13	〃	まとめの演習	〃
14	〃	まとめの演習	〃
15	〃	Cycle2：医療従事者向け医療ニュースの読解	〃

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	演習	Cycle2：行政文書の読解	三好
17	"	Cycle 2：医学論文読解（Introduction）	"
18	"	Cycle 2：医学論文読解（Methods）	"
19	"	Cycle 2： 医学論文読解（Methods & Results）	"
20	"	Cycle 2：医学論文読解（Results）	"
21	"	Cycle 2： 医学論文読解（Discussion）	"
22	"	Cycle 2：医学論文読解（Editorial）	"
23	"	Cycle 3：医療記事読解	"
24	"	Cycle 3: 医学論文読解（Introduction）	"
25	"	Cycle 3：医学論文読解（Methods）	"
26	"	Cycle 3： 医学論文読解（Methods & Results）	"
27	"	Cycle 3：医学論文読解（Results）	"
28	"	Cycle 3：医学論文読解（Discussion）	"
29	"	Cycle 3：医学論文読解（Editorial）	"
30	"	まとめの演習	"

24. 医学英語ⅡB(必修)

担当教員	Gwendolyn Gallagher(非常勤) ◎三好暢博		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	通年	1単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>In this class we will practice speaking English in medical situations. We will use a medical English textbook, and students will prepare for class by completing listening exercises for homework with the accompanying CD. Tests will be oral, reflecting the kinds of activities emphasized in class.</p> <p>At the beginning of each lesson we will have an unstructured "news time", intended to improve students' general fluency and listening ability and to raise their comfort level in English.</p>			
到達目標			
<p>Students will be able to explain in layman's language the symptoms, treatment, and prognosis of several diseases. They will learn appropriate questions for conducting a patient interview covering chief complaint, symptoms, medical history, family history, social history and medications. They will learn basic language for describing the severity and type of pain.</p>			
授業の形式			
<p>We will be using a medical English textbook with accompanying CD. A dictionary will also be useful.</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>Before each class students should review the exercises in the textbook covered in the previous lesson. When assigned, students should complete listening homework using the textbook and accompanying CD. Sometimes students will be required to investigate certain diseases or conditions to prepare for class. We will have an opportunity to talk about news, small or large, personal or public, at the beginning of each class. In order to participate, students should reflect on recent happenings in their life before each class and think about how to explain them in English. Students should expect to do about one hour of preparation.</p>			
成績評価の基準等			
<p>Good attendance is absolutely essential. There will be two oral tests. Class Performance(70%), tests(30%). GRADING CRITERIA: S: 90 points and above, A: more than 80 points, B: 79~70, C: 69~60, D(Fail): 59~0.</p>			
学生へのメッセージ			
<p>If the pandemic interrupts the continuity of face-to-face classes, activities and evaluations may have to be adapted.</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
English for Health Sciences	Milner	Heinle	

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	Introduction	Getting to Know You: Class mechanics	Gallagher(非常勤)
2-3	Unit 1	Exercise	"
4-5	"	Exercise	"
6-7	"	Exercise	"
8-9	Unit 2	Exercise	"
10-11	"	Exercise	"
12-13	"	Exercise	"
14-15	Unit 3	Exercise	"
16-17	"	Exercise	"
18-19	"	Exercise	"
20-21	Unit 4	Exercise	"
22-23	"	Exercise	"
24-26	Review	Review	"
27-29		Test Practice	"
30	Test	Oral Test	"

24. 医学英語ⅡB(必修)

担当教員	David Fairweather (非常勤) ©三好暢博		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	通年	1単位	30コマ
履修目的・授業概要			
The goal of this class is to improve students' skills and confidence in using English. Students practice speaking and listening as well as studying grammar and vocabulary in order to attain basic conversation skills.			
到達目標			
Upon completion of the class students should be able to communicate in English about a variety of topics in a variety of situations. Students will also be able to give an opinion, backed up with reasons, about topics they are discussing.			
授業の形式			
As well as the text book there will be supplementary materials. Students will often be asked to work in pairs or groups to complete exercises. Some short class presentations will also be required.			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
Students are expected to prepare for each class by reading the pages in the textbook that will be covered in that class. In addition, there will be short presentations throughout the year that will require some preparation time.			
成績評価の基準等			
There will be two written tests which will be worth 70% of your grade. Both tests will have a listening component. 30% of your grade will come from pair and group work activities done in the classroom as well as overall effort. A score of 'S' will be given achieving an average of 90% or more on the classroom assignments. Students will receive an 'A' for scores ranging from 80% to 89% on the tests and classroom assignments. A score of 'B' will be given to students who attain an average of 70% to 79%. Students will be given a 'C' if they attain an average of 60% to 69% on the tests and assignments.			
学生へのメッセージ			
You will get out of this class what you put into it. Active participation in class is essential.			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
Evolve - Student's Book 3B	Leslie Anne Hendra, Mark Ibbotson, and Kathryn O'Dell	Cambridge	

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1-4	Unit 7	Discussing changing tastes in music. Responding to invitations. Using comparisons. Organizing ideas and writing reviews.	Fairweather (非常勤)
5-8	Unit 8	Talking about progress and managing your time. Present perfect continuous. Describing experiences.	"
9-12	Unit 9	Discussing rules for working and studying at home. Expressing confidence and lack of confidence. Models of necessity. Searching for jobs - online job ads.	"
13-16	Unit 10	Saying what things are made of. Questioning or approving of someone's choices. Writing feedback about company products.	"
17-20	Unit 11	Talking about how to succeed. Talking about imaginary situations. Phrasal verbs. Writing a story about pushing yourself.	"
21-24	Unit 12	Talking about accidents. Giving opinions and asking for agreement. Writing an anecdote about a life lesson. Reported speech.	"
25-28	Exercise	Role plays and presentations	"
29	Review	Review	"
30	Review	Review	"

25. 早期体験実習Ⅱ(必修)

[フィールドワーク、地域医療、KJ法、プロジェクト学習、社会調査]

担当教員	教育センター地域医療教育部門員・外部講師・その他		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	前期	1単位	33コマ
履修目的・授業概要			
<p>医学科早期体験実習Ⅱでは、活動する地域での医療問題を抽出し、多角的視点で解決策を考察・提案します。実習の主なスタイルは「フィールドワーク」です。北海道の二次医療圏を対象とします。全体の構成としてはプロジェクト学習に近いものとなっています。</p>			
到達目標			
<p>【一般目標】 地域に根ざした良い医療人となるために、医療を中心として地域の問題点を抽出し、それらの解決策を考察・提案することを通して、地域社会における医療の本質と重要性を理解する。</p> <p>【個別目標】 1) 対象地域の医療問題を適切に抽出することができる。 2) 必要なデータ・情報を適切な方法で収集することができる。 3) チーム内での作業・議論に積極的に参加することができる。 4) 協調性をもってチームの一員として行動できる。 5) 抽出した医療問題に対して、適切な解決策を提案することができる。 6) 収集したデータ・情報を的確にまとめ、論理的かつ明快にプレゼンテーションすることができる。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>1) オリエンテーション：実習内容・評価方法の説明などを講義形式で行います。 2) プレ発表：グループワークを行い、フィールドワークを含めた研究計画を立案し発表します。途中で経過報告会を行い、他のグループから意見をもらいます。 3) アポイントメント：各施設に訪問のためのアポイントメントを行います。質問・調査内容を含めて先方にはわかりやすく説明してください。 4) フィールドワーク：研究計画に従って現地調査を行います。その後調査・研究結果をまとめ、発表会の準備を行ってください。 5) 発表会：調査・研究結果をもとに抽出した問題点・具体的な解決策についてプレゼンテーションします。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>事前に科学的研究方法(量的研究・質的研究)の概念・方法論について調べておくこと。また参考書のいずれかはプレ発表会までに読んでおくことを勧めます。また自身が担当する地域の医療問題を調べておかないと、当日のワークショップが進みません。</p>			
成績評価の基準等			
<p>通常の講義と異なり、すべてに出席することが原則です。病気や怪我で実習に参加できなくなった場合は速やかに学生支援課および担当教員に連絡し、所定の手続きを進めてください。科目の成績は、学内および学外での出席および態度が約4割、レポートが約3割、レジュメおよび報告会発表内容などチーム活動の成果が約3割の比率で評価します。ただし、学内・学外の実習において、医学生として不適切な行動をとり、態度不良等を指摘された場合には、上記の比率によらず単位認定をしないまたは取り消すことがあります。成績上位者(約30%)を「秀」「優」とします。</p> <p>個別目標の1) 2) 5) 6) についてはレポートとレジュメ・発表会のプレゼンテーションを使って評価します。個別目標3) 4) については学生同士の相互評価をもとに評価を行います。</p> <p>レポートの評価はルーブリックを用います。詳細は初日までに配布される実習の手引き(マニュアル)を参照してください。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>本実習は課題を自ら抽出し、フィールドワークを行い、解決方法を考察・提案していく能動的な活動(プロジェクト学習)であることを意識してください。また調査で様々な施設・機関を訪問するので、医学生にふさわしい服装(原則スーツ)で適切な行動をとってください。活動の成果は「報告書」に収載され、協力していただいた各施設・機関に送付しています。学生としての活動が、大学以外の方たちにどのように評価されるのかを意識して行動してください。</p> <p>またこの実習では設定された時間以外に各メンバーが責任をもって行動すべきことが多くなります。チームの一員として責任ある行動をとってください。</p> <p>これらの活動を通して、将来各人が活躍する地域社会とより良い関わりを持つためのきっかけになることを期待します。</p> <p>提出物や事務連絡について、LMS(manaba)を利用します。必ずログインして推奨設定を済ませておいてください。</p> <p>COVID19の流行具合により、フィールドワークやグループワーク等全てが行えなくなることがあります。その場合はオンライン授業となります。シラバスも変更となります。変更シラバスはmanaba上に公開されますので、注意しておいて下さい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) よくわかる質的社会調査 技法編	谷 高夫ほか	ミネルヴァ書店	2500円+税
(参) 実地調査入門 社会調査の第一歩	慶應義塾大学 教養教育センター	慶應義塾大学 出版会	1600円+税
(参) ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方	石井 一成	ナツメ社	1100円+税
(参) 資料検索入門 レポート・論文を書くために	市古みどり他	慶應義塾大学 出版会	1200円+税
(参) コピペと言われない レポートの書き方教室	山口 裕之	新 曜 社	1200円+税
(参) 学生による学生のためのダメレポート脱出法	慶應義塾大学 教養研究センター	慶應義塾大学 出版会	1200円+税

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1~3	ガイダンス・特別講義	実習内容・評価方法の説明 レポート/プロジェクトについて 「フィールドワークへ行く前に」 特別講義	教育センター地域医療教育部門員・その他
4~6	想定される問題点の抽出(KJ法)	チームごとに対象地域が抱える医療問題をKJ法・EA法を用いて抽出し、調査内容・調査方法(訪問先)を決める。最後に途中経過を発表し、他のチームから意見をもらう。	
7~9	調査方法のまとめ	調査内容をまとめ、プレ発表会の準備を行う。	
10~12	プレ発表会	プレ発表会・レポート作成開始	
13~18	実習1日目	それぞれの訪問先へ移動し、インタビュー・見学などフィールドワークを行う。	
19~24	実習2日目	引き続きフィールドワークを行う。また必要に応じて調査内容の整理・打ち合わせを行う。	
25~30	まとめ	調査結果をまとめ、提言すべき解決策を含めて発表会の準備を行う。	
31~33	ポスト発表会	最終報告会(各チーム発表・質疑応答)、講評、ベストプレゼン賞・ブービー賞発表	

26. 医学チュートリアル I (必修) (基礎医学・社会医学演習)

◎入部玄太郎 (生理学講座自律機能分野)、 高橋 悟 (小児科学講座)、 水上裕輔 (内科学講座 病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野)、 吉岡英治 (社会医学講座)、 千葉龍介 (生理学講座神経機能分野)、 その他のチューター				コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
担当教員				1			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数	2			
第2学年	前期	1単位	20コマ	3			
履修目的・授業概要 チュートリアル教育Iは本学の教育目標の中で、特に「幅広い教養とモラルを養うことにより豊かな人間性を形成する」、「全人的な医療人能力や高度な専門知識を得るとともに生涯に亘る学習・研究能力を身につける」および「幅広いコミュニケーション能力を持ち安全管理・チーム医療を実践する資質を身につける」ために展開されます。				4			
到達目標 チュートリアルIは、グループダイナミクスを通して自ら進んで基礎医学分野に関する課題解決を行うことができるようになるとともに、問題発見能力も培うことを目的とします。具体的な到達目標としては以下の通りです。 (1) 医学の基礎となる事項について、自ら進んで学ぶことにより理解し、自分の言葉で説明できる。 (2) 自分で理解が充分でないことについて、それを自覚して適切な方法で学ぶことができる。 (3) 自ら問題点を見出し、それを解決することができる。 (4) グループ活動に積極的に取り組むことができる。				5			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など) 学習の方法は、8~9人が1グループとなり、グループ毎に割り振られたチュートリアル室で討論を行います。 課題解決型の課題では、チューターから複数の学習目標が提示されますので、グループで学習方法について確認し、学習を進めてください。グループ全員が目標に到達できるように学習方法を工夫し、協力し合って学習を進め、知識の理解と整理を深めてください。問題発見型の課題では、課題シートをもとに問題点を見出し、それを自らの学習とグループワークで解決していきます。				6			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 課題解決型の課題ではあらかじめ提示された学習目標に沿った予習を、問題発見型の課題では授業時間中に見出した問題点に関して、学習を行ってこよう。				7			
成績評価の基準等 成績評価は次の4つの項目から総合的に行います。 (1) チュートリアルへの出席状況・参加態度 (2) 自己学習への取り組み (3) グループ内での作業・議論への貢献度 (4) チュートリアル課題の理解度・達成度 (5) 試験、あるいはレポートの成績 グループワークを主体とするこの科目の性質上、出席状況を特に重視します。詳細については開講時に説明します。				8			
学生へのメッセージ(履修上の心得など) 大学一年を経過し、大学生として自学自習による能動型学習の習慣が身につけてきていると思います。チュートリアルIIでは、さらに発展する形で、自発的に問題点を発見してそれを解決する学習を行います。皆さん一人ひとりの積極的な参加なしでは意義ある学習になりません。皆さん一緒に学んで理解する楽しさを実感してほしいと思います。				9			
教科書・参考図書 チュートリアルIでは、インターネットを通じて情報収集する場合もあります。ただし、インターネットで公開されている内容は、全てが科学的に正しいとはいえません。大学・研究所に所属している教員・研究者が責任をもって公開している内容のみを参考にして下さい。その他に図書館には学術雑誌をはじめビデオやDVDの視聴覚資料も備わっていますので学習内容にあった適当なものを利用してください。 なお、本学の各教員は学生の質問に対応するためのオフィスアワー(履修要綱末尾付記参照)を設けています。これを積極的に活用し、教員とのコミュニケーションも深めてください。				10			
				11			
				12			
				13			
				14			
				15			

27. 医療社会学(必修)

[近代医療 専門職 病気 病人役割 社会調査]

担当教員	工藤直志		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
<p>少子高齢化、疾病構造の変化、平均寿命の延伸、新しい医療技術・医薬品の登場などを背景として、医療現場では患者の生活や価値観と密接に関連する社会的な課題が生じている。このような課題に医師として対応するために、医療社会学の理論や基本的概念を学び、医療、病気、身体がもつ社会的側面を理解する。また、患者の社会的課題に対応するために、医師や患者の態度・行為がもつ意味や医師と患者の関係性についても理解を深める。</p>			
到達目標			
<p>一般目標： 医療社会学の理論や基本的概念にもとづいて、医療、病気、身体の社会的側面を説明できる。また、医師や患者の態度・行為がもつ意味を説明できる。</p> <p>個別目標： ・医療社会学と社会調査の基本的概念を説明できる。 ・医療、病気、身体の社会的側面を理解して説明できる。 ・医師や患者の態度・行為がもつ意味を説明できる。 ・医師と患者の関係性を理解して説明できる。 ・医療社会学の視点や概念にもとづいて、医療現場の課題を解釈することができる。</p>			
授業の形式			
<p>・特定の教科書は使いません。manabaのコンテンツで公開される講義資料を用いて受講してください。 ・授業時間内に、manabaの小テストで出題される問題への解答を求めることがあります。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>各回の講義資料を熟読して授業内容を確認し、授業内容と関連する文献を読むことで、医療社会学という分野への理解を深めてください。下記の参考図書以外にも、授業内で医療社会学の文献を紹介していきます。</p>			
成績評価の基準等			
<p>授業内の課題(40%)とレポート(60%)から成績を評価します。欠席回数が6回以上の場合、成績評価は「不可」となります。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>授業に関する質問や疑問を積極的に知らせてください。授業への能動的な参加を期待しています。医療社会学の理論や基本的概念を学ぶことで、医療、病気、身体をこれまでとは異なる発想で考えることができるようになることを願っています。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参)生命倫理のレポート・論文を書く	松原洋子・伊吹友秀編	東京大学出版社	2,500円
(参)よくわかる医療社会学	中川輝彦・黒田浩一郎編	ミネルヴァ書房	2,500円
(参)[新版]現代医療の社会学	中川輝彦・黒田浩一郎編	世界思想社	2,300円
(参)福祉社会学文献ガイド	福祉社会学会編	学文社	3,500円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	ガイダンス	授業概要、授業の形式、スケジュール、成績評価の基準などを理解する。	工藤(社会学)
2	医療社会学の視点	医療人類学や医療倫理学との比較から、医療社会学の基本的な視点・方法・理論を理解する。	工藤(社会学)
3	近代医療	病因論やリスクの検討を通じて、近代医療の特徴を理解する。	工藤(社会学)
4	医学研究	医学知識・技術の生産形態にもとづいて、医学研究の特徴を理解する。	工藤(社会学)
5	医師	専門職論の視点から、医師という職業の特質を理解する。	工藤(社会学)
6	バーンアウト	医師のバーンアウト(燃え尽き症候群)の特徴を理解する。	工藤(社会学)
7	病気(1)	病人役割について学び、病気が社会的現象でもあることを理解する。	工藤(社会学)
8	病気(2)	医療化がもたらすポジティブな帰結とネガティブな帰結を理解する。	工藤(社会学)
9	社会調査(1)	質的社会調査の特徴を理解する。	工藤(社会学)
10	社会調査(2)	社会調査の方法のひとつであるインタビューの特徴を理解する。	工藤(社会学)
11	文献調査	先行研究の探し方とレポート作成の方法を理解する。	工藤(社会学)
12	医師-患者関係(1)	医師-患者関係論の概略を理解する。	工藤(社会学)
13	医師-患者関係(2)	非言語的コミュニケーションという視点から、医師-患者関係を考える。	工藤(社会学)
14	医師-患者関係(3)	患者の病の語りを聞くことの意味を考える。	工藤(社会学)
15	医師-患者関係(4)	医師と患者のコミュニケーションの質に影響を与える要因を検討する。	工藤(社会学)

28. 医療概論Ⅱ (必修) [医学概論、医療倫理、研究倫理、利益相反]

担当教員	◎西條泰明、蒔田芳男、横浜祐子、及川欧、澤田潤、田邊裕貴、岡田基、島田慎吾、佐藤伸之、井上裕靖、齊藤江里香、工藤直志、九里優輝		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	前期	1単位	16コマ
履修目的・授業概要			
<p>「脳死は人の死か」「妊娠中絶は許されるのか」「超高額な抗がん剤を投与すべきか」等々、医学の進歩、医療技術の発展に伴い、現代の医療現場には、これまでの医師の「人助けをする」といった素朴な倫理観のみでは対応できない問題がそこら中に転がっている。正しい知識と精彩な医療技術を持っているのみでは、このような医療現場の問題には対応不可能である。なぜなら、実際の医療場面において「正しさ」は多数存在し、あちらを立てればこちらが立たない状況、つまり、ディレンマに陥ってしまうからである。このような場面を切り抜ける、合理的に考えるためのツールのひとつが医療倫理であり、倫理的な考え方の技術である。本講義では、医療倫理の基本的考え方、研究倫理、インフォームド・コンセントなど医療倫理の基本事項を学んだのちに、医療倫理上のディレンマについて代表的なテーマを取り上げて、その議論をまずは机上で追うこととする。皆さんが臨床に出れば、実際に倫理ディレンマに遭遇し、対応することになるが、その際に、本講義がきっと役立つであろう。</p>			
到達目標			
<p>一般目標 (G10) 医療倫理の考え方に習熟することにより、倫理的ディレンマに陥った状況に適切に対応する。 個別行動目標 (SB0s) ・医療倫理の倫理全体における位置づけ、医療倫理の基本事項について説明ができる。 ・医療倫理上のディレンマについて代表的なテーマを、社会における議論を踏まえて説明できる。</p>			
授業の形式			
講義とワークショップが行われる。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
シラバスに記載されているキーワード(例えば「インフォームド・コンセント」「優性思想」「ALS」「胃ろう」「安楽死」「脳死」など)について、教科書等で医学的知識を得るとともに、インターネットなどを通じて、一般の議論にも事前に触れておくこと。			
成績評価の基準等			
<p>試験を行う(講義部分):国家試験形式とする。ワークショップは出席点が60%、グループ毎の発表資料(パワーポイントで作成)を40%とする。講義部分は試験を行い(ワークショップは除く)は配点は70%、ワークショップの配点を30%として合計得点により評価する。 全体の出席が2/3を割るもの、ワークショップに出席しないものは原則として定期試験を受けさせない。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
医療に関する倫理については、実践の場で必ずしも1つの正解があるわけではないので、これを機会に日頃から情報収集をし、自ら考える力を養うようにして下さい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税抜)
(教)医療倫理学の方法 第3版	宮坂道夫	医学書院	2,800円
(教)医療倫理学のABC第4版	服部健司他	メジカルフレンド社	2,900円
(参)医学・生命科学の研究倫理ハンドブック 第2版	神里彩子他	東京大学出版会	2,400円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	医療倫理の基本	生命倫理の歴史を知り、日本での基本的な対応方法について概説できる。	西條(社会医学講座)
2	人を対象とする医学研究と倫理	ヘルシンキ宣言や人を対象とする医学系研究に関する倫理指針や必要性について説明できる。また臨床研究に伴う倫理的問題点について列挙し、その概略を説明できる。	西條(社会医学講座)
3	利益相反	人を対象とする医学研究における利益相反(conflict of interest)について、その概要と利益相反マネジメントの必要性について説明できる。	西條(社会医学講座)
4	インフォームド・コンセント	医療倫理の基本事項としてインフォームド・コンセントの歴史と具体的要件、その問題について概説できる。	西條(社会医学講座)
5	遺伝子検査に伴うディレンマ	医療倫理上のディレンマについて代表的なテーマをとりあげ、その議論を追う:子どもが診断、私たちががんにお母さんの薬が見つかるかと1/2の確率で私が乳がん?病気の遺伝子が伝わっていないって言って!	蒔田(遺伝子診療カウンセリング室)
6	生殖医療におけるディレンマ	医療倫理上のディレンマについて代表的なテーマをとりあげ、その議論を追う:人工妊娠中絶や優性思想、父母のQOLと生まれる子のSOLの問題など	横浜(産婦人科学講座)
7	ALSの人工呼吸器についてのディレンマ	医療倫理上のディレンマについて代表的なテーマをとりあげ、その議論を追う:早いと診断から数か月で呼吸不全に陥る神経難病(筋萎縮性側索硬化症:ALS)の呼吸管理の問題	及川(リハビリテーション講座)
8	高齢者ケアの現場におけるディレンマ	医療倫理上のディレンマについて代表的なテーマをとりあげ、その議論を追う:「食べられなくなったらどうするか」認知症と意思決定能力、経管栄養(胃ろう)の問題	澤田(第一内科)
9	医療資源の配分についてのディレンマ	医療倫理上のディレンマについて代表的なテーマをとりあげ、その議論を追う:高額な抗がん剤の問題、高齢者の抗がん剤治療の問題を例に	田邊(腫瘍センター)
10	延命治療についてのディレンマ	医療倫理上のディレンマについて代表的なテーマをとりあげ、その議論を追う:生命維持治療の差し控えと中止の問題、安楽死の問題	岡田(救急医学講座)
11~16	脳死・臓器移植・医療倫理における議論(ワークショップ形式)	医療倫理上のディレンマについて代表的なテーマをとりあげ、その議論を追う:脳死は人の死か、ドナーによるレシピエントの指定に纏わる議論など。最初の1コマはテーマについて概説する講義を行い、2,3,4コマ目に各班に分かれてテーマについて議論し、発表資料(パワーポイント)を作成後、5,6コマ目に各班のパワーポイントファイルを発表して議論する。	島田(外科学講座)、佐藤(教育センター)、蒔田(遺伝子診療カウンセリング室)、工藤(社会学)、西條、九里(社会医学)、横浜(産婦人科学講座)、澤田(第一内科)、岡田(救急医学講座)

29. 分子生物学(必修)

[DNA、遺伝子、セントラルドグマ、ゲノム、RNA、タンパク質]

担当教員	◎上田 潤 (先端医科学講座)、 小山 恭平 (心臓大血管外科学分野)、 橋本 理尋 (先端医科学講座)、 南 竜之介 (先端医科学講座)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	後期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
目的： 本科目の学習主題は、遺伝子やタンパク質を中心とした化学や生物学であり、遺伝現象の分子の基礎を理解することを目的としている。広く生命科学の基礎を培うための科目と位置付けられる。 概要： 具体的学習内容としては、Essential 細胞生物学 第5版の第5章 (DNAと染色体)、第6章 (DNA複製、DNA修復)、第7章 (DNAからRNAへ、RNAからタンパク質へ)、第8章 (遺伝子発現調節)、第9章 (遺伝子とゲノムの進化)、第10章 (遺伝子の構造と機能解析)、第19章 (有性生殖と遺伝学)、並びに参考図書であるキャンベル生物学の第20章 (バイオテクノロジー) の基礎事項から講義を展開し、さらにそれらの関連項目や発展項目を学習する。			
到達目標			
1) 遺伝物質であるDNAの特性を説明できる。 2) 遺伝情報の変換過程を説明できる。 3) 様々な遺伝子発現の調節を説明できる。 4) ゲノムの進化が生物の仕組みを複雑にしてきた流れを説明できる。 5) 遺伝学の概要とその応用を説明できる。			
授業の形式			
テキストを使用するが、主に講義プリントを用いて説明をおこなう。理解度をチェックするため、小テストをおこなう。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
本講義は、教科書の内容に従って進めていくため、毎回の講義内容を教科書で予習することが期待される。もし、講義内容に理解できないところが出てきた場合、次回の講義までに教員への質問や自学自習で解決するように心がけること。			
成績評価の基準等			
成績の配分は、小テスト10%、定期試験90%とする。また、定期試験の受験資格としてコマ数の2/3以上の出席を要求する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
教科書や参考書を常日頃から精読し、自学自習の態度を涵養してほしい。また、それらの学習や講義で出てきた疑問点や不明な点は、是非、講義中や講義後、Emailによる質問で、教員研究室への訪問(事前連絡が必要)、manabaでの質問などで、できるだけ早い機会に解決する学習態度を身に付けてほしい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教)Essential 細胞生物学 原書第5版	中村桂子ら訳	南江堂	8,800円
(参)ゲノム(第4版)生命情報システムとしての理解	石川冬木ら訳	メディカルサイエンスインターナショナル	8,800円
(参)キャンベル生物学	池内昌彦ら訳	丸善	15,000円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	DNAと染色体	セントラルドグマ、DNAの分子構造と化学的性質、真核生物の染色体構造とその調節について学ぶ。(Essential 細胞生物学 第5版 第5章)	橋本-1 (先端医科学講座)
2	DNA複製	DNA複製の分子機構、テロメアの構造とその生理的役割について学ぶ。(Essential 細胞生物学 第5版 第6章 p200-214)	橋本-2 (先端医科学講座)
3	DNA修復	DNA修復の分子機構、DNA損傷の修復の失敗が細胞に与える影響について学ぶ。(Essential 細胞生物学 第5版 第6章 p215-227)	橋本-3 (先端医科学講座)
4	DNAからRNAへ	RNAの合成・プロセッシング・分解について学び、転写の分子機構を理解する。(Essential 細胞生物学 第5版 第7章 p228-242、ゲノム第4版 第10章)	南-1 (先端医科学講座)
5	RNAからタンパク質へ	タンパク質の合成・分解について学び、翻訳の分子機構を理解する。(Essential 細胞生物学 第5版 第7章 p243-257、ゲノム第4版 第12章、第13章)	南-2 (先端医科学講座)
6	遺伝子発現の調節(1)	遺伝子発現のあらまし、転写調節の仕組みを理解する。(Essential 細胞生物学 第5版 第8章 p268-278)	小山-1 (心臓外科)
7	遺伝子発現の調節(2)	多細胞生物が特定の細胞型を生み出す機構について学ぶ。また、遺伝子の転写後調節について理解する。(Essential 細胞生物学 第5版 第8章 p 278-293)	小山-2 (心臓外科)
8	遺伝子とゲノムの進化(1)	生物の多様性がどのように生まれたかを理解し、進化的な関係性からヒトの遺伝的地位について考える。(Essential 細胞生物学 第5版 第9章 p298-315)	小山-3 (心臓外科)
9	遺伝子とゲノムの進化(2)	動く遺伝因子とは何かその起源と特徴を学び、ヒトゲノムの解読が何を明らかにしたのか考える。(Essential 細胞生物学 第5版 第9章 p315-329)	小山-4 (心臓外科)
10	遺伝子の構造と機能解析(1)	DNA分子の単離やクローニング、配列決定の方法を学び、生命科学を支える技術を理解する。(Essential 細胞生物学 第5版 第10章 p334-350)	小山-5 (心臓外科)
11	遺伝子の構造と機能解析(2)	遺伝子解析技術の概要を学び、様々な技術や検出方法、機能評価法などを説明できる。(Essential 細胞生物学 第5版 第10章 p350-364)	上田-1 (先端医科学講座)
12	有性生殖と遺伝学(1)	減数分裂と受精を学び、有性生殖と性の利点を説明できる。(Essential 細胞生物学 第5版 第19章 p651-663)	上田-2 (先端医科学講座)
13	有性生殖と遺伝学(2)	メンデルと遺伝の法則について学び、遺伝学の基本について説明できる。(Essential 細胞生物学 第5版 第19章 p664-673)	上田-3 (先端医科学講座)
14	有性生殖と遺伝学(3)	実験手段としての遺伝学を学び、古典遺伝学的手法やヒトの遺伝学の探求の基本について説明できる。(Essential 細胞生物学 第5版 第19章 p674-690)	上田-4 (先端医科学講座)
15	バイオテクノロジー	分子生物学を応用したバイオテクノロジーについて学び、それらの医療応用や課題を説明できる。(キャンベル生物学 第20章)	上田-5 (先端医科学講座)

30. 機能形態基礎医学 I (必修)

〔人体組織学、肉眼解剖学概論〕

担当教員 ◎渡部 剛、甲賀 大輔 (解剖学講座・顕微解剖学分野) 吉田成孝 (解剖学講座・機能形態学分野)			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	前期	3単位	45コマ
履修目的・授業概要 機能形態基礎医学では、正常な人体を機能と形態の両面から総合的に理解することを目的としている。この機能形態基礎医学Iでは、特に人体を構成する様々な臓器・器官の組織学的構築および肉眼解剖学の基本的事項について、各臓器・器官の生理的機能と関連づけて学ぶ。			
到達目標 この科目全体としての到達目標は、以下の2点である。 (1) 正常な機能を営む人体の各器官・臓器の組織構築を模式的に描き、その特徴を他者に説明することができる。 (2) 各器官・臓器が生理的機能を果たす上で、正常な組織構築がどのように寄与しているか、説明することができる。 なお、各講義ごとの具体的な到達目標については、別途配布する組織学講義・実習資料集に記載しているため、予習・復習・試験勉強の際には参照すること。			
授業の形式 本科目のうち、機能形態学分野担当の肉眼解剖学序論については、講義室での講義を行う。 また、顕微解剖学分野担当の組織学については、原則として各組織/器官系別の主題ごとに3コマを当て、1コマ目がmanaba上での配布資料に基づいた自学自習と学習内容の到達度評価のための小テスト (manaba上で実施)、2~3コマ目が講義室における質疑応答と要点解説という構成で実施する予定である。各主題の実施日前日18時に、manaba本科目サイトの「コースニュース」に各主題の講義の解説スライドをアップロードする。各主題の最初のコマでは、この講義解説スライドファイルと手持ちの教科書を参考にして当該項目を学習し、manabaの「小テスト」にアップロードされた確認問題 (6問程度/主題) に解答すること。締め切り時刻までに解答 (正誤は問わない) した場合に各主題の3コマすべてに出席したこととし、正答に対して与えられる点数 (1点/問) は後述の通り成績評価点に加える。この自己学習を踏まえて、各主題の2~3コマ目は講義室で疑問点に関する質疑応答および重要ポイントの解説を行う。なお、各主題の必修学習内容はmanabaでの配布資料および確認小テストで網羅するので、この2~3コマ目への出席は自由とする (出欠は取らない)。また、2~3コマ目の質疑応答/解説講義には随時板書を用いる。			

準備学習 (予習・復習) 等の内容と分量 各回の講義の具体的な到達目標や講義内容の概要をまとめた組織学講義資料集を科目開始前にmanabaにアップロードしておくので、各回の講義前に該当ページ (および教科書・参考書の該当箇所) を良く読んで予習しておくこと。
成績評価の基準等 本科目の成績は、9月の試験期間中に行う期末試験 (210点満点、60分)、およびmanaba上で実施する小テスト (各主題6点程度/1主題 x 13主題、90点を満点とする) の合計点 (計300点満点) で評価する。ただし、COVID-19感染拡大状況次第では上記筆記試験が実施できない場合も想定されるので、その場合には別途、代替手段について通知する。 期末試験の配点については、顕微解剖学分野180点+機能形態学分野30点の計210点とする。なお、本科目の顕微解剖学分野担当分に関しては、出席が3分の2に満たなくても上記試験を受けることができる (ただし下記の合格基準点180点を取ることは必須であるので、出席数が少ないほど成績判定時に不利になることは覚悟すること)。本科目中4コマしかない機能形態学分野担当分については2/3以上の出席を必須とし、この要件を満たさない者については単位を認定しない。また、機能形態学分野担当の各講義では必修項目を指定するので、この項目に関する試験問題で不正解の場合には、機能形態学分野分の得点を0点とする。 原則として、上記の評価の総合点が60% (300点満点中180点) 以上である者を合格とするが、総合点が60%を超えていても担当2研究分野の出題分のいずれかが極端に悪い場合 (40%未満の分野がある場合)、あるいは関連する組織学実習の成績が極端に悪い場合には不合格とすることもある。なお、評価点は、240点を優、210-239点を良、180-209点を可とし、更に成績上位5%を目処に特に成績が優れた者を秀とする。なお、本科目の試験に関しては、1回だけしか追再試験を行わない (顕微解剖学分野分のみ出題) ので、万全の準備をして各試験に臨むこと。
学生へのメッセージ (履修上の心得など) この科目は並行して行われる形態学実習 I および後期開講の機能形態基礎医学 II と密接に関連する。この科目で習得した知識が関連科目・実習においても充分活かされることを期待する。

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) Histology and Cell Biology (5th ed)	Kierszenbaum A. L.	Elsevier	\$ 60.75 (¥11,000程度)
(参) 標準組織学総論 (第6版)	藤田恒夫・藤田尚男・岩永敏彦 他 改訂	医学書院	¥8,200+税
(参) 標準組織学各論 (第6版)	藤田恒夫・藤田尚男・岩永敏彦 他 改訂	医学書院	¥11,000+税
(参) Ross組織学 (原書第5版)	内山安男・相磯貞和 監訳	南江堂	¥9,200+税
(参) 組織細胞生物学 (原書第5版)	内山安男監訳	南江堂	¥10,500+税
(参) 組織学 (改訂20版)	阿部和厚・牛木辰男	南山堂	¥11,000+税

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	上皮組織(1)	上皮組織の基本構築と分類、生理的役割を理解する。また、上皮細胞間の細胞接着装置の構築や上皮細胞の極性について理解する。さらに腺組織の基本構造と分泌現象に伴う細胞内過程を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)
2	上皮組織(2)		渡部 (顕微解剖)
3	上皮組織(3)		渡部 (顕微解剖)
4	支持組織(1)	支持組織である結合組織、軟骨組織、骨組織の分類と特徴、機能を理解する。また、骨組織の形成・破壊機構と骨の発生過程を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)
5	支持組織(2)		渡部 (顕微解剖)
6	支持組織(3)		渡部 (顕微解剖)
7	肉眼解剖学の基礎事項(1)	骨格と運動器、神経系に関する肉眼解剖の基本事項を理解する。	吉田 (機能形態)
8	筋組織と神経組織(1)	筋組織の分類と特性を理解する。また神経組織については、神経細胞の基本構造と機能、および神経膠細胞の種類と役割を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)
9	筋組織と神経組織(2)		渡部 (顕微解剖)
10	筋組織と神経組織(3)		渡部 (顕微解剖)
11	運動器と皮膚の組織構築(1)	運動器については、筋膜、腱、靭帯、関節の組織構築を理解する。また、骨組織の成長・改築過程とその生理的意義を理解する。皮膚については、表皮・真皮・皮下組織からなる皮膚の組織構築を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)
12	運動器と皮膚の組織構築(2)		渡部 (顕微解剖)
13	運動器と皮膚の組織構築(3)		渡部 (顕微解剖)
14	肉眼解剖学の基礎事項(2)	心臓・循環系に関する肉眼解剖の基本事項を理解する。	吉田 (機能形態)
15	循環器系の組織構築(1)	循環器系の組織構築（毛細血管や動脈・静脈壁の基本構造と多様性、心臓壁の組織学的特徴など）を理解する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	循環器系の組織構築(2)	なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部 (顕微解剖)
17	循環器系の組織構築(3)		渡部 (顕微解剖)
18	血液の構成と造血器の組織構築(1)		渡部・甲賀 (顕微解剖)
19	血液の構成と造血器の組織構築(2)	血液の構成要素とその役割を理解する。また、骨髄の組織構築を踏まえて造血過程を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)は講義室で実施する。	渡部 (顕微解剖)
20	リンパ組織の組織構築(1)	リンパ組織（胸腺、扁桃、リンパ節）の組織構築を理解する。また、血管系の経路上に位置するリンパ組織である脾臓の組織構築と役割を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)
21	リンパ組織の組織構築(2)		渡部 (顕微解剖)
22	リンパ組織の組織構築(3)		渡部 (顕微解剖)
23	肉眼解剖学の基礎事項(3)	消化器系と呼吸器系に関する肉眼解剖の基本事項を理解する。	吉田 (機能形態)
24	消化器系/消化管の組織構築(1)	消化管の生理機能である栄養分の消化・吸収機構を踏まえて、消化管壁の基本構造と食道、胃壁、小腸、大腸、肛門管の各部の組織構築の特徴を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)
25	消化器系/消化管の組織構築(2)		甲賀 (顕微解剖)
26	消化器系/消化管の組織構築(3)		甲賀 (顕微解剖)
27	消化器系/消化腺の組織構築(1)	肝臓の組織構築と胆汁の生成・分泌機構を理解する。また、膵臓の組織構築と消化液および膵島ホルモンの分泌機構を理解する。さらに唾液腺と口腔内構造（舌や歯など）の組織構築の特徴を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)
28	消化器系/消化腺の組織構築(2)		甲賀 (顕微解剖)
29	消化器系/消化腺の組織構築(3)		甲賀 (顕微解剖)
30	内分泌腺の組織構築(1)	ホルモン分泌器官である内分泌腺（甲状腺、視床下部・下垂体系、副腎など）の組織構築と役割について理解する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	内分泌腺の組織構築(2)	なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部 (顕微解剖)
32	内分泌腺の組織構築(3)		渡部 (顕微解剖)
33	呼吸器系の組織構築(1)	気道壁の基本組織構築を理解する。また、肺胞壁の組織構築を踏まえて血液空気関門の機能的意義を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)
34	呼吸器系の組織構築(2)		渡部 (顕微解剖)
35	呼吸器系の組織構築(3)		渡部 (顕微解剖)
36	肉眼解剖学の基礎事項(4)	腎泌尿器系と生殖器系に関する肉眼解剖の基本事項を理解する。	吉田 (機能形態)
37	腎泌尿器系の組織構築(1)	ネフロン構成、腎小体の構造と糸球体濾過、尿細管・集合管系の壁の組織構築と尿細管再吸収・濃縮過程を理解する。また、腎で生成した尿を体外に排出する尿路の組織構築を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)
38	腎泌尿器系の組織構築(2)		渡部 (顕微解剖)
39	腎泌尿器系の組織構築(3)		渡部 (顕微解剖)
40	男性生殖器の組織構築(1)	精巣の組織構築と精子形成過程を理解する。また、精子の輸送路である精路系の組織構築を理解する。さらに、陰茎や前立腺など付属腺の組織構築を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)
41	男性生殖器の組織構築(2)		渡部 (顕微解剖)
42	男性生殖器の組織構築(3)		渡部 (顕微解剖)
43	女性生殖器の組織構築(1)	卵巣の組織構築と卵胞の成熟過程を理解する。また、子宮壁の組織構築と性周期に伴う変化を理解する。さらに、胎盤の組織構築と血液胎児関門の機能的意義を理解する。なお、この主題のコマ(1)はmanabaを使ったオンライン講義および小テストで、コマ(2)(3)は講義室で実施する。	渡部・甲賀 (顕微解剖)
44	女性生殖器の組織構築(2)		渡部 (顕微解剖)
45	女性生殖器の組織構築(3)		渡部 (顕微解剖)

31. 機能形態基礎医学Ⅱ (必修)

[生体の解剖・生理]

担当教員	吉田成孝(解剖学講座機能形態学分野)、扇谷昌宏、 ◎入部玄太郎・千葉弓子(生理学自律機能分野)、 高草木薫・野口智弘(生理学神経機能分野)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	通年	6単位	90コマ
履修目的・授業概要			
<p>正常人体の形態(解剖学)と機能(生理学)を関連づけて理解することを目的とする。</p> <p>3年次以降、臨床医学科目の履修に進むためには、ここで学習することのすべてが基礎知識として必須である。</p>			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・主要器官の巨視的ならびに微細構造を、発生の概略と関連づけて説明できる。 ・主要器官の正常機能とその仕組の概要を、器官レベル、細胞レベル、分子レベルで説明できる。 <p>(注) ここでいう主要器官とは、消化器、呼吸器、循環器、泌尿生殖器、内分泌腺、感覚器、中枢・末梢神経系などを指す。おおむねこの順に学習する。</p>			
授業の形式			
<p>授業は板書・スライド・配付資料を用いて行う。</p> <p>講義に関する連絡・通知、資料の配布などは、manabaにて行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>あらかじめ到達目標と関連する課題を提示するので、課題に関する予習が1時間程度必要である。また、到達目標が達成できているかを実習後に復習すること。</p>			
成績評価の基準等			
<p>評価は筆記試験(主に客観テスト)による。授業を前半後半2つのブロックに分け、前半の範囲を中間試験にて、後半の範囲を後期試験にて評価する。それぞれの試験において合計正答率が60%以上で、かつ、解剖学分野、生理学分野の正答率がいずれも40%以上であることを及第の条件とする。</p> <p>中間試験、後期試験ともに、試験範囲に対応した解剖学分野、生理学分野の講義にそれぞれ3分の2以上出席していることを試験の受験資格とする。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>この科目で修得する内容は3学年以降の臨床の講義を理解する上で必須であることを自覚する必要がある。単に試験に及第することが目標ではなく、臨床科目の学習に向けての基礎作りであることを理解して欲しい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) グレイ解剖学	塩田 他(訳)	エルセビア・ジャパン	13,200円
(参) ラングマン人体発生学	安田峯生(訳)	メディカルサイエンス・インターナショナル	9,240円
(教) ガイトン生理学	石川義弘他(訳)	エルセビア・ジャパン	16,500円
(教) ギャノン生理学 原書第25版	岡田 泰伸 他訳	丸 善 出版	11,000円
(教) 標準生理学第9版	本間 研一	医学書院	13,200円
Principles of Neural Science 5th edition	Kandel et al.	McGraw-Hill	16,051円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	ガイダンス、植物性機能生理学総論	本科目の目的と学習内容の概要を把握する。植物性機能生理学で学ぶ内容の概要を理解する	入部(生理学)
2	解剖学総論、頸部	人体解剖学で学ぶ内容の概要と頸部の構造を理解する	吉田(解剖学)
3	胸背部	胸背部の基本構造を理解する	吉田(解剖学)
4	上肢	上肢の構造を理解する	扇谷(解剖学)
5	上肢・下肢	上肢と殿部・大腿の構造を理解する	扇谷(解剖学)
6	下肢	下肢の構造を理解する	扇谷(解剖学)
7	手と足	手と足の構造を理解する	吉田(解剖学)
8	消化管の構造1	上部消化管の構造と機能を理解する	扇谷(解剖学)
9	消化管の構造2	十二指腸以下の消化管の構造と機能を理解する	扇谷(解剖学)
10	肝・胆・膵の構造	肝臓・胆嚢・膵臓の形態と機能を理解する	扇谷(解剖学)
11	腹膜の構造	腹膜の構造を理解する	吉田(解剖学)
12	消化・吸収1	消化管の運動とその調節機構を理解する	千葉(弓)(生理学)
13	消化・吸収2	消化器における分泌と吸収の分子機構を理解する	千葉(弓)(生理学)
14	代謝1	栄養素の代謝とその調節の機構を理解する	千葉(弓)(生理学)
15	代謝2	体温調節機構を理解する	千葉(弓)(生理学)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	内分泌1	内分泌の概要を理解する	千葉(弓) (生理学)
17	内分泌2	視床下部と下垂体の内分泌機能を理解する	千葉(弓) (生理学)
18	内分泌3	甲状腺、副甲状腺の機能を理解する	千葉(弓) (生理学)
19	内分泌4	副腎の機能を理解する	千葉(弓) (生理学)
20	内分泌5	膵島、消化管内分泌機能を理解する	千葉(弓) (生理学)
21	呼吸器系の構造	呼吸器の構造と機能を理解する	吉田 (解剖学)
22	呼吸1	換気力学を理解する	入部 (生理学)
23	呼吸2	換気力学を理解する	入部 (生理学)
24	呼吸3	ガス交換・運搬の仕組みを理解する	入部 (生理学)
25	呼吸4	ガス交換・運搬の仕組みを理解する	入部 (生理学)
26	血液1	血液の組成と機能を理解する	入部 (生理学)
27	血液2	血液の組成と機能を理解する	入部 (生理学)
28	循環器の構造	心臓と大血管系の構造と機能を理解する	吉田 (解剖学)
29	循環1	循環力学を理解・学習する	入部 (生理学)
30	循環2	心拍・血圧・血流・血液量の調節と恒常性維持の機構を理解する	入部 (生理学)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	心臓1	心臓力学を理解する	入部 (生理学)
32	心臓2	心臓力学を理解する	入部 (生理学)
33	心臓3	心臓電気生理を理解・学習し、その心電図との関連を理解する	入部 (生理学)
34	心臓4	心臓興奮収縮連関を理解する	入部 (生理学)
35	発生学1	減数分裂、受精と初期発生の過程を理解する	吉田 (解剖学)
36	発生学2	体の各器官の発生の概要を理解する	吉田 (解剖学)
37	発生学3	運動器系の発生と胎児膜を理解する	吉田 (解剖学)
38	発生学4	消化器と呼吸器の発生の概要を理解する	吉田 (解剖学)
39	発生学5	循環器の発生の概要を理解する	吉田 (解剖学)
40	泌尿器系の構造	泌尿器系の器官の形態と機能を理解する	吉田 (解剖学)
41	男性生殖器	男性生殖器の構造と機能を理解する	吉田 (解剖学)
42	女性生殖器	女性生殖器の構造と機能を理解する	吉田 (解剖学)
43	骨盤、会陰	会陰部の構造と機能を理解する	吉田 (解剖学)
44	生殖1	性腺(女性)の機能を理解する	千葉(弓) (生理学)
45	生殖2	性腺(男性)の機能を理解する	千葉(弓) (生理学)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
46	腎臓1	水溶性老廃物の選別と排泄の機序を理解する	入部 (生理学)
47	腎臓2	体液量・浸透圧濃度の恒常性維持の機序を理解する	入部 (生理学)
48	酸塩基平衡1	酸塩基平衡の概念と仕組みを理解する	入部 (生理学)
49	酸塩基平衡2	酸塩基平衡の概念と仕組みを理解する	入部 (生理学)
50	眼窩・眼球	眼窩と眼球の構造と機能を理解する	扇谷 (解剖学)
51	外耳、中耳、内耳	平衡聴覚器系の形態と機能を理解する	扇谷 (解剖学)
52	中枢神経系の解剖学総論	中枢神経系の組織の基本と脊髄の構成について学ぶ	吉田 (解剖学)
53	大脳皮質	大脳皮質の構造と機能局在について学ぶ	吉田 (解剖学)
54	脊髄・体性感覚系	脊髄の構成と体性感覚系を構成する要素について学ぶ	吉田 (解剖学)
55	視覚・聴覚・平衡感覚系	視覚、聴覚、平衡覚の伝導路を構成する要素について学ぶ	吉田 (解剖学)
56	間脳	間脳の構成と機能を学ぶ	吉田 (解剖学)
57	小脳	間脳の構成と機能を学ぶ	吉田 (解剖学)
58	神経機能序論	神経系の機能を概説する	高草木 (生理学)
59	興奮性膜	細胞膜の電気的興奮性について理解する	野口 (生理学)
60	感覚総論	感覚器の一般的な性質を理解する	野口 (生理学)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
61	体性感覚1	各種体性感覚を理解する	野口 (生理学)
62	体性感覚2	体性感覚の中枢機構を理解する	野口 (生理学)
63	味覚・嗅覚	味覚・嗅覚の受容および情報処理機構を理解する	野口 (生理学)
64	視覚1	視覚の受容機構を理解する	野口 (生理学)
65	視覚2	視覚情報の処理機構を理解する	野口 (生理学)
66	聴覚・平衡感覚	聴覚・平衡感覚の受容および情報処理機構を理解する	野口 (生理学)
67	随意運動系	随意運動系を構成する要素について学ぶ	吉田 (解剖学)
68	大脳辺縁系	大脳辺縁系の構成要素について学ぶ	吉田 (解剖学)
69	脳神経核	脳神経核の位置と機能について学ぶ	吉田 (解剖学)
70	脳の血管と脳室	脳の血管の構成と脳室の構造を学ぶ	吉田 (解剖学)
71	高次機能総論	高次機能の概要を理解する	高草木 (生理学)
72	意識と意識障害	意識を維持する神経機構とその破綻の仕組みを理解する	高草木 (生理学)
73	睡眠と睡眠障害	睡眠の生物学的意義と仕組み、睡眠障害の概要を理解する	高草木 (生理学)
74	情動と大脳辺縁系・視床下部	恒常性に関わる中枢神経機構を理解する	高草木 (生理学)
75	大脳皮質連合野と高次脳機能1	記憶・学習・認知など高次機能の仕組みを理解する	高草木 (生理学)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
76	大脳皮質連合野と高次脳機能2	脳の高次機能から行動発現までのプロセスを理解する	高草木 (生理学)
77	大脳皮質連合野の障害	高次脳機能障害（連合野障害）の仕組みを理解する	高草木 (生理学)
78	高次脳機能の異常（老化と精神障害）	老化に伴う脳機能の変化と精神障害の仕組みを理解する	高草木 (生理学)
79	自律神経1	自律神経系の機能を理解する	野口 (生理学)
80	自律神経2	自律神経系の調節を理解する	野口 (生理学)
81	運動機能総論	運動制御の基本的な仕組み（姿勢と運動）を学ぶ	高草木 (生理学)
82	姿勢制御	主な姿勢反射と姿勢制御の仕組みを理解する	高草木 (生理学)
83	脊髄と脊髄反射	主な脊髄反射の仕組みを理解する	高草木 (生理学)
84	大脳皮質運動関連領域と錐体路	大脳皮質による運動制御と錐体路・錐体路徴候を学ぶ	高草木 (生理学)
85	脳幹と視床	脳幹と視床の基本的な構造と機能を理解する	高草木 (生理学)
86	脳神経	脳神経の基本的な機能を理解する	高草木 (生理学)
87	脳幹と脳神経の障害	脳幹の障害が誘発される基本的なメカニズムを理解する	高草木 (生理学)
88	大脳基底核と不随意運動	大脳基底核の機能とその障害を理解する	高草木 (生理学)
89	小脳と運動失調	小脳の機能とその障害を理解する	高草木 (生理学)
90	神経系の障害と病態生理	脳神経科学の観点から神経系の障害を考察する	高草木 (生理学)

32. 生化学 I (必修)

[酵素反応、糖代謝、ATP合成]

担当教員	◎川辺淳一、山崎和生、 矢澤隆志、中島恵一、 安田 哲、 大保貴嗣 (客員講師)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	前期	2単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>生化学は生命現象を分子レベルで解明する学問です。生命現象も、基本的に生化学的反応によるもので、我々の健康がどのように維持されているのか、多くの疾患の原因やその治療法を理解するために生化学の知識は不可欠です。</p> <p>皆さんが最初に学ぶ生化学1では、我々が食物を摂取し、エネルギーや身体構成成分その他生体活動に必要な物質をどのように作り出し代謝しているかを理解することが目的です。現代社会では、生活習慣病と呼ばれる疾患群 (糖尿病、高脂血症、高尿酸血症など) の克服が重要課題であり、代謝学的重要性が再認識されている時代です。本講義を通じて、ぜひ、代謝病変の予防/治療に必要な基礎知識と基本的な考え方を身につけてください。</p>			
到達目標			
<p>細胞内代謝を担う酵素蛋白の働きを理解した上で、糖代謝の基本的な概要を理解し、同代謝異常と疾患との関連性を理解する。</p> <p>1) 代謝の根幹を担う酵素反応について、基礎理論を説明できる。 2) 糖代謝について基本的な流れについて説明できる。 3) 糖尿病など糖代謝障害の原因とその病態について概要を説明できる。</p>			
授業の形式			
スライド/プリント/板書等を用いて講義を進めます。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
シラバスに記載されているキーワードについて教科書参考書にて予習し、講義終了後は、配布されたプリントを整理し当該主題についてまとめを行うこと。レポート課題がある場合には、講義内容と配布プリントを参考に自学自習して理解を深め、提出すること。			
成績評価の基準等			
生化学1について前期試験週に本試験を行い成績評価します (例年と異なるので注意!)。本試験は、生化学1全体の評価の約80%程度とします。これに加えて、生化学学習の実施前の知識の理解度を高め、また本試験の負担を軽減するために、適時、各講義の中で小テストや課題レポートなどを実施し、成績評価に加味します (約20%)。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
課題レポートの学習はもちろんのこと、予習・復習など自己学習は必ず行なってください。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) ハーパー生化学 (第30版)	清水孝雄 監訳	丸 善	7,900円
(参) 医学系のための生化学	石崎泰樹 編	裳 華 房	4,300円
(参) リッピンコット生化学 第八版	石崎泰樹 他訳	丸 善	8,800円
(参) ストライヤー生化学 第八版	入村達郎 他訳	東 京 化 学 同 人	14,300円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	基礎医学と臨床との関連1	多くの臨床医を志す学生にとって、基礎医学を学ぶ意義について概説する。	川辺
2	基礎医学と臨床との関連2	生化学が、他の基礎医学や臨床医学の分野にどのように関連・活用されているのか、生活習慣病などの具体例を示しながら概説する。	川辺
3	代謝総論	生体内における物質代謝の大まかな流れと調節、その中で中心的な役割を果たす代謝中間体、高エネルギー化合物、酵素、補酵素としてのビタミン、ならびに代謝異常と病気の関係について理解する。	山崎
4	酵素の反応機構と調節 I	酵素の反応機構と速度論。様々な酵素の反応形式と阻害形式、及びその分子機構について理解する。	山崎
5	酵素の反応機構と調節 II	酵素活性に影響を及ぼす因子。調節因子・調節蛋白質による酵素の活性調節機構を理解する。	山崎
6	酵素の反応機構と調節 III	修飾による酵素の活性調節機構とアロステリック酵素。酵素修飾による酵素活性の調節、アロステリックエフェクターの作用について理解する。	山崎
7	高エネルギー化合物	ATPや他の高エネルギー化合物の熱力学的性質と生体内における機能について理解する。	山崎
8	糖の消化と吸収	摂取した炭水化物が消化管で消化・吸収され、各組織の細胞に取り込まれる過程とその仕組みについて理解する。	矢澤
9	解糖 I	解糖の全体像や特徴、および解糖の第一段階 (グルコース → グリセルアルデヒド3-リン酸) の各反応の詳細について理解する。	矢澤
10	解糖 II	解糖の第二段階 (グリセルアルデヒド3-リン酸 → ピルビン酸) とピルビン酸の嫌氣的代謝 (ピルビン酸 → 乳酸) の各反応の詳細、および解糖全体のエネルギー収支について理解する。	矢澤
11	解糖の調節	解糖の律速段階と調節機構、および解糖調節の生理的意義について理解する。	矢澤
12	グルコース以外のヘキソースの代謝	フルクトース、ガラクトース、マンノースが解糖経路に入るまでの過程について理解する。	矢澤
13	ペントースリン酸経路 I	γペントースリン酸経路の各反応と、同経路によるNADPHとリボース5-リン酸の産生過程について理解する。	矢澤
14	ペントースリン酸経路 II	ペントースリン酸経路の調節機構、および細胞内のNADPH量とリボース5-リン酸量の調節の仕組みについて理解する。	矢澤
15	グリコーゲンの合成と分解 I	グリコーゲンの分解反応とそれに関与する酵素について学び、その酵素の反応機構を理解する。	中島

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	グリコーゲンの合成と分解2	グリコーゲンの合成反応とそれに関与する酵素について学び、その酵素の反応機構を理解する。	中島
17	グリコーゲン代謝の制御と糖原病	グリコーゲン代謝に関与する酵素のアロステリック調節とリン酸化による調節を理解し、糖原病について理解する。	中島
18	ホルモン作用	グリコーゲン代謝を制御するホルモンの作用、さらに発展し種々のホルモン作用についても理解する。	中島
19	糖新生の経路	糖新生の経路について学び、それに関与する酵素の反応機構を理解する。	大保
20	糖新生の調節機構	糖新生の調節について学び、その解糖経路との相互調節を理解する。	大保
21	クエン酸回路の概要とアセチルCoAの合成	クエン酸回路の概要と燃料分子の酸化代謝からみた位置づけを学び、さらにその回路の出発物質であるアセチルCoAの生成過程を理解する。	大保
22	クエン酸回路の酵素	クエン酸回路の各反応とそれに関与する酵素について学び、その酵素の反応機構を理解する。	大保
23	クエン酸回路の調節と関連反応	クエン酸回路のエネルギー生産能、調節、および関連反応を理解する。	大保
24	ミトコンドリアの輸送体と電子伝達系の熱力学	ミトコンドリアの構造と膜に存在する輸送体、および電子伝達系の熱力学について理解する。	安田
25	電子伝達系1	電子伝達系の概要と複合体I、CoQ、複合体IIについて理解する。	安田
26	電子伝達系2	電子伝達系の複合体III、シトクロムc、複合体IVについて理解する。	安田
27	酸化的リン酸化	酸化的リン酸化を学び、ATP合成とATP生産の制御を理解する。	安田
28	生体異物代謝	分子状酸素の利用例としてシトクロムP450による疎水性物質代謝について理解する。	安田
29	高齢化社会における基礎医学トピックス1	高齢化社会における医師に必要なトピックスとして、「幹細胞と再生」に関する基礎医学について概説する。	川辺
30	高齢化社会における基礎医学トピックス2	高齢化社会における医師に必要なトピックスとして、「老化」に関する基礎医学を概説する。	川辺

33. 生化学Ⅱ (必修)

(脂質、アミノ酸代謝、尿素回路、核酸、ヘム、複合糖質、生体)

担当教員	◎川辺淳一、山崎和生、矢澤隆志		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	前期	2単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>生化学1で、特に糖代謝を中心に、基本的な生化学の知識や考えかたを理解していただきました。生化学2では、生命が活動・維持していく上で不可欠な脂質・コレステロール、リポ蛋白、蛋白質・アミノ酸、核酸、ヘム・ポルフィリンの代謝について理解していただきます。また、生化学2では、これ以外に、疾患病態に結びつく臨床医学や医療上、重要な諸テーマについて、細胞・分子レベルでの理解を深めます。</p>			
到達目標			
<p>一般教育目標 生体を構成する主要な物質(脂質・蛋白質・核酸など)の代謝や、その異常と疾患との関連性を理解する。また、疾患病態の理解に不可欠な、基盤となる細胞の特性や機能について、分子レベルで理解する。</p> <p>個別行動目標 脂質・コレステロール、リポ蛋白、蛋白質・アミノ酸、核酸、ヘム・ポルフィリンの代謝について基本的な代謝概要を説明でき、これらの異常によって生じる疾患病態との関連性を説明できる。蛋白質の細胞内局在化と品質管理、ビタミンの役割、アルコール代謝、複合糖質、生体膜の構造・機能、血液(赤血球、白血球、血漿蛋白、凝固)などのテーマについて分子レベルで理解する。</p> <p>生化学講義1および2の最終講義4コマでは、臨床医の学習に活用できるように糖・脂質・蛋白などの代謝を統合して理解する。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
スライド/プリント/板書等を用いて講義を進めます。			
準備学習			
シラバスに記載されているキーワードについて教科書参考書にて予習し、講義終了後は、配布されたプリントを整理し当該主題についてまとめを行うこと。レポート課題がある場合には、講義内容と配布プリントを参考に自学自習して理解を深め、提出すること。			
成績評価の基準等			
<p>生化学2の全講義終了後、前期試験週に本試験を行い成績評価します。本試験は、生化学2全体の評価の約80%程度とします。これに加えて、本試験の負担を軽減するために、適時、各講義の中で小テストや課題レポートなどを実施し、成績評価に加味します(約20%)。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
課題レポートの学習はもちろんのこと、予習・復習など自己学習は必ず行なってください。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) ハーパー生化学 (第30版)	清水孝雄 監訳	丸 善	7,900円
(参) 医学系のための生化学	石崎泰樹 編	裳 華 房	4,300円
(参) リッピンコット生化学 第七版	石崎泰樹 他訳	丸 善	8,800円
(参) ストライヤー生化学 第八版	入村達郎 他訳	東 京 化 学 同 人	14,300円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	脂質の構造 1	脂質の基本的性質。脂質の分類 脂肪酸の命名法 cis- と trans- 二重結合の違い	山崎
2	脂質の構造 2	アシルグリセロールとは。グリセロリン脂質の種類と働き。糖脂質とはイソプレノイドを材料とする脂質 脂質の過酸化。両親媒性脂質の作る構造	山崎
3	脂肪酸分解 1	脂肪の分解とその制御 脂肪酸のミトコンドリアへの移行 脂肪酸のβ酸化 脂肪酸分解のエネルギー収支 不飽和脂肪酸の酸化	山崎
4	脂肪酸分解 2	ケトン体とは何か ケトン体の生成、利用 ケトン体と臨床との関連 脂肪酸利用の制御 脂肪酸代謝異常と疾患	山崎
5	脂肪酸合成 1	脂肪酸合成経路 マロニルCoAの生成 脂肪酸合成酵素複合体の働き NADPHとアセチルCoAの供給経路 脂肪酸合成の調節	山崎
6	脂肪酸合成 2	不飽和脂肪酸の合成 長鎖脂肪酸の合成 生理的に重要な脂肪酸 エイコサノイドの生合成 シクロオキシゲナーゼと創薬	山崎
7	アシルグリセロールとスフィンゴ脂質の代謝 1	トリアシルグリセロールの分解と消費 アシルグリセロールの合成 リン脂質の生合成 特殊な機能を持つリン脂質 グリセロリン脂質の代謝	山崎
8	アシルグリセロールとスフィンゴ脂質の代謝 2	スフィンゴリン脂質とは セラミドの合成とセラミドからの合成 スフィンゴ糖脂質 脂質の含有量に異常をきたす疾患 スフィンゴリピドosis	山崎
9	脂質の輸送 1	脂質の消化吸収 脂質の輸送 リポタンパクの種類と構造 リポタンパクの代謝過程 HDLとコレステロール逆転送	山崎
10	脂質の輸送 2	脂質の輸送・代謝における肝臓の役割 脂肪肝 脂肪組織における脂質代謝 褐色脂肪細胞における熱産生 アディポサイトカイン	山崎
11	コレステロールの代謝	コレステロールの生合成。コレステロール合成経路の派生物。コレステロール合成の制御。細胞内コレステロール量の調節。胆汁酸の役割 スタチン系コレステロール降下薬の作用機序	山崎
12	アミノ酸の生合成	アミノ酸代謝の概略 非必須アミノ酸の生合成 テトラヒドロ葉酸代謝 チロシン生合成 特殊なアミノ酸合成	山崎
13	タンパク質とアミノ酸窒素の異化	タンパク質の代謝回転 組織間のアミノ酸の流れ アンモニア代謝 尿素合成 尿素代謝異常	山崎
14	アミノ酸骨格の異化	アミノ酸炭素骨格の代謝 アミノ酸代謝異常と疾患	山崎
15	アミノ酸の特殊代謝産物	アミノ酸代謝と疾患 メチオニン 分枝状アミノ酸 アミノ酸の特殊代謝産物 タンパク質のリン酸化	山崎

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	遺伝子の転写	真核生物の遺伝子の転写調節機構について理解する。	矢澤
17	ホルモンと内分泌関連病態	ホルモンとその関連病態について理解する。	矢澤
18	アルコール代謝	アルコール代謝を生化学的に学び、一気飲み／急性アルコール中毒について理解する。	矢澤
19	ビタミンと無機質代謝異常	ビタミン欠乏と過剰による病態について理解する。鉄と銅の代謝とその異常について理解する。	矢澤
20	ヌクレオチド代謝	ヌクレオチドの生合成及び分解とプリン体のサルベージ回路について理解する	矢澤
21	核酸・ヌクレオチド代謝異常	核酸代謝障害とこれに伴う症状について理解する。	矢澤
22	筋肉と細胞骨格	筋収縮における特異な蛋白質と周辺分子ならびにそれらから派生する疾患について理解する。	矢澤
23	赤血球と白血球	赤血球の基本的な構造と機能及び血液型、白血球の基本的な構造と機能について理解する。	矢澤
24	血漿蛋白質、血液凝固	血漿の基本組成と機能、特に血液凝固機構について理解する	矢澤
25	ヘム・ポルフィリン代謝1	ヘム生合成に関わる代謝経路とここから派生するポルフィリン症について理解する。	矢澤
26	ヘム・ポルフィリン代謝2	ヘム分解に関わる代謝経路とその産物であるビリルビンの体内動態について理解する。	矢澤
27	代謝の統合1	代謝のキーとなるホルモンであるインスリンとグルカゴンの作用機序を代謝の視点で理解する。	川辺
28	代謝の統合2	食物を摂取した後、様々な栄養素がどのように代謝されるのか概要を理解する。	川辺
29	代謝の統合3	空腹状態での生体でのエネルギー代謝適応について概要を理解する。	川辺
30	代謝の統合4	代謝異常の中でも、臨床上で質・量共に重要な「糖尿病」に関する生化学を視点とした病態を概説する。	川辺

34. 免疫学(必修)

[免疫]

担当教員	◎小林博也、迫 康仁、佐藤啓介 (非常勤)、 吉田逸朗 (非常勤)、大栗敬幸、長門利純、 小坂 朱、牧野雄一、岡本健作		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	前期	2単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>免疫学では、コアカリキュラムB2の中の「免疫と生態防御」に関する学習を行う。即ち自然免疫と獲得免疫から成り立つ免疫系の基礎を学習し、生体の恒常性維持機構としての免疫系に関わる種々の因子の構造、機能、役割、並びに活性調節機構を理解することを履修の目的とする。これらを理解するために不可欠である分子生物学的な基礎知識を、講義の最初に学習し、次いで、各種免疫機構について学習する。これらの学習によって、免疫系が生体防御のみならず、分化、発生、加齢等、生体の様々な局面で作用を発現する因子から成り立つことを理解する。</p>			
到達目標			
<p>一般目標： 免疫系の機構を分子レベルで理解し、病原体に対する免疫反応、主な自己免疫疾患、先天性および後天性免疫不全とがんに対する免疫系の反応を理解する。</p> <p>行動目標： 生体防御機構における免疫系の特徴（特異性、多様性、寛容、記憶）を説明できる。免疫反応に関わる組織と細胞を説明できる。免疫学的自己の確立と破綻を説明できる。自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。 MHCクラスIとクラスII分子の基本構造、抗原提示経路の違いを説明できる。 免疫グロブリンとT細胞抗原レセプターの構造と反応様式を説明できる。 免疫グロブリンとT細胞抗原レセプター遺伝子の構造と遺伝子再構成にもとづき、多様性獲得の機構を説明できる。 自己と非自己の識別構造の確立と免疫学的寛容を説明できる。 抗原レセプターからのシグナルを増強あるいは減弱する調節機構を概説できる。 代表的なサイトカイン・ケモカインの特徴を説明できる。 Th1/Th2細胞それぞれが担当する生体防御反応を説明できる。 ウイルス、細菌と寄生虫に対する免疫応答の特徴を説明できる。 先天性免疫不全症と後天性免疫不全症を概説できる。 アレルギー発症の機序を概説できる。 がん免疫に関わる細胞性免疫機序を概説できる。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
黒板への板書、講義資料、スライド、教材提示システム等を利用して講義を行う。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
シラバスに記載されている医学用語について参考書にて予習して下さい。講義終了後は、配布された資料などを基に整理復習して下さい。			
成績評価の基準等			
<p>前期試験週に本試験を行い、受験資格は出席の2/3以上の者とします。60点(100点満点)を合格点とする。 なお成績評価の詳細は、旭川医科大学医学部医学科の授業科目の履修方法、試験、進級等取扱規程によります</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>免疫学の分野で使用される専門用語は、基礎、臨床を問わず医学領域で広く使われており、これらを整理し、使いこなせるまで理解することが必要である。日本人研究者による先駆的研究を含めて、急速に進展しているこの領域の学問の息吹に触れていただきたい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) アバースリックマン-ビル 分子細胞免疫学 原著第10版	アバース他	エルゼビア	10,780円
(参) 基礎免疫学	アバース他	エルゼビア	6,930円
(参) もっとよくわかる!免疫学	河本 宏(著)	洋土社	4,200円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	免疫学序論	抗原の定義、免疫の定義を学習し、免疫系が関わる生物学的現象の概略を把握する。	小林(病理学免疫)
2	分子免疫学	免疫学を理解する上で基礎となる分子生物学について学習し、分子生物学的思考法を習得する。	佐藤(非常勤)
3	自然免疫1	生体が抗原非特異的な自然免疫を有することを理解する。	大栗・小坂(病理学免疫)
4	自然免疫2	自然免疫の一翼を担い、獲得免疫である液性免疫にも関与する補体系の活性化経路を理解する。	大栗・小坂(病理学免疫)
5	液性免疫1	抗体の基本構造を学習し、抗体が各種機能ドメインを持つ5クラスの蛋白質群であることを理解する。	迫(寄生虫)
6	液性免疫2	抗体の抗原認識部位の多様性が、胚細胞遺伝子の再配列等により生みだされることを理解する。	迫(寄生虫)
7	液性免疫3	個体レベルにおける抗体の産生調節機序を学習し、クラススイッチの機構を理解する。	迫(寄生虫)
8	液性免疫4	液性免疫における抗体の役割を学習し、感染症等における抗体の検出、抗体価測定の意味を理解する。	迫(寄生虫)
9	アレルギー1	液性免疫の関与するI型、II型、III型のアレルギー反応の発現機構を理解する。	迫(寄生虫)
10	適応免疫1	リンパ球の発生・分化とレパトリー形成、クローン選択説について理解する。	佐藤(非常勤)
11	適応免疫2	T細胞の抗原レセプターの遺伝子再編成のシステムを理解する。	佐藤(非常勤)
12	適応免疫3	MHCの構造と機能を学習し、T細胞に対する抗原提示と免疫応答、免疫寛容について理解する。	佐藤(非常勤)
13	適応免疫4	宿主防衛機構の破綻と先天性免疫不全症について理解する。	佐藤(非常勤)
14	適応免疫5	移植免疫について、移植片拒絶、移植片対宿主病(GVHD)について理解する。がん免疫の機序を理解する。	佐藤(非常勤)
15	細胞性免疫1	細胞性免疫に関与する免疫担当細胞の種類を理解する。	牧野・岡本(内科)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	細胞性免疫 2	細胞性免疫において抗原を認識するTCR (T cell receptor) の構造を理解する。	牧野・岡本 (内科)
17	細胞性免疫 3	TCRと他の細胞表面分子群との相互作用様式を学習し、細胞性免疫の調節機構を理解する。	牧野・岡本 (内科)
18	細胞性免疫 4	細胞性免疫におけるEffector cellの作用様式を理解する。	牧野・岡本 (内科)
19	腫瘍免疫	生体防御における腫瘍免疫のしくみを理解する。	小林 (病理学免疫)
20	アレルギー 2	細胞性免疫の関与するIV型アレルギー反応の発現機構を理解する。	長門 (病理学免疫)
21	アレルギー 3	I型～IV型アレルギー反応の病態について学習し、アレルギーに関する理解を深める。	長門 (病理学免疫)
22	サイトカイン 1	IFN (Interferon) を始めとするサイトカインの種類と、その生物学的作用を理解する。	吉田 (非常勤)
23	サイトカイン 2	ケモカインと総称される因子の種類と、その生物学的作用を理解する。	吉田 (非常勤)
24	サイトカイン 3	IFN等の作用発現が、蛋白質リン酸化を介する細胞内シグナル伝達系によることを理解する。	吉田 (非常勤)
25	サイトカイン 4	サイトカインが、ネットワークを形成して生体の恒常性維持機構の一翼を担うことを理解する。	吉田 (非常勤)
26	サイトカイン 5	IFNを始めとするサイトカインの臨床応用、並びにサイトカインを標的とする抗サイトカイン療法の試みについて理解する。	吉田 (非常勤)
27	自然免疫3	自然免疫におけるTLR (Toll like receptor) の構造と機能を理解する。	大栗 (病理学免疫)
28	自然免疫4	自然免疫における食細胞の役割と殺菌過程を理解する。	大栗 (病理学免疫)
29	自然免疫5	同上	小坂 (病理学免疫)
30	まとめ	総括してまとめます。	小林 (病理学免疫)

35. 形態学実習 I (必修) [組織学実習、骨学実習]

担当教員	◎甲賀大輔、渡部 剛、春見達郎、森永涼介 (解剖学講座・顕微解剖学分野) 柴田宏明 (整形外科講座) 脇坂理紗 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	前期	1.5単位	69コマ
履修目的・授業概要			
形態学実習では、正常な人体の構造を総合的に理解することを目的としており、前期に開講される形態学実習 I は、組織学実習と骨学実習(前期分)の2つのパートからなる。このうち、組織学実習では様々な臓器・器官の組織標本を顕微鏡で観察し、人体を構成する諸器官の正常組織構築を理解する。また、骨学実習(前期分)では頭蓋骨を含む全身の骨標本を観察し、後期開講の形態学実習 II で展開される人体解剖実習の基盤となる、骨格系に関する解剖学的知識を習得する。			
到達目標			
この科目全体としての到達目標は、以下の通りである。 (組織学実習) (1) 人体の各器官・臓器の組織切片を光学顕微鏡で観察し、その特徴を絵に描いて記録することができる。 (2) 顕微鏡で撮影された組織切片の写真を見て、それがどの器官・臓器の組織像であるか、答えることができる。 (3) 教科書に掲載されている組織構築模式図と実際の顕微鏡観察像を比べて、その対応関係を答えることができる。 (骨学実習) (1) その形態学的特徴を踏まえて、人体を構成する骨の名称(和名と洋名の両方で)や左右の別を答えることができる。 (2) 骨に残された圧痕、孔、溝、隆起などの構造が、どのような軟部組織(筋、血管、神経など)の付着や接触によってもたらされたものか、答えることができる。 (3) 骨の連結によってできる脊柱、胸郭、骨盤、頭蓋骨、および各関節の構造を説明できる。 なお、各実習ごとの具体的な到達目標については、別途配布する組織学講義・実習資料集や骨学実習プリントに記載しているので、予習・復習・試験勉強の際には参照すること。			
授業の形式			
組織学実習については、各回の実習の最初のコマ(4講目)は、前日夕刻にmanaba上に実習解説PDFファイル(実習での観察/学習ポイントについて顕微鏡写真を元に解説したもの)をアップロードするので、この解説を元に予め配布してある組織学実習資料の該当ページの内容を理解し、manabaの小テスト機能上の「事前確認テスト」に回答する(回答期限は当日の4講目開始時刻(13時)から終了時刻(14時)まで)。続いて5講目~6講目については、第6実習室(講義実習棟4F)で顕微鏡を用いて実際の組織標本スライドを観察し、スケッチを中心としたレポートを作成する。なお体調不良による公欠者は、実習解説PDFファイルを参考にして自宅でレポートの作成に取り組む(レポート課題は実習当日の14時に公開)。登校して実習を行った学生は6講目終了時にレポートを提出して実習終了、自宅でオンライン学習を行った学生は実習当日24時までにレポートをmanaba上で提出して終了となる。実習の進め方の詳細については、開講前にmanabaのコースニュースで連絡する。 また、骨学実習の具体的な実施方法については、COVID-19感染状況を踏まえて7月末までにmanabaのコースニュースで連絡する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
組織学実習については、各回の実習の具体的な到達目標や実習の手順や要点をまとめた組織学講義・実習資料集をあらかじめ配布するので予習しておくこと。また、骨学実習(実習室での観察実習)については、manabaでの配布資料、参考書、図譜であらかじめ観察する各骨の特徴と観察のポイントについて予習しておくこと。			

成績評価の基準等

本科目の成績は、組織学実習分400点、骨学実習分100点の計500点満点で評価し、原則として、これらの試験の総合点が60%(500点満点中300点)以上である者を合格とする。ただし、総合点が60%を超えていても、組織学実習あるいは骨学実習のいずれかの成績が極端に悪い場合(40%未満の分野がある場合)には不合格とすることもある。また、評価点は、400点を優、350-399点を良、300-349点を可とし、更に成績上位5%を目処に特に成績が優れた者を秀とする。

組織学実習分の評価に関しては、各回の実習評価(25点/回 x 16回;計400点)のみで行う。実習評価の内訳は、事前確認テスト10点、レポート15点(A:15-14点、B:13-11点、C:10-8点、D:5点、E:3点、提出なし:0点)を基本とする(実習回によって、多少配分変更あり)。また、骨学実習分については、manabaで行う小テストあるいはレポート(各回10点x5回、計50点)と口頭試問(50点)で評価する。

なお、本科目の出席、小テスト受験、レポート提出については、急病など特別の事情が認められない限り、原則として期限を厳守する予定であるので、決められた実習時間にきちんと課題をこなすこと(体調不良などがあつた場合には、保健管理センター、教務係、解剖学講座顕微解剖学分野の3箇所にてできるだけ早く連絡すること)。

学生へのメッセージ(履修上の心得など)

この科目の組織学実習の内容は、並行して行われる機能形態基礎医学Iの講義内容と密接に関連する。また、骨学実習では、後期に実施される形態学実習II(人体解剖実習)を進めるうえで必須の骨の解剖学名や構造的特徴を学ぶ。この科目で習得した知識や理解が上記の関連科目・実習においても充分活かされることを期待する。

<教科書・参考図書>

書名	著者名	発行所	価格
(組織学実習)			
(参)Ross 組織学(原書第5版)	内山安男 相磯貞和 監訳	南江堂	9,000円 +消費税
(参)立体組織学アトラス	R.クルスティッチ/ 牛木辰男・金澤寛明 訳	西村書店	4,800円 +消費税
(参)新編カラーアトラス組織・細胞学	岩永敏彦・木村俊介・ 小林純子	医歯薬出版	12,000円 +消費税
(骨学実習)			
(教)骨学実習の手引き	寺田春水 藤田恒夫 著	南山堂	4,000円 +消費税

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1~3	総論1：上皮組織と結合組織	様々な器官・組織で見られる上皮組織や結合組織を比較しながら観察することで、その構築上の特徴や多様性を理解する。	渡部 甲賀 春見 森永 (顕微解剖)
4~6	総論2：軟骨組織と骨組織	関節と骨の組織標本を観察し、軟骨組織と骨組織の構築を理解する。また、胎生期の骨の観察により、骨の形成過程を理解する。	〃
7~9	総論3：筋組織	様々な器官・組織で見られる骨格筋、平滑筋、心筋を比較・観察し、各筋組織の特徴や筋の走行方向と切断方向との関係による見え方の違いなどを理解する。	〃
10~12	総論4：神経組織	脊髄、大脳皮質、上頸神経節、三叉神経節の組織標本を観察し、神経細胞や神経膠細胞の種類や特徴を理解する。	〃
13~15	脈管系の組織構築	心臓壁および種々の太さの動脈・静脈の組織標本を観察し、その組織構築を理解する。	〃
16~18	皮膚の組織構築	皮膚の組織標本を観察し、皮膚の一般構造および皮膚の付属器の構造を理解する。	〃
19~21	造血器とリンパ組織の組織構築	骨髄・胸腺・脾臓・リンパ節の組織標本を観察し、これらの組織・器官の構造を理解する。	〃
22~24	消化器の組織構築 (1) 消化管	上部消化管（食道、胃、十二指腸）および下部消化管（空腸、回腸、虫垂、結腸）の組織標本を観察し、各部位の組織構築の差異を理解する。	〃
25~27	消化器の組織構築 (2) 肝臓と膵臓	肝臓と膵臓の組織標本を観察し、その組織構築を理解する。また胆汁の排泄経路の組織構築を理解する。	〃
28~30	消化器の組織構築 (3) 口腔領域	唾液腺（耳下腺、顎下腺、舌下腺）および口腔領域の器官（口唇、歯、舌）の組織標本を観察し、その組織構築を理解する。	〃
31~33	内分泌組織の組織構築	下垂体・甲状腺・副腎・上皮小体の組織標本を観察し、ホルモン産生組織の構造および細胞の特徴を理解する。	〃
34~36	呼吸器の組織構築	鼻腔・喉頭・気管・肺の組織標本を観察し、気道各部の組織構築を理解する。また、ガス交換を行う肺胞の構造を理解する。	〃
37~39	腎泌尿器の組織構築	腎臓・尿管・膀胱の組織標本を観察し、尿を生成・排出する器官の組織構築を理解する。	〃
40~42	男性生殖器の組織構築	精巣、精巣上体・精管・精嚢・前立腺の組織標本を観察し、精子形成過程およびその輸送経路の組織構築を理解する。	〃
43~45	女性生殖器の組織構築 (1)	卵巣の性周期に伴う卵胞の形態学的変化を理解する。	〃
46~48	女性生殖器の組織構築 (2)	性周期と呼応した子宮内膜の周期的変化を理解する。さらに、胎盤の組織構築を理解する。	〃

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
49~51	骨の基本知識	骨学実習の概略と意義を理解するとともに、体幹、上肢、下肢の主要な骨の特徴と基本的な観察方法を学ぶ。	渡部 甲賀 春見 森永 (顕微解剖)
52~54	椎骨と脊柱	椎骨の基本構造、および頸椎、胸椎、腰椎、仙椎（仙骨）の特徴を理解するとともに、椎骨間の連結や脊柱の形状を理解する。	柴田 (整形外科)
55~57	上肢帯および上肢の骨	上肢帯を構成する肩甲骨と鎖骨、および上肢を構成する上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、手指骨の形態と構造を学び、これらの骨が形成する肩関節、肘関節、手関節、手指関節の構造と機能を理解する。	〃
58~60	骨盤と下肢の骨	下肢帯としての骨盤の構成要素と構造を学ぶとともに、下肢を構成する大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、足趾骨の形態と構造、さらにはこれらの骨が形成する股関節、膝関節、足関節の構造と機能を理解する。	〃
61~63	頭蓋骨の基本構造	後期の肉眼解剖実習で必要となる基礎知識として、頭蓋骨の構成と基本構造を理解する。	脇坂 (耳鼻咽喉・頭頸部外科)
64~66	骨学実習のまとめと口頭試問 (1班)	骨学実習の各講義で学んだ知識・理解を深め、口頭試問による評価を受ける。	渡部 甲賀 春見 森永 (顕微解剖)
67~69	骨学実習のまとめと口頭試問 (2班)	〃	〃

36. 形態学実習Ⅱ (必修)

[人体解剖実習、頭蓋の骨学、脳解剖実習、放射線画像実習]

担当教員	◎吉田 成孝、扇谷 昌宏、古部 瑛莉子、田中 佑典、渡部 剛、甲賀 大輔、春見 達郎、森永 涼介、平 義樹、渡邊 尚史、石戸谷 俊太、大屋 明希子		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	後期	3単位	135コマ
履修目的・授業概要			
形態学実習の主な目的は、人体の構造を観察・理解し、さらに個体差の存在を知ることにある。加えて、実際に献体していただいた御遺体に直接触れることにより、将来医師となるために必要な知識・経験・思索をどれだけ積極的に御遺体から受け取ることができかが大切である。それが尊い故人の遺志に沿うことである。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 献体された故人と遺族に対する尊崇の念を持ち、実習に適切な態度で臨むことができる。 ・ 主要な器官を「実習の手引き」の手順に従い適切に剖出でき、成書等を参照することで正常構造と個体差を判別できる。 ・ 主要な器官の位置と他器官との位置関係を説明できる。 ・ 主要な骨格筋を示し、その名称、作用と神経支配を説明できる。 ・ 主要な動脈と静脈を示し、名称と灌流域を説明できる。 ・ 主要な末梢神経を示し、その名称とはたらきを説明できる。 ・ 主要な血管と神経の走行と分岐および他器官との関係を説明できる。 ・ 主要な器官の名称を日本語と英語で言え、その形態とはたらきを概説できる。 ・ 主要な器官の形態や血管・神経の走行などを図示して説明できる。 ・ 人体の単純X線、CT、MRI、超音波エコーの正常像を読影できる。 ・ 頭蓋骨の構成と特徴を概説できる。 ・ 脳・脊髄の動脈の走行を概説できる。 ・ 脳・脊髄の主要な構造およびはたらきを概説できる。 			
授業の形式			
形態学関連の講義は実習に先行して行う。実習では事前にその日の必修事項を知らせる。実習は「解剖実習の手引き」をもとに行うので、必ず持参すること。 1 班4～5名で実習室において実習を行う。構造を総合的に理解できるように、解剖実習の進行中に組織学実習および放射線医学関連の実習を行う。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
あらかじめ到達目標と関連する課題を提示するので、課題に関する予習が1時間程度必要である。また、到達目標が達成できているかを実習後に復習すること。			
成績評価の基準等			
以下の点数を担当コマ数に按分して平均する 1 人体解剖実習(骨学を含む) 成績は実習前の準備状況(予習)と実習中の態度評価(態度が著しく不良だと教員が認めた場合は警告の上減点) 出席状況 40点 1回欠席で5点減点、90分以内の遅刻は3点減点。 登校しない組はmanabaの小テスト課題の得点で出席点とする。 授業中の筆記小テスト 20点 指定した課題(図を描く)からの出題で4点×5回 定期試験 40点 各器官の英語書き取りと指定した課題			
2 組織学実習 出席状況 40点 定期試験 60点			
3 放射線医学講座担当 出席状況 50点 出席回数×16.7点 定期試験 50点 画像上の構造の名称を記述する問題			
1, 2, 3の総合点でアセスメントポリシーに従い成績判定を行う。			
学生へのメッセージ			
解剖実習は、その日に行う実習内容の予習が必須であり、それなしでは効率が悪く、時間内に実習を終了することが困難である。学生諸君の最大限の努力を望む。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) 解剖実習の手びき	寺田春水、藤田恒夫	南山堂	8,030円
(参) あたらしい人体解剖学アトラス 第2版	佐藤達夫(翻訳)	メディカル・サイエンス・インターナショナル	7,700円
(参) CT・MRI画像解剖ポケットアトラス第4版I巻(頭部、頸部)	町田徹(監訳)	メディカル・サイエンス・インターナショナル	4,400円
(参) CT・MRI画像解剖ポケットアトラス第4版II巻(胸部・心臓・腹部・骨盤)	町田徹(監訳)	同上	4,400円
(参) X線画像解剖ポケットアトラス	町田徹(監訳)	同上	4,180円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1 ～ 3	解剖実施についての諸注意	解剖学実習において注意すべきことを銘記する。	吉田 扇谷 古部 田中 (解剖・機能形態)
4 ～ 6	頸部、乳腺、皮静脈・皮神経	前頸部・側頸部の皮剥おおよび筋、血管、神経の剖出、観察を行う。	
7 ～ 9	背部、下肢後面	背部から下肢の皮剥ぎを行う。	
10 ～ 12	背部、殿部	背部および殿部の筋、血管の剖出・観察を行い、構造を理解する。	
13 ～ 15	浅頸部と胸部・腋窩	浅頸部の筋および浅胸筋の構造を観察し理解する。	
16 ～ 18	深頸部と胸部・腋窩	深頸部および浅胸筋の剖出・観察を行い、構造を理解する。	
19 ～ 21	固有背筋、代替後面	固有背筋と下肢後面の筋の観察を行い、構造を理解する。	
22 ～ 24	後頭下、足底、下腿深層	後頭下筋群と下腿深層と足底の剖出・観察を行い、構造を理解する。	
25 ～ 27	腕神経叢、上腕屈側、肩甲骨前面、大腿前面	上腕屈側と大腿前面の剖出・観察を行い、構造を理解する。	
28 ～ 30	肩甲骨前面、前腕屈側、下腿前面・足背	肩甲骨前面、前腕屈側、下腿前面・足背の剖出・観察を行い、構造を理解する。	
31 ～ 33	前腕伸側・手背、下腿全面	前腕伸側・手背と下腿全面の剖出・観察を行い、構造を理解する。	
34 ～ 36	手掌、脊髄	手掌と脊髄の剖出・観察を行い、構造を理解する。	
37 ～ 39	関節	関節の剖出を行い、構造を理解する。	
40 ～ 42	顔面浅層、胸壁、そけい部側腹筋群	表情筋と顔面の神経・血管の剖出、観察を行う。胸腹壁の観察を行い、構造を理解する。	
43 ～ 45	頸部内臓、腹直筋鞘・横筋筋膜と腹膜、臍	深頸部の構造および腹部の筋膜の構造を観察し理解する。	

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員	
46 ～ 48	腹腔と胸腔	腹腔と胸腔を観察し、腹膜・胸膜・心膜の観察を行い、構造を理解する。	吉田 扇谷 古部 田中	
49 ～ 51	頸部内臓、肺	甲状腺や深頸部の血管、神経の剖出、観察を行う。肺門、肺葉、肺区域を理解する。		
52 ～ 54	復習	これまでの復習を行う。		
55 ～ 57	脳出し、縦隔	脳出しを行い、縦隔の剖出と観察を行い、構造を理解する。		
58 ～ 60	頭蓋の骨	頭蓋の基本構造を理解し、構成する各骨及び構造について学ぶ		
61 ～ 63	咽頭、心臓	咽頭と鼻腔、口腔、喉頭との位置関係を観察する。心臓の外観、冠状動脈の走行、心房心室の内景の観察を行い、構造を理解する。		
64 ～ 66	咽頭、縦隔深部	咽頭の構造と後縦隔の構造の観察を行い、構造を理解する。		
67 ～ 69	甲状腺・気管、縦隔深部、腹膜	甲状腺および気管・食道の観察を行い、構造を理解する。腹膜と消化管との関係を理解する。		
70 ～ 72	喉頭、腹部内臓の血管・神経	咽頭と鼻腔、口腔、喉頭との位置関係を観察する。心臓の外観、冠状動脈の走行、心房心室の内景の観察を行い、構造を理解する。		
73 ～ 75	鼻腔、消化管	鼻腔の構造と鼻腔に開く周囲の器官との関係を理解する。胃と腸管の構造を理解する。		
76 ～ 78	咀嚼筋、肝臓	咀嚼筋の成り立ちを観察し、理解する。肝臓の外観と腹膜との関係と肝臓の構造を理解する。		
79 ～ 81	頸胸部上肢解剖像	X線写真およびCT画像から、主に胸部の正常解剖像を学ぶ。		石戸谷 (放射線)
82 ～ 84	舌と口蓋、副鼻腔、十二指腸・膵臓・脾臓	舌、口蓋、副鼻腔の構造を理解する。十二指腸、膵臓、脾臓の位置および十二指腸と周囲の器官との関係を観察する。		吉田 扇谷 古部 田中
85 ～ 87	感覚器の組織構築	視覚器・聴覚器の組織構築を実際に顕微鏡で観察し理解する（講義実習棟4F・第6実習室で実施）。	平 (看護学科) 渡部、甲賀、 春見、森永 (顕微解剖)	
88 ～ 90	目と眼窩、腎と副腎	眼窩・眼球、後腹膜臓器である腎臓と副腎の形態を観察し、構造を理解する。	吉田 扇谷 古部 田中	

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
91 ～ 93	目と眼窩、横隔膜、腰神経叢	眼球および横隔膜を腰神経叢の剖出と観察を行い、構造を理解する。	吉田 扇谷 古部 田中
94 ～ 96	眼球、膀胱	眼球内部および膀胱の観察を行い、構造を理解する。	
97 ～ 99	神経系の組織構築(1)	脊髄・大脳皮質・小脳皮質など、中枢神経系の様々な部位の組織構築を理解する。	
100 ～ 102	腹部・下肢解剖像	CTおよびMRI、X線写真に見られる腹部・下肢の正常解剖像を学ぶ。	大屋 (放射線)
103 ～ 105	舌下神経管、外陰部	舌下神経管と外陰部の構造を理解する。	吉田 扇谷 古部 田中
106 ～ 108	神経系の組織構築(2)	脳幹とそこから発する脳神経を理解する。	吉田
109 ～ 111	中枢神経の概観	血管系を含む中枢神経の外観を観察する。	吉田 扇谷 古部 田中
112 ～ 114	外耳・中耳、骨盤内臓	外耳と中耳を観察し構造を理解する。骨盤内臓の構造を理解する。	
115 ～ 117	第4脳室と延髄、大脳(2)	第四脳室周囲および延髄の構造を観察する。大脳の連合線維とレンズ核、尾状核ならびに間脳を観察する。	
118 ～ 120	脳幹と小脳(2)、大脳(3)	脳幹および小脳の断面を観察する。大脳の断面を観察する。	
121 ～ 123	内耳、翼突管、骨盤神経・血管	内耳および骨盤内の神経と血管を観察し、構造を理解する。	
124 ～ 126	骨盤壁・股関節	骨盤壁と股関節の剖出と観察を行う。	
127 ～ 129	納棺	納棺を行う	
130 ～ 132	組織学実習	脊髄・大脳皮質・小脳皮質など、中枢神経系の様々な部位の組織標本を実際に顕微鏡で観察し理解する（講義実習棟4F・第6実習室で実施）。	平 渡部 甲賀 春見 森永
133 ～ 135	脳解剖像	CTおよびMRI画像に見られる正常脳解剖像（血管系を含む）を学ぶ。	渡邊 (放射線)

37. 生化学実習(必修)

酵素精製、酵素活性測定、
酵素反応速度論、LDH、
アイソザイム

担当教員	◎川辺淳一、山崎和生、矢澤隆志 中島恵一、安田哲、鹿原真樹、 渡辺祐伍		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	前期	1単位	48コマ
履修目的・授業概要			
<p>基礎生化学・生化学1・2で学習するように、生命活動を維持するための複雑多岐にわたる代謝反応は化学反応の調和した連鎖である。化学反応はそれぞれに特異的な酵素によって触媒されているので、各酵素の性質やそのアイソザイムの特性と局在を明らかにすることは、生体活動の基本を理解するばかりでなく、病態とその発症機序の理解、さらに治療法の開発にとっても極めて重要である。近年、分子生物学的手法が急速に発展し、生命現象の解明に大きく貢献しているが、蛋白質/酵素についての解析と理解は分子生物学にとってもその基本である。本実習では、臓器毎に特異的アイソザイムが局在して、各臓器に特徴的なエネルギー代謝を可能にしている乳酸脱水素酵素(Lactate dehydrogenase (LDH))を対象として、本酵素を実際にウシ心筋より調製しその蛋白質/酵素学的性質を解析するとともに、ラットの臓器毎のLDHアイソザイム局在パターンを分析する。これにより、酵素/蛋白質の精製法や基本的取り扱い方、機能や構造の解析法などを学ぶとともに、アイソザイムの局在とその解析の意義を学ぶ。</p>			
到達目標			
GIO			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 蛋白質の基本的な性質を理解し、酵素活性について、数値の意味およびその背景について、説明できる。 2. チームの一員として実験に参加し、結果に貢献できる。 3. 実験結果を正確に記述し、それに基づいて考察できる。 			
SBO			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 蛋白質濃度を測定できる。 2. LDH活性を測定できる。 3. 蛋白質精製の基本的な手技を実践できる。 4. 精製表の意義を理解して作成できる。 5. 酵素反応の基本的解析手法を説明できる。 			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>実習は6人程度のグループで、テキストに沿って行う。実習初日に実習の内容や注意点について詳しく説明する。2日目以降は、基本的に、学生諸君の予習を前提として、実験の方法や注意点について簡単に説明した後、実際の実習にはいる。実習中は、4グループに一名の担当教官が付き、補足する。キーとなる重要な実験は、失敗したときには、うまくできるまでやり直す。また、適時実験結果について担当教官のもとでディスカッションする。実験結果は、教官の指示に従って各自でレポートにまとめ、提出する。なお、上記のように毎回、実習時間の最初にその日の実験内容に関するポイントや注意事項の説明があるので、遅刻しないこと。予めテキストを良く読み、各実験を手際よくできるように計画を立ててくるとともに、疑問点についてはすぐに質問できるように整理しておくこと。実習はグループ毎に行うが、各人が積極的に実験に取り組んで、より多くのことを学んでもらいたい。また、実験結果とそれに関する考察を記述するレポートは、医師あるいは研究者にとっての紹介状/論文に相当するものである。自分以外の人が見て/読んで容易に理解できるように、適切な文章表現で、(グラフ等も含めて)丁寧に、見やすく書くことを念頭において作成し、これを通じてレポート作成の方法とその意義を学んでもらいたい。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>実習当日分の「生化学実習テキスト」を読み、実習の大まかな流れとポイントをそれぞれフローチャートとチェックシートとしてまとめておくこと。実習当日開始前にチューターが確認する。</p>			

成績評価の基準等

実習への出席状況と実習中の実験態度(積極的に実験/ディスカッションを行っているかどうかなど(60%)、提出されたレポートの内容(40%)を合わせて総合的に評価する。レポート提出期限は厳守すること。

学生へのメッセージ(履修上の心得など)

LDHは生化学的興味のみならず、臨床的にも血清検査の項目として汎用されており、肝炎や心筋梗塞において炎症や虚血によって細胞が壊死/破壊された際に細胞外に逸脱し血清中に増加して行く。このような酵素は逸脱酵素と呼ばれLDH以外にもいくつか知られている。LDHの場合にはアイソザイムの臓器特異的分布から体の中の何処で病変が生じているかを推測することができ、極めて有用な検査手段として用いられ、心電図では検知できない心筋梗塞を見出すことも可能である。この実習を通して生化学的知識/技術が臨床医学の中でどの様に活用されているかを肌で感じてもらいたい。実習終了時点において、肝炎の患者さんと心筋梗塞の患者さんとは血清LDH検査の結果がどの様に異なるのか、その分子的基盤はどういう事なのかを明確に心に刻み、皆さんが将来患者さんに説明する立場に立った時にこの実習のことを少しでも思い浮かべて頂ければ、スタッフ一同の望外の喜びである。

教科書・参考図書

書名	著者名	発行所	価格
(教) 生化学実習テキスト	旭川医大生化学講座編		
(参) 基礎生化学実験テキスト	旭川医大化学教室編		
(参) 勉強・研究・発表の技法	草間 悟	南江堂	2,592円
(参) ヴォート基礎生化学(第4版)	(訳) 田宮信雄他	東京化学同人	8,208円
(参) イラストレイテッドハーバー・生化学(原書30版)	(監訳) 上代淑人	丸 善	8,532円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1-6 コマ	ウシ心筋LDHの抽出と硫酸分画	LDHの調製や各種分析に必要な試薬類を調製し、ウシ心筋からLDHを抽出、硫酸分画して、透析を行う。DEAEセルロースカラムクロマトグラフィーの準備を行う。	川辺、山崎 矢澤、江口 安田、鹿原 渡辺
7-12 コマ	ウシ心筋LDHの精製	硫酸分画液のDEAEセルロースカラムクロマトグラフィーを行い、LDHを精製する。蛋白質濃度測定のための検量線を作成し、LDH活性を測定する。	〃
13-15 コマ	ウシ心筋LDHの蛋白質濃度測定と活性測定	粗抽出液、硫酸分画液、およびDEAEセルロースカラムクロマトグラフィーの各画分の蛋白質濃度測定とLDH活性測定を行い、精製表を完成する。	〃
16-21 コマ	ウシ心筋LDHのネイティブポリアクリルアミドゲル電気泳動	各画分のネイティブポリアクリルアミドゲル電気泳動を行い、蛋白質染色と活性染色によってLDHバンドを検出し、アイソザイムパターンを分析する。	〃

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
22-24 コマ	ディスカッションⅠ	1-24コマ分の実験結果の報告とディスカッション。	川辺、山崎 矢澤、中島 安田、鹿原 渡辺
25-26 コマ	反応速度論的解析1	精製標品を用いて、LDHの量を変えて反応の経時変化を測定し、酵素量と活性の関係を調べる。	〃
27-30 コマ	ウシ心筋LDHのSDS・ポリアクリルアミドゲル電気泳動	精製LDH標品のSDS・ポリアクリルアミドゲル電気泳動を行い、LDHのサブユニットの分子量を求める。	〃
31-36 コマ	ウシ心筋LDHの反応速度論的解析2	基質濃度を変えて反応速度を測定し、 K_m , V_{max} を求める。	〃
37-39 コマ	ウシ心筋LDHの反応速度論的解析アドバンス実験	LDH活性のpH依存性など酵素学的に重要な指標を求める。	〃
40-45 コマ	ラット臓器のLDHアイソザイムパターン分析	ラット各臓器の粗抽出液のネイティブポリアクリルアミドゲル電気泳動/活性染色を行い、LDHのアイソザイムパターンを分析する。	〃
46-48 コマ	ディスカッションⅡ	25-43コマ分の実験の結果報告とディスカッション。	〃

38. 微生物学(必修)

[細菌、ウイルス、感染、細胞、免疫]

担当教員			
◎原英樹、松田泰幸、 山内肇、吉田逸朗（非常勤）			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	後期	2単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>感染症は微生物を原因とする疾患であり最も高頻度なヒトの病気である。特にパンデミックにつながる新興感染症や再興感染症には注意を払うべきである。また院内感染も臨床の現場ではたびたび問題となる。</p> <p>本講義では細菌、真菌、ウイルス、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、プリオンなどの微生物の名称、性状、病原因子などを学び、微生物と生体との相互作用、発症機序、病状、診断および治療の基礎を理解することを目的とする。</p>			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・病原体を中心とした微生物の一般名と学名を記憶し識別できる。 ・各微生物の構造、形態、特徴を説明できる。 ・各微生物の感染標的、感染経路、増殖形式、疾病を引き起こす機序を説明できる。 ・主要な病原因子を記憶し、病原機序を説明できる。 ・各感染症における免疫応答を説明できる。 ・各感染症に対する診断法、予防法、治療法の原理を理解し説明できる。 ・消毒法、滅菌法、感染防止法を説明できる。 ・現在の医療における治療やワクチンの限界を把握しこれからの改善点を説明できる。 ・新興感染症や再興感染症を記憶し、パンデミックとなる理由および対策を説明できる。 			
授業の形式			
<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業 ・出席に関して <p>各講義中に出席カードを配布し回収することで出席を確認する。その後の提出および疑問のあるものは一切受け付けない。公休の場合のみ出席扱いとする。出席率が大学の規定に満たないものは試験を受験できない。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
講義開始前までにmanabaで講義資料をダウンロードしておくこと。			
成績評価の基準等			
出席30点、定期試験70点で評価し、総合60点以上を合格とする。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>これまで微生物学に触れたことがない学生にとっては記憶しなければいけない知識が多い。記憶した情報をもとに理解する段階まで進むと記憶が定着しやすい。授業中に他の作業をやっている学生も多いが、耳からは新しい情報を仕入れて自主学习で定着させるようにしてください。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参)戸田新細菌学(改訂34版)	吉田眞一 他 編	南山堂	16,000円+税
(参)イラストレイテッド微生物学(原著3版)	Cynthia Nau Cornelissen	丸善出版	7,800円+税
(参)医科ウイルス学(改訂第3版)	高田賢蔵	南江堂	8,500円+税
(参)標準微生物学(第13版)	中込治 監修	医学書院	7,000円+税
(参)シンプル微生物学(改訂第6版)	小熊恵二 他 編	南江堂	3,200円+税

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	細菌学序論	細菌学の現代医学における位置を概観し、その到達点と現在の課題を把握すると共に、病原細菌の分類法、形態学的特徴並びに構造を理解する。	原松田山内吉田(非常勤)
2	細菌増殖	細菌の増殖様式と代謝経路の概要を習得し、例外を除く多くの細菌が、二分裂により数十分の世代時間で増殖する原核生物であることを理解する。	
3	細菌遺伝学	数千遺伝子から成る細菌ゲノムの構造、突然変異と誘導変異、形質転換、接合、ファージ変換と形質導入等の概要を習得し、細菌変異の概念を理解する。	
4	滅菌・消毒、感染症法	全ての微生物を対象とする滅菌、並びに病原細菌に対する消毒の方法とその機序を習得し、院内感染防止策としてのスタンダードプレコーションの理念を学ぶ。	
5	細菌感染1	病原細菌の病原因子、生体への侵入経路、感染様式等の概要及び細菌感染に対する生体反応の概要を習得し、細菌感染症が宿主-病原体の相互作用により成立することを理解する。	
6	細菌感染2	病原細菌が生産する毒素の種類、作用機序、毒素が引き起こす病態等について学習し、細菌毒素の概要を理解する。	
7	細菌感染治療1	細胞壁合成阻害剤を始めとする抗菌薬の細菌増殖抑制機序を習得し、選択毒性の概念を理解する。	
8	細菌感染治療2	抗菌薬耐性菌の種類およびその耐性化機序を習得し、耐性菌蔓延防止策としての抗菌薬適正使用の理念を学ぶ。	
9	病原球菌1	スタフィロкокカス属の性状並びに病原因子を習得し、その感染症及び食中毒の概要を学ぶ。	
10	病原球菌2	ストレプトкокカス属、エンテロкокカス属、並びにナイセリア属による感染症の概念を学ぶ。	
11	病原桿菌1	サルモネラ属、赤痢菌属、エシェリヒア属、ヒブリオ属、シュードモナス属、ボルデテラ属、レジオネラ属、ヘモフィルス属による感染症及び食中毒の概念を学ぶ。	
12	病原桿菌2	クロストリジウム属、コリネバクテリウム属、バシラス属、リステリア属による感染症及び食中毒の概念を学ぶ。	
13	病原桿菌3	マイコバクテリウム属結核菌、非定型抗酸菌群等による感染症の概要を把握し、再興感染症としての結核症の現状を理解する。	
14	病原桿菌4	スピロヘータ並びにらせん菌群による感染症の概要を学ぶ。	
15	マイコプラズマ等	細菌類似の形態を有しながら、細菌とは異なる病原微生物の生物学的特徴、増殖様式、並びに感染様式等を習得し、その感染症の概念を学ぶ。	

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	ウイルス学序論	ウイルス学の現代医学における位置を概観し、その到達点と現在の課題を把握すると共に、病原ウイルスの分類法並びに形態学的特徴を学ぶ。	原 松田 山内 吉田 (非常勤)
17	ウイルス増殖	ウイルスの宿主細胞への吸着・侵入から始まる増殖機構並びに増殖様式を習得し、ウイルスが偏性細胞内寄生性微生物であることを理解する。	
18	ウイルス遺伝学1	RNA型及びDNA型のウイルスゲノムの構造、並びに点変異、分子間組換え、分節ゲノム組換え等によるウイルス遺伝子の変異機構を学ぶ。	
19	ウイルス遺伝学2	ウイルスの抗原性、病原性、薬剤感受性等の変異様式、遺伝子工学による組換えベクター及びワクチンの種類、作製、接種法を理解する。	
20	ウイルス感染治療	抗ウイルス化学療法薬の構造と作用機序を習得し、ウイルス感染症に対する治療の基礎を学ぶ。	
21	ウイルス感染1	ウイルスの生体への侵入経路、感染成立条件、感染様式、臓器親和性等を習得し、ウイルスによる標的臓器障害作用機序を学ぶ。	
22	ウイルス感染2	ウイルス感染に対する生体反応の概要及びウイルス間の干渉現象を習得し、ウイルス感染症の病態決定因子並びに業室診断法の基礎を学ぶ。	
23	RNAウイルス1	ミクソウイルス科、ピコルナウイルス科に属する、代表的なヒト病原ウイルスの性状、感染様式と標的臓器、並びに病態を理解する。	
24	RNAウイルス2	トガウイルス科、フラビウイルス科に属する代表的なウイルスの性状、感染様式と標的臓器、並びに病態を学ぶ。	
25	RNAウイルス3	レトロウイルス科に属する代表的なウイルスの性状、感染様式と標的臓器、並びに病態を学ぶ。	
26	腫瘍ウイルス	ヒト発癌性を有するRNA腫瘍ウイルス及びDNA腫瘍ウイルスの性状、感染様式を習得し、これらのウイルスによる細胞癌化の機序を理解する。	
27	DNAウイルス1	ポックスウイルス科、アデノウイルス科、パポウイルス科に属する代表的なウイルスの性状、感染様式と標的臓器、並びに病態を学ぶ。	
28	DNAウイルス2	ヘルペスウイルス科に属する代表的なウイルスの性状、感染様式と標的臓器、潜伏感染と回復感染の機序、並びに病態を学ぶ。	
29	肝炎ウイルス論	肝炎ウイルスHAV、HBV、HCV、HDV、HEV、HGV及びTTVの各ウイルスの性状、感染様式、並びに病態を学ぶ。	
30	新興感染症等	近年見出されたプリオン病を含む新たな感染症とその病原体を概観し、新興感染症並びに再興感染症の概念とその現状を学ぶ。	

39. 寄生虫学(必修)

[感染症 寄生虫 診断 治療 予防]

担当教員				◎迫 康仁、伴戸寛徳、大西健児 (非常勤)			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数				
第2学年	後期	1単位	15コマ				
履修目的・授業概要							
<p>かつて日本には回虫・鉤虫・鞭虫などの寄生虫が蔓延していたが、高度経済成長と共に衛生環境のインフラが整備されたため、感染者が激減した。しかし、最近では国際交流が活発化し、食生活も多様化したため、いままでも日本に存在しなかった寄生虫が輸入感染症として散見されるようになった。また、自然環境が改変され、ヒトと野生動物の生活圏が重なるようになったため、人獣共通感染症として寄生虫疾患が重要視されている。このような社会状況を踏まえ、医学生として最低限必要な寄生虫学の知識を身につける。</p>							
到達目標							
<p>① 寄生虫という病原体の分類基準を説明できる。 ② 寄生虫の地理的分布の特徴を説明できる。 ③ 寄生虫の感染様式を説明できる。 ④ 寄生虫によって引き起こされる病態を説明できる。 ⑤ 寄生虫疾患の診断について説明できる。 ⑥ 寄生虫疾患の治療について説明できる。 ⑦ 発展途上国や熱帯に寄生虫疾患が多い理由を説明できる。 ⑧ 寄生虫対策と国際貢献の意義を解釈できる。</p>							
授業の形式							
manaba上にアップロードされた資料、スライド、web配信などを使用して講義を行う。							
準備学習(予習・復習)等の内容と分量							
寄生虫学の教科書を一冊用意することが望ましい。下に参考図書として代表的な教科書を列挙してあります。履修内容からキーワードを抽出し、教科書などで予習してから授業に臨んで下さい。							
成績評価の基準等							
出席(20%)、manabaでの小テスト(20%)、筆記試験(60%)の合計で評価する。 出席が学則の規定数に満たない場合は、不可とする。							
学生へのメッセージ(履修上の心得など)							
質問等は講義時間内に限らず、いつでも対応しますので、遠慮せず積極的にお尋ね下さい。							

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	寄生虫学概論	寄生と共生現象を定義し、日本と世界における寄生虫病の現状について概説する。	迫 伴戸 大西 (非常勤)
2	原生生物①	人体寄生性の原生生物について概論を述べ、各論に入る。アメーバ類の赤痢アメーバ、大腸アメーバ、ネグレリアについて解説する。	
3	原生生物②	節足動物が媒介するキネトプラスト類のトリパノソーマとリーシュマニアについて解説する。	
4	原生生物③	アピコンプレックス類の特徴を述べ、トキソプラズマ、クリプトスポリジウム、サイクロスポーラ、バベシアについて解説する。	
5	原生生物④	アピコンプレックス類の中でも人体寄生虫として最も重要なマラリア原虫について解説する。	
6	原生生物⑤	ジアルジア、トリコモナス、バランチジウムについて解説する。また、酵母様真菌とみなされるニューモシスチスについて述べる。	
7	扁形動物①	吸虫類についての概論を述べ、各論に入る。経口的に感染する肺吸虫、肝吸虫、肝蛭について解説する。	
8	扁形動物②	吸虫類の中でも重要な住血吸虫について解説する。また、横川吸虫、棘口吸虫についても解説する。	
9	扁形動物③	条虫類についての概論を述べ、各論に入る。裂頭条虫、大複殖門条虫、孤虫症について解説する。	
10	扁形動物④	無鉤条虫、有鉤条虫、エキノкокクス、小型条虫、縮小条虫について解説する。	
11	線形動物①	線虫類についての概論を述べ、各論に入る。経口的に感染する回虫、アニサキス、蟯虫について解説する。	
12	線形動物②	経口的に感染する鉤虫、東洋毛様線虫、広東住血線虫について解説する。また、自家感染を繰り返す糞線虫についても解説する。	
13	線形動物③	顎口虫、東洋眼虫、旋尾線虫、糸状虫、鞭虫、旋毛虫について解説する。	
14	有害生物	皮膚寄生性のダニ類、有毒な動植物、およびヒトに不快感を与える動物について解説する。	
15	臨床寄生虫学	臨床の現場で遭遇する頻度の高い寄生虫症を解説する。	

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) 標準医動物学	石井 明 他	医学書院	7,350
(参) 医動物学	吉田幸雄 他	南山堂	5,700
(参) 図説 人体寄生虫学	吉田幸雄 他	南山堂	9,000
(参) 寄生虫学テキスト	上村 清 他	文光堂	5,250

40. 薬理学(必修)

担当教員			
◎中山恒、結城幸一、田崎嘉一、坂本央、 蓑島暁帆、佐藤伸之、牧野洋 岩崎肇、吉川雄郎 (非常勤)			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	後期	2単位	30コマ
履修目的・授業概要			
薬物(化学物質)の生体への薬理作用を理解する。まず、薬物の用量と作用の関係、薬物の作用原理を学ぶ。次いで、これらの基本をふまえて、様々な疾患に使用される薬物についてその作用メカニズムと副作用を理解し、説明できるようになることを目的とする。			
到達目標			
様々な病態に使用される薬物の作用機序を理解し、薬理作用が説明できる。 この講義で扱う薬物は、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、中枢神経作用薬、利尿薬、泌尿・生殖器作用薬、全身麻酔薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬、心不全治療薬、抗狭心症薬、抗高血圧薬、抗不整脈薬、免疫抑制薬、抗アレルギー・呼吸器作用薬、消化器作用薬、糖尿病治療薬、抗感染症薬、消毒薬、内分泌系作用薬、血液作用薬、抗がん薬である。			
授業の形式			
講義は、原則全員登校の対面授業です。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<ul style="list-style-type: none"> 講義は、予習していることを前提に行われる。講義前に履修主題部分を参考図書で学習すること。 講義後は、配布したプリントと参考図書で内容の定着に努める。 			
成績評価の基準等			
筆記試験(80%)、出席点(20%)の合計で評価する。なお、筆記試験の受験資格として規定の出席率(授業時間数の3分の2以上)は必須とする。 筆記試験は期末に実施し、60点以上を合格とする。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
薬がはたらく「メカニズム」の理解をめざして下さい。どのような原因で病気が起こり、薬が体内のどのような分子に作用して、効果を示すのか、という問いを頭の中に置きながら講義に臨むことで、理解が深まります。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 13th Edition	Laurence Brunton 他著	Pergamon	31,530円 +税
(参) カツング薬理学	Katzung, B.G 著 柳澤輝行 訳	丸 善	17,000円 +税
(参) NEW 薬理学 第7版	田中千賀子 他	南 江 堂	8,800円 +税
(参) イラストレイテッド薬理学	柳澤輝行 監修	丸 善	7,800円 +税
(参) 標準薬理学 第7版	鹿取 信 他	医学書院	6,500円 +税

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	薬理学総論	薬理学とは何か。その基本概念や方法論を理解する。内容には、薬物の用量と作用の関係、薬物動態、薬物の副作用の理解も含まれる。	中山(薬理)
2	交感神経作用薬	アドレナリン作用薬、アドレナリン受容体遮断薬などの各受容体サブタイプへの特異性を理解し、その作用や臨床応用を学ぶ。	中山(薬理)
3	副交感神経作用薬	コリンエステラーゼ阻害薬などのコリン作用薬と、ベラドンナルカロイド、合成類似薬などの抗コリン薬の特色、作用や臨床応用を学ぶ。	中山(薬理)
4	中枢神経作用薬1 : 麻薬性鎮痛薬と薬物依存	モルヒネなどの麻薬性鎮痛薬の作用機構や臨床応用を学ぶ。また、依存形成薬物についての理解を進める。	吉川(非常勤)
5	中枢神経作用薬2 : 睡眠薬と抗不安薬	睡眠薬と抗不安薬の概念やその作用機構を理解する。ベンゾジアゼピン系薬物や、オレキシン系およびメラトニン系に作用する薬物についての理解を進める。	吉川(非常勤)
6	中枢神経作用薬3 : 統合失調症治療薬	統合失調症の概念や病態生理を理解する。フェノチアジン誘導体やブチロフェノン誘導体など統合失調症治療薬の作用機構や臨床応用を身につける。	田崎(薬剤部)
7	中枢神経作用薬4 : 躁うつ病治療薬	躁うつ病の概念や病態生理を理解する。三環系抗うつ薬や炭酸リチウムなど躁うつ病治療薬の作用機構や臨床応用を学習する。	田崎(薬剤部)
8	中枢神経作用薬5 : 脳変性疾患治療薬	パーキンソン病やアルツハイマー病の疾患概念や病態生理を理解する。ドパミン作用薬や中枢性抗コリン薬の臨床応用や副作用を学ぶ。また、脳循環・代謝改善薬の概念を学ぶ。	田崎(薬剤部)
9	腎臓の生理と利尿薬	腎臓が持つ尿生成に関する生理機構を理解し、各利尿薬の作用機構や臨床応用について学ぶ。また、利尿薬の副作用を理解する。	中山(薬理)
10	泌尿・生殖器作用薬	子宮の収縮や弛緩を制御する薬物の作用機構と臨床応用について学ぶ。また、排尿障害の病態生理と、その治療に関連する薬物の臨床応用、副作用などを理解する。	中山(薬理)
11	全身麻酔薬	吸入麻酔薬と静脈麻酔薬から成る全身麻酔薬の作用機構や臨床応用について学ぶ。特に麻酔深度や副作用など実際の臨床で遭遇する局面に沿って理解する。	牧野(麻酔科)
12	筋弛緩薬、局所麻酔薬	神経筋接合部の構造や生理をアセチルコリン受容体を中心に理解する。脱分極性、非脱分極性筋弛緩薬の作用機構や臨床応用を学ぶ。また、局所麻酔薬の作用機構や臨床応用について理解する。	岩崎(麻酔科)
13	心不全治療薬	心不全の病態生理を理解して、心不全治療薬の作用機構や臨床応用について学習する。従来の治療薬の他、新規治療薬(ARNI, SGLT2阻害薬など)についても学ぶ。	坂本(臨床検査)
14	抗狭心症薬・抗高血圧薬	狭心症の病態生理を理解し、亜硝酸化合物、β遮断薬、カルシウム拮抗薬などの作用機構を学ぶ。また、各病型に応じた薬物の使用法を理解する。高血圧の分類やその成因を理解し、その治療に使用される薬物の作用機構、適応、副作用などを学ぶ。	蓑島(循環器・腎臓内科)
15	抗不整脈薬	不整脈の種類や成因を理解し、その薬物療法を学ぶ。また、クラスI~クラスIVの抗不整脈薬の使用機構を理解し、その臨床応用について学習する。	佐藤(循環器・腎臓内科)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	生理活性物質	生理活性物質とはどのようなものか、その構造と作用機序を学ぶ。さらに、生理活性物質の中で、プロスタノイドとその産生阻害薬である非ステロイド性抗炎症薬の臨床応用を学ぶ。	結城 (薬理)
17	免疫治療薬	生体が、どのようにして免疫を獲得していくかの基本を学ぶ。その知識を基に、様々な免疫抑制薬、免疫増強薬の作用機構の違いについて学ぶ。	結城 (薬理)
18	抗アレルギー薬	アレルギーは、免疫学的過剰反応であることを学ぶ。この知識を基に、様々な抗アレルギー薬の作用機構の違いについて学ぶ。	結城 (薬理)
19	呼吸器作用薬	呼吸は中枢性に制御されているが、炎症時などには咳や気道分泌が亢進する。そこで、呼吸興奮薬、鎮咳薬、去痰薬、気管支拡張薬などの呼吸器作用薬について学ぶ。	結城 (薬理)
20	消化器作用薬	消化性潰瘍の成因と病態生理を理解する。ついで、消化性潰瘍治療薬の作用機構を学ぶ。また、制吐薬、止しゃ薬、下剤など消化器作用薬の基本を学ぶ。	結城 (薬理)
21	糖尿病治療薬	インスリンに対する反応性による糖尿病の病型分類の基本を理解し、その病態生理を学ぶ。また、インスリンや経口糖尿病薬の作用機構について学ぶ。	結城 (薬理)
22	抗感染症薬1	抗生物質の分類の基本を理解し、その作用機序や抗菌スペクトラムについて学ぶ。さらに、臨床応用に向けて、その副作用や耐性菌の出現についての理解を深める。	中山 (薬理)
23	抗感染症薬2 ・ 消毒薬	抗感染症薬1のつづき。 さらに、感染予防に用いられる消毒薬について学ぶ。	中山 (薬理)
24	内分泌系薬物1	副腎皮質ホルモン及び性ホルモンなどのステロイド性ホルモンの生理的役割、作用機構の基本と臨床応用を理解する。また、核内受容体の概念を学ぶ。	結城 (薬理)
25	内分泌系薬物2	視床下部-下垂体系ホルモンと甲状腺ホルモンを中心として、関連する薬物の作用機構、臨床作用、副作用などについて理解する。	結城 (薬理)
26	内分泌系薬物3	ビタミンDと副甲状腺ホルモンを中心として、カルシウム代謝を理解する。また、カルシウム代謝の異常に基づく疾患や骨粗鬆症治療薬について学習する。	結城 (薬理)
27	血液作用薬1	血液凝固系と線溶系の基本概念と疾患との関係を理解し、これらを制御する薬物についての理解を深める。血小板の役割や機能制御を理解し、抗血小板薬の臨床応用を学ぶ。	中山 (薬理)
28	血液作用薬2	貧血とは何か。鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、腎性貧血などの病態生理や治療薬について理解する。	中山 (薬理)
29	抗がん薬	基本的な抗がん薬の作用機序を学ぶ。	中山 (薬理)
30	抗がん薬	がんの分子標的治療の作用機序を学ぶ。	中山 (薬理)

41. 基礎医学特論(必修)

[基礎医学、社会科学、科学サロン、医学こぼれ話]

担当教員 扇谷昌宏、甲賀大輔、野口智弘、入部玄太郎、川辺淳一、矢澤隆志、中山 恒、高澤 啓、大栗敬幸、原 英樹、神田浩路、吉岡英治、◎迫 康仁、浅利 優、船越 洋			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	後期	1単位	15コマ
履修目標・授業の概要 基礎医学、社会医学の最前線のテーマについて、各講座から1コマずつ講義をしてもらい、科学的、社会的な背景とともに研究内容を理解する。			
到達目標 基礎医学講座で行われている研究の概要を知り、レポートを書くことを通し理解を深める。			
授業の形式 manaba上にアップロードされた資料、スライドを使用して講義を行う。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 各講師のテーマに関する基本知識や研究背景などを教科書、参考書などで最低1~2時間程度、予習(または復習)してから、授業に臨むこと。			
成績評価の基準等 オムニバス形式の授業であり、試験による評価になじまないため、出席とレポートを総合した評価とする。出席は学則の通り3分の2以上である。出席の確認はmanabaの小テストを使用して実施する。出席した講義中から少なくとも3つを選び、履修内容を自分自身でさらに発展させた内容を含むレポートを、manabaのレポート提出機能を使用して提出する。			
学生へのメッセージ 基礎医学系教室ではどのような研究が行われているのかを具体的に知り、基礎研究が医学の中でいかなる意義を持ちうるのかを考える機会にして欲しい。学生諸君が近い将来、臨床医もしくは基礎医学者としてのそれぞれの道を選ぶ際に、私たちの講義が何らかのヒントになれば幸いである。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
ゲノム編集の衝撃「神の領域」に迫るテクノロジー(参考図書)	NHK「ゲノム編集」取材班	NHK出版	1,430円
CRISPR(クリスパー)究極の遺伝子編集技術の発見(日本語)	ジェニファー・ダウドナ(著)/ノーベル賞受賞者	文藝春秋 333ページ(単行本)	1,760円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	心臓力学研究の最前線	マクロの心臓の動きとミクロの細胞内メカニズムを同時に観察する独自の心臓力学研究技術を紹介する。	入部(生理学/自律機能)
2	高次脳機能と姿勢・運動の統合	随意運動にはその動作に最適な姿勢制御が先行する。これを可能にするのが高次脳機能であることを理解する。	野口(生理/神経機構)
3	ステロイドホルモン産生とその作用	生体の機能維持に重要なステロイドホルモンの産生調節と作用機構の概要について理解する。	矢澤(生化学/統合生命科学)
4	毛細血管からみる再生と老化	多細胞生物が「物」でなく「生物」として維持・活動する現象を、全身に分布する「毛細血管」という視点から理解する。	川辺(生化学/統合生命科学)
5	自殺の疫学研究	当講座では、自殺の疫学研究を行っている。本講義では、いくつかの研究内容を紹介する。	吉岡(社会医学/公衆衛生学・疫学)
6	微生物と自然免疫	微生物に対して我々の体は様々な免疫応答を引き起こす。生体の恒常性維持に必要なものもあれば、感染防御に寄与する炎症応答、病態の悪化につながるものなど多様な宿主・微生物相関があることを理解する。	原(感染症/微生物)
7	腫瘍免疫の話をしようじゃないか	当講座で行われている腫瘍免疫の研究を中心に、腫瘍細胞と免疫系との関係について解説する。	大栗(病理学/免疫病理)
8	国境を越えて考える疾病対策	海外、特にアジアやアフリカの発展途上国をフィールドとした社会医学領域における研究と活動について紹介する。	神田(社会医学/衛生学・健康科学)
9	がんの微小環境に迫る	がんはその微小環境をも再構築して悪性化する。そのメカニズムを、「酸素」に焦点を当てて紹介する。	中山(薬理学)
10	神経再生研究—再生因子およびゲノム編集からの挑戦	神経再生の特殊性を解説するとともに、新しい神経再生医療確立に向けて進める「神経再生因子」と「ゲノム編集」を用いた研究の一端を紹介する。	船越(先端医科学)
11	立体組織学：走査電子顕微鏡を駆使した組織・細胞微細構造の解明	最新の電子顕微鏡3Dイメージング技法を紹介しながら、これらの手法により明らかになった組織・細胞・オルガネラの形態的多様性について解説する。	甲賀(解剖学/顕微解剖)
12	DNA鑑定の実際	DNAの個人差、DNA鑑定の現状と問題点について理解する。	浅利(法医学)
13	疾患横断的病理学研究の魅力	がんで異常発現する細胞間接着分子、病理検体を用いたプロテオーム解析によるバイオマーカー探索を例に、疾患横断的な病理学研究の魅力を紹介する。	高澤(病理学/腫瘍病理)
14	君はグリア細胞を知ってるかい？	グリア細胞は中枢神経系の機能に重要な役割を果たしている。グリア細胞に関する新しい知見を紹介する。	扇谷(解剖学/機能形態)
15	寄生虫疾患における免疫・遺伝子診断法	寄生虫疾患を例に、流行の現状、問題点、免疫・遺伝子診断法の必要性、重要性、有用性、限界と問題点について理解する。	迫(感染症/寄生虫学)

42. 生理学実習・演習(必修)

(生理学実習)

<p>担当教員</p> <p>生理 (自律機能) : 入部玄太郎, 金子智之, 千葉弓子 生理 (神経機能) : ◎高草木薫, 千葉龍介, 野口智弘, 高橋未来 研究技術支援センター: 笹島仁, 宮園貞治</p>			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第2学年	後期	1単位	45コマ
<p>履修目的・授業概要</p> <p>(1) 自らが被験者となって実験を行い、「機能形態基礎医学」の生理学講義で学んだ健康な人体機能のメカニズムについての理解を深める。 (2) 基礎医学の知識を研究・臨床に応用するための論理と思考を育む。</p>			
<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 心電図の導出原理とその臨床的意義を説明できる。 耐糖能の概念を正しく理解し説明できる。 呼吸機能の評価法と呼吸機能障害について説明できる。 体位変換に起因する循環調節のメカニズムを説明できる。 運動神経と感覚神経の活動電位の伝導メカニズムを説明できる。 脳波の記録に基づいて、脳活動の仕組みを解明できる。 			
<p>授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)</p> <p>(1) 17-8名程度の小グループに分かれ、6種類の実習テーマをローテーションする形で行う。自らが被験者または験者となる。得られた結果についてレポートを作成する。 (2) 生理学実習の内容に関連した臨床機能検査のデモンストレーションを通して基礎医学的知識が臨床的にどのように役立つかを理解するように努める。</p>			
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量</p> <p>何れの実習テーマも既に履修した内容であることから、今年度の生理学講義の内容を復習することが必要である。また、標準生理学などの教科書や参考図書を利用した復習も効果的である。既に臨床医学の講義が開講されている場合は、その講義内容と合わせて本実習に臨むことも有意義であり、内科学書の各項目における「総論」を学習することは、生理学実習が臨床的に非常に重要であることを理解する上で極めて有用である。</p>			
<p>成績評価の基準等</p> <p>実習の全テーマの履修を必須とする。各テーマにおいて、実習および確認テストを全て終了した時点で、当該実習項目を履修したと判定する。この履修判定は履修単位を保証するものではない。履修単位の獲得に必要な評価点は、実習に臨む態度および確認テストの成績に基づいて総合的に判定する。なお、履修の必要条件を満たさない者、および、履修条件を満たしても、理解が不十分と判定された者には再実習を課す。</p>			
<p>学生へのメッセージ(履修上の心得など)</p> <p>本実習では、巧みな生理機構の仕組みを理解・実感することが重要である。この実習を通して「機能形態基礎医学で履修した内容」と「臨床医学で学ぶ病態」とを関連付けながら正常な生体機能とその破綻としての病態生理学について適切に理解できるよう心掛けて勉学して戴きたいと願う。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
生理学実習書	生理学講座教員	生理学講座	実習前に配布
<ul style="list-style-type: none"> 第2年次の機能形態基礎医学講義において配付した資料 生理学教科書(標準生理学9-10版など) 内科学書各該当項目(特に「総論」を参照) 			

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
45	ガイダンス	実習機器の取り扱い方、人体を用いての実習であることに関する注意事項などを確認する。また、実習内容に関する講義を行う。	全教員
	心電図	ヒトの心電図記録の分析を通じて、心電図の導出原理や心電図波形と刺激伝導系との関係を理解する。	入部
	糖代謝	空腹時血糖を測定後、ブドウ糖が含まれた飲料を摂取して糖負荷試験を行うことで耐糖能の概念及びその評価原理を理解する。	千葉(弓)
	呼吸	呼吸生理の基本的評価方法である呼吸機能検査に関して、その基礎と記録・測定方法を理解する。	金子
	循環調節	体位変換や交感神経・副交感神経を興奮させた場合の循環調節のメカニズムを理解する。	千葉高橋
	脳波	ヒトの脳波を導出・記録し、意識の調節や感覚-運動に関与する大脳皮質活動を理解する。	高草木宮園
	神経伝導	運動神経と感覚神経の伝導速度を測定し、神経伝導を理解する。	野口笹島
	実習試験	本実習で学習した内容に対する理解度を確認するための試験を行う。	全教員

必修科目

【第3学年】

43. 医学英語Ⅲ(必修)

担当教員	◎三好暢博・桑名保智		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	1単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>医学英語Ⅲは、医学科3年生を対象とした、講師別の英語のオンライン授業です。この際の問題は、ベースラインとなる学力の担保です。このため、この授業では、ALCのe-learning systemを導入し、ベースラインとなる医学英語の基礎学力の育成を目的とします。</p>			
到達目標			
<p>①カルテを利用した医療英会話を正確に聞き取れるようになる。 ②平易な医療関連記事を正確に読解できるようになる。 ③医学英語の基礎語彙を理解し、算出できるようになる。</p>			
授業の形式			
<p>医学英語Ⅲは、医学科3年生を対象とした、講師別の英語の授業です。学生の皆さんは、講師別クラスに分かれて20時間の授業を受けます。医学英語Ⅲの残りの10時間をこの時間にあてます。情報処理実習室で行います。みなさんは自分のペースで教材を学習し、授業で個別指導を受けてください。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>コース全体の所要時間は、個人差もありますが、30時間を想定しています。授業が9時間ですので、約20時間分は自宅学習が必要となります。試験準備に向けた反復練習の時間を入れると、1回1時間程度の自習・反復練習を必要とすると考えてください。</p>			
成績評価の基準等			
<p>①ALC Net AcademyNEXT：医学・医療英語コース全体を授業終了時まで終了（正答率 60%以上） ②試験で65%以上の得点をする。</p>			
学生へのメッセージ			
指示を守り地道に取り組んでください。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
特に無し			

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	ガイダンス	E-learning 教材の説明・確認試験	三好桑名
2	演習	リスニング Unit 001-004 リーディング Unit 001-004 ポキャブラリー Unit 001-005	〃
3	演習	リスニング Unit 005-007 リーディング Unit 005-007 ポキャブラリー Unit 006-010	〃
4	演習	リスニング Unit 008-Review002 リーディング Unit 008-Review002 ポキャブラリー Unit 011-015	〃
5	演習	リスニング Unit 011-014 リーディング Unit 011-014 ポキャブラリー Unit 016-020	〃
6	演習	リスニング Unit 015-017 リーディング Unit 015-017 ポキャブラリー Unit 05-06 確認テスト	〃
7	演習	リスニング Unit 018-Review004 リーディング Unit 018-Review004 ポキャブラリー Unit 025-029	〃
8	演習	リスニング Unit 021-024 リーディング Unit 021-024 ポキャブラリー Unit 030-033	〃
9	演習	リスニング Unit 025-027 リーディング Unit 025-027 ポキャブラリー Unit 034-037	〃
10	演習	リスニング Unit 028-Review006 リーディング Unit 028-Review006 ポキャブラリー Unit 038-確認テスト 10	〃

43. 医学英語Ⅲ(必修)

担当教員	桑名保智・◎三好暢博		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	1単位	30コマ
履修目的・授業概要 「書く」という作業を念頭に置いた、医学英文の「読解」ができるようになる。			
到達目標 ①英語で文章を作成する際に必要な、文体及びパラグラフに関する重要概念を説明できるようになる。 ②IMRAD Structureを理解し、生物医学論文の統一投稿規定（バンクーバースタイル）の概要を説明できる。 ③生物医学論文の統一投稿規定（バンクーバースタイル）に依拠し、論文の内容を整理できる。			
授業の形式 冒頭の10分を確認テストにあて、授業はオンラインで実施する演習を行う。演習課題は授業終了までに提出する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Elements of Styleを教材として、文体に関する予習と復習を行っててください。各回の学習時間が2時間程度となるようにします。到達度の確認は小テストを行います。			
成績評価の基準等 授業参加（演習課題の提出）50% Reading Assignment 50% (Elements of Styleの小テスト) 秀：90%以上・優：80%以上-90%未満・良：70%以上-80%未満・可：60%以上-70%未満・不可：60%未満			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1-2	ガイダンス	学習目的・到達目標の説明	三好桑名
3-4	講義・演習	背景知識の確認	"
5-6	講義・演習	パラグラフの基本ルール・語彙選択の重要性	"
7-8	講義・演習	英文パラグラフ作成のための知識	"
9-10	講義・演習	パラグラフの内部構造	"
11-12	講義・演習	英文パラグラフ作成・テーマ決定 生物医学論文の統一投稿規定について	"
13-14	講義・演習	Introduction	"
15-16	講義・演習	Methods	"
17-18	講義・演習	Results	"
19-20	講義・演習	Discussion	"

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
The Elements of Style, Fourth Edition	William Strunk Jr., E. B. White	Longman	

43. 医学英語Ⅲ(必修)〔Oral Communication Skills〕

担当教員	Gwendolyn Gallagher (非常勤)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	1単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>In this class we will study current medical and health topics by reading articles which appear in newspapers for the general English-speaking public. Each week we will discuss one article. Students will prepare for class by reading the article and writing a short comment for homework, and selecting some point of interest for class discussion on that topic. At the beginning of each lesson we will also have an unstructured "news time", intended to improve students' general fluency and listening ability and to raise their comfort level in English.</p>			
到達目標			
<p>Students will be able to find basic facts, express an opinion and raise questions about health-related articles in English-language newspapers.</p>			
授業の形式			
<p>Photocopied articles will be distributed weekly. A dictionary will also be necessary.</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>Before each class students will read a newspaper article. They should read the article twice, and underline any words or phrases that they think are useful, interesting, or confusing. Students will then write a comment about the article and a discussion question on a separate paper to hand in and the beginning of the next class. In addition, they should select at least one point about which to comment in class discussion. We will also have an unstructured opportunity to talk about news, small or large, personal or public, at the beginning of each class. In order to participate, students should reflect on recent happenings in their life before each class and think about how to explain them in English. Students should expect to do about one to two hours of preparation, depending on the article.</p>			
成績評価の基準等			
<p>Good attendance and oral participation are absolutely essential. There will be one written test using newspaper articles. Class participation 50%, Achievement 50%. GRADING CRITERIA: S: 90 points and above, A: more than 80 points, B: 79 ~ 70, C: 69 ~ 60, D(Fail): 59 ~ 0.</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	Introduction	Getting to Know You: Class mechanics	Gallagher (非常勤)
2/3	Newspaper Article	Class Discussion	"
4/5	"	Class Discussion	"
6/7	"	Class Discussion	"
8/9	"	Class Discussion	"
10/11	"	Class Discussion	"
12/13	"	Class Discussion	"
14/15	"	Class Discussion	"
16/17	"	Class Discussion	"
18/19	"	Test	"
20	"	Last discussion	"

43. 医学英語Ⅲ(必修)〔Oral Communication Skills (Discussion)〕

担当教員	David Fairweather (非常勤)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	1単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>There are three goals in this class -to improve critical thinking skills as well as discussion and reading skills. Students will have a chance to analyse and discuss important topics. Reading skills will also be focused on. As well as improving their English, students will be expected to critically evaluate the issues discussed in class. After this class you should feel better prepared for conferences and seminars where you are required to state your opinion and present research.</p>			
到達目標			
<p>This class will be conducted online with written discussions. Students should become proficient at online discussions in English and feel confident expressing their opinions about important issues in the world</p>			
授業の形式			
<p>Students will be put into pairs or groups and asked to discuss topics. The nature of the topic will be different in each class. Students will be asked to evaluate and propose solutions to problems</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>For some of the classes, students will need to do research before the class. There will be readings handed out for each class.</p>			
成績評価の基準等			
<p>Good attendance and oral participation are absolutely essential. 50% of the grade is for achievements. This is based on presentations and assignments leading up to the presentations. 50% of the grade is for class participation. This includes attendance, active participation in class and work done outside of class. A score of 'S' will be given to students who achieve 90% or more on their presentations and class participation. A score of 'A' will be given to students with a score of 80% to 89%. A score of 'B' will be given to students who attain an average of 70% to 79%. Students will be given a 'C' if they attain an average of 60% to 69% on the presentations and class participation.</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>You will get out of this class what you put into it. Active participation in class is essential.</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1/2	Introduction	First discussion. We discuss current issues in the world and talk about issues to be discussed later.	Fairweather (非常勤)
3/4	Warm-up discussion activity	Depending on outcome of the discussion in the previous class some of the topics below may or may not be discussed.	"
5/6	Global warming	Is global warming real? What causes it? What can you do to stop/prevent global warming?	"
7/8	Issues in medicine	What are the biggest problems facing the medical world today?	"
9/10	"	"	"
11/12	Energy	Where does our energy come from? What are the advantages/disadvantages of different types of energy?	"
13/14	Diet	What is the best way to stay in shape. How much should the government be involved in keeping people healthy?	"
15/16	Electric Vehicles	Should the government subsidize electric vehicles?	"
17/18	Review	Review	"
19/20	Review	Review	"

44. 医学チュートリアルⅡ・Ⅲ(必修)

担当教員	長岡泰司、高原幹、その他チューター		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後期	Ⅱ～Ⅲ単位 各1単位	Ⅱ・Ⅲ各20コマ ※自学自習時間を除く
履修目的・授業概要			
<p>チュートリアル教育は本学の教育目標（本冊子冒頭参照）のうち、特に1、3、4の目標を達成するために展開されています。医学チュートリアルⅡ、Ⅲでは、paper patientを通じての臨床医学的知識の整理を行うことで、臨床実習（ベッドサイド・ラーニング：BSL及びクリニカル・クラークシップ：CCS）の準備を行います。将来にわたり医学・医療の進歩及び発展に寄与するための自己学習能力の涵養を目指しています。</p>			
到達目標			
<p>第3学年に展開される医学チュートリアルⅡ～Ⅲでは、以下の各項目を達成することを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自学自習の態度を習慣づける。 2. 他者との協調性を高め、コミュニケーション能力を修得する。 3. プレゼンテーション能力を修得する。 4. 広い視点から自ら考え的確に問題点を抽出できる能力を修得する。 5. 問題解決のための情報の収集・分析能力を修得する。 6. 医師、医学者として求められる高い倫理観を修得する。 			
授業の形式			
<p>医学チュートリアルでは、6～7名でグループを作り、毎週2回、グループワークを行う問題解決型学習（PBL：Problem Based Learning）の形式になります。</p> <p>PBLでは、チューターから与えられた課題（複数枚の課題シートが、進行に合わせて順次配付される）について、グループの学生同士で話し合うことを通して、学習すべき事項を自ら見出し、その事項についての学習目標（どのような内容を、どのくらいまで学ぶか）を設定し、学習方法も自分で考えます。次回のチュートリアルまでの自習時間を利用して自学自習に取り組みます。次回のセッションでは、それぞれが自学自習してきた事柄を基に新たな課題に取り組みます。</p> <p>医学チュートリアルⅡ～Ⅲでは、模擬カンファレンス（診断、検査、治療）的なチュートリアルが行われます。チュートリアルで要求される態度、技能に加え、将来医師として必要とされる医学、医療の知識についても幅広くカバーされ、課題を通じて確かな知識が身に付くことが期待されます。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>前半は事前配布課題が中心となるので、配付資料につき十分検討すること。扱う課題については自己ノートを作成し、継続的に記載すること。</p>			

成績評価の基準等

医学チュートリアルⅡ・Ⅲでの成績評価

到達目標に記した6つの項目について、皆さんの行動を観察するチューターからの報告をもとに行います。また、多肢選択式問題（MCQ：multiple choice questions）形式の試験結果も加味されます。

チューター評価：MCQ=1：1で6割以上を合格とします。

便宜上、本履修要項では、医学チュートリアルⅡ～Ⅲを同一欄に掲載していますが、それぞれ、独立した授業科目であるため、それぞれ三分の二以上の出席を受験資格とし、それぞれの授業終了後にMCQ形式の試験を行います。令和6年度は、授業形態や進行の具合により受験資格が変更される可能性があります。Ⅱ～Ⅲの何れか1つでも単位を修得できなかった場合は、留年となりますので、注意すること。

学生へのメッセージ(履修上の心得など)

皆さんが取り組むチュートリアルは、小グループ活動で行われ、かつ自学自習が求められるものですから、知識、態度、技術（技能）の進捗を観察する場として特に適しています。医学科第1学年で展開された、医学チュートリアルⅠで習得した自学自習の習慣、良好なチームワーク、コミュニケーション能力などを医学チュートリアルⅡ～Ⅲにおいて将来遭遇するであろう臨床事例を用いた課題（事例）によって、より向上させ、臨床実習（BSL及びCCS）によって実践能力を磨きます。

自学自習時間を有効に活用してチュートリアルの課題に取り組んでください。ただし、自学自習時間は、自由時間ではありませんので注意のこと。

〈教科書・参考図書〉

将来必要となる基本的な教科書、参考書はチューターと相談したり、他学年の履修要項を参考として、先行して購入するのも良いでしょう。文献、インターネットの情報の利用も適宜行ってください。

45. 医療社会学実習(必修)

[医師-患者関係 コミュニケーション インタビュー 医療面接]

担当教員	◎工藤直志(社会学)、佐藤伸之(教育センター)、中嶋駿介(救急科)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後期	1単位	33コマ
履修目的・授業概要			
<p>医療の実践において、医師は患者が抱く医療への期待や患者の社会的背景(家庭や職場の人間関係、経済的状况など)を理解して患者と良好な関係を築くことが重要であるとされている。そこで、病気をもつ個人としての患者に対して質の高い医療を実践できる医師となるために、患者とのコミュニケーションの特徴やインタビューの技法などを理解して模擬的なインタビューに取り組むことで、患者とのコミュニケーションについて学ぶ。</p>			
到達目標			
<p>一般目標： 患者の考え方や価値観を尊重して患者との良好な関係を築くことができる医師となるために、適切なコミュニケーションを通じて他者(患者)の個別的・社会的背景を理解して説明できるようになる。</p> <p>個別目標： ・医師-患者関係論の理解にもとづいて、医師と患者のコミュニケーションの特徴を説明することができる。 ・説明(解釈)モデルと患者の語りをもつ重要性を説明することができる。 ・インタビューの基本的技法を用いることができる。 ・共感的な態度をとり適切な言葉づかいで他者とコミュニケーションができる。 ・他者(患者)の語りを共感的に受けとめて、他者の苦境を想像できる。 ・自省的な態度をとることで自身のコミュニケーションの質を改善できる。</p>			
授業の形式			
<p>(1) 講義：manabaのコンテンツで公開される講義資料を用いて受講してください。授業時間内に、学生同士のディスカッションやmanabaを利用した小テストを実施することがあります。</p> <p>(2) グループワーク(模擬インタビュー)：3人のグループに分かれて、そのうちの1人がインタビューを行い、残りの2人がインタビューの様子を観察して、グループでディスカッションします。インタビューには、履修生の全員が取り組みます。授業の形式やスケジュールはガイダンスで詳しく説明します。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>コミュニケーションを扱った授業や実習の内容をしっかりと復習しておいてください。配付した講義資料を熟読して授業内容を確認し、授業内容と関連する文献を読むことで、コミュニケーションやインタビューへの理解を深めてください。</p>			
成績評価の基準等			
<p>授業への参加と態度(約30%)、グループワーク(約40%)、レポート課題(約30%)で成績評価を行います。 グループワークで態度不良を指摘された場合など、授業内で不適切な態度や行動があった場合は、成績評価の対象外となります。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>医療社会学実習では、コミュニケーションやインタビューについて学んだことを模擬インタビューで実践してもらいます。コミュニケーションの重要性和難しさを知り、自身のコミュニケーションについて見直してみてください。</p>			

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1~3	オリエンテーション	授業概要、授業形式、スケジュール、実習内容などを理解する。	工藤
4~6	コミュニケーションの基礎	一般的なコミュニケーションの特徴やメカニズムを学ぶ。	工藤
7~9	医師-患者関係	医師-患者関係論の概略を理解する。	工藤
10~12	医療コミュニケーション	患者と医師の対面でのコミュニケーションの特徴を理解する。	工藤
13~15	患者の語り	説明(解釈)モデルと患者の語りの重要性を理解する。	工藤
16~18	インタビューの技法	インタビューにおける実践的な技法(スキル)を学ぶ。	工藤
19~24	インタビューの実践	各グループで模擬患者へのインタビューに取り組む。	佐藤 工藤
25~27	ディスカッション	各グループで模擬インタビューの内容について、フィードバックを行う。	佐藤 工藤
28~30	医療面接	医療現場における実際のコミュニケーションの特徴を理解する。	中嶋
31~33	まとめ	本授業で得られたことを振り返り、レポート課題に取り組む。	工藤

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参)入職1年目から現場で活かせる!ところが動く医療コミュニケーション読本	中島 俊	医学書院	2,200円
(参)ヘルスコミュニケーション学入門	石川ひろの	大修館書店	1,800円
(参)模擬患者とつくる医療面接	寺沢秀一・林寛之・氏家靖浩編	ナカニシヤ出版	2,000円
(参)病いは物語である	江口重幸	金剛出版	5,200円

46. 医療概論Ⅲ(必修)

[医の倫理、漢方医学、ワークライフバランス]

担当教員	◎野津司、西川祐司、加藤育民、及川 欧、掘 淳一、長谷部拓夢、佐藤泉、神保静夫(非常勤)、井川哲子、上田ゆき子(非常勤)、二輪草推進委員、井上裕靖		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	1単位	16コマ
履修目的・授業概要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医師の法的・倫理的な責務に関する考え方と知識を身につける。 2. 現在の日本における医療の政策や制度の歴史と保健医療統計について理解する。 3. 先端医学研究と治療の最前線について学ぶ。 4. 医療専門家としての職務と、社会人・家庭人としての生活をバランスをとって両立する事の必要性を理解する。 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関係法規や世界的に著名な倫理規範に定められた医師の責務などを具体的に列挙できるとともに、それら相互の関連性についても説明できる。 2. 東洋医学における証を説明でき、基本診療科における漢方処方具体的な例を挙げることができる。 3. 医師として働きながら、自身や同僚の良好なワークライフバランスの維持をはからせるための具体的な方法を挙げることができる。 			
授業の形式			
プリント資料に基づく講義を主体とする。対面授業、manaba、zoomを併用する予定である。また、医師のワークライフバランスについて、この分野の専門家によるセミナーと先輩医師の体験談の聴講、小グループによるワークショップと発表会を行なう。こちらはmanaba、zoomを使用して行う予定である。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
シラバスに記載されている履修内容について教科書参考書等にて予習してくること。講義終了後は、配布されたプリントや講義内容を整理し内容のまとめを行うこと。			
成績評価の基準等			
定期試験を行う。全問CBTあるいは国家試験レベルの択一問題で制限時間は60分とする予定であるが、事情によっては変更することもあり得る。講義における三分の二以上の出席をもって定期試験の受験資格とする。追試験は、本試験と同様の形式で行う。ワークライフバランスについては、出席状況、グループ討論での発言状況、発表内容、提出レポートにより評価し、可否を判定する。成績評価は、ワークライフバランス授業の合格と、試験(60%)と小テスト(40%)両方で正答率60点以上を目安として合格とする。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
医師の法的責任の内容は「モデル・コア・カリキュラム」に示されている項目のうち、「A. 基本項目」の発展的な部分と「F. 医学・医療と社会」の基本的な部分に相当します。漢方医学は、基本的な知識から漢方医学を概説できることを目指します。さらに医療人として活動するうえで、地域社会・家庭生活・環境とのバランスを考えることは、医療人であっても一社会人でもあることから避けて通る事は出来ません。よき医療人としての素養を身につけて下さい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税抜)
(参) 働き方の男女不平等理論と実証分析	山口 一 男	日本経済新聞出版社	3,520円
(参) 学生のための漢方医学テキスト	日本東洋医学会 学術教育委員会	南 江 堂	2,750円
(参) 医学生のための漢方・中医学講座	入 江 祥 史	医歯薬出版株式会社	5,060円
(参) 漢方治療のファーストステップ	松 田 邦 夫	南 山 堂	4,950円
(参) 基本がわかる漢方医学講義	日本漢方医学教育協議会	羊 土 社	2,420円
(参) 皮膚科ジェネラリスト漢方	橋 本 喜 夫	メディカルユーコン	4,180円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	医の倫理と研究者の倫理(1)	医の倫理と研究者の倫理について学ぶ。	西川(学長)
2	医の倫理と研究者の倫理(2)		
3	内科疾患と漢方	内科でよく遭遇する症状・症候に対する漢方薬を学ぶ	長谷部(消化器内科)
4	整形外科領域における漢方診療について	整形外科領域の疾患に対する漢方薬治療・鍼灸治療について学ぶ	神保(非常勤)
5	皮膚科と漢方	皮膚疾患に対する漢方	井川(皮膚科)
6	女性と漢方	女性の関連疾患に使用する漢方薬を学ぶ。	加藤(産婦人科)
7	ワークライフバランス	医師のワークライフバランス。医師として働きながら自分自身や同僚の子育てや介護などの家庭生活との両立を図ることの重要性を理解する。具体的事例にあたって、どう考え、どのような制度や設備を利用し、どう行動すべきかを判断することができる。	二輪草推進委員
8			
9			
10			
11			
12			
13	証と生薬実習	東洋医学的な証を理解し、実際の診療に応用できる様、腹診、舌診、脈診の実習を行う。温液の漢方を体験する。	加藤 及川 長谷部 佐藤 上田(非常勤) 神保(非常勤)
14			
15	泌尿器科疾患と漢方	泌尿器科疾患に効く漢方薬を学ぶ。	掘(泌尿器科)
16	漢方総論	なぜいま東洋医学を学ぶべきなのか。漢方への序章	及川(リハビリテーション科)

47. 病理学(必修)

[病理学、病態生理学、病理学総論、病理学各論]

担当教員	高澤啓、西川祐司、田中宏樹（病理学講座腫瘍病理分野） ◎小林博也、長門利純（病理学講座免疫病理分野） 谷野美智枝、上小倉佑模（病理部） 佐藤啓介、柳内充、北村哲也（非常勤）		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	3単位	45コマ
履修目的・授業概要			
<p>病理学（pathology）は疾患の原因と成り立ちを解明することを目的としており、基礎医学と臨床医学の橋渡的な性格を持つ学問領域である。本科目では、病理学総論と各論を可能な限り系統的に講義し、病理学の全体像を示したい。本科目の履修目的は、病理学的な疾患のとらえ方の基本を学び、さまざまな臓器系の多様な疾患の病態生理学を理解する上での応用力をつけることである。解剖学、組織学などの形態学の基盤の上に、生化学、生理学、分子生物学などの知見を総合し、病態を深く理解する習慣を身につけて欲しい。これは、今後の臨床医学の学習に有効であるだけでなく、卒業後、医療や医学研究の発展に貢献していく上でも欠かせないものである。</p>			
到達目標			
<p>一般目標（GIO） 様々な疾患を理解するために必要な基本的な病理学的な異常を説明できる。各臓器系でみられる主要な疾患の病態生理学を説明できる。</p> <p>行動目標（SBO）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学の基本的な考え方を述べるとともに、医学における病理学の役割を説明できる。 2. 細胞傷害とそのメカニズムについて概説できる。 3. 組織修復と再生について概説できる。 4. 炎症とその病態生理学的な意義について説明できる。 5. 免疫異常とこれによる疾患について概説できる。 6. 病原体の感染による疾患について概説できる。 7. 腫瘍の基本を理解し、病理学的に説明できる。 8. 消化管疾患、肝胆膵疾患、造血器系疾患、循環器系疾患、代謝疾患、神経系疾患、女性器・男性器疾患、内分泌系疾患、骨軟部・関節疾患などの病態生理学を概説できる。 			
授業の形式			
<p>最初に9回にわたり病理学総論を講義し、その後、病理学各論として各臓器系の代表的な疾患の病態生理について解説する。授業中、授業終了後、課外時間にかかわらず疑問点は遠慮なく質問して欲しい。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>各コマの履修主題につき、教科書および参考書を読み予習すること。また、講義終了後は履修内容についてまとめを行うこと。</p>			
成績評価の基準等			
<p>後期試験週に試験を行う。それぞれ3分の2以上の講義に出席した学生に受験資格を与える。試験問題には多岐選択、記述など様々な形式が含まれる。6割以上の正答率をもって合格とする。追・再試験は本試験と同様の形式で行う。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>病理学を学ぶことは、これまでに得た基礎医学の知識を統合し、今後臨床医学を学ぶ基盤づくりをするためにきわめて重要なステップである。本科目で習得した病理学の基本をもとに各人が自分に合った教科書または参考書を用いて積極的に学習するようにして欲しい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease (9th Ed)	Kumar, Abbas, and Aster	Elsevier Saunders	21,000円
標準病理学(第7版)	仁木、小田	医学書院	12,100円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	病理学概論、細胞傷害	病理学の基本的な考え方を理解し、細胞傷害について学ぶ	高澤(腫瘍)
2	組織の再生と修復	組織の再生と修復について理解する	高澤(腫瘍)
3	炎症概論、急性炎症	炎症とは何かを学び、急性炎症について理解する	長門(免疫)
4	慢性炎症、特異性炎	慢性炎症、特異性炎について理解する	小林(免疫)
5	感染症1	病原体の感染による疾患について学ぶ	小林(免疫)
6	感染症2	病原体の感染による疾患について学ぶ	小林(免疫)
7	循環障害	循環障害の基本を理解する	高澤(腫瘍)
8	腫瘍1	腫瘍の基本的性質を理解する	田中(腫瘍)
9	腫瘍2	腫瘍の基本的性質を理解する	田中(腫瘍)
10	消化管の病理1	口腔・食道疾患、胃の非腫瘍性疾患の病態を学ぶ	高澤(腫瘍)
11	消化管の病理2	胃の腫瘍性疾患の病態を学ぶ	高澤(腫瘍)
12	消化管の病理3	小腸・大腸の非腫瘍性疾患の病態を学ぶ	高澤(腫瘍)
13	消化管の病理4	小腸・大腸の腫瘍性疾患の病態を学ぶ	高澤(腫瘍)
14	肝胆膵の病理1	肝不全、黄疸などの病態を学ぶ	高澤(腫瘍)
15	肝胆膵の病理2	ウイルス性肝炎、肝硬変の病態を学ぶ	高澤(腫瘍)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	肝胆膵の病理3	肝の腫瘍性疾患の病態を学ぶ	高澤(腫瘍)
17	肝胆膵の病理4	胆道系・膵疾患の病態を学ぶ	高澤(腫瘍)
18	造血組織の病理1	正常血球の形態・機能を理解する	長門(免疫)
19	造血組織の病理2	血液疾患の分類を理解する	長門(免疫)
20	造血組織の病理3	血液疾患の病態を学ぶ	長門(免疫)
21	循環器系の病理1	虚血性心疾患の病態を学ぶ	小林(免疫)
22	循環器系の病理2	心内膜・弁膜・心筋疾患の病態を学ぶ	小林(免疫)
23	循環器系の病理3	血管疾患の病態を学ぶ	小林(免疫)
24	呼吸器の病理1	呼吸器の病態生理を理解する	谷野(病理部)
25	呼吸器の病理2	拘束性肺疾患、閉塞性肺疾患の病態を学ぶ	谷野(病理部)
26	呼吸器の病理3	肺炎、肺腫瘍の病態を学ぶ	谷野(病理部)
27	泌尿器の病理1	腎疾患の病態生理を理解する	小林(免疫)
28	泌尿器の病理2	糸球体腎炎、間質性腎炎、腎腫瘍の病態を学ぶ	小林(免疫)
29	泌尿器の病理3	尿管・膀胱・尿道疾患及び腎生検の実際を学ぶ	柳内(非常勤)
30	内分泌・代謝1	脳下垂体・甲状腺の疾患の病態を学ぶ	上小倉(病理部)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	内分泌・代謝2	副腎疾患の病態を学ぶ	上小倉(病理部)
32	内分泌・代謝3	脂質・糖・タンパク質代謝障害を学ぶ	上小倉(病理部)
33	内分泌・代謝4	脂質・糖・タンパク質代謝障害を学ぶ	上小倉(病理部)
34	神経の病理1	神経病理学の基本と外傷、循環障害を学ぶ	西川(腫瘍)
35	神経の病理2	神経系の感染症、代謝障害、脱髄疾患、神経変性疾患の病態を学ぶ	西川(腫瘍)
36	神経の病理3	神経系腫瘍、末梢神経障害の病態を学ぶ	西川(腫瘍)
37	皮膚の病理1	皮膚病理学の基本と非腫瘍性疾患を学ぶ	高澤(腫瘍)
38	性器疾患の病理1：女性器(1)	子宮および附属器疾患の病態を学ぶ	佐藤(非常勤)
39	性器疾患の病理2：女性器(2)	乳腺疾患の病態を学ぶ	長門(免疫)
40	性器疾患の病理3：男性器	精巣・前立腺疾患の病態を学ぶ	佐藤(非常勤)
41	歯科・口腔の病理1	歯科口腔病理の基本を学ぶ	北村(非常勤)
42	歯科・口腔の病理2	歯科口腔疾患の病態を学ぶ	北村(非常勤)
43	皮膚の病理1	皮膚の腫瘍性疾患を学ぶ	高澤(腫瘍)
44	骨軟部・関節の病理	骨軟部組織・関節疾患の病態を学ぶ	高澤(腫瘍)
45	予備		

48. 薬理学実習(必修)

担当教員	中山 恒、◎結城幸一、谷内秀輔、小林之乃		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	1単位	45コマ
履修目的・授業概要			
薬理学実習は、生体に薬物を投与し、得られた結果から妥当な結論を考察することにより、講義で得た知識を定着させることを目的としている。実習では、薬物に対する生体反応をグラフ化し、各薬物の薬理作用について考察する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 消化管運動に対する薬物の薬理作用を説明できる。 麻薬性鎮痛薬の作用機序を説明できる。 キサンチン誘導体の薬理作用を説明できる。 医薬品開発における二重盲検法の特徴を説明できる。 交感神経系薬物の心臓、血管に対する薬理作用を説明できる。 			
授業の形式			
<ul style="list-style-type: none"> 実習は、いくつかの小グループに分かれ、動物を使った各実習項目をローテーションして行う。 実習終了後、各薬物が生体内のどこにどのような薬理作用を及ぼしたのかを考察する。 状況に応じて、実習内容に変更が生じた場合は、manabaで通知する。 			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
薬理学実習は、動物に薬物を投与する前にその反応を予想し、薬物投与後、予想通りか、違う場合、その理由はどうしてか、を考えながら進める実習である。よって、実習内容の予習が必須である。各実習の前に必ず実習書や薬理学関連参考書をよく読み、実習目的を理解して実習に臨むこと。実習終了後は、各実習で出てきた薬物の薬理作用を復習すること。			
成績評価の基準等			
<ul style="list-style-type: none"> レポート等の提出物60点、実習態度40点の合計点で評価する。 正当な理由のない未受講、提出物の未提出は10点減点。 			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
実習の目的を十分理解し、実習に関連した生理、解剖、生化学的知識、使用する薬物の薬理作用を予習しておくこと。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参)NEW 薬理学 第7版	田中千賀子 他	南江堂	8,800円 +税
(参)はじめの一步の薬理学 第2版	石井 邦雄 他	羊土社	2,900円 +税
(参)標準薬理学 第8版	飯野 正光 他	医学書院	6,800円 +税

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1 ～ 4	実習準備	<ul style="list-style-type: none"> 実習内容や注意点などを把握する。 マウスを使って、保定や薬物の投与方法を学ぶ。 	中山 結城 谷内 小林
5 ～ 13	消化管運動に対する薬物の作用	ラット摘出腸管に対するアセチルコリンの収縮反応や、それに対するアトロピンの拮抗作用を測定し、消化管運動に及ぼすこれら薬物の薬理作用を学ぶ。	
14 ～ 22	麻薬性鎮痛薬の評価	Haffner法を用い、モルヒネの鎮痛効果を評価する。さらに、モルヒネの作用に対するナロキソンの影響についても学ぶ。	
23 ～ 31	暗算作業効率に対するカフェインの効果	カフェインの精神運動亢進作用を、被験者の暗算作業を指標に観察し、キサンチン誘導体の薬理作用や二重盲検法の特徴について学ぶ。	
32 ～ 42	血圧と心拍数に対する薬物の作用	アドレナリンなどの薬物をラットに投与し、血圧と心拍数にどのような影響を及ぼすかを測定し、それらの薬理作用について学ぶ。	
43 ～ 45	発表討論会	グループごとに実習の結果や考察について発表し、討論を行う。	

49. 微生物学実習(必修)

[細菌、ウイルス、ゲノム、培養、検査]

担当教員	◎原英樹、松田泰幸、山内肇、吉田逸朗 (非常勤)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	0.5単位	24コマ
履修目的・授業概要			
病原微生物の検出・分離・同定並びに諸性状の検定に関する実験を行う。ウイルス・細菌に対する理解を深めるとともに、感染症診断における基礎的知識と技術を習得する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・無菌操作ができる。 ・病原体の消毒と滅菌方法を適切に選ぶことができる。 ・滅菌器具や装置を正しく扱うことができる。 ・培地を適切な方法を用いて作製することができる。 ・培地への細菌の接種と培養ができる。 ・塗抹標本作製し、グラム染色を行うことができる。 ・顕微鏡を正しく扱い細菌の基本的な形態等特徴を説明できる。 ・細菌の性状確認試験方法を説明できる。 ・細菌の薬剤感受性試験方法を説明できる。 ・ウイルスに対する抗ウイルス剤の活性評価方法を説明できる。 ・ウイルスの感染価を培養細胞を用いて算出することができる。 ・インフルエンザウイルスのHA価を赤血球を用いて算出できる。 			
授業の形式			
実習1. 細菌検出法 培地作製法、細菌接種法および培養法、性状確認・判定、細菌染色法 実習2. ウイルス感染価の測定と抗ウイルス剤感受性試験 単純ヘルペスウイルスに対する抗ウイルス剤の増殖抑制効果の測定 実習3. インフルエンザウイルスのHA価測定法 赤血球凝集反応によるインフルエンザウイルスの定量 実習項目ごとに、実習に関する解説、注意事項の伝達を受けた後、少人数のグループを単位として実習を進める。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
実習を進めるに当たっては、実習内容の概略を理解していることを前提として解説を行うため、実習書を中心に予習が必須である。実習中に配布された予習レポートは次回の実習開始時に提出する。実習終了後は、各実習について各自レポートを作成し、提出する。			
成績評価の基準等			
出席、実習態度状況(8%)、レポート(92%) 原則的に、公欠以外の欠席は認めない。出席、実習態度状況については、実習前の説明をきちんと聞き、かつ実習に取り組んでいた場合に1日あたり1点とする。レポートは実習を行う前に提出する予習レポート及び実習終了後のレポートの内容によって評価する。なお、予習レポート及び実習終了後レポートの提出は指定された日時以降は一切受け付けられないので注意すること。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
病原微生物を扱うので、実習室には時間厳守で出席し、当日の解説・注意事項について作業前によく理解すること。実習室では指定の予防衣を必ず着用すること。荷物は実習に関係のあるものだけにとどめ、飲食・携帯電話及び土足入室は厳禁です。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) 微生物学実習書	微生物学講座	微生物学講座	無料配布

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員	
1	オリエンテーション	実習における注意点の確認と実習方法について把握する。	原 松田 山内 吉田 (非常勤)	
2	培地作製法(実習1)	細菌を培養するための培地を作製する。ブイヨン培地、普通寒天斜面培地、マッコンキー平板培地の粉末を水解し、滅菌して無菌培地とする。この実習により、各種培地の性状及び滅菌法に関する理解を深める。		
3				
4		培地作製法(実習1)(続き)		TSI半高層培地、薬剤感受性試験用寒天培地、BHI寒天平板培地の粉末を水解し、滅菌して無菌培地とする。
5	細菌染色法(実習1)	染色標本の作製と細菌染色法について理解し、実際に模擬検体を用いて練習し、技術を習得する。標本の鏡検を通じて観察の基本操作を学ぶ。		
6				
7				
8	細菌接種法および培養法(実習1)	無菌操作法、細菌接種法等の基本を習得する。標準菌株が含まれている模擬検体を培地に接種し、画線塗抹する。		
9				
10				細菌接種法および培養法(実習1)(続き)
11	性状確認・判定(実習1)	各種培地に発育したコロニーの形態や培地の変化等の観察ポイントを学び、各細菌を識別できるように観察の基本を習得する。また、グラム染色を行い、発育したコロニーのグラム陽性・陰性判定を行う。薬剤感受性試験では、ディスク法における薬剤感受性の判定法を習得する。		
12				
13				
14	細菌染色法(実習1)(続き)	染色標本の作製と細菌染色法について理解し、実際に模擬検体を用いて練習し、技術を習得する。標本の鏡検を通じて観察の基本操作を学ぶ。		
15				

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	細菌染色法 (実習1) (続き)	染色標本の作製と細菌染色法について理解し、実際に模擬検体を用いて練習し、技術を習得する。標本の鏡検を通じて観察の基本操作を学ぶ。	原 松田 山内 吉田 (非常勤)
17			
18			
19	ウイルス感染価の測定と抗ウイルス剤感受性試験 (実習2)	単純ヘルペスウイルスを接種したVero細胞をあらかじめ固定、染色した標本を用いて、形成されたプラークを観察・計測して、抗ウイルス剤による抗ウイルス活性を理解する。この実習により、感染性ウイルス検出法としてのプラーク法を習得し、ウイルスによる細胞変性効果（CPE）、抗ウイルス剤によるウイルス増殖抑制作用等に関する理解を深める。また、TCID ₅₀ によるウイルス定量法についても学ぶ。	
20			
21			
22	インフルエンザウイルスのHA価測定法 (実習3)	インフルエンザウイルスHA抗原を用いて、ニワトリ赤血球凝集反応を定量的に行い、ウイルスの赤血球凝集素価（HAT）を測定する。この実習により、ウイルス定量法としての赤血球凝集反応法を学び、インフルエンザウイルスのヘマグルチニンによる細胞への吸着に関する理解を深める。	
23			
24			

50. 寄生虫学実習(必修) [感染症、寄生虫症、病理、診断]

担当教員	迫 康仁、◎伴戸 寛徳		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	0.5単位	21コマ
履修目的・授業概要			
この実習では寄生虫に対する理解を深めることを目的とし、以下実習を行う。			
① ヒトに寄生し病気を引き起こす原生生物類、条虫類、吸虫類、線虫類などの形態観察を行う。 ② 寄生虫症の病理組織標本を観察し、寄生虫の病態を理解する。 ③ 寄生虫症をより深く理解するために①および②で観察したものを、色鉛筆でスケッチする。(スケッチしたノートは出席確認のために毎回提出する) ④ 一部の寄生虫標本・病理標本を展示するので、それらを観察する(スケッチの必要はない)			
到達目標			
寄生虫の形態や寄生虫症の病理組織の観察を基に寄生虫症を診断出来るようになる。			
授業の形式			
顕微鏡や実体顕微鏡などを用いて指定された寄生虫標本ならびに病理組織標本を観察し、スケッチをする。スケッチしたノートは提出する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
寄生虫学の教科書を一冊用意することが望ましい。実習の前に教科書をよく読み、理解していることが重要である。			
成績評価の基準等			
出席・実習態度(30%)、レポート(30%)、実習テスト(40%)で評価する。			
学生へのメッセージ			
質問等は実習時間内に限らず、いつでも対応しますので、遠慮せず積極的にお尋ね下さい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) 標準医動物学	石井 晃 他	医学書院	7,350円
(参) 医動物学	吉田 幸雄 他	南山堂	5,700円
(参) 図説 人体寄生虫学	吉田 幸雄 他	南山堂	9,000円
(参) 寄生虫学テキスト	上村 清 他	文光堂	5,250円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
21	原生生物類の観察	マラリア原虫、トリパノソーマ、トキソプラズマ、ランブル鞭毛虫など、人体寄生性の原生生物について、染色標本を顕微鏡観察する。また、カ、ハエ、ダニなど医学上重要な節足動物を供覧する。	迫 康仁 伴戸 寛徳
	条虫類の観察	多包条虫、有鉤条虫、無鉤条虫、裂頭条虫の形態と病理組織標本を観察し、条虫類の感染様式と病害性を学ぶ。	
	吸虫類の観察	住血吸虫、肺吸虫、棘口吸虫、横川吸虫、肝蛭の形態と病理組織標本を観察し、吸虫類の感染様式と病害性を学ぶ。	
	線虫類の観察	食品媒介性線虫類(アニサキス、旋毛虫)と土壌媒介性線虫類(回虫、鞭虫)の形態と病理組織標本を観察し、線虫類の感染様式と病害性を学ぶ。	
	実習テスト	実習で学習した寄生虫症に対する理解度をはかるために試験を実施する。	

51. 病理学実習(必修)

(病理学)

担当教員 高澤 啓、上小倉佑機、藤井裕美子、 田中宏樹 (病理学講座腫瘍病理分野) ◎小林博也、大栗敬幸、長門利純、小坂 朱、 柳内 充、青木直子 (病理学講座免疫病理)			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	1単位	45コマ
履修目的・授業概要 病理学実習の目的は、これまでに生命科学、基礎医学で履修した多岐にわたる内容を、疾患における細胞・組織の形態変化と関連づけることである。病理標本を自ら観察し、細胞、組織の異常所見を正しく把握するとともに、それらを総合して病変の成り立ちを理解する。			
到達目標 (1) 細胞および組織の病的変化の基本を理解する (変性、壊死、萎縮、増殖と再生、循環障害、炎症、腫瘍など)。 (2) 各臓器における代表的疾患の組織学的変化を、正常組織と対比させながら説明できる。			
授業の形式 顕微鏡による実習標本鏡検。説明には、ディスカッション顕微鏡、液晶スライドプロジェクター、教材提示装置、バーチャルスライド、プリント、板書などを利用する。毎回の実習で指定された標本についてスケッチをし、提出する。レポートを提出する場合がある。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 実習の前に必ず1~2時間程度の予習をしておくこと。2年次に行われた講義を復習するとともに、教科書、参考書をよく読んでおくことが大切である。また、実習後は1~2時間程度の復習を行い、知識を整理して欲しい。			
成績評価の基準等 毎回の標本観察を通じ、病理組織学所見を理解し、正確な言葉で記載できるようにするとともに、病態との関わりを説明できるようにする。最後に腫瘍病理分野、免疫病理分野の担当教官による筆記試験(顕微鏡観察を含む)を行う。試験の成績は各分野100点満点とし、最終成績は両分野の平均点で判定するが、各分野で60点以上を取らなければ合格としない。また、原則的に欠席は認めない(公欠などやむを得ない事情で欠席する場合には、補講を受けること)。			
学生へのメッセージ 慣れないうちは正しい所見を得るのに苦労するかも知れない。多少時間がかかっても、標本全体をていねいに観察し、正確に理解する習慣を身につけて欲しい。わからないところは遠慮なく質問してください。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) 組織病理アトラス(第6版)	森谷 他	文光堂	¥27,500
(参) カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断(第7版)	赤木 他	医歯薬出版	¥16,500
(参) 病理組織マップ&ガイド	深山 他	文光堂	¥6,050

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1-3	上部消化器疾患	胃がんや食道がんなど、代表的な上部消化管の組織標本を観察する。	高澤 (病理学・腫瘍)
4-6	下部消化器疾患	代表的な下部消化管疾患の組織標本を観察する。	高澤 (病理学・腫瘍)
7-9	肝臓・胆道系疾患	肝臓がん・慢性肝炎など、代表的な肝臓・胆道系疾患の組織標本を観察する。	高澤 (病理学・腫瘍)
10-12	循環器疾患	心筋梗塞や動脈硬化症などの代表的循環器疾患の組織標本を観察する。	長門 (病理学・腫瘍)
13-15	性器疾患 (前立腺、精巣、卵巣)	前立腺、精巣にみられる代表的な疾患の組織標本を観察する。	小林 (病理学・免疫)
16-18	リンパ腫、膀胱腫瘍、副腎腫瘍、感染症	リンパ腫、膀胱癌、副腎腫瘍の組織標本を観察する。	長門 (病理学・免疫)
19-21	膵臓・内分泌系疾患	膵臓、内分泌臓器の代表的な組織標本を観察する。	高澤 (病理学・腫瘍)
22-24	性器疾患 (乳腺、子宮)	乳腺、卵巣、子宮などの非腫瘍性・腫瘍性疾患の組織標本を観察する。	小林 (病理学・免疫)
25-27	皮膚疾患	皮膚で見られる代表的な腫瘍性・非腫瘍性疾患の組織標本を観察する。	高澤 (病理学・腫瘍)
28-30	骨軟部疾患	骨軟部で見られる代表的な腫瘍性疾患を中心に組織標本を観察する。	高澤 (病理学・腫瘍)
31-33	非腫瘍性呼吸器疾患	肺炎、肺気腫などの非腫瘍性肺疾患の組織標本を観察する。	長門 (病理学・免疫)
34-36	腎疾患	腎腫瘍および糸球体腎炎の代表的な組織標本を観察する。腎炎の組織分類についての理解を深める。	柳内 (病理学・免疫)
37-39	腫瘍性呼吸器疾患	肺癌などの腫瘍性肺疾患の組織標本を観察する。	青木 (病理学・免疫)
40-42	神経疾患	脳梗塞および種々の神経系腫瘍の組織標本を観察する。	高澤 (病理学・腫瘍)
43-45	実習試験	腫瘍病理、免疫病理それぞれの講座が、主に実習で扱った内容に関して筆記試験を行う。	病理学講座 (腫瘍+免疫)

52. 心肺病態制御医学(必修)

循環器、呼吸器、心血管系

担当教員			
◎中川直樹、東 信良、紙谷寛之、菊地信介、内田大貴、宮城久之、石川成津矢、國岡信吾、木村文昭(非常勤)、赤坂伸之(非常勤)、山崎健二(非常勤)、北田正博、長内 忍、佐藤伸之、竹内利治、田邊康子、青沼達也、藪島暁帆、坂本央、南 幸範、佐々木高明、梅影泰寛、中右弘一、長森恒久、齊藤江里香、木谷祐也			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	4単位	60コマ
履修目的・授業概要			
・循環器系および呼吸器系に属する種々の病態を、内科的あるいは外科的アプローチにより統合的に学習する。循環器および呼吸器の解剖・生理・生化学から病理・分子生物学にいたる幅広い基礎知識を整理し、小児から成人まで、先天性および後天性の各種疾患の背景にある病態生理を理解するよう導く。鑑別すべき疾患や病態を想起しながら正しい診断に到達する方法と同時に疾患の疫学と予後を学習する。さらに、同一疾患に対する内科的治療と外科的治療を並行して学ぶことで、最適の治療法を選択するプロセスの理解を目指す。			
到達目標			
・循環器系・呼吸器系領域において、幅広い系統的知識に基づいた循環器系・呼吸器系の疾患に関する病態の正しい理解ができる。 ・鑑別疾患を想定し、診断上の鑑別点を述べるができる。 ・同一疾患に対する内科的治療および外科的治療について、それらの短期および長期成績を含めて各種治療法の長所と短所を理解し、それぞれの適応を述べることができ、さらに、患者に応じた的確な治療法を選択・判断するプロセスを理解できる。			
授業の形式			
本講義は対面授業となります。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
授業の内容を理解するためには、循環器・呼吸器に関する生理学や解剖学の知識が必須であり、病理や薬理を含めて、履修前に予習することが極めて重要である。これまで学んだ基礎知識を総動員し、それらを有機的に関連づけて授業に臨むことが、最も効率よい学習効果をもたらす。復習もまた重要であり、内科治療と外科治療の双方を学んでからそれらを俯瞰することによって、よりの確な治療法選択を判断できるプロセスを是非体験してもらいたい。			
成績評価の基準等			
試験は筆記試験で行われ、国家試験形式(多肢選択方式)で行う。得点率60%未満のものに追再試験を行う。追再試験も本試験と同様形式で行う。試験問題の内訳は、循環器系70%、呼吸器系30%で、出題診療科別では内科系(含む小児科)64%、外科系36%である。正当な理由のない欠席が授業時間数の3分の1を超える者は受験資格を失う。なお新型コロナウイルス感染拡大のため定期試験が行えない場合は、オンラインテストやレポートによって評価する。成績評価は試験成績と出席態度をもとて総合的に判断する(比率は9:1)。			
学生へのメッセージ			
循環器系および呼吸器系の疾患は、生命の危機に直結する機会が多いため、迅速な判断と的確な対応が問われる臨床科目であり、その判断において病態の理解が極めて重要となる。多くの日本人がこの領域の病気で苦しむ現代において、根底にある病態の理解を深めるためにも、この機会にこれまで習った基礎から最新のトピックスまで幅広く学習し、循環器系および呼吸器系疾患を学ぶ楽しさを是非味わっていただきたい。			

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	循環器症候・理学所見	循環器における主要症候を学び、理学所見から得られる情報の重要性和、臨床的意義を理解する。	佐藤(循環器・腎臓内科)
2	循環器検査法(1)	循環器における各種検査法を画像検査を中心に、循環生理、心血管機能の点から整理し理解する。	佐藤(循環器・腎臓内科)
3	循環器検査法(2)	循環器における各種検査法を用いて異常の判断と病態把握への応用を学習する。	竹内(循環器・腎臓内科)
4	心電図基礎	心電図の成り立ち、心電図学の基礎と臨床への応用を理解する。	佐藤(循環器・腎臓内科)
5	心電図診断(1)	心電図診断の基礎と臨床への応用を理解する。	佐藤(循環器・腎臓内科)
6	心電図診断(2)と治療	心電図診断の基礎と臨床、運動負荷心電図、ホルター心電図を用いた診断法および抗不整脈薬について理解する。	佐藤(循環器・腎臓内科)
7	呼吸器病学総論1	呼吸器の解剖・呼吸生理・生体防御・加齢等の基礎知識を整理し、呼吸器における主要な疾病とその病態を理解する。	佐々木(呼吸器内科)
8	呼吸器病学総論2	咳・痰・血痰・呼吸困難・喘鳴・胸痛・嘔声・チアノーゼ・ばち指など呼吸器における主要症候を学び、異常の判断および病態把握への応用を学習する。	佐々木(呼吸器内科)
9	呼吸器病学総論3	呼吸機能検査(換気力学、ガス交換機能、気道過敏性、可逆性試験等)法と主要呼吸器疾患の呼吸機能検査所見を理解する。	長内(呼吸器・脳神経内科)
10	呼吸器病学総論4	胸部X線検査法(単純・肺血管造影・CT)・核医学検査の基礎を学び、呼吸器疾患の画像診断法を習得する。	南(呼吸器内科)
11	呼吸器外科1	胸部の局所解剖、呼吸器外科疾患の疾患病態、診断について概説する。	北田(呼吸器外科)
12	心不全の基礎	心不全の定義と原因、機序、病態整理を理解し、病態に基づいた治療法の基礎を学習する。	坂本(臨床検査)
13	心不全の臨床	心不全における循環系の適応と破綻の機序を理解し、最新の心不全治療の考え方とその実際を理解する。	坂本(臨床検査)
14	呼吸器病学各論1	急性気管支炎・肺炎・肺化膿症・真菌感染症・肺結核・非結核性抗酸菌症・日和見感染について病態・治療法を理解する。	梅影(呼吸器内科)
15	小児循環器学1	小児循環器学において何を指して診断し治療するのかを理解する。	中右(小児)

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) 内科学(第12版)	矢崎義雄ら	朝倉書店	29,000円
(参) 新臨床内科学(第10版)	矢崎義雄ら	医学書院	18,000円
(参) 内科学書(改訂第9版)	南学正臣ら	中山書店	31,900円
(参) Harrison's Principles of Internal Medicine	E Braunwald et al	McGraw-Hill	15,507円
(参) Cecil Textbook of Medicine	RL Cecil et al	Elsevier	20,497円
(参) 標準循環器病学	小川 聡ら	医学書院	5,800円
(参) 呼吸器病学	太田保世ら	中外医学社	8,190円
(参) Hurst's the Heart	V Fuster et al	McGraw-Hill	13,097円
(参) Braunwald's the Heart Disease	DP Zipes et al	Saunders	20,776円
(参) Diagnosis of Diseases of the Chest	Fraser et al	Saunders	68,623円
(参) 標準外科学	北野正剛ら	医学書院	8,500円
(参) 新臨床外科学(第4版)	武藤徹一郎ら	医学書院	23,000円
(参) 心臓血管外科手術のための解剖学	小柳 仁ら	Medical View	27,300円
(参) Textbook of Surgery	DC Sabiston et al	Saunders	17,000円
(参) Cardiac Surgery	Kirklin et al	Churchil Livingstone	42,000円
(参) 臨床発達心臓病学	高尾篤良ら	中外医学社	34,000円
(参) Nelson Textbook of pediatrics 17版	Behrman	Saunders	17,850円
(参) 標準小児科学	原 寿郎ら	医学書院	8,800円
(参) Rutherford's Vascular Surgery(第7版)	Cronewettら	Saunders	43,000円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	小児循環器学2	小児循環器疾患の診断法を左右短絡疾患を例にして理解する。	中右(小児)
17	先天性心疾患1	心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、大動脈縮窄症の病態生理、外科治療、予後について学ぶ。	石川(一外)
18	先天性心疾患2	心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、大動脈縮窄症以外の非チアノーゼ性先天性心疾患の病態生理、外科治療、予後について学ぶ。	石川(一外)
19	先天性心疾患3	チアノーゼ性心疾患の病態生理、外科治療、予後について学ぶ。	石川(一外)
20	成人先天性心疾患	成人先天性心疾患の病態、症状、検査所見、診断および治療について理解する。	蓑島(循環器・腎臓内科)
21	呼吸器病学各論2	COPD・気管支拡張症などの慢性閉塞性肺疾患について病態・治療法を理解する。	長内(呼吸器・脳神経内科)
22	呼吸器病学各論3	アレルギー性疾患（気管支喘息・好酸球性肺炎・ABPA・EGPA・HPなど）について病態・治療法を理解する。	南(呼吸器内科)
23	呼吸器病学各論4	特発性間質性肺炎について病態・治療法を理解する。	佐々木(呼吸器内科)
24	呼吸器病学各論5	全身疾患に伴う肺病変（膠原病・サルコイドーシス・ANCA関連肺疾患など）および希少疾患（肺胞蛋白症等）、胸膜、横隔膜、縦隔疾患に関する診断法、病態、治療法を概説し、理解する。	佐々木(呼吸器内科)
25	呼吸器病学各論6	肺癌などの胸部悪性腫瘍の診断法、病期分類について概説する。	佐々木(呼吸器内科)
26	呼吸器病学総論5	呼吸器内視鏡による手技・診断・インターベンションの基礎を学び主要呼吸器疾患への応用を学習する。	梅影(呼吸器内科)
27	呼吸器病学各論7	肺癌などの胸部悪性腫瘍の治療法について概説する。	佐々木(呼吸器内科)
28	小児呼吸器疾患	特徴的な症状を呈する小児期の急性細気管支炎、急性喉頭炎、気管支喘息について学ぶ。	長森(小児)
29	呼吸器病学各論8	睡眠時無呼吸症候群、肺胞低換気・過換気症候群など、呼吸調節異常疾患と急性・慢性呼吸不全に関する基礎的な概念や病態を学び、治療法について学習する。	長内(一内)
30	呼吸器外科2	肺のう胞性疾患、炎症性疾患、外傷、悪性胸膜中皮腫の概念、病態、診断、治療について理解する。	北田(呼吸器外科)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	呼吸器外科3	原発性肺癌、転移性肺腫瘍の概念、病態、診断、治療について理解する。	北田(呼吸器外科)
32	呼吸器外科4	悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍の病態、診断、治療について理解する。	北田(呼吸器外科)
33	小児縦隔・呼吸器・横隔膜・胸壁外科	縦隔・呼吸器(気管、気管支、肺)・横隔膜・胸壁の先天異常に対する診断、手術、術前後の管理につき学ぶ。	宮城(一外)
34	高血圧症(1)	高血圧の成因・疫学、心・血管合併症の種類、それらの予防の重要性を理解する。	佐藤(循環器・腎臓内科)
35	高血圧症(2)	二次性高血圧の分類、さらにそれらの病態生理、診断、および治療について理解する。	佐藤(循環器・腎臓内科)
36	心臓外科学	心臓外科の歴史、その発展の節目となる開発、現況とその今後の発展の方向、心臓の正常解剖、異常解剖について理解する。	紙谷(一外)
37	人工心肺・心筋保護	人工心肺・低体温体外循環の基礎と臨床および心筋保護の原理と応用を学ぶ。	國岡(一外)
38	冠循環と冠動脈疾患	冠循環の生理と病理、冠動脈疾患の基礎と疫学、虚血心臓の特性および適応と破綻について学ぶ。	竹内(循環器・腎臓内科)
39	虚血性心疾患	狭心症の病態、臨床症状、合併症、検査所見、診断および治療の基礎について学ぶ。	竹内(循環器・腎臓内科)
40	虚血性心疾患外科治療	血行再建術式、使用代用血管および虚血性心疾患に伴う合併症の外科治療について理解する。	木村(一外)(非常勤)
41	動脈硬化症	様々な心血管疾患の基礎病態である動脈硬化症の発症機序と、それに基づく治療戦略について理解する。	蓑島(循環器・腎臓内科)
42	血管外科学総論	血管外科で学ぶべき動脈疾患、静脈疾患、リンパ系疾患において、血管病時代における血管疾患の重要性を認識し、血管外科疾患に共通する基礎的な診察方法や診断方法を理解する。	東(一外)
43	閉塞性動脈疾患(1)	急性動脈閉塞性疾患の病態、診断、治療法について理解する。	内田大貴(一外)
44	閉塞性動脈疾患(2)	下肢閉塞性動脈硬化症の病態や予後を正しく理解し、その上で、診断や治療方針、各種治療法の長所と短所に立脚した治療法選択を理解する。	東(一外)
45	閉塞性動脈疾患(3)	パージャール病や膠原病等による慢性動脈閉塞性疾患の病態、診断、治療法を学習し、閉塞性動脈硬化症との違いを理解する。	東(一外)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
46	腹部大動脈・末梢動脈瘤	腹部大動脈瘤・末梢動脈瘤の診断および外科治療について理解する。	内田大貴 (一外)
47	静脈・リンパ疾患	下肢静脈瘤、リンパ疾患等の病態、診断、治療を理解する。	内田大貴 (一外)
48	胸部大動脈瘤・大動脈解離	胸部大動脈瘤・大動脈解離の分類、病因、病態診断および外科治療について学ぶ。また、手術における補助手段の方法と使い分けについて理解する。	赤坂 (一外) (非常勤)
49	心臓弁膜症	弁膜症の原因、病態生理について学習する。	木谷 (循環器・ 腎臓内科)
50	心臓超音波検査	心臓超音波検査による弁膜症の診断と重症度評価、外科的治療の前後における超音波検査の有用性について学ぶ。	齊藤 (臨床検査)
51	後天性心疾患外科	大動脈弁、僧帽弁、三尖弁、感染性心内膜炎を中心とした弁膜症の病態生理、外科治療、予後について学ぶ。	木村 (一外) (非常勤)
52	補助循環・人工心臓・心移植	補助循環、人工心臓、心移植について学ぶ。	國岡 (一外)
53	心筋症(1)	特発性心筋症を中心に、心筋症の病因、病態、症状、検査所見と治療を理解する。	坂本 (臨床検査)
54	心筋症(2)	二次性心筋症を中心に、心筋症の病因、病態、症状、検査所見と治療を理解する。	坂本 (臨床検査)
55	不整脈の診断と治療	代表的不整脈の心電図診断が確実にできる力を養い、各不整脈ごとの最善の治療法を理解する。	田邊 (循環器・ 腎臓内科)
56	心筋炎・心臓腫瘍	心筋炎の原因、病態、症状、検査所見と治療ならびに心臓腫瘍の病態と治療を理解する。	佐藤 (循環器・ 腎臓内科)
57	循環器と他臓器疾患・心臓移植	循環系におよぼす加齢、妊娠、運動、肥満等の影響および他臓器に関連した症候と病態生理、心臓移植の実際について学習する。	佐藤 (循環器・ 腎臓内科)
58	循環器の適応と破綻	循環器の適応と破綻を心肥大を中心に整理し、その分子生物学的機序と臨床的重要性を理解する。	青沼 (循環器・ 腎臓内科)
59	心臓外科学トピックス	補助人工心臓についての最新の知見を紹介する	山崎 (一外) (非常勤)
60	血管外科学トピックス	動脈硬化症について最近の知見と取り組むべき話題について理解する。	菊地 (一外)

53. 生体調節医学(必修) [糖尿病、内分泌、腎泌尿器]

担当教員 ◎未定、滝山由美、 橘内博哉(内分泌・代謝・膠原病内科)、中川直樹、 松木孝樹(循環器・腎臓内科)、橘田岳也、 和田直樹、堀 淳一、小林 進、(泌尿器科)、 佐藤雅之、鈴木 滋(小児科)、 山木英聖(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	3単位	45コマ
履修目的・授業概要 内分泌・栄養・代謝・腎泌尿器系疾患に関連し、内科学、泌尿器科学、小児科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の各視点から、系統的に学習することを目的とする。			
到達目標 内分泌・栄養・代謝・腎泌尿器科疾患の病態機序を理解し、エビデンスに基づいた診断・治療に関する基本的知識を修得する。			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など) 授業は、原則、対面授業で行う。欠席は、出席カードの提出により確認する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 事前にmanaba上に掲載する講義資料、教科書参考書等により、履修内容について予習すること。講義終了後は、履修内容につきまとめを行うこと。			
成績評価の基準等 定期試験は筆記試験で行う(医師国家試験形式に準ずる)。受験資格は、講義コマ数の三分の二以上の出席が必要。出席は、出席カードの提出でカウントする。追再試験は本試験と同形式で行う。成績評価は、定期試験の成績で評価する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など) 授業時間内に標記の内容を網羅することは不可能であり、学習すべき事項を提示するにとどめることがある。積極的に自学自習することを期待する。その際、各々の病態を科学的に理解し、説明できるように努めて欲しい(コーディネーター)。泌尿生殖器の疾患を理解するには解剖学、生理学、発生学などの基礎的知識が必要であり、これらを十分復習して講義に臨んで欲しい(泌尿器科)。尿所見の的確な解釈が最も重要です(循環器・腎臓内科)。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
Smith General Urology	EA Tanagho	McGraw-Hill	17,292円
Nelson Textbook of Pediatrics	Behrman	Saunders	33,649円
Brenner&Rector's The Kidney	Brenner&Rector	Saunders	90,739円
Williams Textbook of Endocrinology (14版)	Henry M.Kronenberg	Saunders	42,999円
ハリソン内科学(第5版)	Braunwald	Medical Science	32,780円
ジョスリン糖尿病学(第2版)	金沢康徳(訳)	Medical Science	28,600円
図解 腎臓内科学テキスト	富野康日己ら	中外医学社	8,360円
標準小児科学(第9版)	森川・内山	医学書院	9,680円
新泌尿器科学(改定4版)	内藤 誠二	南山堂	9,570円
NEW泌尿器科学(改定第2版)	西沢・松田	南江堂	6,600円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	糖尿病診断学1	1型糖尿病と妊娠糖尿病の成因・病態・症状・診断を理解する。	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
2	糖尿病診断学2	2型糖尿病の成因・病態・症状・診断を理解する。	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
3	糖尿病治療学1	食事療法・経口糖尿病薬、インスリン治療について理解する。	橘内(内分泌・代謝・膠原病内科)
4	糖尿病治療学2	糖尿病治療の実際について理解する。	橘内(内分泌・代謝・膠原病内科)
5	糖尿病合併症1	糖尿病急性合併症の病態、診断、治療を理解する。	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
6	糖尿病合併症2	糖尿病慢性合併症の病態、診断、治療を理解する。	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
7	脂質尿酸代謝異常	高脂血症および高尿酸血症の病態、診断、治療を理解する。	橘内(内分泌・代謝・膠原病内科)
8	視床下部・下垂体1	下垂体前葉疾患の病態、診断、治療について理解する。	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
9	視床下部・下垂体2	視床下部・下垂体後葉疾患の病態、診断、治療について理解する。	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
10	甲状腺1	甲状腺機能低下症の病態、診断、治療について理解する。	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
11	甲状腺2	甲状腺中毒症の病態、診断、治療について理解する。	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
12	副甲状腺	副甲状腺の解剖、生理とカルシウムの代謝機構及び副甲状腺機能亢進症、低下症の病態、診断、治療を理解する。	橘内(内分泌・代謝・膠原病内科)
13	甲状腺・副甲状腺腫瘍の診療の実践	甲状腺・副甲状腺腫瘍の症例を呈示し、その診療の実践を学ぶ。	山木(耳鼻咽喉科)
14	甲状腺・副甲状腺外科の実践	甲状腺・副甲状腺の臨床解剖と手術について症例のビデオを中心に呈示し、その実践を学ぶ。	山木(耳鼻咽喉科)
15	副腎皮質1	副腎皮質機能低下症の病態、診断、治療について理解する。	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	副腎皮質2	Cushing症候群の病態、診断、治療について理解する。	滝山 (内分泌・代謝・膠原病内科)
17	副腎皮質3	原発性アルドステロン症の病態、診断、治療について理解する。	滝山 (内分泌・代謝・膠原病内科)
18	副腎髄質	副腎髄質の発生、解剖やカテコールアミンの生合成・分泌調節、副腎髄質検査を理解し、褐色細胞腫について修得する。	橘内 (内分泌・代謝・膠原病内科)
19	副腎疾患と外科的治療	副腎疾患の外科的治療の適応、診断、手術方法、周術期管理法の概要を説明できる。	小林 (泌尿器科)
20	膵・消化管神経内分泌腫瘍と外発性内分泌腺腫瘍症	膵・消化管神経内分泌腫瘍を含めた、多発性内分泌腺腫瘍症の病態について理解する。	橘内 (内分泌・代謝・膠原病内科)
21	小児内分泌1 甲状腺	先天的ならびに小児期発症の甲状腺疾患についてその特徴を理解する。	鈴木 (小児科)
22	小児内分泌2 副甲状腺	小児期発症の副甲状腺疾患について、成長発達の視点から学ぶ。	鈴木 (小児科)
23	小児内分泌3 肥満・2型糖尿病	小児肥満と小児期発症の2型糖尿病について、臨床的な特徴を理解する。	鈴木 (小児科)
24	小児内分泌4 1型糖尿病	小児期に多い1型糖尿病について、発症機構から治療までを理解する。	鈴木 (小児科)
25	腎炎	急性、急速進行性および慢性糸球体腎炎の概念、病態生理、臨床症状、検査所見、診断および治療について理解する。	中川 (循環器・腎臓内科)
26	ネフローゼ症候群	ネフローゼ症候群の概念、病態生理、臨床症状、検査所見、診断および治療について理解する。	中川 (循環器・腎臓内科)
27	慢性腎不全	急性・慢性腎不全の概念、病態生理、臨床症状、検査所見、診断および治療について理解する。	松木 (循環器・腎臓内科)
28	腎透析	透析の原理、その適応と実際を理解する。	松木 (循環器・腎臓内科)
29	酸・塩基平衡	酸・塩基の定義と各種の病態における変動およびその意義について理解する。	松木 (循環器・腎臓内科)
30	上部尿路の解剖と生理	腎・尿管の構造とその機能について学ぶ。	堀 (泌尿器科)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	下部尿路生殖器の解剖と生理	下部尿路・男性生殖器の構造とその機能について学ぶ。	堀 (泌尿器科)
32	症候・検査	泌尿器科疾患に関する症候・検査について正確な用語、その概略と意義、方法について学ぶ。	堀 (泌尿器科)
33	神経因性尿路機能障害	神経因性下部尿路機能障害(神経因性膀胱)の病態・診断・治療について学ぶ。	和田 (泌尿器科)
34	前立腺肥大症	前立腺肥大症の発生病理を理解し、それに基づいて診断法、治療法を学ぶ。	和田 (泌尿器科)
35	尿失禁	尿失禁の発生原因、診断、治療について学ぶ。	和田 (泌尿器科)
36	尿路感染症	尿路感染症の病態・症状・診断・治療について学ぶ。	橘田 (泌尿器科)
37	尿路通過障害	先天性・後天性の上部・下部尿路通過障害の病態・症状・診断・治療について学ぶ。	橘田 (泌尿器科)
38	尿路結石症	尿路結石症におけるカルシウム代謝を理解し、尿路結石の成因を学ぶ。	橘田 (泌尿器科)
39	腎の腫瘍	腎に発生する腫瘍の概略を理解し、特に腎細胞癌、ウィルムス腫瘍の診断法、治療法を学ぶ。	堀 (泌尿器科)
40	尿路上皮腫瘍	腎盂・尿管に発生する腫瘍についてそれぞれの発生病理を理解し、診断、治療の特徴について学ぶ。	堀 (泌尿器科)
41	前立腺癌1	前立腺癌について、前立腺肥大症との鑑別、病期診断を学ぶ。	堀 (泌尿器科)
42	前立腺癌2	前立腺癌の病期に応じた治療法を学ぶ。	堀 (泌尿器科)
43	精巣・陰茎腫瘍	精巣・陰茎腫瘍の診断上の特性を理解し、進行度に応じた治療法について学ぶ。	堀 (泌尿器科)
44	腎移植	腎移植の適応と手術方法、周術期管理、術後合併症の診断と治療について学ぶ。	橘田 (泌尿器科)
45	小児腎疾患	腎の構造と機能およびそれらの評価法、小児期の腎疾患の症候や腎不全治療について学ぶ。	佐藤 (小児科)

54. 生体防御医学(必修)

自己免疫疾患、
感染症、血液疾患

担当教員			
◎高橋 悟、長森恒久、更科岳大、牧野雄一、 進藤基博、山本昌代、中馬真幸、小林 進、 岡本健作、佐藤一也(非常勤)、大原みずほ			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後期	2単位	30コマ
履修目的・授業概要			
生体の正常状態における免疫・感染防御・造血器の機能や構造を理解し、その異常により生じる自己免疫疾患、感染症、血液疾患の病態生理、症候、診断および治療を学ぶ。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・生体の免疫機能を理解し、その破綻によって生じる自己免疫疾患のEBMに基づいた病態生理、診断、治療について説明できる。 ・また、免疫機構の深く関与する感染防御機構の理解を深め、各種感染症に関する病態生理、症候、診断、治療について説明できる。 ・さらに、免疫担当細胞を含む血液・造血器・リンパ系の構造と機能を理解し、主な疾患の病態生理、症候、診断と治療について説明できる。 			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
学習効果を高めるため、板書の他、プリント、スライド、CD-ROM、ビデオなどを使用する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
数多くの疾患について学習しなくてはならないので、シラバスで示されている疾患についての概略に関して予習として講義前に教科書で必ず一読しておく必要がある。講義では各疾患の発症メカニズム、診断、治療、類似する疾患との鑑別のポイントなどを学び、授業後にはプリントやノートと照らし合わせながら再度教科書を熟読して整理することが必須である。			
成績評価の基準等			
本試験、再試験は基本的には国家試験に準じた出題形式であるが、出題者の意向により、論文・穴埋め形式も有りうる。成績評価は、出席状況を加味して総合的に行う。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
免疫、感染症、血液の領域は、基礎的研究が比較的はやく臨床に結びついている分野です。また、正常状態における基本的な理解が、その異常である疾患の病態、症状、治療法を理論的に解釈することにつながりますので、基本を納得できるまで学んでください。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
三輪血液病学(第3版)	浅野茂隆ら (編)	文光堂	49,500円
標準小児科学(第8版)	内山 聖	医学書院	9,680円
NELSON Textbook of Pediatrics, 17th Edition	Behrman RE, Kliegman RW, Jenson HB		
標準外科学(第15版)	北野正剛	医学書院	8,500円
NIM免疫・アレルギー・リウマチ病学	柏崎 偵夫ら	医学書院	6,820円
ベッドサイド泌尿器科学(改定第4版)	吉田修(編集)	南江堂	49,500円
NEW泌尿器科学	西沢理ら	南江堂	6,600円
小児血液・腫瘍学(改訂第2版)	日本小児血液がん学会(編)	診断と治療社	16,500円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	貧血総論、大球性・小球性貧血	赤血球造血および貧血の概念を理解し、大球性・小球性貧血の診断、鑑別、治療について学ぶ	山本(内科血液)
2	再生不良性貧血・赤芽球癆	再生不良性貧血および赤芽球癆の原因、診断、治療について学ぶ	山本(内科血液)
3	溶血性貧血	溶血性貧血の概念を理解し、先天性・後天性溶血性貧血の成因、診断、治療について学ぶ	山本(内科血液)
4	急性白血病	急性白血病の分類、症状、検査所見、診断、治療について学ぶ	進藤(内科血液)
5	リンパ系腫瘍	悪性リンパ腫および慢性リンパ性白血病の症状、検査所見、診断、治療について学ぶ	進藤(内科血液)
6	骨髄増殖性疾患・血栓性疾患	骨髄増殖性疾患、血栓性疾患の概念、診断、治療について学ぶ	進藤(内科血液)
7	血漿蛋白異常症	多発性骨髄腫およびその類縁疾患の診断、治療について学ぶ	進藤(内科血液)
8	MDS・慢性骨髄性白血病	MDSおよび慢性骨髄性白血病の概念、臨床所見、診断、治療法について学ぶ	佐藤(非常勤)
9	出血傾向	血液凝固の機序および出血性疾患(ITP、DICなど)の症状、検査所見、診断、治療について学ぶ	山本(内科血液)
10	感染症総論	感染症に係る歴史的経緯、薬剤耐性菌や、新興再興感染症、並びに院内感染対策などの懸案事項を総合的に理解する	長森(小児科)
11	細菌感染症1	細菌感染症の特徴、歴史を理解した上で、ブドウ球菌、溶血性レンサ球菌、病原性大腸菌感染症、ジフテリア、百日咳などの診断、治療について学ぶ	長森(小児科)
12	感染症治療薬剤	感染症治療に用いる化学療法薬の作用機序、薬物相互作用、副作用を理解する	中馬(薬剤部)
13	ウイルス感染症	ウイルス感染症の特徴、分類などを理解した上でインフルエンザ、風邪、麻疹、流行性耳下腺炎などのウイルス感染症の診断、治療を学ぶ	長森(小児科)
14	性感染症	性感染症の現状とその主要な病原微生物を理解し、それに対する診断、治療について学ぶ	小林(腎泌尿器外科)
15	新興・再興感染症	新興感染症・再興感染症の現状と代表的な感染症の概略を学ぶ	長森(小児科)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	HIV感染症	HIVの基礎的知識と発症機序、臨床症状、治療法について学ぶ	進藤 (内科 血液)
17	外科と感染症	外科的感染症の基礎を理解し、術後合併症における感染から見た患者管理の実際を学ぶ	大原 (消化管 外科)
18	臨床免疫・膠原病総論	自己免疫疾患の概念と成因ならびに膠原病の概念と免疫遺伝学からみた成因を理解する	牧野 (地域共生 医育総合 センター)
19	膠原病検査学・治療学	免疫学的検査法ならびに膠原病治療薬の副作用・投与法を理解する	牧野 (地域共生 医育総合 センター)
20	膠原病1	関節リウマチの概念・病態生理・診断・治療・予後について理解する	岡本 (内分泌・ 代謝・膠 原病内科)
21	膠原病2	全身性エリテマトーデスの概念・病態生理・診断・治療・予後について理解する	岡本 (内分泌・ 代謝・膠 原病内科)
22	膠原病3	皮膚筋炎・多発性筋炎の概念・病態生理・診断・治療・予後について理解する	牧野 (地域共生 医育総合 センター)
23	膠原病4	強皮症の概念・病態生理・診断・治療・予後について理解する	牧野 (地域共生 医育総合 センター)
24	膠原病類緑疾患1	膠原病類緑疾患の概念・病態生理・診断・治療・予後について理解する	岡本 (内分泌・ 代謝・膠 原病内科)
25	膠原病類緑疾患2	膠原病類緑疾患の概念・病態生理・診断・治療・予後について理解する	岡本 (内分泌・ 代謝・膠 原病内科)
26	先天性免疫不全症	先天性免疫不全症の病態、診断、治療を説明できる	長森 (小児科)
27	先天性凝固異常・先天性造血異常	血友病を代表とする先天性出血性疾患・血栓性疾患、およびFanconi貧血を始めとする先天性造血障害の診断、治療を学ぶ。	更科 (腫瘍セ ンター)
28	真菌感染症	カンジダ、アスペルギルスなどによる深在性真菌感染症の診断、治療について学ぶ	更科 (腫瘍セ ンター)
29	小児がん・AYA世代がん1	白血病、リンパ系腫瘍、固形腫瘍など小児・思春期若年成人（AYA）世代のがんの特徴を理解し、その診断、治療を学ぶ	更科 (腫瘍セ ンター)
30	小児がん・AYA世代がん2	白血病、リンパ系腫瘍、固形腫瘍など小児・思春期若年成人（AYA）世代のがんの特徴を理解し、その診断、治療を学ぶ	更科 (腫瘍セ ンター)

55. 消化器医学(必修)

消化器診断と治療
悪性疾患と良性疾患
内科的治療と外科的治療

担当教員			
藤谷幹浩、水上裕輔、麻生和信、田邊裕貴、盛一健太郎、高橋賢治、澤田康司、嘉島伸、上野伸展、河端秀賢、太田 雄、山品将祥、(角 泰雄)、◎横尾英樹、長谷川公治、今井浩二、庄中達也、島田慎吾、谷 誓良、高橋裕之、大原みずほ、大谷将秀、武田智宏、水上奨一郎、島田光生(非常勤)、霧生信明(非常勤)、萩原正弘(非常勤)			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	前期	3単位	45コマ
履修目的・授業概要			
成人の消化器病学として、食道疾患から胃・十二指腸疾患、腸疾患、肝・胆道・膵疾患、及び腹壁・腹膜疾患、急性腹症に関する症候、所見、病態、検査、診断、治療の基礎的事項を系統的に学ぶ。また主要疾患に関する理解も深める。			
到達目標			
消化器病学における主要疾患において			
1：根拠に基づいた知識を系統的に正しく身につける。			
(1) 必要な解剖学を説明することができる			
(2) 必要な病態生理を概説することができる			
(3) 必要な病理学を概説できる。特に良性、悪性の診断について説明できる			
(4) 基本的診察方法および臨床所見に習熟する			
(5) 必要な検査と予想される結果を説明することができる			
(6) 基本的画像診断(透視、CT、ERCPなど)に習熟する			
(7) 内科的および外科的治療法の適応と主な治療方法について説明できる			
(8) 外科的治療法については代表的手術方法について概説できる			
(9) 予後について概説できる			
(10) 消化器疾患における遺伝学、分子生物学的側面など新たな知見に触れる			
2：患者中心のチーム医療において多種職との協調性をもって貢献できることを知識として身につける。			
授業の形式			
配付資料、PCスライド、ビデオ上映等で進める講義形式とLMS(manaba)上で行う小テストです。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
講義開始時間から講義終了時間10分後までには履修内容の理解度を確認する小テスト(MCQ×3問程度)をLMS上で行うので、事前にLMSに掲載する講義資料、教科書、参考書などで履修内容について予習をしておくこと。			
成績評価の基準等			
定期試験は国家試験形式による筆記試験を行います。受験資格は実際の講義コマ数の三分の二以上の出席者に対して与えます。出席コマ数の問い合わせには応じません。原則正解率60%以上を合格とします。総合成績評価は、小テスト20%、定期試験80%の配分で行います。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
消化器に関する形態と機能について、基礎医学の内容を充分復習した上で講義に臨みたい。講義には集中力を持って臨み、また随時質問や討議を行うので、積極的態度で出席されたい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	
(教) 標準外科学 第16版	北野正剛 監修	医学書院	2022
(参) 新臨床内科学 第10版	矢崎義雄(監修)	医学書院	2020
(参) 内科学 第12版	矢崎義雄	朝倉書店	2022
(教) Sabiston Textbook of Surgery 21th ed	Townsend	Elsevier	2021

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	食道疾患1	食道疾患の主要症状と病態生理、検査と処置、食道良性疾患の診断と治療を学ぶ	盛一(消化器内科)
2	食道疾患2	食道癌の診断と治療を学ぶ	盛一(消化器内科)
3	食道疾患3	食道癌、その他の消化器悪性疾患の放射線治療を学ぶ	山品(放)
4	食道疾患4	食道疾患の外科的治療を学ぶ	長谷川(外科)
5	胃・十二指腸の疾患1	胃・十二指腸疾患の主要症状と病態生理、検査と処置を学ぶ	田邊(消化器内科)
6	胃・十二指腸の疾患2	胃炎、急性胃粘膜病変、ヘリコバクター・ピロリ感染症、胃アニサキス症、機能性ディスペプシアを学ぶ	嘉島(消化器内科)
7	胃・十二指腸の疾患3	消化性潰瘍の診断と治療を学ぶ	盛一(消化器内科)
8	胃・十二指腸の疾患4	胃・十二指腸の腫瘍性病変を学ぶ	田邊(消化器内科)
9	胃・十二指腸の疾患5	胃癌の診断と治療を学ぶ	田邊(消化器内科)
10	胃・十二指腸の疾患6	胃・十二指腸疾患の外科的治療を学ぶ	長谷川(外科)
11	胃・十二指腸の疾患7	胃切除後症候群、上腸間膜動脈症候群を学ぶ	大谷(外科)
12	腸疾患1	腸疾患の主要症状と病態生理、検査と処置を学ぶ	藤谷(消化器内科)
13	腸疾患2	便秘症、過敏性腸症候群、吸収不良症候群を学ぶ	嘉島(消化器内科)
14	腸疾患3	大腸ポリープ、ポリポース、消化管神経内分泌腫瘍、憩室症を学ぶ	藤谷(消化器内科)
15	腸疾患4	クローン病の診断と治療を学ぶ	上野(総診)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	腸疾患5	潰瘍性大腸炎、その他の炎症性腸疾患を学ぶ	上野 (総診)
17	腸疾患6	炎症性腸疾患の外科的治療を学ぶ	谷 (外科)
18	腸疾患7	虫垂炎の診断と治療を学ぶ	大原 (外科)
19	腸疾患8	腸閉塞、イレウス、腸間膜血流障害の診断と治療を学ぶ	谷 (外科)
20	腸疾患9	腸悪性疾患の診断と治療を学ぶ	藤谷 (消化器内科)
21	腸疾患10	腸悪性疾患の外科的治療を学ぶ	庄中 (外科)
22	腸疾患11	肛門疾患の診断と治療を学ぶ	庄中 (外科)
23	腸疾患12	消化器疾患の漢方を学ぶ	島田 (非常勤)
24	肝疾患1	肝疾患の主要症状と病態生理、検査と処置を学ぶ	麻生 (消化器内科)
25	肝疾患2	急性肝炎および薬物性肝障害の診断と治療を学ぶ	麻生 (消化器内科)
26	肝疾患3	急性肝不全および自己免疫性肝疾患を学ぶ	太田 (消化器内科)
27	肝疾患4	慢性肝炎の診断と治療を学ぶ	麻生 (消化器内科)
28	肝疾患5	「アルコール性肝障害、他」を学ぶ	澤田 (消化器内科)
29	肝疾患6	肝硬変、門脈圧亢進症、食道・胃静脈瘤、肝性脳症を学ぶ	麻生 (消化器内科)
30	肝疾患7	肝膿瘍、寄生虫性肝疾患の診断と治療を学ぶ	高橋 (外科)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	肝疾患8	肝悪性疾患の疫学、病理、癌取り扱い規約、診断を学ぶ	澤田 (消化器内科)
32	肝疾患9	肝腫瘍の外科的治療を学ぶ	横尾 (外科)
33	肝疾患10	肝移植を学ぶ	島田 (外科)
34	胆道疾患1	胆道疾患の主要症状と病態生理、検査と処置、胆道良性疾患の診断と治療を学ぶ	高橋 (消化器内科)
35	胆道疾患2	胆嚢癌・胆管癌・乳頭部癌の診断と治療を学ぶ	河端 (消化器内科)
36	胆道疾患3	胆道疾患の外科的治療を学ぶ	今井 (外科)
37	膵疾患1	膵疾患の主要症状と病態生理、検査と処置を学ぶ	水上 (消化器内科)
38	膵疾患2	急性膵炎、慢性膵炎の診断と治療を学ぶ	河端 (消化器内科)
39	膵疾患3	膵嚢胞性疾患の診断と治療を学ぶ	高橋 (消化器内科)
40	膵疾患4	膵癌の診断と治療を学ぶ	水上 (消化器内科)
41	膵疾患5	膵疾患の外科的治療を学ぶ	今井 (外科)
42	腹膜、腹壁、横隔膜疾患1	鼠径部ヘルニア、他のヘルニアの診断と治療を学ぶ	武田 (外科)
43	腹膜、腹壁、横隔膜疾患2	腹膜炎、腹膜・後腹膜腫瘍の診断と治療を学ぶ	水上 (外科)
44	急性腹症	急性腹症を学ぶ	萩原 (非常勤)
45	腹部外傷	腹部外傷を学ぶ	霧生 (非常勤)

56. 精神・神経病態医学(必修)

1. Neuroradiology
2. Central Nervous System
3. Neurology, Neurosurgery
4. Psychiatry

担当教員			
片山隆行(非常勤)、澤田 潤、菊池史織、木村 隆(非常勤)(一内)、橋岡禎征、坂内聖、長徹二、大宮友貴、中條拓(非常勤)、横山太範(非常勤)、齊藤卓弥(非常勤)(精神) ◎木下 学、三井宣幸、上森元気、広島 覚、齊藤仁十、清水豪士、佐藤広崇(脳外)、沖崎貴琢、中島香織、山品将祥、大屋明希子(放射線)			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後 期	4単位	60コマ
履修目的・授業概要			
脳、脊髄、および末梢神経系の解剖と機能を念頭に置きながら、精神神経学にかかわる広範な医学・医療を学ぶ			
到達目標			
中枢神経系や末梢神経系などの正常な基礎医学だけでなく、精神神経学におけるさまざまな病態の診断・治療を学ぶ。この学習内容は、その後の臨床実習のために不可欠なものといえる。			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
主な板書、プリント、スライド、ビデオとコンピュータプレゼンテーションによる講義を行う。一部ではペーパーシミュレーションによる問答形式を応用する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
シラバスに記載されているキーワードについて教科書、参考書を用いて予習する。 講義終了後は、配布されたプリントを読み返す。なお、講義によっては予習内容の具体的指示が出される事がある。			
成績評価の基準等			
講義の出席状況、および試験成績(試験は、論文形式、多岐選択などの形式で出題)に基づいて総合的に評価する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
第一線の医療現場での確かつ迅速な判断ができるように、精神神経系疾患の基本的臨床知識を十分に習得して欲しい。			

〈教科書・参考図書〉

書 名	著者名	発行所	価格
(教) 標準精神医学第7版	野村、樋口他	医学書院	6,500円
(教) 現代臨床精神医学改訂第12版	大熊輝雄	金原出版	7,700円
(参) 新版精神医学辞典	加藤、保崎、笠原他	弘文堂	24,000円
(教) 標準脳神経外科学第14版	児玉南海雄監修	医学書院	7,350円
(教) ベッドサイドの神経の診かた第18版	田崎義昭、斎藤佳雄	南山堂	7,200円
脳神経外科学 改訂12版	太田 富雄 他	金 芳 堂	31,500円
(教) 神経内科ハンドブック	水野美邦	医学書院	13,500円
Merritt's Neurology	LP Rowlnad	Lippincott W&W	
グラフィック神経学	田中順一ほか	医歯薬出版	19,000円
(教) 標準放射線医学第10版	中田、増田、林、小西	医学書院	12,000円
(教) 必修放射線医学第4版	高橋 睦 正	南 江 堂	8,700円
(参) 癌・放射線療法	大川 智 彦	篠原出版	18,000円
(教) 最新臨床核医学	利波紀久、久保敦司	金原出版	18,000円
(参) 標準小児科学(第6版)	森川・内山 編集	医学書院	8,800円

コマ数	履修主題	履 修 内 容	担当教員
1	脳神経外科概論Ⅰ	中枢神経系の正常構造と機能を理解する	木下
2	脳神経外科概論Ⅱ	脳神経外科領域疾患の概略を理解する	木下
3	脳神経と脳幹	脳神経、脳幹脊髄の解剖を説明し診断できる。	上森
4	大脳と小脳	大脳と小脳の構造と機能、高次脳機能を理解する	清水
5	中枢神経感染症	感染症疾患について理解する	齊藤
6	脳血管障害Ⅰ	脳血管障害 概論	三井
7	脳血管障害Ⅱ	虚血疾患について学ぶ	三井
8	脳腫瘍Ⅰ	神経膠腫・悪性リンパ腫・髄芽腫について理解する。	木下
9	脳腫瘍Ⅱ	髄芽腫・杯細胞腫・聴神経種について理解する	木下
10	脳腫瘍Ⅲ	髄膜腫・下垂体腺腫・聴神経腫瘍について理解する	木下
11	脳腫瘍Ⅳ	脳腫瘍の徴候・診断について理解する	木下
12	先天性脳疾患	先天性脳疾患について病態・診断・治療を理解する	齊藤
13	臨床神経整理	頭蓋内圧亢進、脳浮腫のメカニズムを理解する	清水
14	脳血管障害Ⅲ	AVM、AVFについて学ぶ	齊藤
15	脳血管障害Ⅳ	出血性脳血管障害の病態、治療について理解する	清水

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	脊髄・脊椎疾患Ⅰ	脊髄脊椎疾患の病態、診断について理解する	上森
17	脊髄・脊椎疾患Ⅱ	脊髄脊椎疾患の治療について理解する	上森
18	脳血管障害Ⅴ	もやもや病について学ぶ	佐藤
19	外傷性疾患Ⅰ	神経外傷の病態・診断・治療について理解する	佐藤
20	外傷性疾患Ⅱ	神経外傷の救急管理について理解する	佐藤
21	機能的脳神経外科Ⅰ	てんかん・不随運動・疼痛性疾患について学ぶ	広島
22	機能的脳神経外科Ⅱ	顔面けいれん、水頭症について学ぶ	広島
23	脳血管障害の手術	脳神経外科における血管内手術について学ぶ	三井
24	内視鏡手術	脳神経外科における内視鏡手術について学ぶ	広島
25	中枢神経系の核医学診断①	中枢神経系における核医学検査法の実際（原理、方法、適応）について理解する	沖崎
26	中枢神経系の核医学診断②	中枢神経系における核医学検査所見について理解する	沖崎
27	神経放射線診断	中枢神経疾患の画像診断に必要な検査の原理・方法・適応・所見について理解する	大屋
28	放射線治療学①	中枢神経系腫瘍に対する放射線治療について理解する	中島
29	放射線治療学②	中枢神経系腫瘍に対する放射線治療について理解する キーワード 「定位放射線治療」「原発性脳腫瘍」「転移性脳腫瘍」「脊髄腫瘍」	山品
30	神経疾患の診かた	神経疾患の診かた、基本的な神経症候学を学ぶ	澤田

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	脳血管障害	脳血管障害の原因や病態、急性期や再発予防の治療について学ぶ	菊地
32	頭痛、脱髄性疾患	頭痛や多発性硬化症などの脱髄性疾患について、原因や治療、診断、治療について学ぶ	澤田
33	感染症、代謝性疾患	脳炎や髄膜炎などの感染性疾患、代謝性神経疾患の原因や病態、診断、治療について学ぶ	澤田
34	運動ニューロン疾患、脊髄疾患	筋萎縮性側索硬化症などの運動ニューロン疾患感や脊髄疾患の原因や病態、診断、治療について学ぶ	澤田
35	錐体外路疾患	パーキンソン病をはじめとした錐体外路疾患の原因や病態、診断、治療について学ぶ	菊地
36	小脳疾患	脊髄小脳変性症をはじめとした小脳疾患の原因や病態、診断、治療について学ぶ	澤田
37	末梢神経障害、内科疾患に伴う神経障害	末梢神経障害、内科疾患に伴う神経障害の原因や病態、診断、治療について学ぶ	木村 (非常勤)
38	神経筋接合部疾患、筋疾患	神経筋接合部疾患、筋疾患の原因や病態、診断、治療について学ぶ	澤田
39	精神医学総論	精神医学について歴史的背景をふまえ概観する	橋岡
40	認知症	認知症を来す疾患の診断、治療法について学ぶ	橋岡
41	老年期精神医学	老年期特有の心理特性から精神症状まで俯瞰的に学ぶ	橋岡
42	神経症①	神経症の概念、病態について学ぶ	橋岡
43	神経症②	神経症の診断、治療法について学ぶ	橋岡
44	リエゾン精神医学	リエゾン精神医学の概念、実際について学ぶ	大宮
45	脳器質性精神障害・症状性精神障害、てんかん①	主に脳器質性精神障害、症状性精神障害の病態、診断、治療法について学ぶ	坂内

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
46	脳器質性精神障害・症状性精神障害、てんかん②	主にてんかんの病態、診断、治療法について学ぶ	坂内
47	人格障害・摂食障害	人格障害、および摂食障害について学ぶ	坂内
48	統合失調症①	統合失調症の病態について学ぶ	坂内
49	統合失調症②	統合失調症の診断、治療法について学ぶ	坂内
50	気分障害①	気分障害の病態について学ぶ	大宮
51	気分障害②	気分障害症の診断、治療法について学ぶ	大宮
52	精神療法①	精神療法について概観する	大宮
53	精神療法②	認知行動療法について学ぶ	長
54	中毒性精神障害・薬物依存①	中毒性精神障害、および薬物依存症について学ぶ	長
55	中毒性精神障害・薬物依存②	アルコール依存症の診断、治療法について学ぶ	長
56	LGBTQ+	性的多様性について学ぶ (昔は精神疾患だと分類されていた、歴史を忘れないために)	長
57	睡眠障害	睡眠障害の分類、症候、治療法について学ぶ	長
58	精神療法③	集団精神療法について学ぶ	横山 (非常勤)
59	児童・青年期精神医学	児童・青年期における人格の発達特徴を理解し、この時期の患者に対する診察法や種々の精神障害について学ぶ	斉藤 (非常勤)
60	精神保健福祉法と司法精神医学	精神障害者に関する法律、特に精神保健福祉法について学ぶ。また、司法精神医学の立場から責任能力の概念や精神鑑定についても学ぶ	中條 (非常勤)

57. 感覚器病態医学(必修)

担当教員 眼科：長岡、廣川、石子、木ノ内、西川、善岡、神谷、宇都宮、高橋、川口、今野（杏） 耳鼻咽喉科頭頸部外科：高原、林、岸部、大原、熊井、山木、河野、関根 皮膚科：本間、岸部、井川、菅野、大坪、菅原、高橋、野崎、中川 歯科口腔外科：竹川、吉田、小神、佐藤、矢島			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後期	5単位	75コマ
履修目的・授業概要 感覚器病態医学の講義は感覚器系として統一されている。本コースは、眼科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、皮膚科、歯科口腔外科からなる。いずれもコアカリキュラムにのっとり基本的な疾患や病態、検査法について理解し、その治療法を学ぶ。さらに各科専門医以外の医師となっても必要とされる知識及び思考力を養う。			
到達目標 眼科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、皮膚科、歯科口腔外科の病態、疾患全般について広く理解し、今後の臨床実習、医師国家試験において必要な知識の基礎が出来上がるようにする。			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など) 対面授業およびオンライン（manaba、Zoom）を利用して行う。一部の講師はmanabaによる講義資料の配付のみとなる。授業は、板書、プリント、スライドなど種々の教育機材を用う。出席確認は、manabaで行われる小テストへの回答により行う。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 シラバスに記載されている各講座の履修内容について、教科書、参考書、前日までにmanabaにアップロードされる講義資料などによる予習をすること。講義終了後は、当該主題について十分なまとめを行うこと。			
成績評価の基準等 定期試験は医師国家試験形式に準じた筆記試験で行う。受験資格は講義コマ数の三分の二以上の出席が必要であり、講義終了後10分以内に小テストを提出することで出席とする。配点は眼科26/90、耳鼻科26/90、皮膚科26/90、歯科口腔外科12/90の予定。総合点で60点以上を合格とする。追再試験は本試験と同形式で行う。COVID-19感染拡大の影響で定期試験が予定通り行えない場合は評価方法を変更する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など) 感覚器病態医学の講義は感覚器系と統一されているが、旧カリキュラムの眼科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、皮膚科、歯科口腔外科に相当し、臓器別としては、更に細かく細分化されている。したがって臓器別とはいっても、学生は各々の科につきコアカリキュラムにのっとり、履修することが求められる。カリキュラム上は、科別に構成されているが（眼科 1-22；耳鼻咽喉科頭頸部外科 23-44；皮膚科 45-66；歯科口腔外科 67-75）、実際の履修にあたっては運用上の都合により、順番が異なることがありうることに注意。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) 現代の眼科学 (改訂第11版)	所 敬吉田晃敏	金原出版	7,560円
研修医のための耳鼻咽喉科、頭頸部外科学	形浦昭克他	南山堂	9,500円
あたらしい皮膚科学 (改訂第3版)	清水 宏	中山書店	8,580円
口の中がわかるビジュアル歯科口腔外科学読本	全国医学部付属病院 歯科口腔外科科長会議	クインテッセンス出版	5,900円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	近視、遠視、老視	屈折と調節の仕組みとそれらの異常疾患を理解する。視力検査の原理を知る。	石子
2	眼瞼の疾患	よく遭遇する眼瞼の疾患を理解する。	木ノ内
3	ぶどう膜炎	サルコイドーシス、バーチエット病、原田病の症候、診断、治療法を学ぶ。	木ノ内
4	角膜・結膜疾患	角膜・結膜疾患について症状、診断、治療法を学ぶ。	宇都宮
5	角膜の手術・アイバンク	角膜移植、角膜再生医療、屈折矯正手術について学ぶ。アイバンクについて学ぶ。	宇都宮
6	網膜の基礎と主要な検査	網膜に関する基礎的な知識を学ぶ。また、主要な検査について理解を深める。	今野（杏）
7	網膜剥離・網膜血管の閉塞症	高血圧と動脈硬化の眼底変化と網膜静脈閉塞症・動脈閉塞症網膜剥離の診断と治療を学ぶ。	今野（杏）
8	糖尿病網膜症とは	中途失明原因の2位である糖尿病網膜症を理解する。	長岡
9	糖尿病網膜症の治療	病期に応じた治療法を学ぶ。糖尿病網膜症に対する硝子体手術を学ぶ。	長岡
10	白内障	白内障とその手術治療について、さらに術後合併症について学ぶ。	善岡
11	うっ血乳頭・視神経症	視路の概略を理解し、視神経疾患の症候、診断、治療法を学ぶ。	善岡
12	黄斑疾患	黄斑疾患の診断と治療を理解する。	高橋
13	未熟児網膜症と小児疾患	未熟児網膜症の発症に関わる因子を知り、病期と治療法を学ぶ。また、小児の眼疾患について学ぶ。	高橋
14	緑内障とは	緑内障の発症起序・症候と診断を学ぶ。	神谷
15	緑内障の治療	点眼治療と手術療法の適応を学ぶ。手術のビデオで実際の治療法を理解する。	神谷

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	眼球運動障害	外眼筋の働きを理解する。眼球運動書鳴外をおこす原因、症候を学ぶ。	西川
17	斜視・弱視	眼位検査について理解し、斜視と弱視の診断と治療を学ぶ。	西川
18	眼窩疾患	眼窩部に生じる疾患について学ぶ。	廣川
19	眼腫瘍	眼の腫瘍の症候、診断、治療法を学ぶ。	廣川
20	眼外傷	原因、症候、救急処置を学ぶ。	川口
21	網膜治療の最先端	網膜疾患に対する最先端の治療法を学ぶ。	長岡
22	現在の眼科医療のトピックス	眼科医療のトピックスを学ぶ。	長岡
23	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学序論	医学において耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学の占める役割について学ぶ。	高原
24	視覚・平衡覚1	聴覚系の解剖と生理、聴覚中枢系機能、聴覚検査	熊井
25	視覚・平衡覚2	平衡覚の生理、平衡覚検査、抹消性前庭障害（メニエール病、BPPV、前庭神経炎など）	岸部
26	視覚・平衡覚3	内耳奇形、感音性難聴、遺伝子難聴、補聴器	熊井
27	視覚・平衡覚4	外耳疾患、慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、中耳奇形、耳硬化症、側頭骨解剖と手術	熊井
28	視覚・平衡覚5	中枢性前庭障害、聴神経腫瘍、全身疾患とめまい	岸部
29	上気道生理1	鼻・副鼻腔解剖・生理、嗅覚生理、鼻副鼻腔検査	河野
30	上気道生理2	喉頭の解剖、呼吸、嚥下・発声の生理、検査	大原

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	上気道生理3	味覚の生理と障害、顔面神経痛麻痺の診断・治療	大原
32	上気道生理4	睡眠時無呼吸症候群	山木
33	上気道感染症1	急性中耳炎、滲出性中耳炎	林
34	上気道感染症2	鼻副鼻腔炎の診断と治療、嗅覚書鳴外の診断・治療	大原
35	上気道感染症3	喉頭の解剖、急性扁桃炎、アデノイド、上気道粘膜免疫、扁桃病巣疾患	大原
36	上気道感染症4	頸部リンパ節腫脹、頸部腫瘤、深頸部感染症	大原
37	上気道免疫	鼻アレルギー、口腔アレルギー、喉頭アレルギー	大原
38	頭頸部腫瘍1	頭頸部悪性腫瘍の手術に必要な解剖と術式、再建外科	高原
39	頭頸部腫瘍2	鼻出血の診断と治療、鼻副鼻腔の良性・悪性腫瘍、ウェゲナー肉芽腫症、鼻性NK/T細胞リンパ腫	大原
40	頭頸部腫瘍3	喉頭癌、中・下咽頭癌、頸部食道癌	高原
41	頭頸部腫瘍4	唾液腺疾患、唾液腺腫瘍、副咽頭間隙腫瘍	大原
42	救急医療	呼吸困難の診断・治療、気管食道遺物、顔面外相、気管切開	山木
43	再生医療1	人工内耳と難聴児のリハビリテーション	熊井
44	再生医療2	発声・音声・嚥下障害のリハビリと手術治療、発声・音声障害の再生医療	関根
45	発疹、色素異常症、光線過敏症	発疹の種類と白皮症、白斑、色素斑などの色素異常症について学ぶ	岸部

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
46	炎症性角化症、肉芽腫	乾癬と扁平苔癬を中心とした炎症性角化症について学ぶ	野崎
47	皮膚科検査法	病理組織検査、アレルギー検査など皮膚科診療で用いる検査法の原理と判定の仕方を学ぶ	菅野
48	湿疹	アトピー性皮膚炎と以外の湿疹の各病型を学ぶ	菅野
49	アトピー性皮膚炎と皮膚バリア機能	アトピー性皮膚炎と皮膚バリア機能について学ぶ	井川
50	母斑と母斑症	代表的な母斑・母斑症、レーザー治療について学ぶ	菅野
51	悪性黒色腫	悪性黒色腫とダーモスコピー診断法について学ぶ	中川
52	悪性リンパ腫・皮膚腫瘍	菌状息肉症、セザリイ症候群を代表とする皮膚科領域の悪性リンパ腫について学ぶ	菅原
53	皮膚外科、皮膚付属器疾患	皮膚科領域の外科治療と毛髪疾患について学ぶ	中川
54	紅斑症、全身疾患の皮膚表現	紅斑症、全身疾患の皮膚表現（デルマトローム）について学ぶ	井川
55	膠原病	皮膚科領域の膠原病について学ぶ	岸部
56	結合織疾患、沈着症、代謝異常症	結合織疾患、沈着症、代謝異常症について学ぶ	岸部
57	遺伝子角化症	代表的な遺伝性角化以上について学ぶ	井川
58	水疱症・膿疱症	代表的な自己免疫性水疱症、膿疱症について学ぶ	大坪
59	蕁麻疹、血管炎	蕁麻疹と皮膚科領域血管炎について学ぶ	岸部
60	昆虫による皮膚疾患	疥癬その他の昆虫による皮膚疾患について学ぶ	井川

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
61	物理的皮膚障害、性病	熱傷、化学熱傷、凍傷、褥瘡、放射線皮膚炎など物理的皮膚障害について学ぶ	高橋
62	真菌症	代表的な皮膚真菌症と爪疾患について学ぶ	本間
63	細菌感染症	皮膚科領域の代表的な細菌感染症、ライム病、ツツガ虫病について学ぶ	井川
64	ウイルス感染症	皮膚科領域におけるウイルス感染症について学ぶ	岸部
65	結核、抗酸菌感染症	皮膚科領域の結核、抗酸菌感染症について学ぶ	岸部
66	薬疹	薬疹の代表的な病型について学ぶ	大坪
67	口腔の構造と機能	口腔の解剖学的構造と咀嚼、嚥下、構音などの機能およびう蝕、歯周病を学ぶ	竹川
68	口腔細菌と歯、口腔の感染症・炎症	口腔細菌による歯、歯周組織、全身への感染と予防・治療を学ぶ	小神
69	顎関節疾患・口腔顔面外傷と治療	顎関節疾患および下顎骨骨折、上顎骨骨折、口腔顔面損傷の病態、治療を学ぶ	矢島
70	顎変形症と治療	顔面非対称の原因となる顎骨の発育異常と治療について学ぶ	竹川
71	口腔顔面奇形と治療	口唇裂、口蓋裂など口腔顔面の奇形疾患の発生・病態・治療を学ぶ	吉田
72	歯原性腫瘍、嚢胞、口腔悪性腫瘍の病態と治療	口腔では他臓器の嚢胞とは異なる歯原性疾患が多く存在する。口腔悪性腫瘍を含めて、その病理、病態と治療を学ぶ	佐藤
73	口腔粘膜疾患の鑑別と治療	口腔粘膜病変は口腔固有の疾患、皮膚科や内科疾患関連症状など多様でありその病態、鑑別、治療を学ぶ	竹川
74	口腔心身症	口腔には器質的疾患が不明確せ疼痛などの症状を訴えるものが多い。その病態と治療を学ぶ	小神
75	口腔ケアと健康管理	口腔ケアの概念と方法、全身的疾患との関係を学ぶ	竹川

58. 生殖発達医学(必修)

〔リプロダクティブヘルス、女性医学、
発生、胎児医学、周産期医学、先天異常〕

担当教官	◎高橋 悟、長屋 建、中右弘一、岡本年男、 鈴木 滋、長森恒久、佐藤雅之(小児科)、加藤育民、 片山英人、市川英俊、中西研太郎、 金井麻子、横浜祐子、吉澤明希子、 板橋 彩、水崎 恵(産婦人科)、 橘田岳也(泌尿器科)、北田正博(乳腺疾患センター)、 宮城久之、石川成津矢(第一外科)、 佐古澄子(麻酔・蘇生科)、林時伸 (非常勤)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後期	5単位	78コマ
履修目的・授業概要			
<p>【キーワード】リプロダクティブヘルス、女性医学、発生、胎児医学、周産期医学、先天異常、成長発達</p> <p>【小児科】こどもの成長・発達について総合的に学習するとともに、こどもの罹患するところと身体の疾患についての理解を深める。</p> <p>【産科】ヒト初期発生から胎児までの発育および生理を系統的に学習するとともに、妊娠と分娩の生理、さらにはその異常病態、対処法などを産科学の理解に必要な基礎知識を習得し、診断、治療学の知識を身につける。</p> <p>【婦人科】女性生殖器疾患(子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がん)の進行期と治療法(婦人科内視鏡術を含む)などの理解に必要な基礎知識を修得する。</p> <p>【泌尿器科】尿路生殖器の発生異常、機能障害について理解し、診断法、治療法について説明できるようにする。</p> <p>【乳腺外科】乳癌を中心とした乳腺疾患を学ぶ。</p> <p>【小児外科】小児の外科的疾患のみならず外科的侵襲を受ける小児の術前後全身管理についても学ぶ。新生児外科、腫瘍外科、母体搬送、予定帝王切開、児の手術、術後管理、外来フォローという小児外科に特有の流れについても理解する。</p>			
到達目標			
<p>【小児科】発達変化していく小児という対象について学ぶ。小児の代表的疾患を理解するとともに成人までの成長を見据えた全人的医療であることを理解する。健康小児の成長発達を学ぶ。その上で代表的疾患(低出生体重児、小児内分泌疾患、先天性心疾患、虐待など)を理解し概説できる。</p> <p>【産科】ヒト初期発生からの発育を学び、妊娠と分娩の生理と以上の病態などを理解する。それらに基づいた産科における診断治療学の基本を学ぶ。</p> <p>【婦人科】代表的な女性生殖器疾患について理解し概説できる。</p> <p>【泌尿器科】尿路生殖器の発生異常、機能障害について理解し、診断法、治療法について説明できるようにする。</p> <p>【乳腺外科】最新の乳癌の診断・治療を理解する。</p> <p>【小児外科】小児の外科的疾患および小児の術前後管理について理解する。特に新生児手術、腫瘍手術、鏡視下手術を中心に学ぶ。</p>			
授業の形式			
<p>【小児科】PC、スライド、ビデオおよびプリント類等を用いた講義形式である。状況に応じてmanabaを用いた講義へ変更される。</p> <p>【産婦人科】板書、スライド、ビデオ映写などを中心として講義をする。また、学習効果を高めるために適宜にプリントを配付する。状況により変更の可能性有り。</p> <p>【泌尿器科】PC、プリント、スライド、ビデオ等を用いた講義である。</p> <p>【乳腺外科】PC、スライドを中心とした講義形式である。</p> <p>【小児外科】板書、プリント、スライドによる医学知識の習得だけでなく手術ビデオを見ながら外科的器具、模型などを用いたシミュレーションを行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>シラバスに記載されている内容について予習してくること。講義終了後は、配布されたプリントを整理しまとめの復習を行うこと。</p>			
成績評価の基準等			
<p>【コーディネーター】本試験の受験には、全講義の2/3以上の出席が不可欠である。成績評価は定期試験を中心とするが、講義の出席状況も加味し総合的に判断する。</p> <p>【産婦人科】成績評価は定期試験を中心とするが、講義の出席状況も加味し総合的に判断する。</p> <p>【泌尿器科】筆記試験の結果と授業への出席状況を加味し判断する。</p> <p>【乳腺外科】筆記試験の結果・授業の出席状況をみて判定する。</p> <p>【小児外科】筆記試験の結果と授業への出席状況を加味し判断する。</p>			

学生へのメッセージ(履修上の心得など)

【コーディネーター】常に発育変化していく個体を相手にしているという視点から兆候、診断、治療を考える講義を目標としている。そのため全ての項目を網羅する講義の形態ではないことに留意されたい。

【産婦人科】内容が多岐にわたり、さらに最新の内容を提供したいと考えており、予習して授業を受けることが期待される。

【泌尿器科】授業時間内に標記の内容を網羅することは不可能であり、学習すべき事項を提示するととめることがある。積極的に自学自習することを期待する。その際各々の病態を科学的に理解し、説明できるように努めて欲しい。泌尿生殖器の疾患を理解するには解剖学、生理学、発生学、細菌学などの基礎的知識が必要であり、これらを十分復習して講義に臨んで欲しい。

【乳腺外科】近年増加傾向にある乳癌を中心とした乳腺疾患についてEBMIに基づく治療方針も含めて理解に努めて欲しい。

【小児外科】小児特有の病態を把握し、成長発達を考慮に入れた手術法の修得に努めていただきたい。我々の診療の対象は手術を受ける児自身にとどまらずその両親、家族、そして社会にまで及ぶ事を銘記していただきたい。予習復習のきっかけとなる授業、臨床世界をかいま見ることのできる授業を行いたい。

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) Williams Obstetrics (21版)	Cunningham	Mw Graw-Hill	20,000円
(参) 産婦人科学	加藤(監修)	ヘルス出版	12,000円
(参) 図説ARTマニュアル		永井書店	13,000円
(参) 小児泌尿器科学書	生駒文彦(監修)	金原出版(1998/2)	23,000円
(参) 新Urologic Surgery シリーズ7 小児泌尿器科手術	柿崎秀宏(編集)	Medical View社(2010年)	12,000円
(教) NEW泌尿器科学	西沢、松田(編集)	南江堂(2000/5)	6,300円
(参) 新図説泌尿器科学講座 第5巻 (小児、女性泌尿器科)	吉田修(編集)	Medical View(1999/5)	23,000円
(参) 系統小児外科学 (第3版)	岡田正	永井書店	24,150円
(参) Pediatric Surgery (5版)	James A.O'Neill,Jrら	Mosby	50,000円位
(参) Surgery of the newborn	Neil V.Freemanら	ChurchillLivingstone	20,000円位
(参) Nelson Textbook of Pediatrics 18版	Kliegman,Behrman,Jenson,Stanton	Saunders	16,000円
(参) 標準小児科学(第7版)	内山,原,高橋(編集)	医学書籍	8,800円
(参) 小児科学(改訂第9版)	五十嵐隆(編集)	文光堂	12,000円
(参) 先天性心疾患手術書	安井久喬(監修)	メジカルビュー	20,000円
(参) 乳腺疾患-State of arts	戸井,伊藤(編集)	歯葉葉出版	16,800円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	配偶子形成・卵胞発育・性周期調節	ヒト精子および卵子の形成に関し学び、卵胞発育、性周期調節機序を理解する。	未定 (産婦人科)
2	排卵・受精・着床	排卵、受精、着床過程を学び、そのメカニズムを理解する。	未定 (産婦人科)
3	月経異常	子宮内膜の周期的変化、月経初来機序を理解し、その異常について学ぶ。	未定 (産婦人科)
4	女性生殖器の構造と機能	膣、子宮、骨盤内血管、リンパ系の解剖および機能に関し学習する。	水崎 (産婦人科)
5	性感染症・骨盤内感染	性感染症の疫学および原因、診断・治療法を理解する。	水崎 (産婦人科)
6	子宮頸癌(1)	子宮頸癌の組織分類、進行期分類について学ぶ。	板橋 (産婦人科)
7	子宮頸癌(2)	子宮頸癌の診断・治療法・手術を理解する。	板橋 (産婦人科)
8	子宮体癌(1)	子宮体癌の疫学、リスクファクター、ホルモンとの関連、病理組織、進行期分類を学ぶ。	片山 (産婦人科)
9	子宮体癌(2)	子宮体癌の診断・治療法・手術ならびに予後に関し理解する。	片山 (産婦人科)
10	卵巣腫瘍(1)	卵巣腫瘍の発生および分類・診断法に関し学ぶ。	市川 (産婦人科)
11	卵巣腫瘍(2)	良性、悪性腫瘍の治療法および予後を理解する	市川 (産婦人科)
12	婦人科腫瘍の化学療法	婦人科疾患の化学療法の基礎および最新の治療法について学ぶ。	片山 (産婦人科)
13	子宮筋腫・子宮内膜症・腺筋症	子宮筋腫の病理、臨床症状、診断法ならびに治療法に関し学ぶ。子宮内膜症・腺筋症の発生、病理、診断、治療法を理解する。	市川 (産婦人科)
14	外陰・膣の疾患	外陰、膣の良性、悪性疾患の診断・治療法を学ぶ。	加藤 (産婦人科)
15	女性の加齢に伴う疾患	女性の加齢に伴う疾病を理解し、薬物治療などその管理法を学ぶ。	加藤 (産婦人科)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	妊娠の診断・母体の変化	正常妊娠の診断、妊娠週数および出産予定日の決定法を学ぶ。妊娠による母体の生理的変化と病的状態を理解する。	横浜 (産婦人科)
17	正常妊娠	妊娠初期・中期・後期の正常妊娠過程を理解する。	横浜 (産婦人科)
18	妊娠初期の異常	流産、異所性妊娠などの妊娠初期の異常を学び、診断・治療法に関する知識を整理する。	中西 (産婦人科)
19	妊娠中期・後期の異常	早産、前期破水などの妊娠中・後期の異常の病態、診断、治療法を理解する。	中西 (産婦人科)
20	合併症妊婦	糖代謝異常合併妊娠や甲状腺疾患、心疾患などの合併妊娠の病態や診断、管理について理解する。	中西 (産婦人科)
21	妊娠高血圧症候群・HELLP	妊娠高血圧症候群の原因、病態、診断治療法について理解する、HELLP症候群についても理解を深める。	吉澤 (産婦人科)
22	正常分娩	分娩I期、II期、III期の定義および経過、分娩3要素について理解する。児頭の下降、進入、固定、回旋、児および胎盤の娩出を学ぶ。	吉澤 (産婦人科)
23	異常分娩(1)	陣痛、胎勢、回旋、進入の異常ならびに児頭骨盤不均衡について理解する。	金井 (産婦人科)
24	異常分娩(2)	前期破水、胎児仮死などの病態と周産期管理に関する理解を深める。	金井 (産婦人科)
25	産褥の生理・異常産褥	正常産褥の生理をまなび、産褥熱、マタニティーブルーズ、乳汁分泌不全などの産褥の異常および対処法を理解する。	吉澤 (産婦人科)
26	産科出血・DIC	分娩時出血に代表される産科出血を理解し、産科的DICの病態、治療を理解する。	金井 (産婦人科)
27	胎児の生理・発育胎児well beingの評価	胎児の生理機能を理解し発育評価法および機能評価法に関し学ぶ。胎児well beingの評価法を学び、その異常に対する対処法を理解する。	金井 (産婦人科)
28	絨毛性疾患	絨毛性腫瘍の発生、分類ならびに治療、管理法を理解する。	市川 (産婦人科)
29	妊娠と感染	妊娠中の細菌、ウイルス感染の母子に及ぼす影響および検査、診断、治療法を学ぶ。	横浜 (産婦人科)
30	胎盤・胎児付属物の異常	胎盤、臍帯、卵膜の異常を学び、その対処法を理解する。	横浜 (産婦人科)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	多胎妊娠	多胎妊娠の発生原因、周産期管理、分娩管理に関し理解する。	金井 (産婦人科)
32	出生前診断	絨毛、羊水検査、超音波断層法による出生前診断法を学び、遺伝相談に関する知識を習得する。	横浜 (産婦人科)
33	不育症・性分化異常	不育症についての要因および診断・治療法に関して理解を深める。性腺・生殖器の文化の異常について学習する。	未定 (産婦人科)
34	がん生殖と妊孕性温存	AYA世代を中心としたがん生殖について知り、妊孕性温存療法についての現状や課題について理解する。	未定 (産婦人科)
35	不妊症の診断・治療(1)	不妊症の頻度・原因について学び、診断法に関する理解を深める。	未定 (産婦人科)
36	不妊症の診断・治療(2)	原因別の不妊治療に関し学び、生殖補助医療に関する理解を深める。	未定 (産婦人科)
37	生殖補助医療技術	生殖補助医療技術に関する手技を理解し、最先端の不妊治療を学ぶ。	未定 (産婦人科)
38	漢方の基礎と臨床	産婦人科領域で使用される漢方治療の基礎を学ぶ。産婦人科疾患で用いられる漢方治療を理解する。	㈱ツムラ (非常勤)
39	小児科総論	正常な成長および発達と生体機能が年齢にともなってどのように変化するかを理解する。	高橋 (小児科)
40	新生児(1)	新生児医療の現状と方向性について知り、問題を認識する。新生児養護の4原則(栄養、保温、感染予防、母子関係の確立)について理解する。また母乳育児の重要性について理解する。新生児医療における倫理の理解をする。	長屋 (小児科)
41	新生児(2)	新生児疾患の捉え方 新生児疾患は胎内環境から胎外環境への適応障害であることを学び、呼吸・循環器疾患を中心に各疾患の理解を深める。	長屋 (小児科)
42	新生児(3)	新生児疾患(1)低出生体重児(子宮内発育遅延児)低出生体重児および子宮内発育遅延児について原因、予後について理解する。	長屋 (小児科)
43	新生児(4)	新生児疾患(2)新生児仮死、低酸素性虚血性脳症について学び、新生児心肺蘇生の基礎と重要性について理解する。	岡本 (小児科)
44	新生児(5)	新生児疾患(3)神経疾患、黄疸などについて学ぶ。また、未熟児で見られる脳室内出血や脳室周囲白質軟化症について触れる。	岡本 (小児科)
45	新生児(6)	重度心身障害者(医療的ケア児を含む)や小児在宅医療などNICU退院後の課題について理解する。	林 (非常勤)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
46	先天代謝異常	先天代謝異常症の代表的な疾患の診断、治療、予防法について理解する。	高橋 (小児科)
47	小児神経(1)中枢神経系の発達とその異常	中枢神経系の発達とその異常、小児の精神運動発達プロフィールを理解する。	高橋 (小児科)
48	小児神経(2)てんかん	小児期発症のてんかんについて学び、その分類・診断・治療について理解する。	高橋 (小児科)
49	小児神経(3)感染免疫・神経皮膚疾患	小児の代表的な感染免疫性神経疾患、神経皮膚症候群につき学び、それぞれの疾患の特徴を理解する。	高橋 (小児科)
50	小児神経(4)変性疾患・筋疾患	小児の代表的な神経変性疾患、運動器疾患(筋・抹消神経疾患)につき学びそれぞれの疾患の特徴を理解する。	高橋 (小児科)
51	小児神経(5)神経発達症	神経発達症(自閉スペクトラム症、注意欠陥多動症、限局性学習症)について理解し、概説できるようにする。	高橋 (小児科)
52	小児アレルギー(1)	年齢別に出現してくるアレルギー疾患の病態、診断、治療を理解する	長森 (小児科)
53	小児アレルギー(2)	アトピー、小児喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎の診断治療について理解する。	長森 (小児科)
54	小児膠原病	小児期に発生頻度の高い膠原病を理解する。	長森 (小児科)
55	母子感染とその予防	母子感染の病態、診断、治療、予防を理解する。	長森 (小児科)
56	小児循環器(1)	左右短絡疾患1:心室中隔欠損・心房中枢欠損の病態と治療を理解する。	中右 (小児科)
57	小児循環器(2)	左右短絡疾患2:動脈管開存・房室中隔欠損の病態や治療を理解する。	中右 (小児科)
58	小児循環器(3)	非短絡型疾患:肺動脈狭窄・大動脈弁狭窄・大動脈縮狭の病態や治療を知る。左右短絡疾患1:ファロー四徴の病態や治療を理解する。	中右 (小児科)
59	小児循環器(4)	左右短絡疾患2:単心室・大血管転位・総肺静脈環流異常・動脈管依存型心疾患の病態と治療を理解する。	中右 (小児科)
60	小児内分泌(1):成長障害	低身長や成長率の低下を来す疾患を中心に、成長障害を引き起こす疾患を理解する。	鈴木 (小児科)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
61	小児内分泌(2):副腎疾患	先天性副腎過形成症を中心に小児期多くみられる副腎疾患を理解する。	鈴木(小児科)
62	小児内分泌(3):思春期異常、性分化異常	性分化異常と、思春期早発症思春期遅発症などの思春期発来異常を来す疾患を理解する。	鈴木(小児科)
63	先天異常、先天奇形、染色体異常	代表的な染色体異常症例拳し疾患の概要を説明できる。先天性異常を惹起する代表的な環境因子を例挙できる。	鈴木(小児科)
64	小児腎疾患	発達学的見地からみた腎臓の構造と機能、小児科領域の主な腎疾患の病態生理、症候、診断、治療の基本を理解する。	佐藤(小児科)
65	小児外科(1):総論	小児科の特徴、歴史、現状、トピックスにつき知る、出世前診断、小児の呼吸、循環、栄養、術前術後の管理につき学ぶ。	宮城(血管呼吸腫瘍病態外科学分野)
66	小児外科(2):消化器・腹壁外科	消化器(食道～肛門)、腹壁(含むヘルニア、臍帯疾患)の先天異常・後天疾患に対する診断、手術、術前術後の管理につき学ぶ。	宮城(血管呼吸腫瘍病態外科学分野)
67	乳癌	乳癌の診断、治療について学ぶ。	北田(乳腺疾患センター)
68	遺伝性乳癌	家族性腫瘍の成因、遺伝性乳癌の診断と治療を学ぶ。	北田(乳腺疾患センター)
69	先天性心疾患における肺高血圧	肺高血圧を通して先天性心疾患の循環動態が見えてくる。	石川(心臓大血管外科学分野)
70	小児の精巣・陰嚢内容の異常	小児精巣・陰嚢内容の異常を理解し、診断法、治療法の概略を説明できるようにする。	橘田(泌尿器科)
71	性分化異常・外陰異常の外科治療	性分化疾患・外陰異常に対する外科的治療法を理解する。	橘田(泌尿器科)
72	小児泌尿器疾患(1)	先天性上部尿路疾患を理解し、その治療法について概説できるようにする。	橘田(泌尿器科)
73	小児泌尿器疾患(2)	先天性下部尿路疾患を理解し、その治療法について概説できるようにする。	橘田(泌尿器科)
74	小児外科(3):小児腫瘍外科	肝胆膵疾患、神経芽細胞腫、ウィルムス腫瘍、奇形腫、肝芽腫、軟部腫瘍の手術、術前術後の管理につき学ぶ。	宮城(血管呼吸腫瘍病態外科学分野)
75	小児外科(4):内視鏡外科・障害児外科	胸腔鏡手術、腹腔鏡手術につきビデオで学ぶ。また障害児に特有な病態と外科手術、被虐待を中心とした外傷外科についても学ぶ。	宮城(血管呼吸腫瘍病態外科学分野)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
76	小児心肺蘇生	小児心肺蘇生	佐古(麻酔科蘇生科)
77	小児神経(6)小児虐待	小児虐待の背景、対応について理解を深める。	中右(小児科)
78	小児消化器	小児期特有の消化器疾患を理解する。	長森(小児科)

59. 臨床放射線学(必修)

担当教員	◎沖崎貴琢、中島香織、山品将祥、中山理寛、渡邊尚史、石戸谷俊太、戸田雅博		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
放射線医学は放射線を利用した臨床医学の一分野であり、放射線診断学、放射線治療学、核医学およびInterventional radiology (IVR) より成り立つ。放射線生物学および放射線物理学の知識を加味し、放射線医学の医学全体における役割を総括的かつ合理的に理解する。 放射線医学の理解を通して、その適正な運用のもとに、疾病の診断および治療に対する論理的思考力を養う。			
到達目標			
放射線生物学、放射線物理学の基本を理解し、臨床の現場にいかに応用されているかを学ぶ。また、放射線診断学・放射線治療学・核医学・IVRそれぞれについて基本的事項を理解し、説明できる。			
授業の形式			
対面授業とし、講義資料はmanabaに掲載する。種々の事情で対面授業が行えなくなった場合は、オンライン（manaba）授業にすることがある。出席確認は出席カードで行う。オンラインの場合はmanaba上の小テストの提出をもって出席とする。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
シラバスに掲載されている内容について教科書・参考書にて予習してることが望ましい。講義終了後は、内容整理し、当該主題についてまとめを行うことが望ましい。			
成績評価の基準等			
出席率10%、授業の聴講状態10%、定期試験80%の割合に基づき、総合的に評価する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
第一線の医療現場での確かつ迅速な判断ができるように放射線医学の基本的な臨床知識を十分に取得して欲しい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教)標準放射線医学 第7版	西谷、遠藤 松井、伊東	医学書院	11,000円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	総論	放射線医学全般について学ぶ。	沖崎
2	放射線診断学(胸部Ⅰ)	胸部の画像診断に必要な検査の方法、適応および所見について理解する。	戸田
3	放射線診断学(胸部Ⅱ)	胸部の画像診断に必要な検査の方法、適応および所見について理解する。	戸田
4	放射線診断学(IVR)	IVRが診断及び治療面で如何に活用されているかを習得する。	石戸谷
5	放射線診断学(泌尿器・婦人科)	泌尿器・婦人科の画像診断に必要な検査の方法・適応および所見について理解する。	渡邊
6	放射線診断学(腹部)	腹部の画像診断に必要な検査の方法、適応および所見について理解する。	渡邊
7	放射線診断学(骨軟部)	骨・軟部組織の画像診断に必要な検査の方法、適応および所見について理解する。	石戸谷
8	臨床核医学(心・肺)	心・肺におけるシンチグラフィの実際について理解する。	沖崎
9	臨床核医学(内分泌)	甲状腺・副腎・副甲状腺におけるシンチグラフィの実際について理解する。	中山
10	臨床核医学(骨・肝・胆道・消化器・腎)	骨・肝・胆道・消化器・腎におけるシンチグラフィの実際について理解する。	中山
11	臨床核医学(腫瘍)	PETを含めた腫瘍シンチグラフィの実際を把握するとともにRI内用療法についても理解する。	中山
12	放射線治療学(子宮頸癌・悪性リンパ腫)	子宮頸癌、悪性リンパ腫の病期分類、放射線治療成績、予後などについて理解する。	中島
13	放射線治療学(乳癌・肺癌)	乳癌・肺癌の病期分類、放射線治療成績、予後などについて理解する。	中島
14	放射線治療学(頭頸部癌)	頭頸部癌に対する放射線治療を理解する。	山品
15	放射線治療学(泌尿器癌および緩和的照射)	泌尿器癌では、前立腺癌の病期分類やリスク分類、放射線治療について理解する。転移性骨腫瘍に対する緩和的照射や緊急照射について理解する。	山品

60. 臨床検査学(必修)

〔 検査の基礎、検体検査、生体機能検査、検査手技〕

担当教員	◎坂本 央、齊藤江里香、河端奈穂子、水上裕輔、進藤基博、岡本健作、松木孝樹		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
臨床検査は検体検査、生体機能検査による客観的データに基づいて病態を解析し、診断および治療方針の決定、経過観察、予後の判定を行う分野である。このために各種検査法（生理学、生化学、細菌学、免疫血清学、病理学など）の基本原則、技術を理解し、より信頼出来る検査結果を得るためのサンプル処理、精度保証、さらに検査結果に基づく病態解析を行い、臨床検査の基本的な方法・考え方を総合的に学ぶ。			
到達目標			
①臨床検査についての基本原則、臨床的意義、問題点と限界について理解し、述べることができる。 ②臨床検査に関連する基本的手技（性能評価、精度管理等）、各種検査を適切に行う手法について理解し、概説できる。			
授業の形式			
原則、対面授業で行う。スライド中心の講義となるが、プリント、視聴覚機器の活用もある。対面授業では出席カードの提出をもって出席とみなす。情勢の変化によりオンライン授業（manaba.zoom）を併用する際は、manaba上の小テストの提出をもって、出席とみなす。			
準備学習（予習・復習）等の内容と分量			
事前にmanabaに掲載する講義資料、教科書・参考書等により、履修内容について予習しておくこと。 講義終了後は、ダウンロードした講義資料や講義内容を復習して知識を整理し、当該主題についてまとめを行う。			
成績評価の基準等			
試験は筆記試験で行われ、国家試験形式（多肢選択方式）で行う。再試は一度実施するが、レポートに置きかえることもある。試験成績、授業出席状況から総合的に成績評価（合格判定）を行う。試験の受験資格は3分の2以上の出席とする。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
講義は実際の臨床の現場で役立つ、実践的な内容を中心に最近の知見も交えて行う。幅広い領域にまたがるため、専門性の高い講師を配する。専門領域における他科の講義知識を深め有用となる。検査独特な考え方、用語も多く難しいが、気軽に質問して理解を深めて下さい。 主題の順は、変動します。質問等の受付は随時。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教)標準臨床検査医学 第5版	山田俊幸 大西宏明 編集	医学書院	7,480円
(参)臨床検査ガイド 2020年改訂版	大西宏明 編集	文光堂	9,350円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	総論	臨床検査医学の概要を学ぶ。診察前検査、測定、基準範囲などデータ解析に必要な基本的知識と考え方を学ぶ。	坂本 (臨床検査・輸血部)
2	一般検査	尿一般検査、髄液検査のサンプリング、分析方法と解釈について学ぶ。	河端 (臨床検査・輸血部)
3	心電図①	心電図を読む手順について学ぶ。	坂本 (臨床検査・輸血部)
4	心電図②	心停止の原因となる不整脈などを学ぶ。	坂本 (臨床検査・輸血部)
5	微生物検査	細菌を中心とした病原微生物の検査について学ぶ。	河端 (臨床検査・輸血部)
6	血液学検査	血球数算定、凝固線溶系および血小板の異常に関する検査について学ぶ。	坂本 (臨床検査・輸血部)
7	生化学検査 (血清酵素)	血清酵素	齊藤 (臨床検査・輸血部)
8	生化学検査 (BUN, Cre)	BUN, Cre等	松木 (腎臓内科)
9	生化学検査 (脂質)	脂質	齊藤 (臨床検査・輸血部)
10	生化学検査 (血清蛋白)	血清蛋白	齊藤 (臨床検査・輸血部)
11	輸血検査	輸血に関する検査と安全な輸血療法について学ぶ。	進藤 (血液内科)
12	超音波検査	超音波検査、特に心臓超音波検査の基本的知識について学ぶ。	坂本 (臨床検査・輸血部)
13	免疫血清学検査	免疫血清学検査等。	岡本 (内分泌・代謝・膠原病内科)
14	遺伝子検査	遺伝子検査の基礎と応用を学ぶ。	水上 (消化器内科)
15	血液ガス・呼吸機能	呼吸機能検査と血液ガス分析を中心に、呼吸機能障害や酸塩基平衡について学ぶ。	坂本 (臨床検査・輸血部)

選 択 必 修 科 目

【第3学年】

61-1. 選択必修コース I

生体構造機能蛋白・病態解析コース(選択必修)

(タンパク質産生、細胞内局在化、免疫組織化学とプロテオミクス、炎症とタンパク質)

担当教員			
◎中山恒、渡部剛、矢澤隆志、 佐藤啓介(非常勤)、東邦康智(非常勤)、 岸部麻里、滝山由美、藤谷幹浩、小林進、 原英樹、川辺淳一			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
ヒトゲノム解析の完結により、ほとんどの生体タンパク質のアミノ酸配列が明らかにされた。それにともなう、生体タンパク質の構造や機能についても研究が進み、それぞれのタンパク質の役割も解明されてきている。本コースでは、生体を構成するタンパク質の構造や機能を知るとともに、様々な疾患における生体構成タンパク質の異常について理解することを目的とする。			
到達目標			
生体タンパク質の構造や機能を理解する。 生体タンパク質の解析方法を理解する。 生体タンパク質の異常と疾患病態との関係を理解する。 異常タンパク質を標的とした治療や疾患マーカーについて理解する。			
授業の形式			
講義は原則全員登校の対面授業です。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
本コースでは、生体構造や機能に関係するタンパク質について、基礎から臨床までさまざまな観点から講義が行われる。そのため、講義内容を理解する上で、履修主題ごとに異なる基本知識が必要となる。教科書や参考図書による十分な準備学習を行って下さい。			
成績評価の基準等			
出席とレポートで評価する(50:50)。三分の二以上の出席は必須である。レポートは、任意に選択した一つの講義について提出する。形式は自由でA4一枚以内にまとめる。また、成績評価は授業への出席状況も加味し総合的に行う。			
学生へのメッセージ			
タンパク質の視点から、医学、医療を学ぶカリキュラムである。基礎領域では細胞内産生から異化分解まで、基礎と臨床の橋渡しとしてタンパク質研究・検査の方法論、臨床では各科における個別分子の研究・診療トピックスの進歩を学ぶ3つの柱から構成される。タンパク質研究を基点とした医療の面白さを学んで欲しい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
プロテオミクス -方法とその病態解析への応用-	鈴木 紘一 監	東京化学同人	5,280円
タンパク質がわかる	竹縄 忠臣 編	羊土社	4,290円
Biochemistry	Donald Voet, Judith G. Voet	Wiley	\$250

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	蛋白質産生とその制御 外部環境と細胞機能	転写・翻訳とその制御、DNA変異と修復、翻訳後修飾と折りたたみ、シグナル伝達による蛋白機能制御	川辺淳一
2	細胞内蛋白分解	細胞における蛋白質の一生、タンパク質の危機管理システム、オートファジー・リソソームシステム	川辺淳一
3	抗体作製方法論	モノクローナル、ポリクローナル、ハイブリッド抗体等	佐藤啓介(非常勤)
4	炎症と蛋白	免疫応答とサイトカインネットワーク	佐藤啓介(非常勤)
5	免疫組織化学の原理と実際	蛍光抗体法、ABC法、電顕免疫組織化学	渡部 剛
6	プロテオミクス分析技術	2次元電気泳動、質量分析	矢澤隆志
7	癌関連蛋白	癌化に関与する蛋白質	矢澤隆志
8	がん と 蛋白質	がん微小環境に応答するシグナルネットワーク	中山 恒
9	腸内環境	宿主-腸内細菌の相互作用	藤谷幹浩
10	自然免疫	自然免疫を制御するタンパク質	原 英樹
11	表皮分化関連蛋白	皮膚疾患とプロテアーゼ	岸部麻里
12	腫瘍マーカー - PSA	前立腺癌のスクリーニング、診断、治療・フォロー	小林 進
13	心血管病と 蛋白質 I	パターン認識受容体を介した炎症誘導機構	東邦康智(非常勤)
14	心血管病と 蛋白質 II	I のつづき。心血管病発症のメカニズム	東邦康智(非常勤)
15	腎関連マーカー	GFR、尿アルブミンなど糖尿病腎症の腎機能評価法を理解する	滝山由美

61-2. 選択必修コース I

救急・プライマリーケアコース(選択必修)

担当教員 ◎岡田 基、小北直宏、 丹保亜希仁、中嶋駿介、川口 哲、吉田有里、 黒嶋健起、國岡信吾			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要 緊急を要する疾患、病態を通じてプライマリーケアの基礎知識と 実際を学ぶ。			
到達目標 ・救急患者診察のための基本的態度、バイタルサインの収集、初期 診断、治療の優先順位(含トリアージ)、および初期治療について 説明できる。 ・人工呼吸器の各種換気様式を理解する。 ・心肺蘇生法について理解をする。 ・外傷初療における重症度および緊急度の診断方法を理解する。 ・災害時に医療関係者がなすべきことを理解する。			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など) 講義、一部実習			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 講義で配布されたプリントを整理し、当該主題についてまとめを 行うこと。			
成績評価の基準等 レポート、全ての授業に出席することを原則とする			
学生へのメッセージ(履修上の心得など) 医師としてプライマリーケアを行う際に必ず遭遇する疾患や病態 について、「自分ならどうする」という疑問を常に念頭において履修 されたい。 実習形式のときはスキルスラボを使用することがあるので予定表 (掲示予定)を確認して下さい。 ※定員は20名まで			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
AHA心肺蘇生と救急心 管治療のためのガイドラ インアップデート2015	監修 岡田 和夫 美濃部 峻	シナジー	9,720円
外傷初期診療ガイドライン	監修 日本外傷学 界・日本救急医学会	へるす出版	16,200円
救命救急センター初期治療 室マニュアル	監修 杉山 貢	羊土社	4,860円
救急医学	編著 瀧 健治 西村謙一 十時忠秀	新興医学出版社	7,150円
標準救急医学(第5版)	監修 日本救急医学会	医学書院	8,250円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	救急蘇生入門1	BLS/ACLS	川口 (救急医学)
2	救急蘇生入門2	院内急変/RRS	中嶋 (救急医学)
3	超音波入門	POCUS	岡田 (救急医学) 中嶋 (救急医学)
4	"	"	岡田 (救急医学) 中嶋 (救急医学)
5	救急外来の 基礎	適切な病歴聴取と鑑別方法について学ぶ	黒嶋 (集中 治療部)
6	感染症入門	救急外来における感染症について学ぶ	黒嶋 (集中 治療部)
7	人工呼吸実 践	シミュレーターを用いた人工呼吸管理	小北 (集中 治療部)
8	"	"	小北 (集中 治療部)
9	外傷	JPTEC/JATEC	丹保 (救急医学)
10	"	外傷診療シミュレーション	丹保 (救急医学)
11	ドクター ヘリ・ドク ターカー	ドクターヘリ・ドクターカーの現状と 実際の活動を見学する。	吉田 (救急科)
12	災害机上訓 練	災害机上訓練	岡田 (救急医学)
13	"	"	岡田 (救急医学)
14	救急処置基 本手技1	気道管理・輪状甲状間膜穿刺・切開・ 胸腔ドレーン挿入	國岡 (集中治 療部)
15	救急処置基 本手技2	輸液・血管確保・CVカテーテル挿入	川口 (救急医学)

62-1. 選択必修コースⅡ

臨床薬理学コース(選択必修)

(臨床での薬物の使い方)

<p>担当教員</p> <p>◎中山恒、◎清水恵子、◎田崎嘉一、木谷祐也、橘内博哉、盛一健太郎、長森恒久、野津司、熊井琢美、阿部里見、川口ゆりや、大坪紗和、大宮友貴、加藤育民、菅原亜美、丹保亜希仁、神山直也</p>			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後期	1単位	15コマ
<p>履修目的・授業概要</p> <p>臨床薬理学は、基礎薬理学の知識を実際の臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、各種疾患の治療や薬物自体が惹起する病態をテーマとして取り上げ、各々の状況における重要項目や問題点を、「薬物」をキーワードとして講義する。各講義は実際の症例や具体例を挙げて進められ、臨床の現場における薬物療法への理解を深めることを目的とする。</p>			
<p>到達目標</p> <p>臨床現場のイメージを持ち、各臓器・器官の様々な病態に用いられる薬物を知る。それらの薬物がはたらくメカニズムを理解し、なぜ使われるのか説明できる。</p>			
<p>授業の形式</p> <p>講義は原則、全員登校の対面授業です。</p>			
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量</p> <p>講義終了後、配布プリントや参考図書を用いて講義内容の定着をめざして下さい。</p>			
<p>成績評価の基準等</p> <p>出席とレポートで評価する(50:50)。規定の出席率(授業時間数の3分の2以上)は必須とする。レポートは、講義の中から1つのトピックスについて記述するものとする。</p>			
<p>学生へのメッセージ(履修上の心得など)</p> <p>臨床薬理学を理解するためには、基礎薬理学と臨床各科の知識が必要となる。従って、これらの知識を一定程度持つことを前提として講義を進める。本コースでは、臨床の現場をイメージし、臨床に必要な薬理学的知識を総合的に理解できるように勉強して欲しい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) NEW薬理学 第7版	田中千賀子 他	南江堂	8,800円+税
各科の参考書			

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	循環器と薬物	全身循環のバランスを考慮しなければならない循環器疾患特有の薬治療の考え方や単に薬理作用だけでない臨床試験に裏打ちされた「現場の薬治療」を学ぶ。	木谷(循環器・腎臓内科)
2	脂質異常症・高尿酸血症と薬物	脂質異常症・高尿酸血症の治療薬に用いられる薬物の臨床薬理を学ぶ。	橘内(旧二内)
3	悪性腫瘍の治療と薬物	悪性腫瘍の治療薬に用いられる薬物の臨床薬理を学ぶ。	盛一(消化器内科学分野)
4	小児科と薬物	小児科領域に特有な薬物動態について「発達薬理学」の視点から学ぶ。	長森(小児科)
5	抗菌薬の臨床	抗菌薬の臨床薬理を学ぶ。	野津(総合診療部)
6	アレルギーと薬物	アレルギーの治療薬に用いられる薬物の臨床薬理を学ぶ。	熊井(耳鼻科)
7	変形性関節症と関節炎の薬物	疼痛の病態生理を学び、関節痛に用いられる薬物の臨床薬理を学ぶ。関節内注射について学ぶ。	阿部(整形外科)
8	眼科と薬物	眼科で用いられる薬物の臨床薬理を学ぶ。	川口(眼科)
9	皮膚科と薬物	皮膚科で用いられる薬物の臨床薬理を学ぶ。	大坪(皮膚科)
10	精神薬理学の進歩	最近の精神薬理学の最新の知見を展望し、臨床との関連性について考える。	大宮(精神科)
11	産婦人科と薬物	産婦人科領域で用いられる薬物の臨床薬理を学ぶ。	加藤(産婦人科)
12	麻酔薬の薬理と臨床	臨床麻酔で使用される主要な静脈麻酔薬の薬物知識を整理し、薬物動態を理解する。	菅原(麻酔科)
13	救急治療と薬物	救急治療に用いられる薬物の臨床薬理を学ぶ。	丹保(救急科)
14	適応外使用	医薬品の適応外使用について学ぶ。	神山(薬剤部)
15	医療経済と薬物	費用対効果・薬剤経済を学び、臨床薬理を考察する。	田崎(薬剤部)

62-2. 選択必修コースⅡ

糖尿病・内分泌 Up・Dateコース（選択必修）

〔糖尿病合併症、内分泌、骨代謝〕

担当教員			
◎未定、滝山由美、 橘内博哉（内分泌・代謝・膠原病内科）、 渡部 剛（解剖学(2)）、平 義樹（看護学）、 矢澤隆志（生化学(1)）、結城幸一（薬理）、 鈴木 滋（小児科）、中川直樹（循環器・腎臓内科）、 小林 進（泌尿器科）、阿部里見（整形外科）、 水無瀬 学（産婦人科）、長岡泰司（眼科）			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第3学年	後期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
エビデンスに基づいた糖尿病・内分泌疾患に関連した最新の医学知識を、解剖学、生化学、薬理学、内科学、小児科学、産婦人科学、泌尿器科学、整形外科、眼科学、看護学の各視点から、専門的に学習することを目的とする。			
到達目標			
糖尿病・内分泌疾患に関する最新の医学知識について多角的視点から理解を深める。			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
本講義は、対面授業となります。出席は出席カードの提出により確認致します。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
シラバスに記載されているキーワードについて、教科書参考書等にて予習すること。講義終了後は配付プリントを整理し、当該主題についてまとめを行うこと。			
成績評価の基準等			
出席・態度50%、レポート50%（manabaにて提出）の配分で最終的にコース責任者が総合的に判断します。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
糖尿病・内分泌疾患に関連した分野のアップデートな情報を全11講座で担当し、総合的に理解することが可能である。従来の系統別講義では紹介できない最先端の医学知識を得ることのできるコースであり、糖尿病や内分泌疾患・代謝異常・内分泌分子医学に興味のある学生から当該分野を苦手としている学生までの多くの参加を期待している。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
Harrison's principles of Internal Medicine	Isselbacher	広川書院	38,203円
内科学 第12版	杉本 恒明	朝倉書店	31,900円
ジョスリン糖尿病学(第2版)	金沢 康徳(訳)	Medical Science	28,600円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	基礎内分泌学	内分泌細胞でペプチドホルモン分泌に関わる細胞内小器官が、外部からの特異的な刺激を受けてどのように変化するかを理解する。	渡部(解剖学(2))
2	松果体	松果体の構造と機能を理解し、その役割を学ぶ	平(看護学)
3	内分泌受容体1	エンドセリンとアンギオテンシンをそれらの変換酵素・受容体を含めて対比しながら役割を理解する。	矢澤(生化学(1))
4	内分泌受容体2	プロスタグランジン受容体の作用機構を理解し、その役割を学ぶ	結城(薬理)
5	小児内分泌1	成長障害の分子基盤を理解する。	鈴木(小児科)
6	小児内分泌2	先天性の糖代謝異常症を理解する。	鈴木(小児科)
7	内分泌疾患の分子機構	内分泌疾患の発症メカニズムにおける分子機構を理解する	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
8	心血管ホルモン異常とその病態	循環器疾患における心血管ホルモンの役割について理解する	中川(循環器・腎臓内科)
9	副腎疾患の外科治療	副腎疾患の手術適応と周術期管理を学ぶ	小林(泌尿器科)
10	骨代謝異常とその病態	骨のリモデリングにおける骨芽細胞と破骨細胞の作用を理解する	阿部(整形外科)
11	糖尿病の分子機構	糖尿病の発症メカニズムにおける分子機構を理解する	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
12	糖尿病合併症の成因	糖尿病合併症の発症メカニズムにおける分子機構を理解し、新しい治療戦略を学ぶ	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
13	婦人科疾患とホルモン治療	良性婦人科疾患におけるホルモン療法のメカニズムと治療を理解する	水無瀬(産婦人科)
14	糖尿病の臨床検査	糖尿病の臨床検査Up Date：検査値から病態の解析へ	橘内(内分泌・代謝・膠原病内科)
15	糖尿病網膜症の成因と病態	糖尿病網膜症の発症・進展とその病態を理解し、現在の治療方針を学ぶ	長岡(眼科)

旭川医科大学医学部医学科（学士課程）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医学科では、医療分野における多様な価値観等に触れるための基礎教育科目、医師のプロフェッショナリズム涵養に結びつく横断的な内容を身につけるためのICM(Introduction to Clinical Medicine)科目、より専門的な内容を学び、実践的な力を身につけるための基礎医学科目、臨床医学科目による教育課程を整備し、これらの体系的な履修を促します。また、日進月歩である医学の発展に教育課程として柔軟に対応するために「選択・必修コースⅠ～Ⅲ」をICM科目の中に配置し、基礎医学・臨床医学の発展に即した教育課程となるよう努めています。

医学科では、医学科の学位授与の方針を実現するために、上記の方針を以下のとおり具体化して、カリキュラムを編成しています。

① 「倫理観とプロフェッショナリズム」（態度）

生命の尊厳を尊重し、医の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。

1. 医学者としての倫理原則や臨床医として患者さんに対応するための行動科学を理解するために、ICM科目に「医療概論Ⅰ～Ⅳ」を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

② 「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」（知識）

幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性とその方法を説明できる。

2. 文化、社会、自然等に関する幅広い知識を身につけ、多様な価値観等に触れるために、教養科目を基礎教育科目と位置づけ履修を個人の希望に合わせた選択としています。
3. 医師のプロフェッショナリズム涵養に結びつく横断的な内容を身につけるためのICM科目を設定し履修を必修としています。
4. 専門分野の学問の内容と方法を説明でき、自学自習の態度を涵養し、確実に知識を獲得するために、講義・実習科目としての基礎教育科目、基礎医学科目、臨床医学科目のみでなく、ICM科目として「医学チュートリアルⅠ～Ⅴ」を演習科目として配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

③ 「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力」(技能)

豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。

患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。

急性もしくは慢性の健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。

5. 心理学的背景を理解した上で、医療コミュニケーションを円滑に行うために、基礎教育科目に「心理・コミュニケーション実習」を1年次に配置しています。

6. 主要徴候に基づく健康問題の診断と治療の原則を理解するために、臨床医学科目の「症候別・課題別講義」とICM科目の「医学チュートリアルⅢ～Ⅴ」を連動させ配置し、4年次に展開しています。

7. 臨床実習に必要な基本的診療能力と臨床推論能力を身に付けるために、臨床医学科目の「臨床実習序論」とICM科目のTBL型演習である「医学チュートリアルⅤ」を連動させ配置し、4年次に展開しています。

8. 臨床実習は、4年次～5年次に配置するベッドサイドラーニングで全ての臨床科目をローテートし、引き続き配置する実習ではクリニカルクラークシップ(診療参加型実習)を採用し3週間を一単位として基本診療科を中心に5年次～6年次に必修で展開しています。

④ 「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」(思考・判断)

基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。

また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的な研究計画を立案できる。

9. 自らの思考・判断のプロセスや結果を、論述等で論理的に的確に説明できるように、基礎教育科目に「基礎生物学実習」、「医用物理学実習」、「基礎化学実習」、基礎医学科目には「生化学実習」、「形態学実習Ⅰ、Ⅱ」、「免疫学実習」、「生理学実習・演習」、「薬理学実習」、「微生物学実習」、「寄生虫学実習」、「衛生・公衆衛生学実習」、「法医学実習・演習」等の実習科目を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

10. 臨床情報に基づく研究を行うために臨床医学科目に「臨床疫学」を配置し、獲得した様々な知識を用いて現実の問題解決に取り組む活動を行なう医学研究者としての素養を養うため、4年次に研究室に所属する必修科目としてICM科目に「医学研究特論」を配置しています。

⑤「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」（意欲・関心）

医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会及び国際社会に貢献する必要性とその方法を説明できる。

1 1. 地域医療の問題点を知るための「地域医療学」、旭川近郊および北海道での医療ニーズの探索ための「早期体験実習Ⅰ、Ⅱ」、医療に関わる社会的問題を知り解決するための「医療社会学」、「医療社会学実習」をICM科目に配置しています。また地域における病める者の医療ニーズを知るために臨床医学科目に「健康弱者のための医学」を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

1 2. 医学研究を通じて国際社会に貢献する方法を知るために「医学研究特論」を4年次に配置しています。

旭川医科大学医学部医学科2015カリキュラム カリキュラムマップ

基礎教育科目
ICM科目
基礎医学科目
臨床医学科目

領域	態度	知識	技能	思考・判断	意欲・関心			
キーワード	倫理観とプロフェッショナリズム	医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力	全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力	問題解決能力、発展的診療能力、研究心	地域社会・国際社会へ貢献するための能力			
ディプロマ・ポリシー	生命の尊厳尊重し、医の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。	幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性とその方法を説明できる。	豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。 患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。 急性もしくは慢性的健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。	基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。 また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的研究計画を立案できる。	医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会及び国際社会に貢献する必要性とその方法を説明できる。			
6年	統合演習試験 卒業時(Ad)OSCE	統合演習						
		臨床実習Ⅱ						
5年		臨床実習Ⅰ						
4年	OSCE/CBT	臨床薬剤・薬理・治療学	衛生・公衆衛生	チユートリアルⅢⅣⅤ	臨床実習序論			
		臨床検査学	法医学			医学研究特論		
		臨床放射線学			健康弱者のための医学	臨床疫学		
		麻酔科学			症候別・課題別講義	衛生・公衆衛生学実習		
		医療概論Ⅳ	救急医学			法医学実習・演習		
		医療安全	整形外科学					
医療情報学	腫瘍学2							
3年		選択必修コースⅠ～Ⅲ	医学英語Ⅲ					
		生殖発達医学					病理学実習	
		感覚器病態医学					寄生虫学実習	
		精神・神経病態医学					薬理学実習	
		消化器医学					微生物学実習	
		生体防御医学					生理学実習・演習	
		医療概論Ⅲ					生体調節医学	
							心肺病態制御医学	
	腫瘍学1							
2年		病理学	医学英語ⅡA・ⅡB	チユートリアルⅡ		基礎医学特論		
		機能形態基礎医学Ⅰ・Ⅱ				形態学実習Ⅰ・Ⅱ	医療社会学実習	
		寄生虫学				免疫学実習	医療社会学	
		薬理学				生化学実習		
		微生物学						
		医療概論Ⅱ				医用機器学	早期体験実習Ⅱ	
						免疫学		
	生化学1・2							
1年		基礎教育科目(教養科目)	医学英語ⅠA・ⅠB	チユートリアルⅠ		地域医療学		
		医療概論Ⅰ				早期体験実習Ⅰ		

医学科授業科目の単位数及び履修年次等（第4～6学年）

区分	授業科目	単位数	授業形式	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年	第6学年	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎 教 育 科 目	医学英語ⅠA	1	演習	1										必修
	医学英語ⅠB	1	〃	1										
	医学英語ⅡA	1	〃		1									
	医学英語ⅡB	1	〃		1									
	医学英語Ⅲ	1	〃			1								
	自然科学入門(物理系)	1	講義	1										選択必修 (物理系・化学系 ・生物系の中から 一つを選択)
	自然科学入門(化学系)	1	〃	1										
	自然科学入門(生物系)	1	〃	1										
	基礎生物学	3	講義	3										必修
	医用物理学	4	〃	4										
	情報統計学	2	〃	2										
	基礎化学	3	〃	3										
	心理学	2	〃	2										
	発生遺伝学	1	〃		1									
	分子生物学	1	〃		1									
	基礎生物学実習	1	実習	1										
	医用物理学実習	1	〃	1										
	統計学実習	1	〃		1									
	基礎化学実習	0.5	〃		0.5									
	心理・コミュニケーション実習	1	〃		1									
	哲学基礎	1	講義		1									選択
	教育学	1	〃	1										
	教養論	1	〃	1										
	言葉と文化	1	〃		1									
	医療文化史	1	〃		1									
	医系文学	1	〃	1										
	法学	1	〃		1									
	経済学	1	〃		1									
	社会学Ⅰ	1	〃	1										
	社会学Ⅱ	1	〃		1									
	地域社会論	1	〃	1										
	現代言語学概論	1	〃	1										
	感情心理学	1	〃	1										
社会福祉論	1	〃	1											
医療人間学	1	〃		1										
比較文化論	1	〃		1										
環境科学	1	〃	1											
数学概論	1	〃		1										
社会の中の物理	1	〃	1											
医学古典講読	2	〃	2											
ドイツ語講読	2	〃	2											
フランス語講読	2	〃	2											
ロシア語講読	2	〃	2											
中国語講読	2	〃	2											
医療のラテン語	1	〃	1											
心身論	1	〃		1										
医事評論抄読	1	〃		1										
世相史	1	〃		1										
青少年文化論	1	〃		1										
科学論文の読み方・書き方	1	〃		1										
手話入門Ⅰ	1	〃	1											
手話入門Ⅱ	1	〃		1										
教養連携科目Ⅰ	1	〃	1	1										
教養連携科目Ⅱ	2	〃	2	2										
小計 (必修)	26.5													
(選択)	38													

※ 教養連携科目Ⅰ及び教養連携科目Ⅱは、複数の講義題目により行われ、それぞれ一の授業科目として履修することができる。

区分	授業科目	単位数	授業形式	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年	第6学年	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
臨床 医学 科目	心肺病態制御医学	5	講義					5						必修
	生体調節医学	4	〃						4					
	生体防御医学	3	〃						3					
	消化器医学	4	〃					4						
	精神・神経病態医学	5	〃						5					
	感覚器病態医学	6	〃						6					
	生殖発達医学	5	〃						5					
	腫瘍学2	1	〃							1				
	整形外科学	2	〃							2				
	麻酔科学	1	〃							1				
	救急医学	1	〃							1				
	症候別・課題別講義	3	〃							3				
	臨床放射線学	1	〃							1				
	臨床検査学	1	〃							1				
	臨床薬剤・薬理・治療学	2	〃							2				
	臨床疫学	1	〃							1				
	健康弱者のための医学	2	〃							2				
	臨床実習序論	4	演習								4			
	臨床実習Ⅰ	26	実習									26		
	臨床実習Ⅱ	39	〃										39	
統合演習	2	演習										2		
小計 (必修)		118												
合計		(必修)	210											
		(選択)	38											

【卒業要件単位数】

必修科目210単位及び選択科目8単位以上、合計218単位以上を習得すること。

必修科目

【第4学年】

63. 医学チュートリアルⅢ・Ⅳ・Ⅴ (必修)

担当教員	Ⅲ ◎橋岡 禎征、その他チューター Ⅳ ◎高橋 悟、その他チューター Ⅴ ◎野津 司、井村春樹 (非常勤)、 松坂 俊 (非常勤)、齊藤江里香		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	Ⅲ～Ⅴ 各1単位	Ⅲ・Ⅳ各20コマ Ⅴ 16コマ ※自学自習時間を除く
履修目的・授業概要			
<p>チュートリアル教育は本学の教育目標 (本冊子冒頭参照) のうち、特に1、3、4の目標を達成するために展開されています。医学チュートリアルⅢ、Ⅳでは、paper patientを通じての臨床医学的知識の整理を行うことで、臨床実習 (ベッドサイド・ラーニング:BSL及びクリニカル・クラークシップ:CCS) の準備を行います。将来にわたり医学・医療の進歩及び発展に寄与するための自己学習能力の涵養を目指しています。医学チュートリアルⅤは、臨床実習序論と同時期に開講し、主に臨床推論を中心とした課題を扱います。</p>			
到達目標			
<p>第4学年に展開される医学チュートリアルⅢ～Ⅴでは、以下の各項目を達成することを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自学自習の態度を習慣づける。 2. 他者との協調性を高め、コミュニケーション能力を修得する。 3. プレゼンテーション能力を修得する。 4. 広い視点から自ら考え的確に問題点を抽出できる能力を修得する。 5. 問題解決のための情報の収集・分析能力を修得する。 6. 医師、医学者として求められる高い倫理観を修得する。 			
授業の形式			
<p>医学チュートリアルでは、6～7名でグループを作り、毎週2回、グループワークを行います。 ※医学チュートリアルⅤは、manabaとzoomを使用します。</p> <p>医学チュートリアルⅢ・Ⅳでは、問題解決型学習 (PBL: Problem Based Learning) の形式になります。各グループにチューターが配置されます。PBLでは、チューターから与えられた課題 (複数枚の課題シートが、進行に合わせて順次配布される) について、グループの学生同士で話し合うことを通じて、学習すべき事項を自ら見出し、その事項についての学習目標 (どのような内容を、どれくらいまで学ぶか) を設定し、学習方法も自分で考えます。次回のチュートリアルまでの自習時間を利用して自学自習に取り組みます。次回のセッションでは、それぞれが自学自習してきた事柄を元に新たな課題に取り組みます。</p> <p>医学チュートリアルⅤでは、症例問題を中心としてチーム基盤型学習 (TBL: Team Based Learning) の形式となります。予め渡される課題につきグループで学習を行います (manaba使用)。次のセッションでは、最初に準備確認のための個人テスト (IRAT: Individual Readiness Assurance Test)をmanabaの小テストで行い、事前学習の評価を行います。次に自己学習に基づいた議論をzoom上で行った後に準備確認のためのグループテスト (GRAT: Group Readiness Assurance Test)を行います (グループ代表者が小テストで回答)。基本的知識が確認されたところで応用課題をmanabaとzoomを使った双方向性授業で解決していきます。</p> <p>医学チュートリアルⅢ～Ⅴでは、臨床実習 (BSL及びCCS) に向けて、系統講義・課題別症候別講義などの履修内容にリンクさせながら、模擬カンファレンス (診断、検査、治療) 的なチュートリアルが行われます。チュートリアルで要求される態度、技能に加え、将来医師として必要とされる医学、医療の知識についても幅広くカバーされ、課題を通じてたしかに知識が身に付くことが期待されます。</p>			
準備学習 (予習・復習) 等の内容と分量			
<p>前半は事前配布課題が中心となるので、配布資料につき十分検討すること。扱う課題については自己ノートを作成し、継続的に記載すること。また、終了後は臓器別講義、症候別講義の履修内容を参考にして自己ノートに記載すること。</p>			

成績評価の基準等

医学チュートリアルⅢ・Ⅳでの成績評価

到達目標に記した6つの項目について、皆さんの行動を観察するチューターからの報告をもとに行います。また、多肢選択式問題 (MCQ:multiple choice questions) 形式の試験結果も加味されます。

チューター評価: MCQ=1:1で6割以上を合格とします。(令和3年度適用)

医学チュートリアルⅤでの成績評価

MCQ形式のペーパー試験の結果 (50%) に加えて、IRAT、GRAT、応用課題 (これらの統計50%) も加味されます。IRAT:GRAT:応用課題は3:1:1の比率で加算し6割以上を合格とします。ペーパー試験は16コマのうち三分の二以上の出席を受験資格とします。

便宜上、本履修要項では、医学チュートリアルⅢ～Ⅴを同一欄に掲載していますが、それぞれ、独立した授業科目であるため、それぞれ三分の二以上の出席を受験資格とし、それぞれの授業終了後にMCQ形式の試験を行います。令和6年度は、授業形態や進行の具合により受験資格が変更される可能性があります。Ⅲ～Ⅴの何れか1つでも単位を修得できなかった場合は、留年となりますので、注意すること。

学生へのメッセージ (履修上の心得など)

皆さんが取り組むチュートリアルは、小グループ活動で行われ、かつ自学自習が求められるものですから、知識、態度、技術 (技能) の進捗度を観察する場として特に適しています。医学科第1学年で展開された、医学チュートリアルⅠ及びⅡで習得した自学自習の習慣、良好なチームワーク、コミュニケーション能力などを医学チュートリアルⅢ～Ⅴにおいて将来遭遇するであろう臨床事例を用いた課題 (事例) によって、より向上させ、臨床実習 (BSL及びCCS) によって実践能力を磨きます。

自学自習時間を有効に利用してチュートリアルの課題に取り組んでください。ただし、自学自習時間は、自由時間ではありませんので注意のこと。

参考図書

将来必要となる基本的な教科書、参考書はチューターと相談したり、他学年の履修要項を参考として、先行して購入するのも良いでしょう。文献、インターネットの情報の利用も適宜行ってください。

64. 医療概論Ⅳ(必修)

[緩和医療、行動科学、患者意思決定支援、加齢、アンチエイジング、臨床栄養学]

担当教員			
◎野津司(教育センター)、阿部泰之(客員教授)、 上村恵一(非常勤)、松本陽子(非常勤)、 小野寺美子(緩和ケア診療部)、 山内明美(栄養管理部)、 滝山由美(内分泌・代謝・膠原病内科)、 中川直樹(循環器・腎臓内科)、 藤谷幹浩(消化器内科)、武田智宏(消化管外科)、 高澤 啓(病理)、青沼達也(循環器・腎臓内科)、 川辺淳一(生化学)、妹尾一誠(整形外科)			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	1単位	19コマ
履修目的・授業概要			
<p>本コースは、「全人的医療・緩和ケア」と「加齢と適応の医学」のエッセンスに臨床栄養学を加えた内容で構成されています。</p> <p>緩和医療・緩和ケアは、かつての終末期医療のイメージから脱して、患者に対して全人的に向き合うことを通じて、臨床の現場で医の本質を見直し実践する分野へと深化しています。本コースでは、臨床における患者「評価」の本質、がん疼痛を含む症状緩和の基本、コミュニケーションと意思決定支援、精神腫瘍学などについて学びます。</p> <p>加齢と適応の医学では、加齢に伴う細胞から器官に至る生体の適応と破綻のメカニズムとアンチエイジング研究の動向を学びます。</p> <p>栄養学では、栄養素の知識、栄養状態の評価や栄養療法の方法、多職種チーム医療としての栄養管理について学びます。</p>			
到達目標			
<p>一般目標 (GIO)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の尊厳を尊重し、全人的に関わる態度を身につける ・患者の多様性を理解し、患者個別の意思決定を支える能力を身につける ・生の最期まで患者と向き合う姿勢を養う ・高齢者の特徴に基づいた対応ができる ・栄養管理や栄養療法を行う能力を身につける。 <p>個別行動目標 (SBOs)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者との、特にバッドニュースのコミュニケーションにおける留意点・要点を述べることができる ・医療における意思決定支援の思想的背景と利用できるフレームワークについて説明できる ・エンド・オブ・ライフにある患者との向き合い方について自分なりの考えを述べることができる ・加齢に伴う生体の適応と破綻のメカニズムを理解し、その予防と治療について説明できる。 ・様々な病態における栄養法のポイントを述べることができる。 			
授業の形式			
対面授業で行う予定である。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
各コマの履修内容にあるキーワード(オピオイド、バッドニュース、アドバンス・ケア・プランニングなど)について、事前に調べて知識を得ておくこと 講義終了後は履修内容についてまとめを行うこと			
成績評価の基準等			
成績評価は、多肢選択問題(医師国家試験に準ずる、60%)と各授業で行われる小テスト(40%)をもって行う。総合点で60点以上を目安として合格とする。講義における三分以上の出席をもって定期試験の受験資格とする。追試験は、本試験と同様の形式で行う。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
この科目の前半は、医療概論Ⅰ、医療哲学、心理コミュニケーション実習(模擬患者面接、ユマニチュード)、医療社会学、医療概論Ⅱで展開された行動科学の考え方の集大成として緩和医療を取り上げます。患者意思決定支援を緩和医療、終末期医療の視点から見つめ直します。続くのは、系統講義では展開されない加齢と加齢に伴う疾患とアンチエイジングを取り上げます。科目の最後は、臨床栄養学で、生化学に基づいた臨床栄養学の知識を取り上げます。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
参) 専門家をめざす人のための緩和医療学(改訂第2版)	日本緩和医療学会	南江堂	6,930円
参) 精神腫瘍学	内富庸介・小川朝生	医学書院	8,800円
参) ナニコレ? 痛み×構造主義	阿部泰之	南江堂	3,024円
参) がん患者の精神症状はこう診る 向精神薬はこう使う	上村恵一ほか(編)	じほう	4,014円
参) 新臨床栄養学 第2版	編集:馬場忠雄/山城雄一郎	医学書院	12,960円
参) 一般社団法人日本静脈経腸栄養学会 静脈経腸栄養テキストブック2017	一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会	南江堂	5,400円
参) 内科学(第11版)	矢崎義雄ら	朝倉書店	28,944円
参) 内科学書(改訂第8版)	小川 聡ら	中山書店	31,320円
参) Harrison's Principles of Internal Medicine	E Braunwald et al	McGraw-Hill	32,525円
参) Cecil Text book of Medicine	RL Cecil et al	Elsevier	20,497円
参) 標準整形外科学	松野 丈夫ら	医学書院	10,152円
参) 整形外科クイズ	中村 耕三ら	南江堂	24,840円
参) 酸化ストレス	吉川 敏一ら	医歯薬出版	10,400円
参) 高齢者の病態生理と麻酔の臨床	花岡 一雄ら	真興交医書	9,504円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	体験者の声を聴く	がん体験者の話を聴き、学ぶべきことを明らかにする	松本(非常勤)
2	患者を評価すること	患者を多面的に評価する、その在り方を学び、ひとりの人間として対応することを身に付ける	阿部(客員教授)
3	緩和ケアとは何か	緩和ケアの歴史的背景、基本概念、わが国における緩和ケア提供体制の実際を知る	小野寺(緩和ケア診療部)
4	がん疼痛治療とオピオイド	症状緩和の基本となる痛みの緩和について、がん疼痛を取り上げる。その際に頻用されるオピオイドについて学ぶ	小野寺(緩和ケア診療部)
5	コミュニケーション	悪い知らせの伝え方(実践を含む)について、探索的質問をするスキルについて学ぶ	上村(非常勤)
6	サイコロジョー	精神心理社会的ケアが必要な場面、がん患者特有の精神症状の評価とケア、ピリブメントケア、がん患者の自殺予防を含む	上村(非常勤)
7	意思決定の支援、アドバンス・ケア・プランニング	患者の意思決定を支える関わりは、医療者としての責務である。アドバンス・ケア・プランニングという概念を通して、あるべき意思決定の支援について学ぶ	阿部(客員教授)
8	人生の最終段階における医療	水・輸液・栄養管理を含む人生の最終段階における医療について学ぶ。	阿部(客員教授)
9	End-of-Life Care	End-of-Lifeには、治療やケアの必要・不必要を見極め、人生の最終章を全人的に支える能力が必要となる。End-of-Life Careについて学ぶ	阿部(客員教授)
10	細胞老化の分子生物学	細胞老化の分子生物学的な基礎を学びその意義を考える	高澤(病理)
11	地域における高齢者医療と福祉	高齢化率30%を超える地域で求められる医療・保健・福祉について学び、高齢者を支える医療の中での医師の役割について考える	中川(循環器・腎臓内科)
12	加齢の適応と高齢者医療	加齢に伴う生体の適応と破綻のメカニズムを酸化ストレスを中心に理解し、その予防と治療を考える。	青沼(循環器・腎臓内科)
13	抗老化研究戦略の考え方	加齢関連疾患に対するアンチエイジング研究戦略の考え方について学ぶ	川辺(生化学)
14	加齢変性に伴う運動器障害	加齢変性に伴う運動器障害の具体例を学び、その対処法を学ぶ	妹尾(整形外科)
15	臨床栄養学総論	栄養3要素、ビタミン、微量元素に関する基本知識を学ぶ。栄養サポートチームによる栄養管理について理解する。	山内(栄養管理部)
16	代謝性疾患の栄養学	代謝性疾患における栄養評価法や栄養療法について学ぶ	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
17	循環・呼吸器疾患の栄養学	循環・呼吸器系疾患、腎疾患における栄養評価法や栄養療法について学ぶ	中川(循環器・腎臓内科)
18	消化器疾患の栄養学	消化器系疾患における栄養評価法や栄養療法について学ぶ	藤谷(消化器内科)
19	周術期の栄養学	周術期における栄養評価法や栄養療法について学ぶ	武田(消化管外科)

65. 腫瘍学2 (必修)

〔 発癌、浸潤、転移、診断、疫学、生命倫理、予防 〕

担当教員 横尾英樹、佐々木高明、北田正博、片山英人、堀 淳一、進藤基博、更科岳大、高原 幹、柴田宏明、中川智絵、木下 学、山本昌代、水無瀬学、水上裕輔 ◎田邊裕貴			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要 腫瘍に関する基礎的・臨床的な知識を整理し、理解するとともに、現在行われているがん診療の臨床的・社会的実態を学ぶ。本科目は3年後期に開講された腫瘍学1と密接に関連しており、両科目を受講することで、腫瘍学全体の基本を総合的に習得できるよう構成されている。腫瘍学2では、各領域ごとにEBMを基盤にした悪性疾患の管理と治療の原則を学ぶ。			
到達目標 1) 消化管、肝胆膵、肺、乳腺、婦人科領域、泌尿器科領域、血液、小児、頭頸部、骨軟部、皮膚、脳などの悪性腫瘍などの管理と治療の原則を説明できる。 2) 原発不明癌の治療に対するアプローチを説明できる。 3) オンコロジーエマーゼンシーについて説明できる。 4) がん治療戦略の今後の方向について展望できる。			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など) 板書、プリント、液晶プロジェクターなどを使用して講義を行う。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 講義の前に各テーマについて、1~2時間程度の予習をすることが望まれる。また講義の後は必ず復習するとともに教科書、参考書を参照して知識を確かなものにして欲しい。			
成績評価の基準等 試験および再試験は選択式問題を基本とする。成績評価は出席状況も加味し、総合的に行う。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など) 「腫瘍学1、2」を通して腫瘍学の全体像を把握し、がん診療およびがん研究に対する興味を深めていただきたい。			

〈 教科書・参考図書 〉

書名	著者名	発行所	価格
入門腫瘍内科学(改訂第3版)	日本臨床腫瘍学会	南江堂	3,850円
がんのベーシックサイエンス	谷口直之 他翻訳	メディカルサイエンス・インターナショナル	10,450円
小児血液・腫瘍学(改訂第2版)	日本小児血液・がん学会(編)	診断と治療社	16,500円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	消化管悪性腫瘍の治療	消化管悪性腫瘍の治療の概要を理解する。	田邊(腫瘍センター)
2	肝胆膵悪性腫瘍の治療	肝胆膵領域の悪性腫瘍の治療の概念を理解する。	横尾(消外)
3	肺悪性腫瘍の治療	肺悪性腫瘍の治療の概念を理解する。	佐々木(呼吸器内科)
4	乳癌の治療	乳癌治療の概略を理解する。	北田(乳腺疾患センター)
5	婦人科領域の悪性腫瘍の治療	婦人科領域の悪性腫瘍の治療の概略を理解する。	片山(産婦)
6	泌尿器科領域の悪性腫瘍の治療	泌尿器科領域の悪性腫瘍の治療の概略を理解する。	堀(泌尿器)
7	血液腫瘍の治療	血液腫瘍の治療の概略を理解する。	進藤(血液内科)
8	小児がんの治療	小児がんの治療の概略を理解する。	更科(腫瘍センター)
9	頭頸部悪性腫瘍の治療	頭頸部領域の悪性腫瘍の治療の概略を理解する。	高原(耳鼻)
10	骨軟部腫瘍の診断と治療	骨軟部腫瘍の診断と治療の概略を理解する。	柴田(整形)
11	皮膚腫瘍の治療	皮膚腫瘍の治療の概略を理解する。	中川(皮膚)
12	脳腫瘍の治療	脳神経外科領域の腫瘍の治療の概略を理解する。	木下(脳外)
13	原発不明癌、オンコロジーエマーゼンシー	原発不明癌の治療の概略とオンコロジーエマーゼンシーを理解する。	山本(血液内科)
14	妊孕性温存療法	小児・AYA世代のがん患者に対する妊孕性温存療法について理解する。	水無瀬学(産婦)
15	がん治療戦略の今後	がん治療戦略の今後について展望する。	水上(消化器内科)

66. 衛生・公衆衛生(必修)

〔 衛生学、公衆衛生学、
産業医学、予防医学 〕

<p>担当教員</p> <p>◎西條泰明、吉岡英治、伊藤俊弘(看護学科)、 神田浩路、佐藤遊洋、金谷智子、九里優輝、 佐藤広和(非常勤)、山口亮(非常勤)、 杉澤孝久(非常勤)</p>			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	2単位	30コマ
<p>履修目的・授業概要</p> <p>衛生・公衆衛生では、予防医学、健康診断、健康増進、医療制度、 毒性学、環境医学、産業医学などが含まれ、多要因から成る健康の 成り立ちを理解し、健康増進と疾病の予防のために、広い視野に立 って考え行動することができるように、知識と方法論を修得するこ とを目的とする。</p>			
<p>到達目標</p> <p>・衛生公衆衛生学、毒性学、産業医学の歴史、意義、役割を概説で きる。・日本の健康政策、医療・保健制度、医療保障と医療費、地域 保健について説明できる。・職域保健、高齢者保健、母子保健、精神 保健について制度や役割について説明できる。・環境による健康影響 について概説できる。・国際保健の現状と日本の役割について概説で きる。・国民栄養の歴史と現状について概説できる。・食品保健、食 中毒の現状について概説できる。・主な生活習慣病の現状と危険因子、 その予防と健診・検診について説明できる。</p>			
<p>授業の形式</p> <p>講義は主にプレゼンテーションソフトを使用して進め、講義内 容のpdfファイルを配布する。授業ごとに到達目標、キーワードな どを示す。授業に関する質問は、授業中の他、オフィスアワーを 中心とした放課後、また電子メールにて受け付ける。</p>			
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量</p> <p>シラバスに記載されている履修内容について教科書参考書等にて 予習してくる。講義終了後は、ダウンロードした講義資料や講 義内容を整理し内容のまとめを行うこと。</p>			
<p>成績評価の基準等</p> <p>定期試験(100%：国家試験形式)とする。定期テストは各回の 講義内容から平均的に問題を出题する。定期試験6割以上を合格と する。</p>			
<p>学生へのメッセージ(履修上の心得など)</p> <p>衛生・公衆衛生では、病院で患者を対象とした直接の医療を扱わ ないが、医師である以上は、集団健康リスクの把握や予防、医療制 度との関わりなど社会と接する機会が多い。我々人間は誰しも病気 にならず健康で生きたいと願っているのであるから、予防医学の大 切さを考え勉強してもらいたい。社会で問題となっている事象に常 に興味を持ち、医学生として科学的に根拠を持って評価し、自分の 意見を持つことを目指して欲しい。講義はカリキュラムに示された 項目に基づいてすすめるので、あらかじめ教科書等を予習して受け ることを期待する。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税抜)
(教) NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版	岸 等 編	南江堂	6,300円
(教) 標準公衆衛生、社会医学(第2版)	岡崎 等 編	医学書院	5,700円
(参) 国民衛生の動向 2023/2024	厚生統計協会	厚生統計協会	2,700円
(参) 産業保健マニュアル(第8版)	森 晃爾 編	南山堂	7,000円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	社会医学総論(健康と疾病・予防医学)	社会医学としての衛生・公衆衛生学の定義、歴史、医学における位置づけ、ヘルスプロモーション、予防医学、SDGs、地域共生について概説できる。	西條(社会医学)
2	社会医学の研究手法としての毒性学	環境中の有害因子曝露による健康障害について学ぶ。毒性学の基本となる量・影響・反応の概念を理解し、有害物質の生体内動向、毒性の発現機序、毒性発現の予防、各種保健活動における利用について説明できる。	伊藤(看護学)
3	健康危機管理 気候変動と医療	健康危機の概念と種類、対応、健康危機管理に関する基本的な制度や法律、災害保険医療を概説できる。気候変動と医療の関係、自然災害が起きた時の医師の役割を概説できる。	西條(社会医学)
4	健康政策、国民の健康管理	国民の健康状態や健康観の変遷、健康政策の変遷、「健康日本21」の内容、健康維持・増進(メンタルヘルスを含む)の重要性を概説できる。	吉岡(社会医学)
5	日本の医療制度	国民の健康の保持増進を確保するために設けられている我が国の医療制度について、保健・福祉も含めて包括的に理解し、概説できる。地域社会(離島・へき地を含む)における医療の状況、医師の偏在(地域、診療科及び臨床・非臨床)の現状を概説できる。	佐藤遊洋(社会医学)
6	医療保障と国民医療費	医療保険制度のしくみと給付状況、国民医療費の動向等の医療経済の現状・課題について理解し概説できることを目標とする。医療における費用対効果分析を説明できる。医療資源と医療サービスの価格形成を説明できる。	西條(社会医学)
7	地域保健法の理念と実際・北海道の医師確保	地域保健法に基づく保健所や保健センターによる保健活動の実際について概説できる。	杉澤(非常勤)
8	職域保健総論1・2	我々は生活の糧を得るために労働する。その反面、労働やその現場には一般の生活や環境よりも程度の大きな危険や健康に対する有害性が存在する。職域保健とは人が労働することで健康を害することが無いように行う活動を言う。労働がもたらす疲労や職業に特有の健康影響を知る事から始め、労働災害や職業病の原因と発生機序について学び、その予防について概説できる。	吉岡(社会医学)
9			
10	高齢者保健	日本の高齢者保健・福祉の現状と動向、関連法規、介護保険制度について理解し、概説できる。	吉岡(社会医学)
11	環境保健学総論	環境と人の健康・健康障害との関係、水・空気と健康、シックハウス症候群、廃棄物について概説できるようにし、環境に対する医師の責任を学ぶ。	西條(社会医学)
12	環境破壊と人の健康	公害事例と環境保全、地域規模での環境問題、内分泌攪乱化学物質による健康被害について学び、人間活動のあるべき姿について考える。	伊藤(看護学)
13	国際保健(医療における日本の国際貢献)	保健、医療に関する国際的課題を理解し、説明できる。医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みを説明できる。国際保健、医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して、解決案を提案できる。	神田(社会医学)
14	母子保健	ライフサイクルにおける母と子の密接な関係を受けて実践されている母子保健の現状と統計を理解し、健康日本21とあわせて進められている健やか親子21の取り組みや母子保健法等の関連法規などについて概説できる。	神田(社会医学)
15	学校保健とメンタルヘルス	学校医の職務と保健管理および学校保健の現状と動向について概説できる。休養・心の健康(睡眠の質、不眠、ストレス対策、過重労働対策、自殺の予防)を説明できる。	吉岡(社会医学)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	物理エネルギーによる健康障害1	物理的環境条件に起因する健康障害のうち異常気圧、騒音、振動、温熱（熱中症、寒冷障害）についての生体影響、その評価、管理基準、予防対策等について概説できる。	金谷 (社会医学)
17	物理エネルギーによる健康障害2	物理的環境条件に起因する健康障害のうち非電離・電離放射線等についての生体影響、その評価、管理基準、予防対策等について概説できることを目標とする。	金谷 (社会医学)
18	作業様態・時間因子による健康障害	労働条件に起因する健康障害のうち作業様態に関連して発生する健康障害について概説できることを目標とする。	九里 (社会医学)
19	粉塵による健康障害	粉塵の吸入によって起こる健康障害を理解する。特に塵肺の発症機序、病態、症候、検査所見、予防対策、健康管理、統計について説明できることを目標とする。	佐藤遊洋 (社会医学)
20	ガスによる健康障害	ガスの吸入によって起こる健康障害および水溶性ガスへの接触によって起こる健康障害を理解する。特に一酸化炭素中毒および窒息の発生機序、症候、診断と治療法を説明できることを目標とする。	伊藤 (看護学)
21	金属による健康障害1	金属類が及ぼす生体影響について総論的に理解し、労働曝露で起こる健康障害とその影響評価法や予防法について学ぶ。	伊藤 (看護学)
22	金属による健康障害2	金属類のうち、特に鉛、水銀、マンガン、クロム、カドミウム、砒素、ベリリウム、ニッケルなどの金属による健康障害につき概説できる。	伊藤 (看護学)
23	有機溶剤・有機物質・農業による健康障害	有機化学物質および農業による健康障害について、その発現場、健康障害の内容及びその防止等について学ぶ。特に有機リン剤、有機塩素剤と有機溶剤による中毒の機序、診断と治療、検査を概説できる。	西條 (社会医学)
24	職域保健・産業医制度	労働衛生にかかわる法規、行政機関、産業保健支援組織、産業医制度について学び、実際の産業現場における産業医の活動を中心とした産業保健活動について概説できる。	佐藤広和 (非常勤)
25	国民栄養	日本の食糧事情、国民の栄養状況の変遷と、それにともなう生活習慣病などの国民の疾病構造の変化、食育について概説できる。	金谷 (社会医学)
26	食品保健・食中毒	日本の食品衛生、食品の衛生管理、食品公害、食品に関する法規や行政対応、食中毒の特徴・症状・統計・予防法について概説できる。	金谷 (社会医学)
27	生活習慣とリスク1	基本概念(国民健康づくり運動、生活習慣病とリスクファクター、健康寿命の延伸と生活の質<QOL>向上、行動変容、健康づくり支援のための環境整備等)を説明できる。喫煙(状況、有害性、受動喫煙防止、禁煙支援)、飲酒(状況、有害性、アルコール依存症からの回復支援)、身体活動、運動を説明できる。ライフステージに応じた健康管理と環境・生活習慣改善(環境レベル、知識レベル、行動レベルと行動変容)を説明できる。	西條 (社会医学)
28	生活習慣とリスク2	肥満・肥満症、脂質異常症、糖尿病、高血圧の危険因子と予防について説明できる。特定健康審査、メタボリックシンドロームについて説明できる。	西條 (社会医学)
29	生活習慣とリスク3(循環器系疾患)	生活習慣病のうち虚血性心疾患、脳血管障害、悪性腫瘍について発症にかかわる素因、生活要因、予防法を中心に概説できる。社会構造と健康、疾病の関係を概説できる。	西條 (社会医学)
30	感染症予防	感染症の成立の三要因(病原体、感染経路、宿主)、流行の3要素(人的、地理的、時間的)などを理解し、それぞれに対応した公衆衛生的な感染予防対策について学ぶ。予防接種について、適応と意義、種類とそれぞれの投与方法を説明できる。我が国および世界で問題となっている感染症の状況と対策について理解し、また我が国の感染症予防法について概説できる。	山口 (非常勤)

67. 法医学(必修)

担当教員	◎清水恵子, 森 香苗, 槇野陽介 (非常勤)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
法医学とは、医学的解明、助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断をくだすことによって、個人の基本的な人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学と定義されている(日本法医学会教育委員会報告)。基本的な法医学の知識について、概観する。			
到達目標			
一般目標： 臨床医として必要とされる、法医学の基本を理解する。 行動目標： <ul style="list-style-type: none"> 基本的な法医学の知識について説明できる。 臨床医として、外因死に関わった際の注意点を理解する。 臨床医として、検案(検屍)業務を依頼された際の基本的知識を理解する。 定期試験において、到達目標は8割、6割以上を合格とする。 			
授業の形式			
講義資料を中心に、法医学の基本的な知識を理解し、毎回の講義の最後に行う演習によって、知識を整理する。講義前に配布する予習帳によって、知識の整理・定着に努める。講義資料の配布は、学修支援システムmanabaを介して行う。知識の体系化を図るために、教科書を1冊通読することをお薦めする。講座に数冊ある教科書を、購入できない事情のある方に、貸し出すことは可能である(冊数限定)。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
講義開始前に配布する予習教材に従って自習することを推奨する。キーワードについて教科書で予習し、講義の後は配布資料で知識を整理し、興味がある分野は、教科書を読む事で理解が深まる。試験対策は、過去の問題を暗記するのではなく、その問題を通して要点を整理し、問題解答能力を培う事が肝心である。			
成績評価の基準等			
原則として、出席率が三分の二以上の者に対して、筆記試験を行い、評価する。各講義においての出席は、出席カードとともに毎回行う小テストの解答を提出することにより出席扱いとする。原則、再試験は行わない。			
学生へのメッセージ			
<p>法医学の知識は、患者様の人権擁護、死者の尊厳遵守、社会の安全確保、福祉の向上に大切なものです。</p> <p>将来、臨床現場で実際に法医学的思考が必要となった時に、的確な問題解決能力を発揮して下さい。</p> <p>死体の写真の取り扱い、死者の尊厳を尊び、将来医師として働く者のプロフェッショナルイズムを尊重し、適切な扱いをお願い致します。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税込)
(教) 身近な法医学 (改訂3版)	塩野 寛子 清水 恵子	南山堂	3,850円
(参) 死体検案ハンドブック (第4版)	清水恵子 他	金芳堂	7,700円
(参) 標準法医学 (第8版)	清水恵子 他	医学書院	6,050円
(参) 臨床事例で学ぶ 医療倫理・法医学	清水恵子 他	テコム出版 事業部	4,070円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	法医学とは 検案・解剖 ・死因論	法医学の定義、検死、解剖、死の定義について理解する。	清水
2	法医学とは 社会の中の 法医学	法医学の定義、検死、解剖、死の定義について理解する。	清水
3	早期死体現象	早期死体現象(体温低下、死斑、死体硬直、乾燥など)について、法医学的意義と死後経過時間について学習する。	森
4	晚期死体現象・異状死体現象	晚期死体現象(自家融解、腐敗、屍ろう化、ミイラ化)について、法医学的意義と死後経過時間について学習する。	森
5	損傷総論・損傷各論(1)	損傷の種類、名称、生活反応について理解する。鋭器損傷について学習する。	清水
6	損傷各論(2)	鈍器損傷、射創に関して理解する。	清水
7	損傷各論(3)	胸腹部損傷、頭部外傷に関して学習する。	清水
8	損傷各論(4)	交通外傷に関して学習し、その特徴を理解する。	清水
9	異常温度による傷害	総論、熱傷、火傷、凍死について理解する。	森
10	嬰兒殺・虐待	嬰兒殺、SIDS、Child Abuseについて法医学的理解を深める。	清水
11	窒息総論・各論(1)	種類、機序、経過、症状、外部・内部所見について、法医学的理解を深める。縊死について学習する。	清水
12	死後CT	死後CT検査の意義、注意点などを解説する。	槇野
13	窒息各論(2)	絞頸、扼頸による損傷等の特徴について、法医学的理解を深め、損傷から鑑別できるようにする。	清水
14	窒息各論(3)	溺死、他の窒息死について学習する。	森
15	内因性急死(突然死)	内因性急死の原因疾患を学習し、その法医学病理学的意義を理解する。	清水

68. 衛生・公衆衛生実習

[簡易環境測定技術、社会医学研究]

<p>担当教員</p> <p>◎西條泰明、吉岡英治、伊藤俊弘(看護学科)、 神田浩路、佐藤遊洋、金谷智子、九里優輝、 相澤和幸(非常勤)、早川裕子(非常勤)、 岸田直樹(非常勤)、迫陽子(非常勤)、 田端一基(非常勤)、鉛口佳奈子(非常勤)</p>			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	0.7単位	30コマ
<p>履修目的・授業概要</p> <p>私たちが生活し労働する環境において、基本的な環境要因の測定の方法と実際について一通り学ぶ。また、講義、演習形式にて、公衆衛生データをまとめるための統計解析、地域保健、職域保健、公衆衛生行政について学び、社会医学的な課題について考察するテーマなどの実習を通して、わが国における社会と医療の接点を体験し、将来の予防医学活動に役立てることを目的とする。</p>			
<p>到達目標</p> <p>社会医学領域に進む者にとっても、臨床医を目指す者にとっても必要となる予防医学的な知識および技術を修得する。</p>			
<p>授業の形式</p> <p>実践的内容についての講義と演習形式で行う。「環境測定実習と疫学のための統計演習②の解析」については、3班に分かれて行う。「環境測定実習」では簡易環境測定技術について測定器具類をもちいて学ぶ。「疫学のための統計解析演習②の解析」は情報処理実習室にてSPSSを用いた演習を行う。その他、レポート課題のあるテーマもあるので、各テーマをレポートとしてまとめて課題を提出すること。</p>			
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量</p> <p>衛生・公衆衛生、臨床疫学の講義の復習をしておくこと。特に環境測定実習の際には、測定対象が関連する健康影響について復習し、環境測定を行う意義の理解を深める。</p>			
<p>成績評価の基準等</p> <p>出席とレポートにより評価する。原則欠席は認めない。止むを得ない理由で欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。また、出席が8割を切るものは単独で不合格となる。配点は(1)出席:①100%:40点、②90~99%:30点、③80~89%:20点④80%未満:0点。(2)レポート課題:60点満点。</p>			
<p>学生へのメッセージ(履修上の心得など)</p> <p>実習を通して、社会医学の意味を理解して欲しい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税抜)
(参) 公衆衛生マニュアル 2023	佐伯圭吾 中村好一	南山堂	5,500円
(参) 産業保健マニュアル 改訂8版	森見爾編集	南山堂	7,000円
(参) 産業医のためのよくわかる作業環境測定	日本作業環境測定協会		600円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	化学物質対策	産業現場の化学物質対策の実際を学ぶ。	相澤(非常勤)
2	化学物質対策	同上	相澤(非常勤)
3	環境測定実習説明	環境測定実習で使用する測定器具とその意義を学ぶ。	九里
4	地域における認知症への対応	地域における認知症への対応を学ぶ。	鉛口(非常勤)
5	地域における認知症への対応	地域における認知症への対応を学ぶ。	田端(非常勤)
6	疫学のための統計解析演習①	主な統計ソフトについてとEZRのインストール方法を学ぶ。	吉岡佐藤
7	疫学のための統計解析演習①	2群の平均の比較、カイ2乗検定、フィッシャー正確確率検定を行うことができる。	吉岡佐藤
8	疫学のための統計解析演習①	相関と回帰	吉岡佐藤
9	疫学のための統計解析演習②	ロジスティック回帰分析による交絡の調整、ROC曲線作成を行うことができる。	吉岡佐藤
10	疫学のための統計解析演習②	ロジスティック回帰分析による交絡の調整、ROC曲線作成を行うことができる。	吉岡佐藤
11	疫学のための統計解析演習②	ロジスティック回帰分析による交絡の調整、ROC曲線作成を行うことができる。	吉岡佐藤
12	環境測定実習と疫学のための統計演習②の解析	簡易環境測定の実技 SPSS,EZR等を使用した演習	全員
13	環境測定実習と疫学のための統計演習②の解析	同上	同上
14	環境測定実習と疫学のための統計演習②の解析	同上	同上
15	環境測定実習と疫学のための統計演習②の解析	同上	同上

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	環境測定実習と疫学のための統計演習②の解析	簡易環境測定の実技 SPSS,EZR等を使用した演習	全員
17	環境測定実習と疫学のための統計演習②の解析	同上	同上
18	環境測定実習と疫学のための統計演習②の解析	同上	同上
19	環境測定実習と疫学のための統計演習②の解析	同上	同上
20	環境測定実習と疫学のための統計演習②の解析	同上	同上
21	公衆衛生行政①	感染症対策の実際を学ぶ。	岸田 (非常勤)
22	公衆衛生行政①	同上	同上
23	公衆衛生行政②	食肉衛生検査を学ぶ。	早川 (非常勤)
24	公衆衛生行政②	同上	早川 (非常勤)
25	国際保健	政府機関や民間団体、NGO等の国内外における国際保健の活動について学ぶ。	神田
26	公害病	公害病対策の歴史（水俣病）を学ぶ。	伊藤
27	公害病	同上	伊藤
28	産業医学の調査方法	質問表調査（職業ストレス簡易調査票、CES-Dなど）の実際を学ぶ。	吉岡
29	社会疫学	社会疫学調査の実際を学ぶ	佐藤
30	公衆衛生行政③	食中毒、食品衛生の実際を学ぶ。	迫 (非常勤)

69. 法医学実習・演習(必修)

担当教員				◎清水恵子, 浅利 優, 奥田勝博, 松原和夫 (非常勤), 坂上和弘 (非常勤)
対象学年	開講時期	単位数	コマ数	
第4学年	前期	0.3単位	15コマ	
履修目的・授業概要 臨床医として知っておくべき、より実践的な法医学の知識を概観する。				
到達目標 一般目標： 法医学講義の履修内容を基礎とし、より実践的な法医学の知識にふれることで、各自医学と社会について思弁してみよう。 行動目標： ・広い範囲に渡る実践的な法医学（一部臨床法医学）の基本的知識を、簡単に説明できる。 ・臨床医として、何故法医学の知識が必要であるのか、再認識する。				
授業の形式 講義資料を中心に、法医学の基本的な知識を理解し、毎回の講義の最後に行う演習によって、知識を整理する。講義前に配布する予習帳によって、知識の整理・定着に努める。講義資料の配布は、学修支援システムmanabaを介して行う。知識の体系化を図るために、教科書を1冊通読することをお薦めする。講座に数冊ある教科書を、購入できない事情のある方に、貸し出すことは可能である（冊数限定）。				
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 講義開始前に配布する予習教材に従って自習することを推奨する。キーワードについて教科書で予習し、講義の後は配布資料で知識を整理し、興味がある分野は、教科書を読む事で理解が深まる。試験対策は、過去の問題を暗記するのではなく、その問題を通して要点を整理し、問題解答能力を培う事が肝心である。				
成績評価の基準等 原則として、出席率が三分の二以上の者に対して、筆記試験を行い、評価する。各講義においての出席は、出席カードとともに毎回行う小テストの解答を提出することにより出席扱いとする。原則、再試験は行わない。				
学生へのメッセージ バラエティーに富んだ法医学の各種話題について学び、臨床現場で役立つ知識を身に付けて下さい。 死体の写真の取り扱い、死者の尊厳を尊び、将来医師として働く者のプロフェッショナルリズムを尊重し、適切な扱いをお願い致します。				

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税込)
(教) 身近な法医学(改訂3版)	塩野 寛子 清水 恵子	南山堂	3,850円
(参) 死体検案ハンドブック(第4版)	清水恵子 他	金芳堂	7,700円
(参) 標準法医学(第8版)	石津日出雄 高津光洋 監修	医学書院	6,050円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	分析学入門(講義)	化学物質についての科学捜査及び分析法の基本を学習する。	奥田
2	DNA鑑定(講義)	DNA鑑定の原理を理解する。	浅利
3	法医中毒1(講義・演習)	中毒学総論について学習し、CO中毒について学び演習を行う。	清水
4	DNA実習①	DNA鑑定法について各自のDNAを用いて実習する。	浅利
5	薬物実習①	死因究明に関わる薬毒物分析について実習する。	奥田
6	薬物依存1(講義)	アルコール、他を学習する。	松原
7	薬物依存2(講義)	麻薬、覚醒剤、他について学習する。	松原
8	法医中毒2(講義・演習)	農薬中毒・その他の化学物質中毒について学び演習を行う。	清水
9	検案書1(講義)	死体検案書の書き方及び異状死体の届出義務について理解する。	清水
10	検案書2(演習)	死体検案書の書き方及び異状死体の届出義務について理解する。	清水
11	DNA実習②	DNA鑑定の確率計算について実習する。	浅利
12	薬物実習②	死因究明に関わる薬毒物分析について実習する。	奥田
13	法医中毒3(講義・演習)	医薬品による中毒・医薬品の不正使用・その他有害事象について学び演習を行う。	清水
14	骨実習	法医人類学的な骨の見方について学習する。	坂上
15	骨実習	骨格標本を実際に観察することで、男女の鑑別方法、年齢推定等について実習する。	清水

70. 医療情報学(必修)

[病院情報、情報倫理、診療情報管理、遠隔医療、医療経済、AI、病院経営、知的財産権]

担当教員	◎谷 祐児、沖崎貴琢、中川直樹、尾川直樹、 廣川博之(非常勤)、小笠原克彦(非常勤)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
医療情報学は医学・医療に対するコンピュータなど情報技術の 応用や、医学・医療への情報学的な考え方の導入を図ることに関 する学問である。各講義では医療情報学を理解する上で必要な基 礎理論をはじめ、技術や技法、そしてそれらの応用について学ぶ。 さらに、昨今その必要性が注目される医療経営についても学ぶ。			
到達目標			
1. 病院内の医療情報共有の要となる電子カルテや病院情報シ ステム、遠隔医療について説明できる。 2. 医療情報に必要なネットワーク、セキュリティについて説明 できる。 3. 医師として知っておくべき医療経済や医療経営、知的財産権 について説明できる。 4. 医療関連法規について説明できる。			
授業の形式			
板書、スライド、コンピュータなどを使用し講義を行う。必要に 応じ、適宜プリントを配布する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
履修内容を参考に予習すること。講義終了後はまとめを行い、 疑問点を明らかにすること。			
成績評価の基準等			
1. 試験70%：担当教員が分担して出題する。点数は担当コマ数 に応じて按分する。 2. 出席15%：1コマ欠席につき3点減点。 3. 授業参加15%：受講状況などを総合的に評価する。 ※授業時間数の3分の1以上欠席した場合は原則定期試験の受験を認め ない。			
学生へのメッセージ			
医療情報学は比較的あたらしい学問であり、進歩が著しいため、 最新の知見を中心に講義を行う予定である。講義だけでは十分に理 解できない事項があれば、オフィスアワーを活用してください。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参)医療情報 第7版 全3巻	日本医療情報学会医 療情報技術育成部会	篠原出版 社	各3,400円 (税別)
(参)改訂新版 情報倫理	高橋慈子・原田隆史・ 佐藤翔・岡部晋典	技術評論社	1,380円 (税別)
(参)MBAの医療・介護経営	田中滋・古川俊治	医学書院	4,600円 (税別)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	医療情報学 総論	医療情報学の意義と目的、沿革について学 ぶ。また医療における情報の発生と流れにつ いて理解を深め、情報を集積したデータか ら、医療を構成する諸要素の統合をどのよ うに組み立てていくべきか、さらに医療情報 におけるトピックスを概説する。	谷 (経営企 画部)
2	病院情報シ ステムと電 子カルテ	医療機関では、電子カルテに代表される病院情報システムの導 入が進み、日常診療を行っていく上で電子カルテの仕組みや機 能について知っておく必要がある。ここでは、病院情報システ ムおよび電子カルテとその代表的な機能について概説する。	谷 (経営企 画部)
3	オーダーエ ントリーシ ステム	診療部門と検査・薬剤部門との連携が電子化されること で、情報伝達の迅速性や医療安全のためのチェック機能が 実現されている。ここでは、その機能を担うオーダーエ ントリーシステムとその代表的な機能について概説する。	谷 (経営企 画部)
4	医療情報の 標準化	医療情報を院内外で電子的にやりとりするためには、 システムが相互に理解できるデータ形式、通信手段、 用語が必要である。ここでは、代表的な標準規格やマ スタ・用語、標準化の必要性について概説する。	谷 (経営企 画部)
5	医療情報開 示と医療関 連法規	医師として知っておくべき医療関連法 規を学ぶ。また、医療関連法規に定め られた医師の義務について理解を深め る。	廣川 (非常勤)
6	医療におけ る情報倫理	SNS時代の個人情報に関わる最近のト ピックスを紹介するとともに、医療に おける情報倫理に関する問題点につ いて概説する。	小笠原 (非常勤)
7	医療情報管 理入門	診療録等の医療情報の利用方法とその 管理について学ぶ。また、医療で扱う診 療諸記録の種類と、診療録の特徴や要 件を説明できることを目的とする。	中川 (内科学 講座)
8	遠隔医療と オンライン 診療	遠隔医療のあゆみと現状について学ぶ。 また、新型コロナウイルス感染症の蔓延が 契機となり、いわゆるオンライン診療が普 及しつつある。ここでは、わが国でのオン ライン診療の現状について概説する。	廣川 (非常勤)
9	医療情報セ キュリティ	診療情報の電子化により利便性は向上した反 面、記録された個人情報が漏えいするリス クも懸念されている。ここでは、診療情報を安全 に取り扱うための、医療情報における倫理 とリテラシー、医療情報システムセキュリ ティについて概説する。	谷 (経営企 画部)
10	臨床経済学 入門	医療における技術評価の基礎概念、お よび分析方法(費用効果分析、費用便 益分析、費用効用分析)について概説 する。	小笠原 (非常勤)
11	医療とAI	近年、AIの発達が目覚ましく医療現場 における活用も進みその幅も広げつ つある。ここでは、AIの基礎知識と医療 における活用について概説する。	沖崎 (放射線 医学講座・ 経営 企画部)
12	知的財産権 入門	先進的な医療技術の実用化には特許な どの知的財産権も必要となる。医療人 にも求められる知的財産権の基礎知識 について概説する。	尾川 (知的財 産セン ター)
13	医療と経営	医療機関の経営が厳しさを増している中、経 営の知識を学ぶことは重要である。ここでは、 経営を考える上で必要な基礎知識と、現在の 医療を取り巻く環境について概説する。	谷 (経営企 画部)
14	組織形態と 病院経営	病院経営を考えていく中で、組織形態 は重要なファクターの一つである。こ こでは、各組織形態の概要と経営に対 する考え方について概説する。	谷 (経営企 画部)
15	病院経営の 実際	病院経営を考える上では、様々なファク ターを複合的に考慮する必要がある。こ こでは、実際に病院経営を考えていく上で必要 なフレームワークやデータ分析などを交え 病院経営の実際について概説する。	谷 (経営企 画部)

71. 整形外科(必修)

(運動器疾患)

担当教員			
◎伊藤 浩、小林徹也、入江 徹、谷野弘昌、阿部里見、三好直樹、妹尾一誠、柴田宏明、松倉圭佑、小原和宏			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	2単位	30コマ
履修目的・授業概要			
骨、関節、神経(脊髄、末梢神経)、筋、腱、皮膚などの機能解剖の特徴を学び、疾患や外傷の背景にある運動器系の機構や、病理と病態を理解する。また、疾患や外傷の診断、治療の目標、その理論と実際を学び、整形外科の役割を理解する。			
到達目標			
一般目標			
整形外科の歴史を学び治療対象疾患の概念を理解する。外固定法、牽引治療、皮膚・骨・軟骨・腱・神経移植、骨切り・人工関節・骨接合、再生医療など整形外科的治療の目的、方法、結果、合併症と対策を学ぶ。神経学的、生理・生化学的検査、脊髄造影検査、X線・CT・MRIなどの画像検査の方法、目的、結果と合併症を学ぶ。変形性関節症について病態を理解し鑑別と治療方法を学ぶ。代謝性関節症や血友病性関節症の病態を理解し鑑別疾患と治療を学ぶ。関節の病理、拘縮と強直、骨破壊と滑膜炎について理解し、関節リウマチと類似疾患を学ぶ。急性・慢性の化膿性骨・関節炎の鑑別疾患と病理診断、治療を学ぶ。上下肢・脊椎の先天性骨格奇形、軟部拘縮の鑑別診断、臨床症状、治療を学ぶ。創傷一般および骨折の原因・分類、遷延癒合・偽関節の病理、治療を理解する。四肢関節の骨折、脱臼、合併症、治療法を学ぶ。四肢関節の靭帯・腱・神経損傷の受傷機転、メカニズム、診断、機能再建手術、合併症を学ぶ。脊椎外傷における脊椎・脊髄損傷のメカニズム、診断、合併症、治療法を学ぶ。スポーツ障害、スポーツ外傷の診断・治療法・リハビリを学ぶ。骨・軟部組織の良性・悪性原発性腫瘍と転移性骨腫瘍の鑑別診断、病理学的特徴、治療方針を学ぶ。			
行動目標			
1、骨、関節、筋肉、靭帯、神経の名前、走行部位、機能的役割を言える。疾患の病態となる解剖学的特徴を言える。 2、機能再建とは何か、具体的な手術治療を例に説明できる。 3、以下の主訴をもつ鑑別疾患と診断のポイント、治療を言える。 ①頸・肩・腕痛②腰痛・下肢しびれ・下肢痛③頸部・脊柱の変形と運動制限④背部・胸腹部痛⑤脊髄麻痺⑥手指のしびれと麻痺⑦肩・肘・手関節・手指の痛みと変形⑧股関節・膝関節の痛みと異常歩行⑨下腿・足関節部・踵部・足趾の痛みと異常歩行			
授業の形式			
プリント(紙もしくは電子版)、スライド、ビデオなどを使用する。実際に臨床に使用している医療機器を提示し理解を深める。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
教科書を予習してくる。講義終了後は、配布されたプリントを整理し、教科書を用いてまとめを行うこと。			
成績評価の基準等			
成績評価の試験の受験資格は2/3以上の出席を要する。成績評価の試験は、国家試験形式で行い、基本的に6割を合格ラインとする。			
学生へのメッセージ			
授業の中で反復して出る疾患は重要疾患だと認識し、積極的な学習への取り組みを期待する。機能再建を目的とした整形外科の最先端治療を知り、QOL向上の理念に基づいた整形外科の将来性と発展性を感じて欲しい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
標準整形外科第14版	井 樋 栄 二	医学書院	10,340円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	整形外科の基礎	骨、神経、筋・腱、軟骨の修復と再生について理解する。整形外科領域の再生医療とiPS細胞について学ぶ。	阿部
2	診断・治療総論	運動器の診療基本や検査、保存療法や手術療法と運動器リハビリテーションを学ぶ。	阿部
3	関節疾患総論	関節リウマチとその類縁疾患について学ぶ。	阿部
4	骨腫瘍	骨の良性及び悪性の原発性腫瘍の病理、鑑別診断、治療方針について学ぶ。	柴田
5	軟部腫瘍	軟部腫瘍の診断と治療について学ぶ。	柴田
6	骨腫瘍	転移性骨腫瘍の診断治療について学ぶ	柴田
7	外傷総論	創傷一般及び骨折の病因、分類、遷延治癒、偽関節の病理や治療方法について学ぶ。	入江
8	関節疾患各論	下肢関節疾患(足関節、足)の病態、診断、治療法について学ぶ。下肢変形の治療について学ぶ。	阿部
9	スポーツ	スポーツ障害・スポーツ外傷のメカニズム、診断、治療、予防を学ぶ。	小原
10	スポーツ	スポーツ傷害における整形外科の役割を理解し、メカニズム、診断、治療、予防を学ぶ。	小原
11	関節疾患総論	人工関節置換術について学ぶ。	伊藤教授
12	四肢外傷	下肢の重要な骨折・脱臼等の外傷と合併症、治療法を学ぶ。	前田
13	関節疾患総論	変形性関節症、代謝性関節疾患、血友病性関節症を理解し、診断と治療方法を学ぶ。	松倉
14	骨系統疾患、神経筋疾患	骨の形成と成長について学び、代表的骨系統疾患、神経・筋疾患について理解する。代表的な神経・筋疾患を学ぶ。	阿部
15	脊椎疾患	頸椎疾患の病態、診断、治療法について学ぶ。	小林

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	脊椎疾患	胸椎・腰椎疾患の病態、診断、治療法について学ぶ。	小林
17	小児疾患	小児脊椎疾患の病態、診断、治療法について学ぶ。	小林
18	骨粗鬆症	骨の恒常性について学び骨粗鬆症の病態、予防、治療を理解する。	小林
19	関節疾患各論	上肢関節疾患(手関節、手)の病態、診断、治療法について学ぶ。	入江
20	関節疾患各論	下肢関節疾患(膝関節)の病態、診断、治療法について学ぶ。	松倉
21	関節疾患各論	上肢関節疾患(肩、肘関節)の病態、診断、治療法について学ぶ。	三好
22	四肢外傷	上肢の重要な骨折・脱臼等の合併症と治療法を学ぶ。	入江
23	小児疾患	小児上肢疾患の診断、治療法について学ぶ。	三好
24	四肢外傷	下肢の靭帯や腱損傷の診断法と治療法を学ぶ。	松倉
25	骨関節の感染症	化膿性骨髄炎、化膿性関節炎や結核などの病理診断と鑑別診断及び治療法について学ぶ。	松倉
26	脊椎外傷	脊椎・脊髄損傷のメカニズムと診断について学ぶ。	妹尾
27	四肢外傷	上肢の神経損傷と機能再建手術を学ぶ。	入江
28	関節疾患各論	骨盤・股関節疾患の病態、診断、治療法について学ぶ。	谷野
29	四肢外傷	骨盤・股関節疾患の重要な骨折・脱臼等の外傷と合併症、治療法を学ぶ。	谷野
30	小児疾患	小児股関節・下肢・足部疾患の診断、治療法について学ぶ。	谷野

72. 麻酔科学

担当教員			
◎牧野洋、黒澤温、岩崎肇、菅原亜美、佐古澄子、鷹架健一、井上真澄、須田康裕、高橋裕香子、上坂司、渡辺麻由、荒木走			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
麻酔の基本的知識を学び、呼吸・循環代謝管理を理解する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・麻酔の概要と麻酔科医の役割について学ぶ。 ・麻酔薬の種類と使用上の原則について理解する。 ・筋弛緩薬の種類と使用上の原則について理解する。 ・麻酔管理を安全に行うための術前評価について理解する。 ・周術期の生理学的変化と全身管理について理解する。 ・周術期における輸液・輸血について理解する。 ・周術期における疼痛管理について理解する。 ・慢性疼痛の病態、経過、治療について学ぶ。 ・局所麻酔薬と局所麻酔法の種類と特徴、適応、合併症について説明できる。 ・気管挿管を含む各種気道確保法を理解する。 ・安全な麻酔のためのモニタリングの方法を理解し解釈ができる。 ・周術期の重要な異常所見と対処法について概要を理解している。 ・手術部位別の麻酔の特徴を説明できる。 ・麻酔における小児・妊婦の特殊性を説明できる。 			
授業の形式			
事前配布の講義資料をもとに、板書、スライド、実際に臨床に使用している医療機器を呈示し、理解しやすい講義を行う。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
講義資料はmanaba上でPDFにて配布する。講義前の自学自習、講義中の書き込み、さらに試験前の復習に有効活用し、理解を深めること。			
成績評価の基準等			
出席(10%) 定期試験(90%) (医師国家試験問題形式による) 内訳:各講義の内容(各6%) なお、成績評価試験の受験資格は2/3以上の講義出席を必ず要する。			
成績判定は、アセスメントポリシーに則り判定する。 出席は、出席カードで確認する。合否判定の60%に到達しない場合は、再試験を行う(状況によってはレポートを追加で課す)。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
質問するなど積極的取り組みを期待する。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) 標準麻酔科学(第7版)	監修:古家 仁 編集:稲田 英一/ 森崎 浩/西脇 公俊	医学書院	5,720円
(参) 臨床麻酔科学書	監修:森田 潔 編集:川真田樹人/ 齋藤 繁/佐和貞治	中山書店	1,980円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	麻酔科学 / 麻酔科医の役割	麻酔の概要と歴史を理解し、麻酔科医の役割について学ぶ	牧野
2	吸入麻酔	吸入麻酔薬の特徴、悪性高熱症について学ぶ	牧野
3	静脈麻酔	静脈麻酔の特徴を理解し、薬剤の特徴を学ぶ	菅原
4	筋弛緩薬	筋弛緩薬の薬理および必要性について学ぶ	岩崎
5	全身管理 / モニタリング	全身管理に必要な生理学(循環・呼吸・体温管理など)と安全な麻酔のためのモニタリングについて学ぶ	黒澤
6	輸液・輸血 / 血液ガス分析	周術期における輸液・輸血について学ぶ / 動脈血ガス分析から得られる情報から各種病態の呼吸生理学的変化を考える	荒木
7	気道確保法	気道確保の必要性を理解し、気道評価と気道確保法について学ぶ	牧野
8	局所麻酔薬	局所麻酔薬の種類、薬理作用、合併症について学ぶ	上坂
9	脊髄くも膜下麻酔 / 硬膜外麻酔	脊髄くも膜下麻酔や硬膜外麻酔に必要な解剖・生理および臨床応用について学ぶ	渡辺
10	末梢神経ブロック / ペインクリニック	末梢神経ブロックの役割と方法、および臨床応用について学ぶ / 慢性疼痛の病態、経過、治療について学ぶ	井上
11	小児の麻酔	小児の麻酔の特殊性について学ぶ	佐古
12	産科麻酔	産科麻酔の特殊性について学ぶ	佐古
13	脳外科麻酔	脳・脊髄手術麻酔の特殊性について学ぶ	高橋裕
14	肺手術の麻酔	分離肺換気の方法および臨床応用について学ぶ	須田
15	心臓・大血管麻酔	心臓・大血管麻酔の特殊性について学ぶ	鷹架

73. 救急医学

[救急・集中治療]

担当教員			
◎岡田 基、小北 直宏、 丹保 亜希仁、中嶋 駿介、川口 哲、 吉田 有里、黒嶋 健起、水谷幸三郎（整形外科）			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
救急医療および集中治療の基本的知識を学び、呼吸・循環代謝管理を理解する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・外傷初療における重症度および緊急度の診断方法を述べる。 ・心肺停止患者の病態および心肺蘇生法について説明できる。 ・救急患者診察のための基本的態度、バイタルサインの収集、初期診断、治療の優先順位（含トリアージ）、および初期治療について説明できる。 ・ショックの種類とその治療方法を説明できる。 ・急性呼吸促進症候群の病態と治療法が説明できる。 ・急性中毒の初療の原則を述べる。 ・環境要因により引き起こされる疾患の概略を述べる。 ・災害時に医療関係者がなすべきことを考える。 			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
学習効果を高めるために、板書、プリント、スライド映写などを駆使し、時には実際に臨床に使用している医療機器を呈示し、理解しやすい講義とする。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
講義ノートを作成しPDFにて配布するので、講義前の自学自習、講義中の書き込み、さらに試験前の復習に有効活用し、理解を深めること。			
成績評価の基準等			
成績評価の試験は、国家試験形式で行ない総合的に判断する。なお、成績評価の試験の受験資格は2/3以上の出席を必ず要する。試験8割、出席2割で評価判定とする。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
質問をするなど積極的取り組みを期待する。			

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	救急医学総論	救急医学と救急医療（ERでの初療）	岡田 (救急医学)
2	救急蘇生	成人、乳児のBLS、ACLS	川口 (救急医学)
3	重症救急病態	各臓器障害の定義とその治療について	小北 (集中治療部)
4	重症感染症	重症感染症および敗血症について学ぶ	小北 (集中治療部)
5	重症患者管理1	人工呼吸・補助循環重症患者管理	丹保 (救急医学)
6	重症患者管理2	重症患者の血液浄化など	丹保 (救急医学)
7	脳蘇生・脳死	脳低温療法を含めた脳保護と、死ならびに脳死について学ぶ	岡田 (救急医学)
8	内因性救急疾患①	救急でみられる代謝・内分泌疾患について学ぶ	中嶋 (救急医学)
9	内因性救急疾患②	救急でみられる、呼吸器・循環器の疾患について学ぶ	黒嶋 (集中治療部)
10	内因性救急疾患③	救急でみられる、消化器、腹部の疾患について学ぶ	中嶋 (救急医学)
11	外傷Ⅰ	頭・頸部・脊椎の外傷及び画像診断	水谷 (整形外科)
12	外傷Ⅱ	胸・腹部の外傷及び画像診断	吉田 (救急科)
13	外因性救急病態	熱傷、電撃症、環境異常に起因する急性疾患	丹保 (救急医学)
14	中毒	各種中毒患者の治療	黒嶋 (集中治療部)
15	災害医療・トリアージ	災害医学の概念とその実際、およびトリアージについて学ぶ	丹保 (救急医学)

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教)標準救急医学(第5版)	監修 日本救急医学会	医学書院	8,250円
外傷初期診療ガイドライン	監修 日本外傷学会・日本救急医学会	へるす出版	16,500円
救急医学	編著 瀧 健治・西村 謙一・十時 忠秀	新興医学出版社	7,150円

74. 症候別・課題別講義(必修)

担当教員	河端奈穂子、蓑島暁帆、長内忍、南幸範、佐々木高明、牧野雄一、滝山由美、麻生和信、北野陽平、山本昌代、進藤基博、上野伸展、藤谷幹浩、大宮友貴、長徹二、長森恒久、鈴木滋、田中亮介、高橋裕之、大原みずほ、庄中達也、菊地信介、内田大貴、北田正博、松倉圭佑、水谷幸三郎、岸部麻里、堀 淳一、和田直樹、川口ゆりや、岸部幹、河野通久、加藤育民、市川英俊、黒澤温、福山秀青、佐藤広崇、上野伸展、小北直宏、黒嶋健起、◎佐藤伸之		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	3単位	45コマ
履修目的・授業概要			
<p>日常診療の場で遭遇しやすい症候を中心に、症候からの鑑別診断の進め方、課題解決の方策を学ぶことを目的とする。第3学年から始まり直前に終了する「臓器別講義」を知識の縦糸とすれば、症候別・課題別講義は横糸に相当する。解剖・生理から病理・分子生物にいたる基礎知識を整理した上で、各臨床症候の背景にある病態生理を理解することが望まれる。また、鑑別すべき疾患を想起しながら的確な診断を導くプロセスを会得し、その病態において選択すべき治療や予後を学習する。</p>			
到達目標			
<p>一般目標 (GIO)</p> <p>主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を発達、成長、加齢ならびに性別と関連付けて説明できる。この講義で扱う基本的症候・病態とは、動悸、胸痛、小児の呼吸困難・咳、胸水、血痰・咯血、発熱、腹痛、黄疸、肥満・やせ、貧血、リンパ節腫脹、出血傾向、便秘・下痢、悪心・嘔吐、けいれん、食思(欲)不振、小児の腹痛、呼吸困難、肥満・やせ・成長障害、小児の発熱と発疹症、小児の脱水とけいれん、浮腫、咳・痰、腹部膨脹(腹水を含む)腫瘍、吐血、下血、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、発疹、血尿、尿量・排尿の異常、視力障害、めまい、嚥下困難・障害、月経異常、チアノーゼ、腹痛・腹部膨脹、脱水、意識障害・失神、運動麻痺・筋力低下、全身倦怠感、頭痛、ショック、貧血、下肢痛を示す。</p> <p>行動目標 (SBO)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な症候を示す主要疾患を列挙できる。 2. 基本的な症候の成因と病態生理について説明することができる。 3. 基本的な症候を呈する患者の関わる鑑別診断の過程を述べることができる。 4. 基本的な症候の初期治療について概説できる。 			
授業の形式			
<p>上記目標に達成のために、症候の視点から疾患を見なおした形で講義が展開されていきます。</p> <p>医学チュートリアルⅢ～Ⅵは、症候別・課題別講義と連動した形で展開され、理解が深まるように設定されています。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>各コマの履修主題につき「臓器別講義」の内容をもとに予習すること。講義終了後は履修内容につきまとめを行うこと。</p>			
成績評価の基準等			
<p>試験は、夏休み後の前期試験期間に行い、受験資格は、三分の二以上の出席とする。成績評価は、国家試験方式(多岐選択方式)を持って行う。6割以上の正答率をもって合格とする。追試験は本試験と同様の形式で行う。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>日常の外来や病棟で必ず出会うであろう重要な臨床症候を取り扱う。症候によっては、緊急を要し生命に直結するものであることから、適切な病態の理解がいかに迅速な判断と的確な対処を導くのに重要であるのかを認識してほしい。患者さんは、診断名をつけて病院に来るわけではない。自分がそうした症候に遭遇した状態を想定して学んで頂きたい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参)Harrison's Principles of Internal Medicine 20 th ed	J.L.Jameson	McGraw-Hill	33,748円
(参)Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease	Vinay Kumar et al	Saunders	15,553円
(参)今日の診断指針第7版	金澤一郎ら	医学書院	27,500円
(参)今日の治療指針2019版	福井次矢ら	医学書院	20,900円
(参)臨床医マニュアル5版	臨床医マニュアル編集委員会	医歯薬出版	19,800円
(参)The Rational Clinical Examination: Evidence-Based Clinical Diagnosis	David Simel and Drummond Rennie	McGraw-Hill	10,075円
(参)論理的診察の技術 エビデンスに基づく診断のノウハウ	デヴィット サイメル、ドルモンド レニー	日経BP社	8,360円
(参)聞く技術 答えは患者の中にある 第2版	マークハンダーソン	日経BP社	6,600円
(参)内科診断リファレンス	上田剛士	医学書院	8,800円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	動悸	動悸の原因となる疾患の詳細を学ぶ。	河端(臨床検査)
2	胸痛	胸痛をきたす疾患とその機序を理解し、鑑別と治療の要点を学ぶ。特に心筋梗塞の胸痛を見逃さないためのポイントを学ぶ。	蓑島(循環器・腎臓内科)
3	呼吸困難	呼吸困難をきたす疾患の鑑別と治療について学ぶ。	長内(呼吸器・脳神経内科)
4	咳・痰	咳・痰の鑑別診断と治療について学ぶ。	南(呼吸器センター)
5	血痰・咯血	診断と治療および救急について学ぶ。大動脈疾患と関連した血痰、咯血症状の重要性を学ぶ。	佐々木(呼吸器センター)
6	発熱	発熱を主訴にする内科的疾患に対する診断・治療について学ぶ。	牧野(地域共生医育統合センター)
7	肥満・やせ	肥満・やせの原因、肥満・やせを来たす疾患の診断と治療。	滝山(内分泌・代謝・膠原病内科)
8	黄疸	黄疸の発生機序、黄疸をきたす疾患の診断と治療。	麻生(消化器内科)
9	腹痛	腹部の部位別の疼痛をきたす疾患の概要。腹痛をきたす内科疾患について学ぶ。血管疾患による腹痛の特徴と重大な病態を理解する。	北野(消化器内科)
10	貧血	貧血の病態とその原因・鑑別について学ぶ。	山本(血液内科)
11	出血傾向	血液止血機構とその破綻による出血傾向の病態を理解する。外傷、疾病に伴う出血と出血傾向、及びその診断と止血方法について学ぶ。止血機構と輸血療法の適応について学ぶ。	進藤(血液内科)
12	リンパ節腫脹	リンパ節腫脹をきたす原因とその鑑別の要点を理解する。	進藤(血液内科)
13	便秘・下痢	大腸の機能と大腸疾患による便通異常。	上野(総診)
14	悪心・嘔吐	悪心・嘔吐を呈する症例の初期診断を学ぶ。	藤谷(消化器内科)
15	幻覚	幻覚を呈し得る病態の診断・治療を学ぶ。	長(精神)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	不穏	不穏を呈し得る病態の診断・治療を学ぶ。	大宮 (精神)
17	小児の腹痛	小児領域で遭遇する腹痛の初期診断を年齢的な視点も含めて学ぶ。	長森 (小児)
18	小児の呼吸困難・咳	小児科領域の呼吸困難と咳について、その病態と診断対処について学ぶ。	長森 (小児)
19	肥満・やせ・成長障害	小児の肥満とやせの定義を学びその考え方を理解し、病的状態の判定を学ぶ。	鈴木 (小児)
20	小児の発熱と発疹症	小児の発熱と急性発疹症について学ぶ	長森 (小児)
21	小児の脱水とけいれん	小児の脱水の生理学的特徴	田中 (小児)
22	下肢痛	血管閉塞性疾患による下肢痛の特徴と鑑別すべき疾患を学ぶ。	菊地 (一外)
23	浮腫	成因、診断と治療。静脈性浮腫、リンパ浮腫の診療の要点を学ぶ。	内田 (一外)
24	胸水	原因と診断法、治療。	北田 (呼吸器センター)
25	腹部膨隆(腹水を含む)腫瘍	腹部膨隆・腫瘍を呈する症例の外科的治療について学ぶ。腹部膨隆・腹水をきたす疾患の概要。主に腹部膨隆を呈する小児疾患と治療のタイミングを学ぶ。	高橋 (肝胆膵・移植外科)
26	吐血・嘔吐	吐血・嘔吐を呈する症例の外科的治療を学ぶ。	大原 (消化管外科)
27	吐血・下血	吐血、下血の鑑別診断の方法について。	庄中 (消化管外科)
28	関節痛・関節腫脹	関節痛・関節腫脹の原因と病態を理解する。単関節疾患の診断と鑑別疾患を理解する。	松倉 (整形)
29	腰背部痛	腰背部痛の診断方法と治療方法を学ぶ。腰背部痛をきたす疾患について広く学ぶ。	水谷 (整形)
30	発疹	発疹の見方、診断の立て方をまなぶ。	岸部 (皮膚)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
31	血尿	タンパク尿重症度評価と原因疾患の鑑別を学ぶ。血尿を生ずる主な疾患について、その診断手順を学ぶ。各病態毎に、血尿への対処法について学ぶ。	堀 (泌尿)
32	尿量・排尿の異常	無尿・多尿など尿量の異常について、診療の要点を学ぶ。排尿困難・尿失禁など排尿の異常について、診療の要点を学ぶ。	和田 (泌尿)
33	視力障害	視力障害の原因と病態を学ぶ。視力障害の診断と治療の要点を学ぶ。視野障害の原因と病態を学ぶ。視野障害の診断と治療の要点を学ぶ。	川口 (眼科)
34	めまい	末梢前庭系を中心としためまいの診断と治療について学ぶ。めまいについて、基本、症候、病態、治療を学ぶ。	岸部 (耳鼻)
35	嚥下困難・障害	口腔、咽頭領域に生じる嚥下障害の診断、外科的治療について学ぶ。食道の運動と食道疾患による嚥下障害について。	河野 (耳鼻)
36	月経異常	月経異常をきたす病態に関し学ぶ。婦人科疾患と月経異常の関連及び治療法を学ぶ。	加藤 (産婦)
37	腹痛・腹部膨満	産婦人科疾患との鑑別について	市川 (産婦)
38	脱水	脱水の症状と治療、輸液管理、熱中症について学ぶ。	黒澤 (麻酔)
39	意識障害・失神	臨床的に重要なせん妄と心因性発作について学ぶ。意識障害、失神について基本、症候、病態、治療を学ぶ。	福山 (脳外)
40	運動麻痺・筋力低下	運動麻痺、筋力低下について基本、症候、病態、治療を学ぶ。障害の局在、病態の理解。障害レベル又は部位別に運動肩車のパターンを理解する。	佐藤 (脳外)
41	全身倦怠感	全身倦怠感を主訴とする症例の鑑別診断を学ぶ。	上野 (総診)
42	頭痛	頭痛を主訴とする症例の鑑別診断を学ぶ。	上野 (総診)
43	ショック	ショックの病態生理と、その症状を学ぶ。ショックの診断と病態に応じた治療法を学ぶ。	小北 (集中)
44	チアノーゼ	チアノーゼの原因・鑑別対応の基本を学ぶ。呼吸生理を理解し呼吸不全の病態・治療を学ぶ。先天性心疾患における血行動態の理解とチアノーゼ発生機体を学ぶ。	黒嶋 (救急)
45	講義のまとめ	コアカリ37症候について	佐藤 (教育センター)

75. 臨床放射線学(必修)

[放射線医学、放射線診断、放射線治療、核医学、IVR]

担当教員	◎沖崎貴琢、中島香織、山品将祥、中山理寛、渡邊尚史、石戸谷俊太、戸田雅博		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
放射線医学は放射線を利用した臨床医学の一分野であり、放射線診断学、放射線治療学、核医学およびInterventional radiology (IVR)より成り立つ。放射線生物学および放射線物理学の知識を加味し、放射線医学の医学全体における役割を総括的かつ合理的に理解する。放射線医学の理解を通して、その適正な運用のもとに、疾病の診断および治療に対する論理的思考力を養う。			
到達目標			
放射線生物学、放射線物理学の基本を理解し、臨床の現場にいかに応用されているかを学ぶ。また、放射線診断学・放射線治療学・核医学・IVRそれぞれについて基本的事項を理解し、説明できる。			
授業の形式			
対面授業とし、講義資料はmanabaに掲載する。種々の事情で対面授業が行えなくなった場合は、オンライン（manaba）授業にすることがある。出席確認は出席カードで行う。オンラインの場合はmanaba上の小テストの提出をもって出席とする。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
シラバスに記載されている内容について教科書・参考書にて予習してることが望ましい。講義終了後は、内容を整理し、当該主題についてまとめを行うことが望ましい。			
成績評価の基準等			
出席率10%、授業の聴講状態10%、定期試験80%の割合に基づき、総合的に評価する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
第一線の医療現場での確かつ迅速な判断ができるように放射線医学の基本的な臨床知識を十分に習得して欲しい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) 標準放射線医学 第7版	西谷、遠藤松井、伊東	医学書院	11,000円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	総論	放射線医学全般について学ぶ。	沖崎
2	放射線診断学(胸部Ⅰ)	胸部の画像診断に必要な検査の方法、適応および所見について理解する。	戸田
3	放射線診断学(胸部Ⅱ)	胸部の画像診断に必要な検査の方法、適応および所見について理解する。	戸田
4	放射線診断学(IVR)	IVRが診断及び治療面で如何に活用されているかを習得する。	石戸谷
5	放射線診断学(泌尿器・婦人科)	泌尿器・婦人科の画像診断に必要な検査の方法・適応および所見について理解する。	渡邊
6	放射線診断学(腹部)	腹部の画像診断に必要な検査の方法、適応および所見について理解する。	渡邊
7	放射線診断学(骨軟部)	骨・軟部組織の画像診断に必要な検査の方法、適応および所見について理解する。	石戸谷
8	臨床核医学(心・肺)	心・肺におけるシンチグラフィの実際について理解する。	沖崎
9	臨床核医学(内分泌)	甲状腺・副腎・副甲状腺におけるシンチグラフィの実際について理解する。	中山
10	臨床核医学(骨・肝・胆道・消化器・腎)	骨・肝・胆道・消化器・腎におけるシンチグラフィの実際について理解する。	中山
11	臨床核医学(腫瘍)	PETを含めた腫瘍シンチグラフィの実際を把握するとともにRI内療法についても理解する。	中山
12	放射線治療学(子宮頸癌、悪性リンパ腫)	子宮頸癌、悪性リンパ腫の病期分類、放射線治療成績、予後などについて理解する。	中島
13	放射線治療学(乳癌・肺癌)	乳癌・肺癌の病期分類、放射線治療成績、予後などについて理解する。	中島
14	放射線治療学(頭頸部癌)	頭頸部癌に対する放射線治療を理解する。	山品
15	放射線治療学(泌尿器癌および緩和的照射)	泌尿器癌では、前立腺癌の病期分類やリスク分類、放射線治療について理解する。転移性骨腫瘍に対する緩和的照射や緊急照射について理解する。	山品

76. 臨床検査学(必修)

[検体の基礎、検体検査、生体機能検査、検査手技]

担当教員	◎坂本 央、齊藤江里香、河端奈穂子、水上裕輔、進藤基博、岡本健作、松木孝樹		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
臨床検査は検体検査、生体機能検査による客観的データに基づいて病態を解析し、診断および治療方針の決定、経過観察、予後の判定を行う分野である。このために各種検査法（生理学、生化学、細菌学、免疫血清学、病理学など）の基本原則、技術を理解し、より信頼出来る検査結果を得るためのサンプル処理、精度保証、さらに検査結果に基づく病態解析を行い、臨床検査の基本的な方法・考え方を総合的に学ぶ。			
到達目標			
①臨床検査についての基本原則、臨床的意義、問題点、限界について理解し、述べることができる。 ②臨床検査に関連する基本的手技（性能評価、精度管理等）各種検査を適切に行う手法について理解し、概説できる。			
授業の形式			
原則、対面授業で行う。スライド中心の講義となるが、プリント、視聴覚機器の活用もある。対面授業では出席カードの提出をもって出席とみなす。情勢の変化によりオンライン授業（manaba, zoom）を併用する際は、manaba上の小テストの提出をもって、出席とみなす。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
事前にmanabaに掲載する講義資料、教科書・参考書等により、履修内容について予習してくる。 講義終了後は、ダウンロードした講義資料や講義内容を復習して知識を整理し、当該主題についてまとめを行う。			
成績評価の基準等			
試験は筆記試験で行われ、国家試験形式（多肢選択方式）で行う。再試は一度実施するが、レポートに置きかえることもある。試験成績、授業出席状況から総合的に成績評価（合否判定）を行う。試験の受験資格は3分の2以上の出席とする。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
講義は実際の臨床の現場で役立つ、実践的な内容を中心に最近の知見も交えて行う。幅広い領域にまたがるため、専門性の高い講師を配する。専門領域における他科の講義知識を深め有用となる。 検査独特な考え方、用語も多く難しいが、気軽に質問して理解を深めて下さい。 主題の順は、変動します。質問等の受付は随時。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) 標準臨床検査医学 第5版	山田俊幸 大西宏明 編集	医学書院	7,480円
(参) 臨床検査ガイド 2020年改訂版	大西宏明 編集	文光堂	9,350円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	総論	臨床検査医学の概要を学ぶ。診察前検査、測定、基準範囲などデータ解析に必要な基本的知識と考え方を知る。	坂本 (臨床検査・輸血部)
2	一般検査	尿一般検査、髄液検査のサンプリング、分析方法と解釈について学ぶ。	河端 (臨床検査・輸血部)
3	心電図①	心電図を読む手順について学ぶ。	坂本 (臨床検査・輸血部)
4	心電図②	心停止の原因となる不整脈などを学ぶ。	坂本 (臨床検査・輸血部)
5	微生物検査	細菌を中心とした病原微生物の検査について学ぶ。	河端 (臨床検査・輸血部)
6	血液学検査	血球数算定、凝固線溶系および血小板の異常に関する検査について学ぶ。	坂本 (臨床検査・輸血部)
7	生化学検査 (血清酵素)	血清酵素	齊藤 (臨床検査・輸血部)
8	生化学検査 (BUN, Cre)	BUN, Cre等	松木 (腎臓内科)
9	生化学検査 (脂質)	脂質	齊藤 (臨床検査・輸血部)
10	生化学検査 (血清蛋白)	血清蛋白	齊藤 (臨床検査・輸血部)
11	輸血検査	輸血に関する検査と安全な輸血療法について学ぶ。	進藤 (血液内科)
12	超音波検査	超音波検査、特に心臓超音波検査の基本的知識について学ぶ。	坂本 (臨床検査・輸血部)
13	免疫血清学検査	免疫血清学検査等。	岡本 (内分泌・代謝・膠原病内科)
14	遺伝子検査	遺伝子検査の基礎と応用を学ぶ。	水上 (消化器内科)
15	血液ガス・呼吸機能	呼吸機能検査と血液ガス分析を中心に、呼吸機能障害や酸塩基平衡について学ぶ。	坂本 (臨床検査・輸血部)

77. 臨床薬剤・薬理・治療学(必修) [臨床薬物動態、薬物療法、臨床薬理]

担当教員			
◎田崎嘉一、中馬真幸、小野尚志、山下恭範、飯田慎也、山本 譲、神山直也、眞鍋貴行、松原和夫、粟屋敏雄、進藤基博			
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前・後期	2単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>本コースでは、基礎薬理学で学んだ薬物が医薬品として患者に適用される場合に理解しておかなければならない基本事項について講義を行う。</p> <p>本コースの内容は、基本的に医師国家試験出題基準の項目(薬物療法等)に従った内容となっている。</p> <p>一般目標：薬物・毒物の生体への作用について、個体・細胞・分子レベルにおける作用機序と、生体と薬物分子との相互作用を理解し、的確な薬物療法を行うための基本的な考え方を学ぶ。診療に必要な薬物療法の基本(薬理作用、副作用)を学ぶ。</p>			
到達目標			
<p>薬剤の臨床応用における基本的考え方を説明できる。具体的には、以下の項目である。1. 薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。2. 薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。3. 薬物投与方法を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。4. 薬物の評価におけるプラセボの意義を説明できる。5. 主な薬物の副作用を概説できる。6. 年齢による薬剤投与の注意点を説明できる。7. 薬物動態的相互作用について例をあげて説明できる。8. 処方せんの書き方、服薬コンプライアンスを説明できる。9. 生物製剤の薬理作用と副作用を説明できる。10. 和漢薬(漢方薬)の特徴や使用の現状について概説できる。</p>			
授業の形式			
<p>講義は、基本的にスライドとプリントによって進める。</p> <p>【教科書】日本臨床薬理学会編「臨床薬理学」(医学書院)</p>			
成績評価の基準等			
<p>成績は、筆記試験によって評価する。6割以上を合格とする。また、試験問題は講義の範囲内から出題する。</p> <p>なお、受験資格は、3分の2以上の出席とする。欠席の場合は、教務係に欠席理由を申し出ておくこと。</p>			
学生へのメッセージ			
<p>臨床薬理学を理解するためには、基礎薬理学と周辺関連分野の知識が必要となる。従って、これらの知識をある程度前提として講義を進める。本コースでは、薬物療法の基本について理解するように勉強して欲しい。</p>			

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	臨床薬剤・薬理・治療学総論	本講義で取り扱う各学問領域の概念・定義について学ぶ	田崎(薬剤部)
2	医薬品の関連法規	薬機法、G(X)P、日本薬局方、インタビューフォーム、医薬品添付文書など医薬品に関する法規・文書について学ぶ	神山(薬剤部)
3	臨床試験の科学的方法論と実践	ランダム化とプラセボ、試験デザイン、医師主導治験(モニタリング、監査)などについて学ぶ	眞鍋(薬剤部)
4	医薬品開発と倫理性	新薬開発の過程(非臨床試験から臨床試験まで)とその倫理性について学ぶ	田崎(薬剤部)
5	薬物動態1	薬物の吸収・分布・代謝・排泄について理解する。	田崎(薬剤部)
6	薬物動態2	薬物投与後の薬物の濃度推移について学ぶ。	田崎(薬剤部)
7	薬物動態3	剤形・投与経路による薬物動態の相違、および薬物送達システム(DDS)について学ぶ。	飯田(薬剤部)
8	医薬品の安全管理・安全使用	抗がん剤を例にとり、レジメン管理、副作用マネジメント、職業曝露防止等について学ぶ	小野(薬剤部)
9	特殊集団のPK	新生児・小児の臨床薬理学を例にとり、ファーマコメトリクスを活用例について理解する	神山(薬剤部)
10	処方の方	造血管腫瘍疾患を例にとり、処方の組立方について学ぶ。	進藤(内科血液)
11	薬剤の臨床適応	臨床現場において患者に薬剤を適用するにあたって注意しなければならない点を理解する。	中馬(薬剤部)
12	処方せんの書き方1	処方と調剤、処方せんの記載方法について学ぶ。	粟屋(薬剤部)
13	処方せんの書き方2	具体的な症例において、処方せんの記載方法を演習する。	粟屋(薬剤部)
14	薬物有害反応1	薬物有害反応の分類と重篤度、薬物アレルギーについて学ぶ。	田崎(薬剤部)
15	薬物有害反応2	薬物による肝障害、腎障害、血液障害、消化器障害、呼吸・循環器障害、精神・神経障害について学ぶ。	田崎(薬剤部)

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) 臨床薬理学	日本臨床薬理学会編	医学書院	8,640円
(参) 処方せんの基本ルールと書き方	田中信行 他	エルゼビアジャパン	1,944円
(参) 臨床薬物動態学	加藤隆一	南江堂	6,156円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
16	薬効に影響を及ぼす因子1	種々の臓器障害疾患時における，特に腎と肝障害，投与設計について理解する。	田崎 (薬剤部)
17	薬効に影響を及ぼす因子2	遺伝子多型の薬物の効果に及ぼす影響について理解する。	中馬 (薬剤部)
18	薬効に影響を及ぼす因子3	性・発達・加齢における薬理を理解する。	中馬 (薬剤部)
19	薬物治療モニタリング(TDM)	薬物治療において血中薬物濃度測定の意義と投与設計について学ぶ。	田崎 (薬剤部)
20	抗菌薬のPK/PD	抗菌薬を例にとって、PK/PD理論を理解する。	中馬 (薬剤部)
21	時間薬理学	生体リズムが薬物動態や組織感受性に影響を及ぼし薬効を変化させることを理解する。	小野 (薬剤部)
22	栄養と薬剤	中心静脈，経腸栄養剤について学ぶ。	山下 (薬剤部)
23	院内感染と感染予防	院内感染と感染予防に対する正しい知識を身に付ける。	山本 (薬剤部)
24	妊婦・授乳婦と薬	妊婦時と授乳時における薬物動態および薬物療法について理解する。	松原 (和歌山県立医科大学)
25	臨床薬剤・薬理演習1	薬剤が関連する演習問題を解く。	中馬 (薬剤部)
26	臨床薬剤・薬理演習2	薬剤が関連する演習問題を解く。	中馬 (薬剤部)
27	臨床薬理学研究	臨床薬理学研究の基礎と実践例について学ぶ	田崎 (薬剤部)
28	相互作用	薬物-薬物，薬物-食事における相互作用の機構を学び，代表的な相互作用例を理解する。	眞鍋 (薬剤部)
29	消毒薬	消毒薬の適切な使用方法について学ぶ。	山本 (薬剤部)
30	和漢薬(漢方薬)	生薬と漢方薬の基礎について学ぶ。	小野 (薬剤部)

78. 臨床疫学(必修) [疫学、臨床疫学、無作為化比較試験]

担当教員	◎西條泰明、吉岡英治、佐藤遊洋、九里優輝、 蒔田芳男、中川直樹		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	1単位	15コマ
履修目的・授業概要			
カリキュラムポリシーでは、「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」(思考・判断)「臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的研究計画を立案できる。」以上が該当する。EBMの実践には疫学的知識が必須である。エビデンスレベルの高い無作為化比較試験(RCT)や、そのメタ解析、病気の原因を明らかにする観察研究など、様々な疫学研究手法が存在するが、その論文結果のみ見て解釈するのではなく、研究方法、バイアスや交絡を考慮して解釈できるようにすることが求められる。ここでは、臨床医となり医学研究・論文を理解する際に必要な疫学・臨床疫学的知識を得て、さらに自身で臨床研究を行う際の基礎をなすことを目的としている。			
到達目標			
1.過去の重要な疫学研究、臨床疫学上のトピックスについて概説できる。2.各疫学研究手法(生態学的研究、症例対照研究、コホート研究、介入研究、メタ解析)について説明できる。・診断的検査・スクリーニングの疫学的検証方法について説明できる。3.バイアス、交絡を説明でき、交絡の制御方法を説明できる。4.疫学研究における因果関係の証明について概説できる。5.遺伝疫学の指標や臨床応用について概説できる。6.生存分析について概説できる。7.臨床疫学論文について疫学・臨床疫学知識を用いて批判的に吟味できる。8.重回帰分析、ロジスティック回帰分析により交絡を調整する解析を行うことができ、ROC曲線により臨床検査の比較解析を行うことができる。9.プロベンシティスコア法、操作変数法や、欠損値の扱いなどについて概説できる。10.相対危険、寄与危険、オッズ比、感度、特異度、陽性反応的中率などの各種の疫学・臨床疫学指標を説明し、計算できる。11.疫学知識をEBMの実践に応用することができる。			
授業の形式			
講義は主にプレゼンテーションソフトを使用して進め、講義資料を事前にmanabaからダウンロードするように。また、クリティカルリーディング(論文の批判的吟味)についてのレポート課題を与える。授業に関する質問は、授業中他、オフィスアワーを中心とした放課後、また電子メールでも受け付ける。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
履修内容について教科書参考書等にて予習してくる。講義終了後は、ダウンロードした講義資料や講義内容を整理し内容のまとめを行うこと。			
成績評価の基準等			
定期試験は国家試験形式とする。講義に加え(約95%)クリティカルリーディング(約5%)からも出題する。講義については各回の講義内容から平均的に出題する。評価は定期試験成績を90点満点、クリティカルリーディングレポートを10点の配点として総合的に決めるが、基本的には総合点60点以上を合格とする。全体の出席が2/3を割るもの、クリティカルリーディングレポートを提出しないものは原則として定期試験を受けさせない。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
疫学手法は、医師の必須の知識をなっている。ここでは、しっかりと理解して、今後、医師として臨床研究論文を読んだり、自ら臨床研究を行うことができるように、疫学の勉強を続けるための基礎をなると考える。講義はカリキュラムに示された項目に基づいてすすめるので、あらかじめ教科書等を予習して受けることを期待する。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税抜)
疫学—医学的研究と実践のサイエンス	木原 等 訳	げい加・サイン・イカ・ジョル	5,600円
しっかり学ぶ基礎からの疫学	柳川 等 訳	南山堂	3,800円
臨床疫学—EBM実践のための必須知識(第3版)	福井次矢 訳	げい加・サイン・イカ・ジョル	5,000円
基礎から学ぶ楽しい疫学第4版	中村好一	医学書院	3,200円
数学いらずの医学統計学第2版	津崎晃一 訳	げい加・サイン・イカ・ジョル	4,700円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	総論とクリティカルリーディングの説明	疫学・臨床疫学の定義、疫学・臨床疫学の歴史を学ぶ。クリティカルリーディング(論文の批判的吟味)の方法を学ぶ。(課題を提示する。)	吉岡(社会医学)
2	疫学の指標、記述疫学と生態学的研究	疫学の諸指標(罹患率、有病率、人年法、相対危険、寄与危険等)を説明できる。	佐藤(社会医学)
3	コホート研究	記述疫学、生態学的研究、コホート研究(前向き、後ろ向き)を説明できる。	佐藤(社会医学)
4	症例対照研究	症例対照研究、横断研究を説明できる。	九里(社会医学)
5	疫学と誤差①	疫学におけるバイアス、交絡について学ぶ。	吉岡(社会医学)
6	疫学と誤差②、因果関係	交絡の制御方法、標準化、交互作用、疫学における因果関係について学ぶ。	吉岡(社会医学)
7	介入研究①	介入研究、無作為化比較試験について説明できる。	西條(社会医学)
8	介入研究②とメタ解析	地域試験、メタ解析を説明できる。	西條(社会医学)
9	診断検査とスクリーニング	診断検査とスクリーニングの疫学的検証方法、感度、特異度、陽性反応的中率、陰性反応的中率などの指標、ROC曲線について学ぶ。	西條(社会医学)
10	生存分析	疫学研究における生存分析の意義と Kaplan-Meier 法や Cox 比例ハザードなどの生存分析を学ぶ。	佐藤(社会医学)
11	人口統計とICD、平均寿命、健康寿命	人口統計(人口動態と人口動態)、疾病・障害の分類・統計(国際疾病分類ICD等)を説明できる平均寿命、健康寿命を説明できる。予防医学(一次、二次、三次予防)と健康増進(健康管理の概念・方法、健康診断・診査と事後指導)を概説できる。	吉岡(社会医学)
12	治療法比較のための解析手法と欠損値の扱い	一般的な多変量解析に加え、プロベンシティスコア法、操作変数法、メンデルランダム化について概説できる。疫学研究における欠損値の扱いについて概説できる。(多重代入法等)	西條(社会医学)
13	多因子遺伝の遺伝疫学	身長決定因子の研究発展から遺伝疫学進歩を理解できる。Common diseaseにおける遺伝情報の利用としてのPRS(Polygenic Risk Score)を概説できる。	蒔田(遺伝子診療カウンセリング室)
14	循環器疾患の臨床疫学研究	循環器疾患における臨床疫学のトピックスから、臨床疫学・治験・EBMの重要性を学ぶ。	中川(内科学講座循環・呼吸・神経病態内科学分野)
15	EBMの実践とまとめ、クリティカルリーディングの記載例	EBMの5つのステップを列挙できる。現場で遭遇した臨床上的の問題に関し、PICO(PECO)を用いた問題の定式化ができる。(最後に、まとめとクリティカルリーディングの記載例を示す。)	西條(社会医学)

79. 健康弱者のための医学(必修)

[～障害をもった方を地域でどのように支えるか～]

担当教員	◎大田哲生, 吉田貴彦(非常勤), 高草木薫, 高橋雅治(非常勤), 遠藤寿子, 神田浩路, 佐藤貴虎(非常勤), 五十嵐真幸(非常勤), 松波正晃(非常勤), 藤井智子, 白瀬幸絵(非常勤), 山内明美, 小原和宏, 長内忍, 田邊康子, 松木孝樹, 橋内博哉, 石子智士(非常勤), 熊井琢美, 林時仲(非常勤)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	2単位	30コマ
履修目的・授業概要			
<p>心身の健康面に弱みを持つことで困難を抱えつつ生活している人々がいます。WHOはアルマ・アタ宣言で「健康の定義」現実形(1978年)を提案し、人には身体的、精神的、社会的にそれぞれの人なりの健康状態があり、その人がおかれた状況との共生がなされるべきとしています。医学医療の発達と共に健康弱者(障害をもって地域で生活する人)の数が増えています。医療に従事する者は、国民の健康を守る者として健常者ばかりでなく健康弱者にも等しく対応しなければなりません。さらに、このような健康弱者は、健常者と異なる病態生理を呈する事もある事を念頭に置いた医療も求められます。</p> <p>そこで本科目では、健康弱者(慢性疾患や心身に障害をもって地域で生活する人)に対応できる医学の習得を目的として、社会福祉体制、患者支援、心理面の理解など様々な視点からみたサポートについて学びます。</p>			
到達目標			
【一般目標】健康弱者が安全で快適に生活するために、その病態と程度に関連した社会的支援の在り方を理解する。			
【行動目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康弱者の障害程度に合わせた福祉制度を紹介できる。 2. 健康弱者の障害の程度や時期に応じた社会適応の方策を説明できる。 3. 健康弱者の障害に応じた医学的問題点を列挙できる。 4. 障害に応じたリハビリテーションの方法を述べるができる。 			
授業の形式			
医療福祉の視点から、旭川ウェルビーイングコンソーシアム(AWBC)に参加する大学の協力を得て、オムニバス方式の講義を展開します。原則対面授業ですが、変更の際にはmanabaコースニュースなどで都度連絡します。講義資料は、事前にmanabaからダウンロードするようにしてください。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
Manabaに事前にアップされる講義資料、および、履修内容に記載されているキーワードをもとに、予習をしてから講義に参加することが望ましい。講義毎の小テストを指定時間内に受験・回答する事で出席を確認します。また、小テストの成績が成績判定に用いられますので注意する事。			
成績評価の基準等			
小テスト(30%:国家試験形式、○×等)と定期試験(70%:国家試験形式)で評価します。受験しなかった小テストは0点となります。定期テストは各回の講義内容から平均的に出題します。60%以上の出席をもって定期試験の受験資格とします。全体で6割以上の得点を合格とします。事情により定期試験が実施されない場合、小テストの点数で判定します。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
病気が完治して地域に戻る患者さんだけでなく、心身の健康面の弱みをもって地域で暮らす患者さんが増えています。その方たちの健康やQOLを支えるために現状を知っていただきたいと思います。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格(税抜)
厚生労働白書令和4年度版		厚生労働省	3,700円
障害者白書令和4年度版		内閣府	2,600円
透折とともに生きる一腎不全からの再生精神科医自らを語る [単行本]	春木 繁一	メディカ出版	2,400円
新しいロービジョンケア	山本修一、加藤聡、新井三樹編	メジカルビュー社	7,000円
喪失体験とトラウマ	J.H. ハーヴェイ	北大路書房	3,800円
電池が切れるまで子ども病院からのメッセージ	すずらんの会	角川書店	476円
ヒロシクんの車椅子	清水久美子	騒人社	2,000円
糖尿病医療学入門	石井 均	医学書院	4,500円
現代リハビリテーション医学第4版	千野直一編	金原出版	6,200円

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
総論 1	Challenged Personの医学: Challenged Personとは	健康の定義から健康弱者について考え、困難を抱えつつ生活している人々(Challenged Person)の支援の重要性を考える。	吉田(非常勤)
総論 2	Challenged Personの医学: 生理学等の身体特性	感覚入力、運動出力および中枢における機能欠落または機能低下に基づく生理学的反応特性の変化について説明できるようにする。	高草木(生理学)
総論 3	Challenged Personの医学: 心理・精神医学的分野	障害受容過程についての段階理論、認知行動療法について学ぶ。	高橋(非常勤)
総論 4	患者の心理行動傾向と生活適応	健康行動理論について学ぶ。	高橋(非常勤)
総論 5	難治疾患罹患患者の心理とアプローチ	難治疾患罹患患者は多くの喪失に直面する。喪失は悲嘆を引き起こすが、人間は適応という術をもっている。創造的適応を支援する考え方について学ぶ。	遠藤(リハビリテーション)
総論 6	患者を支える社会体制: 社会保障	日本の社会保障制度の歴史と役割、機能を学び、健康弱者に対してどの様に適応されているかを理解する。	神田(社会医学)
総論 7	患者を支える社会体制: 社会福祉	社会保障の1つである社会福祉について学び、継続的に介護を必要とする方々に対してどの様に適応されているかを理解する。	神田(社会医学)
総論 8	患者を支える社会体制: 小児病棟内でのあそび・まなび	小児病棟で勤務する、医療保育士、HPS、CLS、CCS、そして院内学級教師等に関して具体的に学ぶ。	佐藤(非常勤)
総論 9	患者を支える社会体制: 患者支援団体1	病気の子ども達への支援活動の1つであるアジア初の野外キャンプ施設「そらぶちキッズキャンプ」の活動を通し、支援をあり方考える。	佐藤(非常勤)
総論 10	患者を支える社会体制: 患者支援団体2	病気の子どもたちを支援する活動(「Make a Wish」など)を通じて、日本と欧米との子ども支援の違いについて考える。	佐藤(非常勤)
総論 11	障がいのある人の生活を支える環境づくり	街や公共施設・交通機関等のバリアフリーの在りかたを障害当事者の目線を通じて学ぶ。ハード対策の不備をソフト的な対応でカバーする「こころのバリアフリー」についても考える。	五十嵐(非常勤) 松波(非常勤)
総論 12	地域で生活している方への看護① 地域看護の立場から	障がいや病気をもち生活している人々を生活の場で支える看護の役割について学ぶ。 —地域看護の立場から—	藤井(看護)
総論 13	地域で生活している方への看護② 在宅看護の立場から	訪問看護ステーションの役割を理解し、障がいや病気をもちながら生活している人々への看護職の具体的な役割について学ぶ。	白瀬(非常勤)
総論 14	食事に困った時のヒント	食欲不振や味覚障害と上手に付き合う方法や食形態の調整が必要な方に対する方法について理解する。	山内(栄養管理部)
総論 15	リハビリテーション医学総論	リハビリテーション医学の概念を理解し、障害をもった方々のQOL改善に向けた、医学的アプローチ方法を学ぶ。	大田(リハビリテーション)
総論 16	障害者スポーツ	Adaptive personにとって健康・治療・生き甲斐につながる障害者スポーツの役割を理解する。	小原(副学長付)

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
各論1	慢性呼吸器疾患の在宅治療	呼吸器疾患の在宅治療（酸素療法、人工呼吸器など）について学習する。	長内（一内）
各論2	ペースメーカー	ペースメーカーの適応，ならびにペースメーカー患者に影響を与えうる社会環境について学習する。	田邊（一内）
各論3	透析	慢性透析症例の日常生活様式を理解し、福祉体制、患者支援、心理など様々なサポートについて学習する。	松木（一内）
各論4	糖尿病	糖尿病患者の心理・行動パターン（糖尿病や合併症の程度との関係）糖尿病患者をサポートするチーム医療について学ぶ。	橘内（旧二内）
各論5	ロービジョン	視覚障害とロービジョンケアについて学ぶ。	石子（眼）（非常勤）
各論6	人工内耳	先天性難聴者、中途失聴者に対する人工内耳治療の適応を知り、人工内耳装用者をサポートする社会環境について理解する。	熊井（耳鼻）
各論7	重症心身障害児（者）に対する医療と支援	重症児者を理解し、いのちを守り、重度の障害があっても生活・人生の質を高めるための医療（支える医療）について学ぶ。	林（非常勤）
各論8	脳卒中のリハビリテーション	脳卒中患者の障害の多様性を理解し、各障害に対するアプローチ方法を学ぶ。	大田（リハビリテーション）
各論9	脊髄損傷のリハビリテーション	脊髄損傷レベルによる障害の違いを理解し、各レベルごとに適切なリハビリテーション方法やゴールを設定できるようになる。	大田（リハビリテーション）
各論10	骨関節疾患のリハビリテーション	変形性関節症や関節リウマチなど、代表的な骨関節疾患の障害を理解し、リハビリテーション医療による対応方法を学ぶ。	大田（リハビリテーション）
各論11	内部障害のリハビリテーション	循環器・呼吸器系疾患の患者や、糖尿病・透析患者など内科的疾患の患者に対するリハビリテーションにおける注意点などを理解する。	大田（リハビリテーション）
各論12	小児のリハビリテーション（運動発達）	正常発達を理解するとともに、精神運動発達障害児への対応方法を理解する。	大田（リハビリテーション）
各論13	リハビリテーションにおける検査	筋電図検査、嚥下造影検査、膀胱内圧測定検査など、患者の障害を把握するために必要な検査について理解する。	大田（リハビリテーション）
各論14	リハビリテーション医学のトピックス	Brain machine interfaceを利用した脳に対するリハビリテーション訓練やボツリヌス毒素製剤を使用した痙縮治療など最近の治療方法を理解する。	大田（リハビリテーション）

80. 医療安全(必修)

[患者安全、医療事故、安全文化、輸血医療、医療の質保証]

担当教員	◎岩田達也、林 達哉(医療安全部)、 飯田慎也(薬剤部)、井上裕靖(IR室)、 佐藤伸之(教育センター)、 高草木 薫(生理学講座神経機能分野)、その他		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	前期	1単位	15
履修目的・授業概要			
患者安全を中心とする医療の安全は、現代の医療において重要な柱の一つです。この講義では臨床実習の現場で医療安全を学び、実践していくために、これまでの学習の中で散発的に学んできた医療安全の知識をまとめ、加えて臨床実習序論・参加型臨床実習で、安全な手技・安全文化を学ぶための知識・視点を加えていきます。なお授業日程は本稿記載時には決まっていますので、後日 manaba で配信します。また履修内容・担当教員などの変更があります。			
到達目標			
【一般目標】 日常診療の中で医療安全を実践できる医療者となるために、医療安全に関する基本的な知識を学び、輸血医療をはじめとする臨床現場での様々な取組の意義を理解する。			
【個別目標(行動目標)】 1)医療安全に関わる基本的な用語を説明できる。 2)医療過誤に関する医師の責任と罰則規定を説明できる。 3)医療事故が発生した場合の処置・記録・方法を説明できる。 4)医療安全のための基本的予防策について概説できる。 5)事例解析・質改善の手法を学び、論理的な思考・倫理観・科学的根拠に基づく行動計画を設定できる。 6)日常検体の採取や取り扱いの注意点を説明できる。 7)臨床検査におけるリスクマネジメントを説明できる。 8)輸血のリスクマネジメントを説明できる。 9)臨床現場で起こる薬剤関連エラーの種類とその対策について説明できる。 10)歩行機能と転倒事故の関連を説明することができる。 11)感染防御対策と患者・医療従事者の安全の関連性を説明することができる。			
授業の形式			
manaba上にアップされた資料を読んで予習をします。授業時間内に小テストを提出してください。出席は出席カードの提出でカウントします。また1テーマに関してはTBL形式で行います。オンデマンド視聴は原則ありません。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
事前に講義テーマに該当する部分をLMS上にある講義資料・テキスト・参考書などで確認しておいてください。manaba上には必要な資料を事前に掲載します。資料で解説した内容について、毎回小テストを解いてください。また講義終了後に履修主題の簡潔なまとめを行いましょ。また、医療安全に関するレポートが1課題あります。			
成績評価の基準等			
到達目標の知識全般を確認するため筆記試験(MCQ)を予定しています。知識に関する評価は、小テスト成績も対象です。また到達目標の4)5)に関する問題解決能力については、レポート課題で評価します。定期試験実施可能な場合は、定期試験成績5割・レポート2割・小テスト3割で総合評価します。感染拡大防止などで定期試験が実施されなかった場合、レポート約5割・小テスト成績5割で評価します。また小テスト・レポートを含めて、不正行為が発覚した場合には、当該年度の単位を認定しません。なお合格者のうち総合成績上位者約30%を「秀」または「優」とします。「秀」は上位5%までとします。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
診療を行う上で、医療安全の知識・技術・態度は不可欠な要素です。この講義では医療安全に必要とされる基本的な知識・視点をまとめます。さらに臨床実習序論では安全に診察するための基本手技を学び、臨床実習で実践を学んでいくことになります。これらの学習が医療安全文化を実践する態度を培うきっかけになることを期待します。なおシラバス作成時に講義担当者の予定が未確定の部分もあるので、講義開始前にmanaba上で講義日程・主題を確認してください。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(教) これだけは知っておきたいWHO患者安全カリキュラムガイド	相馬 孝博	メディカ出版	2400円+税
(教) 血液製剤の使用にあたって 第5版	厚生労働省血液対策課	じほう	1600円+税
(参) 医療におけるヒューマンエラー第2版:なぜ間違える どうか防ぐ	河野 龍太郎	医学書院	2800円+税
(参) よくわかる輸血学 第3版	大久保 光夫、前田 平生	羊土社	4200円+税

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
1	医療安全概論	科目履修オリエンテーション・医療安全の概念とその対象範囲・医師の社会的責任および罰則規定について学ぶ。	井上岩田
2	医療事故に関する基礎知識	インシデント・アクシデント・エラーなど、医療安全で使用される基本的な用語を理解する。	井上
3	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーについて学ぶ。	井上
4	現場で役立つ医療安全	臨床現場ですぐに使える実践的な安全対策について学ぶ。	林
5	事例解析手法・因果関係	RCA・FMEAなどの事例解析手法について学ぶ。また因果関係を抽出する方法を学ぶ。	井上
6	事故防止対策	再発防止・未然防止の概念を学ぶ。ダブルチェック・KYTなどの手法について学ぶ。	井上
7	コミュニケーションエラーと医療安全	コミュニケーションエラーで起こる医療事故・医療訴訟について学ぶ。	井上
8	輸血と医療安全	輸血・細胞移植治療におけるリスクマネジメントを学ぶ。	井上
9	医療事故調査制度	医療事故調査制度の実際を学ぶ。	岩田
10	薬剤関連エラーとその対策	薬剤関連のインシデントに学ぶ。	飯田
11	感染制御と医療安全(TBL)	2コマ続きでTBL形式で授業を行います。	井上岩田
12	感染制御と医療安全(TBL)	今年度のテーマは「感染制御と医療安全」です。	井上岩田
13	医療機器に関するリスクマネジメント	医療機器に関するリスクマネジメントについて学ぶ。	佐藤
14	改善の手法と医療安全	改善の手法を用いた安全行動の評価法と医療の質改善・質保証への適応を考える。	井上
15	歩行と転倒	歩行機能と転倒事故の関連を生理学的な視点から考える。	高草木

81. 共用試験 C B T (必修)

担当教員	教育センター共用試験部門CBT実施部会		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年			
履修目的・授業概要			
<p>共用試験の目的</p> <p>臨床実習では、医学生が診療チームの一員として患者さんの同意を得て、診療に参加し学習していく診療参加型実習が導入されています。医師資格のない学生が、患者さんと接する場合には、臨床実習の現場で必要不可欠な知識・技能・態度を身につけなければなりません。共用試験（OSCE・CBT）は、全国的に一定水準以上の知識・技能・態度が身につけているかどうかの評価を厳正に行い、その質を患者さんと社会に保証するために行われます。</p> <p>CBTでは、コンピューターを用いた客観試験により臨床実習に必要な知識の程度を評価します。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>本試験 9月28日(土)予定</p> <p>追再試験 10月30日(水)予定</p> <p>感染状況によっては、2日に受験者を分散させるために、9月30日(土)も本試験日となる場合があります。</p> <p>情報処理実習室でコンピューターを使用して行います。(ブロック形態は右欄参照)</p> <p>操作方法等を確認するために事前体験テストを実施する予定です。強く参加を推奨します。</p>			
成績評価の基準等			
<p>CBTの結果、能力値 (IRT) 396以上を合格とします。</p> <p>なお、第4学年で進級できなかった場合は、CBTを再受験しなければなりません。その際の共用試験受験料33,000円は受験者負担となります。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>別途掲示にて指示しますが、受験票に写真が必要になります。夏季休業後に写真撮影を行いますので、必ず参加してください。(こちらで準備した白衣を着用して撮影します。)</p> <p>(写真を提出しても可。臨床実習開始時から使用する身分証用の写真にも使用します。)</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
		<p>試験実施体制</p> <p>*時間等の詳細については、後日指示します。</p> <p>集合</p> <p>事前説明・機構派遣監督者紹介</p> <p>ブロック1 五選択肢択一問題形式(60問 60分)</p> <p>ブロック2 五選択肢択一問題形式(60問 60分)</p> <p>ブロック3 五選択肢択一問題形式(60問 60分)</p> <p>ブロック4 五選択肢択一問題形式(60問 60分)</p> <p>ブロック5 多選択肢択一問題形式(40問 60分)</p> <p>ブロック6 順次解答4連問五選択肢択一問題形式(10セット40問 60分)</p> <p>ブロック7 アンケート</p> <p>終了</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ブロック内では受験生ごとに設問がランダムに出題されます。 ブロック6の連問形式の問題は、一旦解答して次の問題に進むと元の問題に戻れません。 <p>ブロック1～5はブロック内では、見直しが可能です。</p> <p>本試験の結果は、試験の7～10日をめどに送付されてきますので、それ以降に個人へ返却します。</p>	

82. 臨床実習序論(必修)

(臨床実習前の基本的臨床能力・OSCE)

担当教員	教育センター 共用試験部門OSCE実施部会 その他		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	4単位	
履修目的・授業概要			
<p>臨床実習では、医学生が診療チームの一員として患者さんの同意を得て診療に参加し学習していく、診療参加型実習が導入されています。医師国家資格を持たない医学生が患者さんと接する場合には、臨床実習の現場で必要不可欠な技能・態度を身につけておかなければなりません。臨床実習序論では、実習の現場で必要な基本的診療能力を身につけることを目的としています。</p> <p>また臨床実習前OSCEを実施することにより、全国的な一定水準以上の知識・技能・態度が身につけているかを評価します。</p>			
到達目標			
<p>○一般目標</p> <p>診療参加型臨床実習において、診療チームの一員として診療に加わるために、臨床実習の現場で不可欠な技能・態度を身につける。</p>			
授業の形式			
<p>医療系大学間共用試験実施評価機構（以下、機構）制定の「診療参加型臨床実習に必要なとされる技能と態度についての学習・評価項目」をもとに本学で作成されたテキストを使用し、講義・演習・実習を行っていきます。機構で作成した教育用動画の視聴も行います。</p> <p>また実際に病院実習に出た際の視点から、病院各部署・各講座教員からの講義・演習を組み込んでいます。実習は小グループに分かれての医療面接・身体診察技能実習で、必要な手技・態度の体得を行います。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>事前に配布される臨床実習序論テキストと講義予定に従って、当該項目の予習を行ってください。また終了後はセットアップされたシミュレーターなどを使って復習し、着実に身につけるようにしてください。</p>			
成績評価の基準等			
<p>共用試験実施評価機構が判定するOSCEの成績及び出席、受講態度等をもとに総合的に判断します。</p> <p>なお、第4学年で進級できなかった場合は、臨床実習序論を新たに履修しなければなりません。その際の共用試験受験料33,000円は受験者負担となります。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>授業開始までに聴診器・白衣・上履き(白)を各自で準備してください(実習およびOSCEで使用します)。</p>			

コマ数	履修主題	履修内容	担当教員
		<p>*具体的な講義日程・グループ分け・担当教員などは、後日別途配布します。</p> <p>(主な内容)</p> <p>医療面接と身体診察法についての講義および実習</p> <p>身体診察：頭頸部、胸部、バイタルサイン、腹部、神経、四肢、脊柱、外科手技、基本的臨床手技、心肺蘇生、採血・血管確保</p> <p>その他臨床実習前に必要な事項についての講義 胸部X線写真・心電図読影、カルテの書き方、インフォームドコンセント、病院情報システム、医療安全、葉害被害者の声を聴く、院内感染関連、看護部、手術部関連 など</p> <p>OSCE 医療面接および身体診察に関して機構の課題を使用して実技試験を行います。 医療面接 10分 身体診察各領域 5分 本試験で不合格になった場合、該当領域について再試験を実施します。</p> <p>*詳細については、後日配布する資料をよく読んでください。</p>	

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
臨床実習序論 第27版	*授業開始前に配付します。		

必 修 科 目
(医 学 研 究 特 論)
【第4学年】

83-1. 医学研究特論(必修)

【解剖学講座 機能形態学分野】

(機能形態学研究コース)

担当教員	扇谷昌宏、古部瑛莉子、田中佑典、吉田成孝		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>基礎医学研究に限らず、臨床の現場においても未知の事象に遭遇した際にそれを解明しようとするのは非常に重要な姿勢であり、そのためには幅広い知識をもって未知の世界を切り開く能力、すなわち「サイエンス素養」を備えておく必要がある。本コースでは研究プロジェクトの遂行を通して、サイエンス素養を身に付け、研究マインドを養成すること、さらには、得られた成果を発表することで成果を社会に発信することの重要性を認識してもらうことを目的とする。</p> <p>上記目的のために、本講座にて進めている研究に関連するプロジェクトを新たに設定し、実験を行ってもらう。本講座では、「神経機能」について行動学、形態学、および分子生物学的手法を用いて研究しており、個体レベルから分子レベルに至るまで解析できることに特徴がある。</p> <p>研究テーマ設定にあたっては、教員としっかり相談して決める。一通りの実験手技を指導した後、自主的に実験に取り組んでもらう。得られたデータを解析してまとめ、最終的に発表会で成果報告する。</p>			
授業の形式			
<p>教員と相談し、研究テーマを設定する。研究室での実験は教員の指導の下で進める。週に1回程度、進捗状況と今後の方針について教員と議論してプロジェクトを推進する。</p> <p>コース実施期間中は形態学実習IIの展開中のため、指導は主に午後5時以降に行うので注意すること。</p> <p>COVID-19の状況等によってはオンライン形式(manaba)で実習を進める可能性もある。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
準備学習は定めない。研究に必要な資料や参考書を適宜配布あるいは指示するが、発展学習を自主的に行うことが望ましい。			
成績評価の基準等			
<p>研究プロジェクトに対して取り組む姿勢を評価する。具体的には、プロジェクトの研究背景および研究方針の理解度や、どのような実験計画を立てれば目標到達できるかの実験立案力、得られた実験結果を解析する考察力、そして指導にあたる教員とどれくらい深く議論できるかといったことを評価する。また、研究発表会における発表および質疑応答の内容も評価対象とする。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>研究活動では、時には考えていた仮説どおりにいかないこともある。そのような中でも試行錯誤を繰り返しながら実験を進めていくと、思いもよらないところに突破口が開けることがある。このようなところに研究の醍醐味があり、これがサイエンス素養を育むことになる。本コースに参加する学生には研究に積極性をもって取り組むことで、そのような体験を味わってもらいたい。なお、本講座ではコース実施期間中、第2学年の形態学実習IIの授業で担当教員が不在のことがあるため、自主的に考え実験を進められる学生を希望する。</p> <p>コース実施期間中は形態学実習IIの展開中のため、指導は主に午後5時以降に行うので注意すること。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
必要に応じて資料を適宜配布する。			

83-2. 医学研究特論(必修)

【解剖学講座顕微解剖学分野】

(コース名:細胞・組織の微細構造から生命現象を考える)

担当教員	甲賀大輔、森永涼介、春見達郎、◎渡部 剛		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>秩序ある構造が存在しないところには生命現象は生じない。本講座では、各種顕微鏡観察や免疫組織化学法を駆使し、生体の微細構造や機能分子局在の面から、様々な生命現象の解明を進めている。この科目/コースでは、本講座で進められている研究に実際に参加していただき、形態学的側面から生命現象を捉えるセンスを磨くことを目的とする。また、このような研究を通して、もう一度人体の構築に関する知識を整理するとともに、得られた知識・観察データの解釈を通して、今後展開される臨床実習で必要とされる「根拠に基づいた推論・判断」の能力を養う。</p>			
授業の形式			
<p>本講座で進めている分泌細胞の細胞内小器官の構造と機能に関する研究に実際に参加し、組織切片作成・染色、免疫組織化学法による生体構成物質の局在の検討、走査型電子顕微鏡観察などの形態学的研究法を習得する。この過程において担当教員は適宜、助言・指導を行う。</p> <p>これまで本講座で主に扱ってきた研究対象/材料は、下垂体前葉や甲状腺、膵臓を中心とした内分泌細胞であるが、形態学的方法論は生体のあらゆる器官・組織に対して適用可能であるので、学生自身に「これを最先端の顕微鏡技術で見てみたい」というアイデアがある場合には、最大限尊重する。当講座では、この期間中にどのようなことを学びたいか(あるいはやってみたいか)について、あらかじめ考えをまとめて、事前に相談しに来ることを願う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>基礎医学科目を普通に履修した学生であれば、事前の特別な準備は必要ない。医学研究特論期間中は、きちんと実験ノートを取り、日々の所見を整理するよう努めること。</p>			
成績評価の基準等			
出席状況および実験・実習に取り組む姿勢を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>生命科学領域に限らず、ひろく形や構造の美しさやその形成原理といった事柄に興味を持つ、ひと味違った学生の参加を希望する。また、実験の進行上、通常の講義時間外に作業が伸びる可能性もあることに留意されたい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格

83-3. 医学研究特論

【生理学講座(自律機能分野)】

(コース名 心筋細胞のメカノバイオロジー)

担当教員	入部玄太郎、金子智之、千葉弓子		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>実際の研究への参加を通して、生理学的研究の方法論を理解・修得する。</p> <p>一般に生理学的研究では、問題点の抽出 → 関連情報の収集 → 仮説の提出 → 仮説検証のための実験の立案 → 実験の実施 → 実験結果の処理 → 結果に基づく仮説検証 → 学会などにおける発表 → 学術雑誌への投稿を目指した論文の作成、などの段階がある。これらの一部（場合によっては全部）を実地に体験し、実験科学としての医学研究の進め方を習得することを目標とする。</p>			
授業の形式			
<p>当講座で行っている、単離心筋細胞伸展技術を用いた心筋機械感受性研究、心筋細胞数理モデルを用いたコンピュータ・シミュレーションによる統合心筋生理学研究などに分担者として参加する。担当してもらった実験の方向性については、面談により履修者の希望を聞き、意欲を見極めたうえで決める。manabaでの履修となった場合に前者を希望する者は主にデータ解析を担当する。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>特別の準備学習は定めていない。実験に関する文献等に関しては、教員から紹介する場合もあるが、そのつど自分でも欲しい情報を探せるようネット検索法を指導する。</p>			
成績評価の基準等			
<p>評価は、履修開始時に履修者と指導教官とで定めた目標への到達度に基づく。研究の結果得られた新たな知識を社会へ還元することは研究者の使命である。論文発表を最終目標として設定できる学生の履修を歓迎する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>履修希望者は事前に本講座と連絡を取り、指導予定教官と相談すること。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
特に定めない。必要に応じ、教室の書籍を参照する。			

83-4. 医学研究特論(必修)

【生理学講座神経機能分野】

(コース名 神経科学)

担当教員	高草木薫、千葉龍介、野口智弘、高橋未来		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>論理的な思考と科学的なコミュニケーション能力を高めるためには、実戦的な経験が非常に有用である。そこで、ヒトや実験動物における感覚・認知・運動機能を神経生理学的手法にて解析する。実験データに基づいてヒトや動物の行動発見メカニズムを論理的に考察する能力を習得する。</p>			
授業の形式			
<p>テーマに関連した総説・原著論文を自主学习し、疑問点や意見を担当教員と議論する。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>準備学習は特に定めない。学習の分量は各学生の自主性に任せる。</p>			
成績評価の基準等			
<p>本学のアセスメントポリシーに基づいて、実験に取り込む姿勢を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>生きると言うことは、動的な現象である。生理学は、生きていることをリアルタイムで解析できる学問である。生きている動物、細胞の応答を実際に見ることにより、生命への理解を深めてもらいたい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
特に指定しない			

83-5. 医学研究特論(必修)

【講座等名 生化学講座】

(コース名 基礎医学研究コース)

担当教員	川辺淳一、山崎和生、矢澤隆志、中島恵一、 安田哲、鹿原真樹、渡辺祐伍、 佐藤栄晃、櫻井由香里		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>医学・医療上の課題解決に挑む現場(研究室)で、医学を含む幅広い知識(教養)を駆使しながら、未知の世界を切り開く研究体験の中から、将来、研究医はもちろん臨床医として活躍していく上で重要な「サイエンス素養」を認識してもらおう。</p> <p>上記の目的のため、本講座に所属する大学院生の指導と基本的に同様に、本講座で実際に運用している研究プロジェクトの一部について、具体的な達成目標を設定して実験を行ってもらおう。</p> <p>本講座では、多細胞生物の体の隅々に分布する「毛細血管」に注目し、心血管疾患のみならず、神経、代謝疾患の病態解明や再生医療を含む治療開発にむけた複数のプロジェクトが進行中である。授業冒頭に担当するプロジェクトの概要説明で研究の意義を理解し、さらに、こちらから実験の実験内容を説明、こちらから提示した実験生データを、自主的に解釈し、指導教官と相談しながら、前に進めていく。さらに、実験成果を他人にわかりやすく説明・説得するスキルの向上を目指し(図やグラフの作成、発表準備)、実際の学会発表に準じた形式でプレゼンする。</p>			
授業の形式			
<p>最大5~6名を一つのプロジェクトチームとして、チーム全員で相談しながらプロジェクトを前に進めていく。①研究テーマや具体的な目標(仮説)設定、各自の実験分担を決め、②週の最初に各週の研究計画をたて、週の最後に進捗会議を行いながら実験をすすめる。③研究成果の発表は、プレゼン分担(背景、結果、考察など)を決めて行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>研究プロジェクトが決まった後に、実験やプレゼンに有用な参考資料を配布する。実験をしていく上で理解すべき内容が多い場合も、チーム内で分担し(それぞれが各分担部分のエキスパートになり)、お互いに教えあって、チーム全体の理解を高める工夫も必要である。</p>			
成績評価の基準等			
<p>研究成果自体の是非(仮説どおりの結果か否か)を問わず、どれくらい深く議論して、研究目的(仮説)を設定し、実験プランを練り、結果を解析するプロセスが評価対象となる。実習過程での評価と別に、「発表会」での発表や質疑応答の内容に対しても評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>本講座では、各研究者の意志を尊重し、その自主性を最大限に生かしながら研究運用をしている。したがって、この活動に参加する学生も受け身の態度では、結果として取り残される。講座の「研究テーマ」に興味を持って、自主的に積極的に取り組めるかが成功の鍵であり、本教育カリキュラムの肝である。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
適時必要資料は、配布する。			

83-6. 医学研究特論(必修)

【薬理学講座】

(基礎医学研究コース)

担当教員	◎中山 恒、結城幸一、谷内秀輔、小林之乃		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>これまでに治療法がなかった病気に対する新薬が作られたり、既存の薬が他の疾患に用いられるようになったり、より使いやすい薬に改良されたり、薬の世界は日進月歩である。このような薬物開発の土台となるのが薬理学研究である。薬理学の研究には、薬の作用機序を理解するための生化学実験、その効果を多角的に検証する細胞実験、疾患治療への有効性を評価する動物実験など、さまざまな手法が用いられる。</p> <p>本コースでは、薬物開発をめざして進めている当講座での基礎医学研究の現場に参画し、研究の立案、さまざまな研究手法、研究結果の解釈までの、一連の基礎研究のプロセスを体得することをめざす。</p>			
授業の形式			
<p>事前に担当教員と相談の上、研究テーマを設定する(当講座で進めている抗がん薬が中心となりますが、もし興味がある事柄があれば、相談に応じます)。開講期間内に完了できる計画を立て、研究室で実験を行う。得られた結果をまとめて、プレゼン資料を作成し、発表会で成果を披露する。テーマの設定、研究手技の習得、実験結果のディスカッションは教員の指導の下で行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>特に定めません。テーマに関する知識を意欲的に学習して下さい。</p>			
成績評価の基準等			
<p>積極的に参加する姿勢、実験手技の習得度、研究結果のまとめ方、日々の活動や発表会での質疑応答の内容等に基づき総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>皆さんが普段使ったり、今後、臨床で用いる薬は、どのようなプロセスで開発されているのか。それを支える基礎研究を本コースで体感して下さい。一緒に頭をひねって、よじって、新薬開発にチャレンジしましょう!</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
指定なし。必要に応じて、資料を配布する。			

83-7. 医学研究特論(必修)
【病理学講座(腫瘍病理分野)】

(病理学研究コース)

担当教員	高澤 啓、田中宏樹、後藤正憲、藤井裕美子		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>医学・医療の発展・進歩は、基礎から臨床にわたる様々な研究の積み重ねにより達成されてきたものである。現在、医学生や医師が学んでいる知識や治療法のほぼ全てがそれら医学研究の遂行により成されている。医学研究特論は、そのような医学研究の一端を皆さんに少しでも体験してもらい、その意義を理解してもらうための機会である。</p> <p>腫瘍病理分野が主催する病理学研究コースでは、病気を理解しようとする学問である病理学の研究の実際を体験してもらう。病理学は、全身に及び非常に広範囲で膨大な疾患を扱うことから、どのようなテーマも研究対象となりうるという点で、極めて自由な学問でもある。</p> <p>当教室では、腫瘍を対象とした研究を、教員指導のもとで実施してもらう。がん切除材料の免疫組織化学、がん細胞株などの細胞培養、mRNAやタンパク質の発現解析、がん悪性化の解析、マウスを用いた実験など、がん研究の基盤となる手技を実施し得られた結果を解析し、実験結果としてまとめるという一連の過程を経験してもらう。そして、得られた結果について考察し、次に行うべき課題を設定するという、研究を行うに際し必要な考え方を知ってもらいたい。</p> <p>実験に並行して、病理解剖症例を用いた全身臓器の病理組織学的な観察と診断についても、希望に応じて実施する。本特論の対象は臨床実習直前の第4学年であることから、実際の症例で様々な病態について病理組織観察を通して把握し、全身状態の変遷の予測や複数病変の相互関与について、実際に学んでもらえる。</p>			
授業の形式			
<p>テーマを設定した上で、実際に実験手技を行い、そのデータをまとめて解析し、その結果を解釈する、という研究を進めるにあたり必要な経験を得てもらう。基本的な実験は、教員指導のもとで行い、データ解析や結果の解釈は教員に指導してもらうだけでなく、自分達で調べながら進めてもらう。これら一連の能力は、研究のみに必要なのではなく、医師になった際に出会う、診断が困難であったり、治療方法に悩む患者さんと向き合う際に、必要なものと考えている。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>テーマ設定について希望がある場合、事前相談を受け付ける。</p>			
成績評価の基準等			
<p>実験の実施、実験結果の解釈と考察、発表のための準備と実施の全てが評価対象となる。実験結果の良し悪しは評価対象とはせず、課題への向き合い方を重視する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>皆さんが現在学んでいるもののほぼ全ては、研究によって積み重なってきた知見です。皆さんの先輩たちが、強い意志を持ってそれらを成し遂げ、それが患者さんに還元されているのです。皆さんが今後立つ医療現場の発展に、医学研究がどのように寄与しているのか、実感してもらいたいと希望しています。医学研究が止まる時、医療の進歩も止まります。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
特に定めない。必要に応じ、教室の書籍を参照する。			

83-8. 医学研究特論(必修)
【病理学講座(免疫病理分野)】

(コース名 基礎医学研究コース)

担当教員	小林博也、大栗敬幸、長門利純、小坂 朱		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>本講座では、主に癌細胞や腫瘍由来の抗原(癌抗原ペプチド)に対する免疫応答をヒトやマウスのリンパ球を用いて解析研究しています。このコースでは、癌に対する免疫反応が、ヒトやマウスの生体内で、多様なリンパ球、マクロファージおよび樹状細胞などが多種多様なサイトカインやケモカインを分泌しながら、相互に協調して機能を発揮することを、免疫学的、分子生物学的手法を用いて、解析することを目的とします。なお、参加される学生さんは、採血し各自の末梢血リンパ球を使用しますので、ご留意ください。</p> <p>現在癌に対する免疫チェックポイント阻害薬は、癌治療のスタンダードになりつつあります。将来臨床で、このような治療薬を医師として使用する際に、患者さんの体内で、今どのような免疫反応が起きているのか、リサーチマインドを持った視点で、考察できるような思考力が身に付けば、目的達成です。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視覚機器の活用、学外見学など)			
<p>講座研究室で、指導教官から手技を学び、実験します。結果が出れば、それがネガティブデータであっても、なぜそのような結果になったのかを、ディスカッションし考察します。改善点があれば、大いに検証議論し、少しでも目的にかなうデータが出るように実験し、結果をまとめます。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>2学年で履修した、免疫学を思い出してください。</p>			
成績評価の基準等			
<p>発表会やポスターで評価しますが、一生懸命にやっていたら問題ありません。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>基礎研究は、短期間で良い結果は出ません。研究の楽しさと辛さを同時に感じて下さい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
特にありません。			

83-9. 医学研究特論(必修)
【感染症学講座(微生物分野)】

(基礎医学研究コース)

担当教員	◎原英樹、松田泰幸、山内肇		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>【履修目的】 薬剤耐性菌や新型コロナウイルスなどの世界的な蔓延により、感染症対策は危急の課題の1つである。本コースの履修目的は、微生物学のおよび免疫学的実験を経験することにより、感染症研究をより具体的に理解し興味を持つことにある。</p> <p>【概要】 病原体が感染すると宿主は免疫応答を活性化することで排除しようとする。そのためには感染免疫の最前線で働くマクロファージや好中球が病原体を異物として認識することで貪食したり分解する必要がある。その結果、様々な免疫応答が誘発され多くは感染防御に機能するが、病原体によっては免疫応答を攪乱することで病原性を発揮するものも存在する。 本コースでは、異物認識機構のなかでもインフラマソームとよばれる自然免疫応答に焦点をあて研究を行う。インフラマソームが活性化すると特異的な炎症性サイトカインの産生や細胞死など多岐にわたる炎症応答が惹起される。そこで、微生物がどのような機序でインフラマソームを活性化するのか、どのような分子がインフラマソーム応答の制御に関わっているのか、実験を行いながら考察していく。</p> <p>【到達目標】 微生物と免疫細胞の相互作用を観察することで、将来感染対策などを実践できる医師になってもらえることを期待しています。本コースでは、感染症や病原体に興味を持ってもらうこと、および論理的に実験結果を考察できるようになることを目標とします。</p>			
授業の形式			
実験に必要な手法や知識は、随時、担当の指導教員が指導する。実験結果が出るごとに、なぜそのような結果になったのかを考え、次の実験計画を立てる。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
実験開始前にミーティングを行い、随時、資料の配布と説明を行う。			
成績評価の基準等			
出席状況や研究に取り組む姿勢を評価する。実験結果の是非は評価の対象としない。研究過程でわからないこと、疑問に思ったこと等に対する探究心の有無や、実験結果や調べた情報から、自分なりの考えや発想を持つことができたかどうか(考察できたかどうか)を重視する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
本学では基礎医学研究に触れることができる貴重な機会となります。臨床に加えて基礎医学研究をできる能力は医師にとって強力な武器となります。これまで研究をする機会がなかった学生も特論をきっかけに研究に興味を持ち、自分の進路を決める助けにしてください。自分で計画し、実験結果から様々な仮説を考え、それを実証する、といった研究活動ならではの楽しさや「世界で初めて自分が解き明かす」という目的と自覚を持って独自の研究を育てていく工程を体験してください。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
適宜参考資料等は配布する			

83-10. 医学研究特論(必修)
【講座等名 社会医学講座】

(コース名 社会医学研究コース)

担当教員	神田浩路、金谷智子(Aコース)、 ◎西條泰明、吉岡英治、佐藤遊洋、 九里優輝(Bコース)		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>本コースの履修目的は、社会医学における研究の実践を通じて、研究能力の基礎を習得し、さらに研究やEBMの実践に必要な疫学論文の批判的吟味能力の向上、また保健所などの社会医学現場の理解を深めることである。 メインのコースは以下の2つが選択できる。 Aコース：産業医学についての研究を行う。内容は産業現場の有機溶媒等の曝露と健康に関する研究を行う(3名まで)。ただし、新型コロナウイルスの感染状況により産業医学現場の見学等ができない場合は、LMS(manaba)等を通じて開発途上国の現場における課題解決にて使用されている手法を用いて海外の産業医学も含めた国際保健に関する研究を行う。 Bコース：疫学データ解析による研究(公的データを解析する生態学的研究や実際にアンケート調査を行って解析を行う等)を行う(3名まで)。 共通コース：①論文抄読：原著論文(英文)の論文紹介を期間中に各自が2回行う。内容は社会医学に関する疫学論文、もしくは特に研究内容に関連するものとする。②保健所・産業医学演習：期間中に保健所や、研究対象医学の産業医学現場の見学等を行う。③各教員による研究内容や社会医学トピックスの講義。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
メインの研究はグループによる演習形式で行い、期間中の学習内容は1日毎の研究日誌を作成して、週ごとに5日分をまとめて提出する。また、随時、教員を交えた研究検討会を行う。共通コースの①論文抄読は個別の指導とグループ内での発表を行う。②は随時、施設を訪問して担当者の講話や、現場の見学を行う。③は講義形式となる。新型コロナウイルス拡大時は、manabaやzoomを使用した研究検討、論文抄読、講義を行う。その際は、学外実習を行わない。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
衛生・公衆衛生講義や臨床疫学の該当分を復習することが予習となる。検討した研究内容について、教科書や原著論文等を読むことにより学習していく。また、アンケート調査等を独自に行いたい場合は、できるだけ開始前の早い時期に相談に来て下さい。			
成績評価の基準等			
①研究日誌(50点：期間内は毎日記載することを原則とする。理由無く記載しない日がある場合は、0点とする)。②教員を交えた研究検討会(30点：主体的な研究への関わり(データ収集・解析、文献検索等)と検討会での発言を評価する。理由無く研究検討会に参加しない日がある場合は0点とする)。③論文抄読の発表(20点：2回の発表を原則とし、発表を2回行わない場合は0点とする)。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
社会医学の研究への理解を深め、研究方法論の基礎を習得し、また社会医学の実践面も経験することができます。独自にアンケート調査等を行いたい場合は、倫理申請などが必要となる場合もありますので、開始前に早めに相談に来るようにして下さい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
NEW予防医学・公衆衛生学改訂第4版	岸 等編	南 江 堂	6,300円
標準公衆衛生・社会医学(第2版)	岡崎 等編	医 学 書 院	5,700円
産業保健マニュアル 改訂8版	森見爾編	南 江 堂	7,000円
臨床疫学-EBM実践のための必須知識(第3版)	福井次矢訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	5,000円
基礎から学ぶ楽しい疫学第4版	中村好一	医 学 書 院	3,200円
数学いらずの医学統計学第2版	津崎晃一訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	4,700円

83-11. 医学研究特論(必修)

【寄生虫学講座】

(コース名 分子機能解析)

担当教員	迫 康仁、伴戸寛徳		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後 期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>寄生虫症は、細菌やウイルスと異なり、真核生物が感染することにより引き起こされます。特に、蠕虫感染症は多細胞生物（蠕虫）が多細胞生物（ヒト）に感染することに引き起こされる疾患です。比較的大きい寄生虫に対して、ヒトは容易に免疫を誘導しそれらを排除することができるとは思われますが、実際はそうではありません。多くの寄生虫は、宿主との相互作用を通して、宿主からの免疫応答から免れ、寄生現象を成立させています。さらに、宿主と相互作用することによって、寄生虫の発育、増殖、分化などが制御されています。この相互作用に関するメカニズムの解明は新規治療開発の基盤を提供しうるものですが、未だに不明なことが多いのが現状です。</p> <p>本医学特論では、寄生虫-宿主相互作用の一端を担うと考えられる分子の機能解析を目的とし、それを遂行するための、実験計画の立案、実験手技の習得、結果の考察、研究発表を実際に体験してもらおう。同時に、寄生虫-宿主相互作用を理解するために、関連する論文を検索する方法を学び、検索した論文の中から興味を持ったものを週に1~2報程度自ら選定し、内容をプレゼンテーションとしてまとめてもらう。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>実習は実験を中心にを行います。基本的には、寄生虫の機能分子に関する解析を教官と相談しながら進めていきます。</p> <p>実験の性質上、数時間のインキュベーション時間があり、手を動かすことを中断する時がある。その時間帯を利用して、研究に関する論文を読み、実験の進捗状況に応じたディスカッションを行います。</p> <p>登校が困難な時は、論文解説を中心とした実習を実施する。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>実習開始後、適宜資料・論文等を配布する。実験を理解し遂行するために基礎となる部分なので、参考書などを中心に、予習することが望ましい。</p>			
成績評価の基準等			
<p>実習期間を通しての、態度ならびに習熟度を考慮し評価する。特に、自主性と追求心を重視する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>実験は実際に手を動かして、データを積み重ねることが大事です。何日もかけて実験したのにもかかわらず、期待通りのデータが出ないことが多くあります。しかし、得られたデータには必ず何かの意味があるはず。なぜそのような結果となったかを常に考えながら、実験を進めてください。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書 名	著者名	発行所	価格
適時に資料を配付する。			

83-12. 医学研究特論(必修)

【法医学講座研究コース】

キーワード〔法医学 法医病理学 法中毒 〕

担当教員	清水恵子、◎浅利 優、奥田勝博、高橋悠太		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後 期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>法医学とは、医学的解明を必要とする法律上の案件・事項について、公正で科学的な医学的判断をくだすことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学である。</p> <p>2023年度に履修する学生は、試料は唾液から抽出し、DNAのメチル化に基づいた年齢推定の実験を行う。また、司法解剖事例を通して、画像診断や薬毒物分析等の概要を習得する。なお、年齢推定では、主にDNAのメチル化率測定結果に基づいて統計解析を行い、日本人集団において年齢推定に有効な遺伝子領域の抽出、年齢推定の課題を検討する。文献検索により国内外の年齢推定法やDNA解析の現状について合わせて考察する。仮説に対する検討・解析の過程において、実験手技や解析の具体的な方法を学び、発表を通して、研究結果のまとめ方やプレゼンテーションの方法を習得する。</p> <p>本学法医学講座が施行する法医解剖(司法解剖、死因・身元調査法解剖)は年間250件程度あり、主に道北・道東の案件に対して鑑定を行っている。法医学講座の社会貢献の一つに正確な死因究明があり、解剖前死後CT撮影、肉眼解剖、各種諸検査(病理組織学的検査、生化学検査、薬毒物検査、他)の結果を総合して死因を特定し、死者の尊厳を守り、社会の安全や福祉の維持に務めている。また、特定の医科学分野に関しては、全国の主に捜査機関から問い合わせを受け、事件解決に協力している。</p>			
授業の形式			
<p>担当教員より必要に応じて研究内容を補足する講義を行うことがある。講座内にある教科書・論文等の参照は自由である(使用する場合は教室員に報告すること)。研究室で実験を行う場合は原則として担当教員の指導のもとで行う。</p> <p>また開講期間内に希望する場合は、法医解剖を見学することができる(殺人事件を除く)。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>準備学習は定めない。</p>			
成績評価の基準等			
<p>研究に対する関心・意欲・態度により評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>法医解剖は、事前の環境捜査状況や捜査機関が医療機関から聴取した情報を元に、各種科学的アプローチと多職種連携によるチームワークにより、正確な死因究明がなされている。当講座での実習を通して、研究者としての基礎的な素養を身に着けると同時に、死因究明の現実に触れることで、実りある実習となることを期待する。</p> <p>※履修中は死体(写真を含む)に接する可能性があり、忌避される方は選択を控えて下さい。選択しても、「無理」に解剖を見学する必要はありません。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書 名	著者名	発行所	価格
適宜			

83-13. 医学研究特論(必修)

【先端医学講座】

(先端医科学研究コース)

担当教員	◎船越 洋、上田 潤、橋本 理尋、南 竜之介、 島田 若菜、金井 将昭		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
近年、先端基礎研究の手法を駆使した治療法の開発研究が進められ、次第に成功をおさめつつある。日本においても基礎研究が開花し、ノーベル生理学・医学賞を受賞するなど世界に発信する研究成果が上がっている。本医学研究特論では、将来の上記成果を担う若者の育成を目指す、以下の2つのコースのどちらかを選択して先端研究を体験してもらう。(1)ヒト疾患原因遺伝子の同定とゲノム編集法を用いた原因遺伝子のノックインマウスの作出による疾患病態解析と治療法開発研究 (2)難知性神経疾患のモデル遺伝子改変動物を用いた神経再生因子およびゲノム編集法を用いた治療研究。			
到達目標			
一般目標：基本的な研究方法とそこから得られた結果を説明できるようになる。行動目標：先端研究手法を取り入れ研究を進める体験をするとともに臨床を視野に入れた研究の考え方を身につけます。			
授業の形式			
治療法開発研究として履修目的に記載した2つのプロジェクトのうちどちらか1つを選択し、1つの研究プロジェクトに対して全員で実験に取り組みます。その中で教員の指導のもと学生の間で各自の分担を決めます。研究は教員・学生でディスカッションしながら進めます。その中でリサーチマインドの考え方を身につけていきます。また、世界に通用するプレゼンテーションの方法を学びます。但し、大学の方針により直接実験が制約される状況になった場合、カリキュラムを以下の通り変更する場合があります。(1)Zoom等を活用したミーティング形式による研究プランの立案、バーチャル実験の実施とその結果の解釈のディスカッション。(2)英文論文の読解と自身の研究立案とディスカッションのZoom等による実施。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
準備学習は、実験データの整理と次の実験計画を立てるために必要な資料の収集・整理です。医学研究特論期間中は、実験ノートを取り、日々の所見を整理するように努めます。			
成績評価の基準等			
出席状況および実験・実習に取り組む姿勢で総合的に評価します。特に、研究背景、研究方法、実験結果の考察と次の実験の組み立て方に関して、評価します。また、他の研究者(学生・教員)との議論の進め方、研究成果の発表・質疑応答の内容を評価の対象とします。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
講座で進める「再生因子(HGF)」による神経疾患への基礎研究は、日本の複数の大学で現在難治性疾患への臨床相第Ⅱ相/臨床相Ⅲ相の治験の段階に進んでおり、新規治療法としての開花に期待が寄せられています。また、講座で同定したヒト疾患原因遺伝子は、「ゲノム編集法」を用いてその遺伝子を導入した疾患ノックインマウスモデル動物を作出して病態解明と治療法開発を進めているところです。これらの研究のどちらかに参加し、先端研究の醍醐味に興味を持つ学生を希望します。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
Muscle-derived neurotrophin-4 as an activity-dependent trophic signal for adult motor neuron.	Funakoshi et al.,	Science 268, 5216 1495-1499, 1995	
Aryl hydrocarbon receptor control of a disease tolerance defence pathway.	Bessedde, Funakoshi et al.,	Nature 511(7508), 184-190, 2014,	
ゲノム編集の衝撃「神の領域」に迫るテクノロジー(参考図書)	NHK「ゲノム編集」取材班	NHK出版	1,430円
CRISPR(クリスパー)究極の遺伝子編集技術の発見(日本語)	ジェニファー・ダウドナ(著)ノobel賞受賞者)	文藝春秋 333ページ(単行本)	1,760円

83-14. 医学研究特論(必修)

【内科学講座(循環・呼吸・神経病態内科学分野)】

担当教員	中川直樹、青沼達也、 佐久間寛史、小林祐也、		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
医学・医療上の課題解決に挑む現場(研究室)で、医学を含む幅広い知識(教養)を駆使しながら、未知の世界を切り開く研究体験の中から、将来、研究医はもちろん臨床医として活躍していく上で重要な「サイエンス素養」を認識してもらう。			
上記の目的のため、本講座に所属する大学院生の指導と基本的に同様に、本講座で実際に運用している研究プロジェクトの一部について、具体的な達成目標を設定して実験を行ってもらう。			
本講座では、心血管疾患を中心にその代謝や臓器および機能再生が病態と関連する機序の解明、治療開発に向けた複数のプロジェクトが進行中である。授業冒頭に、担当するプロジェクトの概要説明で研究の意義を理解し、必要な実験手技など一定の指導を行った後は、自主的に各自の実験を進めてもらう。実際の実験上での直面する問題や、結果の解釈などは指導教員と相談しながら、前に進めていく。実験成果を他人にわかりやすく説明・説得するスキルの向上を目指し(発表準備)、実際の学会発表に準じた形式でプレゼンする。			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
最大3名を一つのプロジェクトチームとして、チーム全員で相談しながらプロジェクトを前に進めていく。①研究テーマや具体的な目標(仮説)設定、各自の実験分担を決め、②週の最初に各週の研究計画をたて、週の最後に進捗会議を行いながら実験をすすめる。③研究成果の発表は、プレゼン分担(背景、結果、考察など)を決めて行う。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
研究プロジェクトが決まった後に、実験やプレゼンに有用な参考資料を配布する。実験をしていく上で理解すべき内容が多い場合も、チーム内で分担し(それぞれが各分担部分のエキスパートになり)、お互いに教えあって、チーム全体の理解を高める工夫も必要である。			
成績評価の基準等			
研究成果自体の是非(仮説どおりの結果か否か)を問わず、どれくらい深く議論して、研究目的(仮説)を設定し、実験プランを練り、結果を解析するプロセスが評価対象となる。実習過程での評価と別に、「発表会」での発表や質疑応答の内容に対しても評価する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
本講座では、各研究者の意志を尊重し、その自主性を最大限に生かしながら研究運用をしている。したがって、この活動に参加する学生も受け身の態度では、結果として取り残される。講座の「研究テーマ」に興味を持って、自主的に積極的に取り組めるかが成功の鍵であり、本教育カリキュラムの肝である。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
適時必要資料は、配布する。			

83-15. 医学研究特論(必修)
【内科学講座 内分泌・代謝・膠原病内科学分野】
(コース名 糖尿病・内分泌コース)

担当教員	◎未定、滝山由美、橋内博哉		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>医学研究の進歩に伴い、生活習慣病や癌の病態成立が分子レベルで解明されつつあるものの、多くの研究領域において、未だ不十分な点が数多く残されている。Evidencebased medicine (EBM) の視点でエビデンスをつくる礎となる疾患の病態成立に対する基礎的検討及び、それらの知見を臨床応用していくことは、今後さらに重要度を増すと思われる。本特論の目的は、将来的に研究者のみならず、臨床医を目指す学生たちにも、医学における基礎研究の重要性・意義を理解してもらう事にある。</p> <p>「栄養代謝環境」により惹起されるインスリン抵抗性、酸化ストレス、低酸素等を介した臓器障害について、培養細胞とモデルマウスを用い、分子生物学的手法により、その病態機序の解明と治療学的検討を行っている。</p> <p>学生には実際にプロジェクトに加わってもらい、概要の説明の後、基本的な実験の手技の取得とともに、結果の解析と解釈の仕方を習得してもらう。最終的には実験結果を学会発表に準じたスタイルでプレゼンテーション出来ることを目標とする。</p>			
授業の形式			
<p>講義形式では行わない。学生の自主性を尊重するが、特論期間中は基本的には、毎日研究室で研究に従事してもらう。最初に担当教員と実験の内容、方向性を協議し、手技の指導をしながら研究を進めていく。進捗状況は随時確認する。最終的には期間内の結果をまとめ、学会発表形式でプレゼンテーションができるよう指導する。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>準備学習は特に定めていない。プロジェクトが決まったあとに、必要資料を渡す。</p>			
成績評価の基準等			
<p>実験結果の是非は問わない。実験計画の立案、ディスカッションにどれだけ関与したか、自主的に実験を行い、結果を解析し深く考察したか、などが評価の対象になる。発表会での最終的なプレゼンテーション、質疑応答についても評価対象となる。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>将来臨床医になった時に、疾患の病態なども含めて様々な疑問点が生まれてくると思います。そういった疑問点を基礎的なアプローチで解明しようという考え方は、将来必ず役に立つと思います。研究者だけではなく臨床医を目指している学生さんも、当科の研究内容に興味のある方は、ぜひ一度、当科の研究活動に参加してみてください。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格

83-15. 医学研究特論(必修)
【内科学講座 内分泌・代謝・膠原病内科学分野】
(コース名 リウマチ・膠原病コース)

担当教員	◎未定、岡本健作		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>臨床現場において、患者の診断・治療に重要視されるのが、「EBM: evidence-based medicine, 根拠に基づいた医療」であり、その「根拠」を提示するのが、臨床研究である。臨床研究は、医薬品・医療機器等の開発の探索的研究手段として、また、薬剤の有効性に関する研究など、多くの診療ガイドライン等の検討において必要とされる。現在、企業主導の大規模臨床試験が多くの症例数を有し、統計学的有意差をもって、evidenceを生み出している。その重要性は言うまでもないが、これら大規模臨床研究では、対象が選択基準や除外基準を満たした限定された症例であるため、実臨床現場での患者とはかけ離れているという問題を反映し、最近では「real-world study」と題した報告が相次いでいる。そこで、本コースでは、実臨床現場で患者を前にして生まれる純粋な疑問を研究の中心軸に置き、その解明のために、現場目線から臨床研究計画を立案、実行することにより、診療現場において、系統的臨床推論の実行を可能とする論理的思考の獲得を目的とする。また、現在の臨床現場の診断・治療のマイルストーンとなった重要な臨床研究論文の抄読を介し、医学の発展における臨床研究の重要性について認識を深める。</p>			
授業の形式			
<p>履修する学生は、リウマチ・膠原病グループに配属され、臨床研究テーマに基づいてデータ解析を行う。臨床研究はその成果として、情報発信により臨床への還元を行うが、その段階の学習として、本コースの最終日に行われる「発表会」において、臨床研究のエビデンスに基づいたプレゼンテーション形式を学ぶ。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>臨床研究テーマにしたがって、必要に応じ自主的に文献検索、データ解析などを進める。</p>			
成績評価の基準等			
<p>臨床研究テーマに応じたプレゼンテーションまでの一連の過程における理解度と研究に対する自主性と探求心の有無を重視する。評価は一連の解析・研究過程の態度(出席日数含む)、理解度、プレゼンテーション資料ならびにプレゼンテーション技能を対象として行う。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>研究マインドを備えることにより、目の前の患者における問題点・疑問点を見つけ出し、その解決法を探索する系統的臨床推論力を獲得してほしい。医学の発展は、研究無しにはあり得ず、また、全ての医師は科学的根拠に基づき、患者にとって有益な治療法を選択する必然性から、臨床研究について、そのプロセスと、EBMを使いこなせる能力を身につける機会を提供する。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
初心者でもすぐできるフリー統計ソフト EZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析	神田善伸	南江堂	4,180円
みんなの医療統計 12日間で基礎理論と EZRを完全マスター!	新谷 歩	講談社	3,080円
EZRでやさしく学ぶ統計学 改訂3版 ~EBMの実践から臨床研究まで~	神田善伸	中外医学社	5,060円
第4版 Evidence based medicineを活かす 膠原病・リウマチ診療	東京女子医科大学病院膠原病リウマチ痛風センター(編集)	メジカルビュー社	10,450円

83-16. 医学研究特論(必修)
【内科学講座 消化器内科学分野】
(コース1:クリニカルケースとEBM)

担当教員	藤谷幹浩、野津司、水上裕輔		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>日常臨床の現場では、様々な患者と向き合い治療を行っていく過程で、たくさん問題点・疑問が生じる。この問題点を解決するため、これまでに蓄積された膨大な医学的知見を自分で解釈し、臨床現場で応用するスキルを習得し、患者治療へ還元できることが望ましい。このようなエビデンスに基づいた臨床は、日常診療・治療をすすめる上で大変重要となる。</p> <p>本講座では、個人個人がまず、自分の明らかにしたい臨床的な問題点を決める。それを明らかにするための方法論を知り、実際に世界中の膨大な情報から、自分の課題にせまる知見を集める。得られた成果を他人にわかりやすく論理的に説明できるように発表準備を進め、学会発表に準じた形式でプレゼンを行ってもらおう。これは今後の医師人生で繰り返し行われる、プレゼンテーション(毎日の回診や学会報告など)のスキルを向上させる。まずは6週間で一人あたり一つの臨床的疑問とするが、進行度に応じて複数の疑問解決にもチャレンジすることもできる。</p>			
到達目標			
<p>(1) 臨床的疑問の作成とエビデンスの取得法を理解する (2) 結果および考察についてわかりやすく発表する。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>本学図書館経由で情報を得ますので、ここのパソコンがあることが望ましい、節目節目でのレクチャーをしますが、基本的には個人個人の情報収集が主たる作業になります。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
6週間の授業時間内で完結します			
成績評価の基準等			
出席50% パフォーマンス50%			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>本実習においては、受け身ではなく、自主的に積極的に取り組み、将来の基礎作りに、このコースを活かしてください。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
適時必要資料は、配布する			

83-17. 医学研究特論(必修)
【精神医学講座】

担当教員	橋岡禎征、松田孟士、長 徹二 大宮友貴、市川香織		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>21世紀は脳と心の時代である。神経科学の発展とともに、臨床神経・精神医学に関わる研究はますます多彩になり、奥深いものになっている。</p> <p>このコースの履修目的は、臨床神経・精神医学に関わる最新のトピックスや重要文献について学習しながら、臨床医学研究の遂行に必要な情報収集・分析、論理的思考、口頭発表・討論などの能力を高めることで、自らの医学研究志向を向上させることである。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>担当教官の指導のもとで、各学生が選択した研究テーマについて、上述した履修目的を達成するための定期的討論会を行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
特に定めない。			
成績評価の基準等			
<p>当講座では、定期討論会における発表によって進行度を評価し、最終発表において成果を評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>臨床医学において精神医学的アプローチの重要性が広く認識されるようになっており、卒前教育として精神医学的教養を習得する意義は大きい。意欲ある学生の参加を期待する。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格

83-18. 医学研究特論(必修)

【講座等名 小児科学講座】

(コース名 感染・免疫、循環器、新生児)

担当教員	長森恒久、中右弘一、長屋 建、岡本年男、 二井光鷹、岡 秀治、石羽漫映美、佐藤雅之		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>臨床医としての仕事では、不安を感じながら診療を行うことも少なくない。知識や経験の不足によるものであれば、それを補う努力をする。しかし、既知の事実を勉強しても解決できないこともあり、科学的評価に耐える根拠を築き上げ、新たな治療法を開発することが求められる。本コースでは、研究マインドを持った情熱的な医師を育成することを目的としている。</p> <p>小児科学講座では、感染・免疫、循環器、新生児、内分泌・代謝、血液・腫瘍、神経の6つの専門サブグループに分かれて活動しており、そのグループ間の連携が大きな力となっている。学生は自分の興味に応じて専門サブグループに配置され、担当教官と相談し、研究内容を決定する。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>講義は行わない。自身の研究テーマの意義について、第三者を説得し説明ができるよう論文などで学習する。診療記録の調査あるいは研究室での実験は、教官の指導のもとで行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
学生の自主性を尊重する。			
成績評価の基準等			
学習態度と「発表会」での評価を総合して行う。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>興味を持った疑問点を、自分の力で明らかにしていくことの喜びを共有したい。また、科学的評価に耐える説得力を身につけることの重要性を伝えたい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
適時、必要資料は配布する			

83-18. 医学研究特論(必修)

【講座等名 小児科学講座】

(コース名 血液・腫瘍、内分泌・代謝、神経)

担当教員	高橋 悟、更科岳大、鈴木 滋、田中亮介 櫻井由香里		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>臨床医としての仕事では、不安を感じながら診療を行うことも少なくない。知識や経験の不足によるものであれば、それを補う努力をする。しかし、既知の事実を勉強しても解決できないこともあり、科学的評価に耐える根拠を築き上げ、新たな治療法を開発することが求められる。本コースでは、研究マインドを持った情熱的な医師を育成することを目的としている。</p> <p>小児科学講座では、感染・免疫、循環器、新生児、内分泌・代謝、血液・腫瘍、神経の6つの専門サブグループに分かれて活動しており、そのグループ間の連携が大きな力となっている。学生は自分の興味に応じて専門サブグループに配置され、担当教官と相談し、研究内容を決定する。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>講義は行わない。自身の研究テーマの意義について、第三者を説得し説明ができるよう論文などで学習する。診療記録の調査あるいは研究室での実験は、教官の指導のもとで行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
学生の自主性を尊重する。			
成績評価の基準等			
学習態度と「発表会」での評価を総合して行う。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>興味を持った疑問点を、自分の力で明らかにしていくことの喜びを共有したい。また、科学的評価に耐える説得力を身につけることの重要性を伝えたい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
適時、必要資料は配布する			

83-19. 医学研究特論(必修)

【講座等名 外科学講座(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)

(コース名 血管外科臨床研究コース)

担当教員	東 信良、菊地信介、吉田有里、竜川貴光		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>外科学において、手術式の決定や術前後の臨床データの把握は、適切な臨床研究と基礎研究の裏付けを持って行われるべきであり、これらをAcademic surgery、これを手懸ける外科医をAcademic surgeonと呼んでいます。</p> <p>当講座は、直感的な思考に基づく医療ではなく、科学的検証が行われた医療を行うことができる外科医を育成すべく、本特論では、臨床データとその理解に必要な基礎的思考を共に学ぶことを目的としています。</p> <p>外科医が基礎研究に携わり、手術治療に関連する生体事象に対する基礎的理解や新規発見などのエビデンス確立に向け、その思考過程を共にし、外科医ならではのResearch mindに触れて頂ければ幸いです。特に血管外科では、動脈硬化に関与するマイクロRNA、血管新生に関与するサイトカインなどの作用について、日常診療や手術から得られたサンプルを用いて研究をしています。</p> <p>コロナ禍により外科学講座ならではの手術見学の機会が困難になっています。その時々状況により手術見学の可否は異なりますが、手術→研究、研究→手術の両方向のベクトルが確立できるような体制にしたいと考えております。是非検討してみてください。</p>			
授業の形式			
<p>下肢閉塞性硬化症などの動脈硬化性疾患を中心に学習し、臨床上の問題点を共有した後に、手術で得られたサンプルや細胞を用いた基礎研究を一緒に行います。指導医との議論を通じて仮説を立て、実証するための実験を立案し実際に行って頂きます。得られた結果に対する理解とプレゼンテーションのノウハウを学んで頂きます。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>英語論文は週1編程度を宿題とし、授業までに大まかに把握して頂きます。実験については進行により授業時間外にも実験して頂く場合があります。最後に学会発表形式でまとめ発表して頂く予定です。</p>			
成績評価の基準等			
<p>1、授業での発表内容(50%) 2、実験や議論への参加の程度(50%) 欠席については減点の対象とします。また時間外の実験への参加などに関しては加点の対象とします。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>世界で対等に戦うためには、圧倒的な臨床データを武器に、これから導き出される疑問を基礎研究を通じて得た科学的な根拠を盾とする必要があります。血管外科医こそが臨床と基礎研究の等距離にいるミドルマン的存在と自負しています。体感したい皆さん、血管外科の医学研究特論でお待ちしております。過去の学生の中には、医学研究特論で研究した内容で全国学会で発表した方もいます。学会発表を積極的に後押しします。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
適宜配布			

83-20. 医学研究特論(必修)

【講座等名 外科学講座(心臓大血管外科学分野)

(コース名 心臓大血管コース)

担当教員	紙谷 寛之、小山 恭平 大久保諒、瀬戸川友紀		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>現在の医療は、過去の経験や知識を基にした科学的根拠の上に成り立っている。科学技術の進歩に伴い医療が発展し続ける中で、将来、基礎研究医はもちろん臨床医として活躍していくために、本コースでは研究活動を通じて医学における「サイエンス要素」の重要性を認識し、研究マインドの基盤を養ってもらう。</p> <p>授業では、本講座で進行中の研究プロジェクトの中から具体的な達成目標を指導教員と共に設定し、実験(プロジェクト)を受講学生本人に行ってもらい。冒頭でプロジェクトの研究背景や必要な実験手技の指導を行った後は、学生本人が主体となって実験を立案し実行することを期待するが、実験遂行上の問題点や結果の解釈は、指導教員と相談しながらプロジェクトを進めていく。この一連の研究活動の中で、問題点の把握、達成目標の設定、計画の実行と修正を経験し、多角的な視点と理論的な思考を養うことを目的とする。最後に担当したプロジェクトを、PowerPointを用いた学会形式で発表してもらう。</p> <p>本講座では分子生物学的手法と外科的技術を融合し、主に1)心臓の再生と2)小口径血管の再生を目的とした研究を行っている。技術的には培養細胞や動物への遺伝子導入とゲノム編集の他、動物モデルで血管グラフト移植手術を行っている。担当プロジェクト以外の研究も見学してもらい、広い知識と経験を獲得してもらい。</p> <p>オンラインで授業を実施する場合は、公共データベースを利用したinsilico実験やドライ解析を行ってもらい。また、本講座の研究テーマに関連した、ミニ総説論文の執筆を経験してもらい。</p>			
授業の形式			
<p>最大2人で1つのチームを作成し、プロジェクトに取り組む。実験は分担を決め、チームメンバーそれぞれが独立して行うが、お互いに情報を教え合い得られた実験結果を共有しながら一つのゴールに向けて実験を進める。週一回のラブミーティングを行い、進捗状況とその後の計画を相談する。必要に応じて、関連論文の抄読会を行う。授業の最後に発表会を設け、チームで一つのPowerPointスライドを作成し発表してもらう。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>当研究室の大まかな研究背景を把握できるように、現在進行中のプロジェクトに関連した論文を配布する。また、具体的な達成目標を設定後、プロジェクトに関する参考資料を適宜配布するが、学生本人がPubMedやインターネットを利用し必要な情報収集に励むことを期待する。</p>			
成績評価の基準等			
<p>プロジェクトに取り組むプロセスを評価の対象とし、実験結果の是非は問わない。多角的な視点と理論的な思考を意識して、達成目標に対する実験計画を立案し、得られた結果を深く考察することが評価される。また、人に分かりやすい説明も重要なポイントであるため、発表会での質疑応答も評価の対象とする。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>研究の本質は、仮説の証明と問題解決です。そのプロセス(問題点の把握、目標の設定、計画の実行と修正)は臨床の仕事も研究も同じはずですが。本コースで得られる研究経験を通じて、日常的に行われている診療や治療の根拠を考える習慣を身に付けて欲しいと思います。また、研究の楽しさを発見してくれることを期待しています。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格

83-21. 医学研究特論(必修)
【外科学講座肝胆膵・移植外科学分野】

担当教員	横尾英樹 今井浩二 島田慎吾 高橋裕之		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>肝胆膵領域悪性腫瘍は手術成績が向上してきているものの未だ十分なものではない。近年、薬物治療の発展により術前治療、術後治療を含めた集学的治療が行われているが治療成績向上のためにはさらなる治療開発が必要である。</p> <p>そのためには、肝胆膵外科領域の腫瘍疾患に対する知識を分子レベルまで高め、深く考察できるように基礎研究を通し身につけることを目標とする。</p> <p>上記の目的を達成するため、肝胆膵領域悪性腫瘍の細胞株を用いた簡単な実験を通して、問題提起、解決方法、実験方法、実験手技、結果考察を学生と議論しながら計画立案していく。そうすることで論理的思考力を養う。</p> <p>本講座では肝胆膵領域悪性腫瘍や臓器保存などの研究を行っており、そのテーマに関係のある実験を行ってもらう。</p> <p>また、臨床背景を知ってもらうため、肝胆膵悪性腫瘍、肝移植、膵移植に関する一般的知識を簡単に講義形式で補足する。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>実験が始まる前には基本的知識の講義を簡単に行う。また、実験プロトコルなども事前に説明する。</p> <p>後は実際に手を動かし実験の楽しさを味わってもらうと同時にその難しさも体験してもらう。</p> <p>講義の時間はなるべくなくし学生たちによる主体的態度を養うように指導する。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>基本的な研究プロジェクトのプロトコル、基本的知識を最初に配布する。それをもとに具体的な実験方法を議論しながら仮説からはじまり、予想される結論まで立案してほしい。基礎医学で学んだ背景知識をフルに活用してほしい。</p> <p>参考図書をあけておくので簡単に通読して興味をもってほしい。</p>			
成績評価の基準等			
<p>研究成果自体の是非(仮説どおりの結果か否か)を問わず、どれくらい深く議論して、研究目的(仮説)を設定し、実験プランを練り、結果を解析するプロセスが評価対象となる。実習過程での評価と別に、「発表会」での発表や質疑応答の内容に対しても評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>本講座では、病理学並びに共用実験施設を借りながら行っていきます。外科と病理は緊密に関係しているためです。肝胆膵外科の臨床的に未解決な問題は多くあります。講座の「研究テーマ」に興味を持って、自主的に積極的に取りくむことで研究の面白さがわかるはずであり、将来的な臨床的疑問点、問題点の解決方法を体験してもらえれば嬉しい限りです。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
ペコリーノがんの分子生物学	ペコリーノ	メディカルサイエンスインターナショナル	4,800円

83-22. 医学研究特論(必修)
【外科学講座 消化管外科学分野】

担当教員	角泰雄、長谷川公治、庄中達也、北健吾、谷誓良、大原みずほ、武田智宏		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>近年の医療機器の開発は目覚ましい。消化管外科学分野でも腹腔鏡分野の技術革新は手術に進化をもたらしている。消化管外科の中で主流を占めることになるであろう、ロボット支援手術および腹腔鏡の教育方法はまだ確立されていない。上記の目的の為、本講座に所属する医師の指導のもと本研究を行う。</p> <p>具体的にはシミュレーターやドライボックス(腹腔鏡の練習器具)を用い、一定のタスクを行うことで操作を行いながら結果を集積し研究を遂行する。ロボット支援手術や腹腔鏡手術のoff-the-job trainingの有効性を本研究で検討したい。2020-2023年まで折り鶴トレーニングが腹腔鏡の基本的タスクを学ぶのに有効なことを立証し論文文化した(Takedaら、Heliyon、2022年)。実際の実験上での直面する問題や、結果の解釈などは指導教官と相談していく。データのまとめ方・他人に分かりやすく説明・説得するスキルを適宜指導・学んでもらう。実際の学会発表に準じた形式でプレゼンテーションを作成する。自分たちの結果を外科系の全国学会で発表してもらうことを最終ゴールとしている。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>最大5-6名を1つのプロジェクトチームとして、チーム全員で相談しながら一つのプロジェクトを行ってゆく。研究テーマや具体的な目標(仮説)設定、各自の実験分担を決め、研究成果の発表は、プレゼン分担(背景、結果、考察等)を決めて行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>原則学生間で討議しながら進めていくこととなるため、学生の自主的態度を重んじる。適宜関連論文の輪読も指示し、現在の実験内容の理解を深める。お互いに教えあって、チーム全体の理解を高める工夫も必要である。</p>			
成績評価の基準等			
<p>分からない事、不思議な事に対する好奇心と粘り強い探究心の有無を最も重視する。研究目的(仮説)を設定し、実験方法を練り、出た結果を深く議論・検討することが評価対象となる。</p> <p>出席40%、実験へ取り組み姿勢30%、レポート(及び発表内容)30%とする。</p> <p>Manabaを用いるときは毎日の出席をmanaba上で確認する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>当講座は外科、特にロボット支援手術や腹腔鏡に興味のある皆さんからの参加をお待ちしています。自ら手を動かしてみたい学生におすすです。研究終了後も継続的に講座から連絡をすることがあります。自主的な学習を期待しますので、自主性の高い学生の参加をお待ちしています。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
必要資料は、適宜配布する。			

83-23. 医学研究特論(必修)

【講座等名 整形外科】

(コース名 臨床研究コース)

担当教員	伊藤 浩、阿部里見、妹尾一誠、松倉圭佑、 光武 遼、谷野弘昌、小林徹也		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>変形性脊椎症や変形性関節症に代表される変性疾患は、加齢性変化を基盤とした疾患である。その発症要因や進行要因は、染色体異常や骨関節形態、環境要因や外傷歴などが含まれる。</p> <p>本研究は、変性疾患の発症要因や進行予測因子を検討し、予防的治療や早期治療介入につなげることである。</p>			
到達目標			
<p>①これまでに知られている発症および進行要因と、最近の新しい知見を、文献を検索してまとめる。</p> <p>②X線やMRI画像を用いて、筋力や可動域のデータと合わせて、年代別の特徴を調査し、その経年的変化を検討する。</p> <p>③結果をまとめて統計学的検討を行う。</p> <p>④結果を考察して、本研究の臨床的意義をまとめ、研究のlimitationや今後のfuture reseachを計画する。</p> <p>⑤専門ではない人にも理解しやすいプレゼンを作成するポイントを学び、質疑応答する。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>教員指導のもと、文献の検索、画像計測やデータをまとめ、データの統計学的解析を行う。各個人で研究ノートを作成し、グループで一つのプロジェクトノートを作成する。週2回程度のresearch meetingを行い、データのまとめとディスカッションを行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>PubMed等による文献検索、Excel等を用いたデータのまとめ、SPSSやStatViewソフト等を用いた統計解析、PowerPoint等を用いたプレゼンテーションの準備は、自身または医局のPCで行う。</p>			
成績評価の基準等			
<p>研究ノートや結果のねつ造は絶対に行わない。</p> <p>限られた期限の中で結果を出すことは困難であるが、得られた結果に対して考察を行うことや、予測しない結果に対して十分な検討することを、成績では重要視する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>研究の過程で、整形外科学が、分子生物学、医用生体工学、電気生理学、生体力学、運動生理学、脳機能工学など、様々な基礎研究から成り立っていることを学んでほしい。臨床につながる新しい知見を見いだす醍醐味を感じてほしい。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
Bone Joint Nerve 早期変形性膝関節症 2016年 6(3)		アークメディア	3,500円
標準整形外科学第15版		医学書院	10,340円
脊椎脊髄ジャーナル 2017年 30(4)		三輪書店	5,400円

83-24. 医学研究特論(必修)

【講座等名 皮膚科】

(皮膚科基礎医学研究コース)

担当教員	岸部麻里、井川哲子、野崎尋意、小松麻衣		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>医学生物学的技術は常に進歩を続け、診断技術や治療法も大きく変容していきます。そのような変容の根底には多くの基礎医学研究の成果があります。しかし、進化した現代医療においてさえも、原因や機序が不明な現象がまだまだ多く残されており、それは皮膚科学領域でも同様です。これから医師を志す者は、基礎医学研究を理解する力をつけ、それを臨床に応用する意識を持つことが、目まぐるしく変化する医療の進化に適応し、臨床能力の向上を目指すうえで欠かすことのできないスキルとなっています。</p> <p>本講座では、皮膚バリア機能や皮膚病理など多岐に渡る基礎研究、臨床研究に取り組んでいます。学生向け研究テーマを提供しますので、以下を習得することを目標として、実習に取り組んで下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマに沿った医学研究論文の検索を行い、その内容を理解する。また、プレゼンテーションの練習教材として活用する。 2. 免疫組織染色、免疫プロット法やPCRなどの基本的な実験手技(清潔操作、安全確保を含む)を学び、実験の意味を理解する。 3. 得られた実験データをチーム内で分析、討論し、結論を導き出す。 4. 論理的に他人にわかりやすく発表するスキルを学び、研究内容を実際の学会発表形式でプレゼンテーションする。 			
授業の形式			
<ul style="list-style-type: none"> ・最大5-6名のチームで協力して、一つの課題に取り組みます。 ・皮膚科学講座で用意した課題テーマに関する皮膚科領域の医学研究論文を輪読し、チーム内で討論する。内容をまとめ、プレゼンテーションする。 ・免疫染色、免疫プロット法やPCRなどの初歩的な手技を学び、実践する(オンライン実習の場合は、実験手技や研究に関連する講義を行う。) ・得られた研究結果について、グループで分析、討論し、結論を出す。 ・プレゼンテーションのスキルを学び、分担して研究成果を発表する。 			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<ul style="list-style-type: none"> ・免疫染色、免疫プロット法やPCRなどの初歩的な手技について理解する。 ・皮膚科で用意した医学研究論文を読解し、発表する。 ・得られた研究結果について、過去の研究成果も考慮して解釈する。以上は、チーム内で分担して、互いに教えあうなど、協力して進めることが望ましい。 			
成績評価の基準等			
<p>担当教官によって、①出席状況(30%)、②予習状況(10%)、③課題に取り組む姿勢(20%)、④チームワークにおけるコミュニケーション能力(20%)、⑤発表・質疑応答の態度(20%)、について総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>基本的な医学実験を理解し実践したことがあるかどうかは、医学研究者になる場合はもちろん、臨床医としても、検査結果の解釈、論文の理解度、問題解決力に大きな差が出ます。明日の医療を担う皆さんには、積極的に取り組んでいただき、今後の糧として欲しいと思います。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
必要に応じて参照する			

83-25. 医学研究特論(必修)
【講座等名 腎泌尿器外科学講座】

担当教員	◎橋田岳也 堀淳一、和田直樹		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>臨床医の行う医学研究において、基礎研究、臨床研究を問わずその発端は日々の臨床から得られる疑問であることが多い。EBMが実践されガイドライン重視の医療になりつつある現代においてもエビデンスの乏しい課題は無数に存在する。その疑問を解決するために過去の臨床データを振り返り各種情報ソースからエビデンスを集め理解を深めるとともに課題の解決のための論理の組み立てや手法を学ぶことは医師としての素地を築く上で重要なトレーニングとなる。</p> <p>本研修においては課題に対して、定期的な情報収集を行い、理解を深めるとともに臨床データの解析を行い論理的思考、統計解析法やプレゼンテーションスキルを身につけることを目的とする。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>担当教員及びそのグループ医師による基礎的な知識に対する講義をはじめに行う。この際に臨床における疑問等があれば積極的なディスカッションを行う。</p> <p>関連論文の抄読ならびに発表を行う。研修の最終段階として学会発表に準じる形でのプレゼンテーションと質疑応答を行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
実習前の事前準備は特に定めていない。			
成績評価の基準等			
出席や課題に取り組む姿勢を各種発表やディスカッションを通して総合的に評価する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>1つの疑問(課題)に対して、必要な情報を収集しデータをまとめ解析しプレゼンテーションするという作業は医師として必ず身につけなければならないものですが、訓練をすれば誰でも会得することができます。本コースがその一助となることを期待します。</p> <p>(担当教員とのディスカッション等は診療時間外に行うことなので留意すること。)</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
適宜			

83-26. 医学研究特論(必修)
【講座等名 眼科学講座】
(コース名 網膜硝子体の画像解析・診断)

担当教員	長岡泰司、木ノ内玲子、西川典子、 善岡尊文、神谷隆行、宇都宮嗣了、高橋賢伍、 川口ゆりや、今野杏美		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>旭川医大眼科の研究の特色として、網膜硝子体の画像解析と血流診断がある。画像解析においては、光干渉断層計(OCT)とOCT血管造影(OCTA)を用いて網膜の組織構造と血管構築を非侵襲的かつ簡便に測定できる。血流診断については、レーザースペックル血流計を用いて網膜血管の血流を測定し、眼の循環動態を非侵襲的かつ定量的に評価できる。さらにさまざまな生理学的負荷試験によって網膜血管機能を評価することができ、これを指標として、糖尿病網膜症の早期診断や、新しい治療法の効果判定に役立てることができる。この授業では眼科外来で診療に参加し、実際の画像診断機器を自ら使いこなせるよう、使用方法を学んでいただきたい。</p>			
授業の形式			
<p>1)臨床研究のテーマを指導教員と考え、眼科外来で得られた画像情報をとりまとめ、データ化し、統計学的手法を用いて仮説を検証する</p> <p>2)文献を検索し、これまでの研究成果について理解を深め、自分の研究結果を深く考察し、医局内でプレゼンテーションしてもらう。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
教科書を読むなどして、一般的な眼科の知識について準備学習を行う。授業の最初に指導教員から詳しいレクチャーを行い、理解をさらに深めて、指導教員と一緒に文献検索を行い、興味のあるテーマを絞って、データ収集と解析を行う。			
成績評価の基準等			
指導教員からの評価に加えて、研究成果をまとめた最終プレゼンテーションを医局内で行い、教員から内容を評価をしてもらい、成績評価とする。			
学生へのメッセージ			
この授業では、これら眼科の最先端の研究に学生の皆さんに参加してもらい、研究の面白さを肌で感じてもらい、将来的には臨床にも研究にも前向きに取り組むClinician Scientist育成のきっかけを提供したい。			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
必要資料は配布する。			

83-27. 医学研究特論(必修)
【講座等名 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座】
(コース名 臨床研究コース)

担当教員	高原 幹、岸部 幹、熊井琢美、大原賢三、脇坂理紗、佐藤遼介		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>医学が日進月歩である現代においても、病因・病態が明らかでない疾患は数多く存在する。それらを解明するための手がかりは、日々の臨床における些細な疑問や症例蓄積によるデータに隠れていることが多く、これらと疾患との因果関係を科学的に証明することができれば疾患の診断や治療に大きく貢献できるが、そのためには臨床検体の解析が不可欠である。</p> <p>扁桃病巣疾患は扁桃が原因となって全身症状を起こす疾患である。その代表例としてIgA腎症、掌蹠膿疱症、胸肋鎖骨過形成症などが挙げられる。扁桃摘出術によりこれらの疾患の症状が改善することから、扁桃が病態に重要な役割を果たしていることは経験的に明らかだが、それを証明するエビデンスは乏しい。本講座では、扁桃病巣疾患の病態解明に取り組んでおり、臨床から研究までの一連の流れに触れることで、臨床医が研究マインドを持つことの重要性を学んでもらう。具体的には扁桃病巣疾患患者の入院から手術までを担当教員と一緒に経験し疾患の特徴や手術法に関して学んでもらう。また手術で得られた扁桃組織から実際にリンパ球を分離し、リンパ球に発現する分子の解析を担当教員の指導の下で実施する。時間に余裕があれば、当講座で注力しているがん免疫療法の開発にも参加する。余儀なくオンライン実習となった場合は、課題論文を提示して実験プロトコルの作成や小テストやレポート提出などによる評価とする。</p>			
授業の形式			
<p>当講座の手術日は臨床チームの一員として行動する。見学が主であるが、手術による扁桃組織の摘出法や摘出後の保存法などを学んでもらう。摘出された扁桃のリンパ球分離に関しては、手術日に分離することが多いため時間外の実験となる可能性もある。採取したリンパ球の解析内容に関しては、適宜担当教員とディスカッションしながら進めていく。その他、必要に応じて研究内容や手技に関するクルズスを予定している。オンライン実習となった場合は、課題論文を与えて科学的発想・問題抽出・解決論を学ぶ。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>準備学習は特に定めていないが、実習開始後は自主的に学習して知識を増やしていくよう努力することを期待する。また、疑問点を自分なりに整理し、指導教員とディスカッションできる能力が養われることも期待する。</p>			
成績評価の基準等			
<p>「実習に取り組む態度」と「成果発表の内容およびプレゼン」を主な評価の対象とする。実験手技に関する失敗は評価の対象外とするので、気負わず実習に取り組んでほしい。オンライン実習となった場合は、実験プロトコルの作成や小テストやレポート提出などによる評価とする。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>耳鼻咽喉科・頭頸部外科は幅広い診療領域を有することから、その研究分野も多岐にわたります。扁桃病巣疾患の課題は、臨床的疑問から研究計画を練り、その結果を臨床へ還元するという医学・医療の根幹を知る上でも有意義なものだと思います。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
必要に応じて適宜資料などを配布する。			

83-28. 医学研究特論(必修)
【講座等名 産婦人科学講座】
(コース名 生殖内分泌学)

担当教員	加藤育民、◎水無瀬学、水無瀬萌、津村亜衣		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>不妊治療を行っている患者は年を追う毎に増加傾向である。現在生殖補助医療によって生まれる子の数は年間6万人を越え、全出生の14人に1人である。2022年4月から不妊治療が保険適用になり、不妊治療に対する世間の見方も変化しつつある。これまで不妊治療は妊娠を考える人たちが考えることと捉えがちであったが、他の病気や介護と同様に社会全体がともに歩む方法を考えることへと意識を変えなければいけない時期にさしかかっていると言える。現在、不妊治療の妊娠率は40%程度、生児獲得率は35歳で20%程度である。受精卵(胚)が子宮の内膜に着床しない原因は様々であるが、胚側の因子としては染色体異常があり、子宮内膜側の因子としては、着床の窓のズレ、子宮内膜の炎症(慢性子宮内膜炎)、子宮内膜局所の免疫系の異常などが考えられている。</p> <p>本授業では特に反復着床不全の原因として考えられている慢性子宮内膜炎に着目する。慢性子宮内膜炎は未だに確定的な診断がなされていない疾患であり、ある一定の診断基準を作成することでその病態解明につながる可能性がある。反復着床不全症例から得られた子宮内膜をCD138で免疫染色し、得られた切片全体の面積に対するCD138陽性細胞の個数をカウントすることで割合を算定する。どの程度の割合であれば慢性子宮内膜炎と言えるかを過去の文献と照合しつつ、新たな診断基準を模索することで慢性子宮内膜炎の病態を明らかにすることを目的とする。</p>			
授業の形式			
<p>担当教員は日々の診療も兼ねているため、臨床の実際も見学してもらおう。手術がある日は経腔採卵術、胚移植術、腹腔鏡手術を合わせて見学してもらうことで臨床と研究との橋渡しとする。慢性子宮内膜炎に関する最新の文献に当たってもらい現在のトレンドを感じてもらいたい。</p> <p>感染状況により実地での実施が出来なくなった場合は、manabaを使用した内容に変更になる。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>準備学習に特に指定はないが、不妊症とはどういったものであるのか、あらかじめ勉強しておくことで実際の臨床の現場を見学したときに一層理解が深まるものと考えている。</p>			
成績評価の基準等			
<p>出席、実習態度、最終発表をもとに評価を行う。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>生殖補助医療の分野は少子化問題と合わせ現在一番重要な日本のトピックスといっても過言ではありません。実際の現場を見学してもらうことで出産や手術だけではない産婦人科の魅力を感じてもらい、研究と実臨床がどのように結びついているのかを少しでも触れてもらえると幸いです。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
適宜授業中に配布します			

83-29. 医学研究特論

【講座等名 放射線医学講座】

(コース名 放射線科領域における画像診断)

担当教員	沖崎貴琢、中島香織、山品将祥、中山理寛、渡邊尚史、石戸谷俊太、青木友希、大屋明希子、戸田雅博、野村優里菜、野村健太		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>患者さんの病態を改善ないしは治癒させることを目的として、様々な医学研究が行われている。当科は放射線を用いた治療及び診断によって全体としての医学に貢献している。この際には限られた一部の医師の経験に基づいて思い込みで医療行為を行うのではなく、論理的に蓋然性の高い推論及び検証に基づいてアプローチが行われる必要がある。そのためには正しい基本的な統計学や数学的知識とデータを取り扱うスキルが必要となる。これらの知識・スキルは、将来医師となった後の人生で必須である。本カリキュラムを選択した学生には、本講座でチャレンジしている研究プロジェクトの一部に実際に参加してもらい、医学的に有用な分析の一部を担当してもらおう。最終的には学会発表に準ずる形式で他者にわかりやすくプレゼンテーションを行えることが目標となる。またこの過程で、必要な知識及びスキルを習得する。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>参加する学生でプロジェクトチームを適宜構成し、チーム内でディスカッションしながら段階的にプロジェクトを推進する。いわゆる座学形式の授業は開講しない予定である。不明な点、あるいはプロジェクトの進行上、問題が明らかになる都度、スタッフとディスカッションして問題を解決する。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>研究プロジェクトのテーマが決定されたのち、必要に応じて参考資料を配布、ないしはフリーで入手可能なものに関しては入手方法を示唆する。基本的に学習の時間配分、あるいはチーム内の役割分担は学生の自主性を尊重する。</p>			
成績評価の基準等			
<p>出席50%、実習態度50%の割合で評価する。カリキュラムの一環であるので、研究成果が医学的にどの程度のインパクトを持つかに関しては評価の対象としない。プロジェクトを推進する過程でのディスカッションの内容、またロジカルに議論を進めることができるか、矛盾が出てくるようならそれを説明する仮説を提唱できるかといった点を重点的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>本カリキュラムでは個人の自主性を尊重したいと思いますので、能動的に努力することも必要です。皆さんは将来医師になるわけですが、トレーニングを受ければ誰でも出来るような作業を繰り返すだけの「作業者」ではなく、独創性をもってクリエイティブな仕事ができる「科学者」になれるように可能な限りアシストしたいと思います。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
特に指定しない。必要に応じて最適な資料を提示する。			

83-30. 医学研究特論(必修)

【講座等名 麻酔・蘇生学講座】

(コース名 麻酔科臨床研究)

担当教員	◎牧野洋、黒澤澤、岩崎肇、菅原亜美、佐古澄子、鷹架健一、井上真澄、須田康裕、高橋裕香子、上坂司、渡辺麻由、荒木走		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>本特論の目的は、2群比較の後ろ向き観察研究を行い、臨床研究の意義について理解し、臨床研究の実際の方法を学ぶことである。臨床の現場では診断・治療をする上で、数多くの臨床的疑問(クリニカルクエスチョン)が生じる。先人たちの多くの研究により臨床的疑問が解決されていることもあるが、個々の患者に適した診断・治療を行う上で未解決なものも多々ある。これらの臨床的疑問から研究課題(リサーチクエスチョン)を構築し、解析するのが臨床研究である。臨床研究を行うことは、「自分の考えが正しいかどうかを検証する」ことである。</p> <p>本コースでは、臨床研究のうち最もベーシックな2群比較の後ろ向き観察研究を、研究デザインの構築するところから一緒に行う。到達目標は以下の通りである。臨床的疑問を研究課題のPICO/PECOの形に構造化できる。ガイドラインやPubMedを利用して、研究課題の最新の知見をまとめることができる。研究課題に関する交絡因子などを考え、測定方法、解析方法などをデザインする。電子カルテから、データの抽出方法・アルゴリズムを理解する。個人情報を含むデータの管理方法など、臨床研究に必要な倫理的配慮を理解する。Excelを用いたデータの整理、SPSSやRなどの統計ソフトを用いた解析を実施し、臨床研究に必要な基礎的な統計学を理解する。研究のまとめ方、スライド・ポスターの作成方法など、学会発表に必要な手技を理解する。臨床研究の意義を理解し、臨床研究のデザイン、方法論を説明できる。</p> <p>なお本コースの研究課題は講座で準備する予定であるが、学生自ら実習期間中に考えた研究課題に変更することも可能である。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>麻酔、臨床研究に関するクルズスを毎日1時間程度行い、基礎的な知識のブラッシュアップを行う。また、チーム内のリサーチカンファレンスを行い、日々の進捗状況、課題の抽出、資料の準備など行う。研究は、主に麻酔科医局、手術室麻酔科医師控室やカンファレンスルーム、視聴覚室で行う。麻酔の臨床的疑問を体験してもらうために、手術麻酔を見学する。個人情報を含むデータは、麻酔科医局のPCなど決められたものを使用する。</p> <p>COVID-19により通学が出来ない場合は、manabaを利用して資料配布やデータのやりとりを行い、Zoomを用いたカンファレンス、クルズスを行います。データは個人情報を含まない状態にして、やり取りを行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>麻酔の概要を把握するために、講義の資料を復習しておくことが望ましい。臨床研究に関しては、実習中に資料を配布する。また、研究テーマに関連する資料に関しては、大学図書館や麻酔科医局の図書室、インターネットを利用する。資料の印刷に関しては、医局のプリンターを使用する。</p>			
成績評価の基準等			
<p>出席(50%)、実習態度(50%)。実習態度は、研究の計画立案への自発的な関わり、研究計画遂行のプロセス、発表会の準備や発表などを総合して評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>6週間の実習期間を通して、臨床研究の最もベーシックな「2群比較の後ろ向き観察研究」を、自ら考え、調べ、解析し、発表するという研究の一連の作業を体験してもらいます。テーマは講座で用意しますが、自分の臨床的な疑問・研究的疑問を考えついたらテーマの変更も可能です。ぜひ一緒に臨床研究を行い、臨床医としてのキャリア形成を学んでください。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
標準麻酔科学 第7版	古家仁(著)	医学書院	5,720円
できる!臨床研究最短攻略 50の鉄則	康永秀生(著)	金原出版	3,520円

83-31. 医学研究特論(必修)
【講座等名 脳神経外科学講座】
(コース名 悪性神経膠腫について)

担当教員	木下 学、三井宣幸		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後 期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>難治性の悪性神経膠腫は浸潤性病変であり、至適境界切除ラインは未だ明確なものはない。従来MRIなどの放射線学的画像所見による至適切除境界ラインを定めているものの、画像病変を超えた部分に病変組織が存在しており再発は必発である。また、過剰に切除した場合には脳機能を損ない患者さんの生活自立度を著しく損傷してしまう。</p> <p>このため永きにわたり脳神経外科医はこのジレンマに悩まされてきた。そこで本学では世界に先駆け放射線学的境界ラインにくわえ生物学的境界ラインの検討を進めている。一つ目は術中アミノレプリン酸蛍光反応の定量化、もう一つは術中高DNA量測定である。</p> <p>実習期間中の一症例を軸に、術前検討、手術室実習、術後解析・考察を行う。</p> <p>術前は画像検討、手術に必要な知識の整理、手術室では摘出標本の高DNA量測定、蛍光反応定量化実習、術後は病理学的所見を含め解析、検討考察、プレゼンテーションの練習を行う。</p> <p>1) 本実習では、難治性の神経膠腫の病態、現在の課題、そして未来への展望を検討・考察していく。</p> <p>2) 一つの症例を軸に、科学的、統計的知識を養う。</p> <p>3) 症例に携わることにより医師としての倫理的姿勢を養う。</p> <p>4) プレゼンテーションを通じて要領よく発表するスキルを養う。</p> <p>COVID-19の感染が拡大し登校できなくなった場合はmanabaでデータを提示し、Zoomでディスカッション・プレゼンテーション練習を行う。</p>			
授業の形式			
<p>実習期間中の神経膠腫手術症例1例に対し、術前検討、手術室実習、術後検討を指導教官のもとに行う。</p> <p>なお、COVID-19の感染が拡大し登校できなくなった場合はmanabaとZoomを活用し、オンライン授業とする。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>悪性脳腫瘍、神経膠腫の病態、疫学、病理、脳機能、がん治療、神経膠腫の標準治療について予習しておくことが望ましい。</p> <p>また、3学年で履修した精神神経病態医学講義の「脳腫瘍」を思い出してください。</p>			
成績評価の基準等			
出席・実習姿勢・最終発表で判断する。			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
自らの思考能力を磨いてもらいたい。			

〈教科書・参考図書〉

書 名	著者名	発行所	価格
脳腫瘍学 基礎研究と臨床研究の進歩		日本臨牀社	20,900円
脳腫瘍治療学	松谷雅生	金 芳 堂	13,200円
プライム脳神経外科4 グリオーマ	隈部俊宏	三 輪 書 店	15,400円
脳神経外科学	太田富雄	金 芳 堂	37,400円

83-32-01. 医学研究特論(必修)
【講座等名 歯科口腔外科学講座】
(コース名 歯科口腔外科学基礎医学研究コース)

担当教員	◎竹川政範、吉田将亜、小神順也、佐藤栄晃		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後 期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>骨などの硬組織の形成と代謝を理解し、疾病によって生じた硬組織欠損を修復する上で再生医療の果たす有用性を認識する。再生医療に関する研究に触れることで、臨床医および研究者としての高度な素養を涵養する事を目的とする。歯科口腔外科学講座では、骨移植の研究を継続しているが、より低侵襲な治療を目指して幹細胞を利用した再生医療の手法を用いた研究を行っている。細胞を用いた骨の再生医療では、幹細胞、担体、培養環境に関する研究が主に行われているが、履修者には骨髄由来幹細胞、間葉系細胞などによる骨再生に関する研究、骨形成を行う際の細胞の足場となる担体の開発などについての研究を担当教員と検討した上で1項目を選択して行う計画である。研究計画立案から研究の遂行、結果報告まで指導教員の指導の下に実施する。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>講義形式の授業は行わない。毎日所定の時間に集合して、課題の進捗状況等についての報告を行う。週末には研究の進捗状況を会議で報告し議論する。研究室及び学生の自習スペースは教室内に確保する。関連した文献の抄読会を行う。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>準備学習は定めていない。研究に有用な参考資料は研究計画立案の際に配布する。</p>			
成績評価の基準等			
<p>実習課程での評価を主とするが、発表会での発表および質疑応答の内容に対して加点を行う。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>持論を通じて再生医療の基礎を学び、研究活動に積極的に取り組むことで、研究マインドを持った臨床医を目指しましょう。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書 名	著者名	発行所	価格
研究立案時に必要な資料は配布する。			

83-32-02. 医学研究特論(必修)
【講座等名 歯科口腔外科学講座】
(コース名 口腔機能低下症の評価)

担当教員	◎竹川政範、吉田将亜、小神順也、佐藤栄晃		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>口腔機能低下症は、いくつかの口腔機能の低下による複合要因によって現れる病態である。口腔機能低下を適切に診断し、適切な管理と動機づけを行うことで、さらなる口腔機能低下の重症化を予防し、口腔機能を維持、回復することが可能となる。</p> <p>本講座の持論では、評価法の理論、手法を学びながら、評価法の問題点などを考察することを目的とする。</p> <p>実際には履修者の関心に応じて、担当教員と検討したうえで研究計画を立案する。</p>			
授業の形式			
<p>講義形式の授業を行わない。毎日所定の時間に集合して、課題の進捗状況についての報告を行う。検査機器を実際に触れながら、評価法の問題点などを考察する。学生の自習スペースは教室内に確保する。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>準備学習は定めていない。研究に有用な参考資料は都度配布する。</p>			
成績評価の基準等			
<p>実習課程での評価を主とするが、発表会での発表の内容に対して加点を行う。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>口腔機能低下症の評価方法を学ぶことで、今後の臨床実習の足がかりとなることを期待します。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
研究立案時に必要な資料は配布する。			

83-33. 医学研究特論(必修)
【講座等名 救急医学講座】
(コース名 救急医療蘇生動画作成コース)

担当教員	◎岡田 基、中嶋駿介		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>救急診療に関わる疾患の病態を理解し、初期診療ができるよう学習する。</p> <p>現在の救急現場での問題点を探索し、学習する。</p> <p>上記を踏まえ、一般市民向けに啓蒙・啓発VTRを作成する。</p>			
授業の形式			
<p>学習形態は、論文検索、抄読会形式で発表する。</p> <p>シミュレーターや人形を用いて、救急診療の実技指導を行う。</p> <p>VTR作成のために、撮影機材や動画編集ツールを用いる。</p> <p>ポスター作製は、power pointを用いて作成し、編集する。</p> <p>感染状況などによっては、Zoom形式で学習することがある。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>救急診療に関するガイドラインやテキストを予習することが望ましいが、課題が決まってからでよい。</p> <p>むしろ、一般市民への啓蒙・周知するために、現在の救急診療についての問題点を想起していただくことが望ましい。</p>			
成績評価の基準等			
<p>自主的な取り組みと意欲を評価します。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>ゼロからものを作り上げていく作業が必要ですが、蘇生手技や診療技術を学ぶことができます。</p> <p>また、例年高評価を頂いており、達成感・充実感があります。楽しく学んでいきましょう。</p> <p>※定員は6名まで</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
BLSプロバイダーマニュアル AHA2020準拠	AHA	シナジー	4,840円
標準救急医学(第5版)	監修 日本救急医学	医学書院	8,250円

83-34. 医学研究特論(必修)

【講座等名 心理学】

(コース名 心理学研究コース)

担当教員	◎池上将永		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>近年、発達障害（神経発達症）の概念が普及するとともに、青年期以降に注意欠如・多動症（ADHD）や自閉スペクトラム症（ASD）等の発達障害を疑って診断を求めるニーズが増えている。これらの発達障害の背景には、個人に固有の認知特性が存在すると考えられている。例えばADHDの場合、不注意や多動性-衝動性といった症状は、前頭前皮質がつかさどる実行機能の観点から説明されることが多い。最近では、実行機能をさまざまな角度から評価するためのテストバッテリーも開発されている。</p> <p>本コースでは、主に大学生を対象として実行機能を評価する認知アセスメントや質問紙法を用いた実験実習を行い、発達障害を心理学的に理解するための知識や手法について学ぶ。</p>			
授業の形式			
<p>認知アセスメントや質問紙を用いた実験に参加し、得られた結果をレポートとしてまとめる実習を行う。具体的には、(1) 研究課題の設定、(2) 実験計画の立案、(3) 実験実習の実施、(4) データの整理とレポートの作成、(5) プレゼンテーション、について学ぶ。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>履修前に、シラバスのキーワードの内容について予習を行うこと。実習終了後に、実験の内容についてまとめること。</p>			
成績評価の基準等			
<p>実験への積極的な参加、レポート、および出席状況を総合的に判断して評価する。また、研究成果の発表（発表会）における貢献も評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>発達障害について心理学的な観点から理解を深めたい方、参加をお待ちしています。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) 成人の発達障害の評価と診断	東大病院こころの発達診療部	岩崎学術出版社	3,080円

83-35. 医学研究特論(必修)

【講座等名 化学】

(コース名 生命物理化学研究コース)

担当教員	◎眞山博幸、室崎喬之		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>生命活動は食物や飲み物の摂取、呼吸（酸素の取入れと二酸化炭素の排出）、排泄といった外界から生体に必要な物質とエネルギーを取り入れ、生体から外界に不必要なものを排出する条件下で起きます（非平衡条件といえます）。その結果、サーカディアンリズム（睡眠と覚醒のリズム、ホルモン分泌、血圧や体温調節）の発現やパターン形成（生体の形成）が起きています。</p> <p>このような生命現象を物理化学的な側面から実験し、体験してもらうことが本医学研究特論の履修目的です。具体的な授業内容としては、周期的に化学反応が変化してパターン形成も起こすBZ反応（Belousov-Zhabotinsky reaction）の実験や、パターン形成を理解する上で有用なフラクタル次元の解析を行います。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>担当教員が研究内容の背景について簡単な講義を行い、その後、実験を中心に行います。実験結果が得られるごとに教員と議論し、研究成果を段階的にまとめてゆきます。最後にレポートの作成・提出と研究成果を発表していただきます。受講する方には自習用のスペースを用意します。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>研究テーマが決まった後に関連する書籍や論文を配布します。</p>			
成績評価の基準等			
<p>取り組む態度、出席状況ならびに習熟度を考慮して評価します。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>生命現象について興味がある方をお待ちしています。事前の問い合わせを歓迎します。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
(参) 非線形科学	吉川研一	学会出版センター	
(参) フラクタル幾何学	ベノフ・B・マンデルブロ	日経サイエンス社	

83-36. 医学研究特論(必修)
【講座等名 先進医工学研究センター】
(コース名 先進医工学研究コース)

担当教員	武輪能明、井上雄介、寺澤 武、佐藤康史		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後 期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>現代においても多く存在する難病に対して、新たな医療機器の開発と革新的な治療技術の発案が求められている。当講座では、工学の知識を基に人工心臓や人工肺の開発、再生医療・組織工学を駆使した人工弁の開発ならびにそれらを用いた特殊循環の病態生理の研究を行っている。本コースでは、組織工学的手法によって作製する心臓弁の開発と、新型コロナウイルスなどの肺疾患に使用されるECMOを用いた新しい治療方法の開発に関して、大動物および小動物による実験を行い、研究開発における新たな知見を得るプロセスを学習することを目的とする。Cアームエックス線撮像装置や超音波撮像装置・人工心肺、体外循環装置などの医療機器の使用法を学びながら、心臓血管系の外科手術のスキルを身につける。</p>			
授業の形式(板書、プリント、視聴覚機器の活用、学外見学など)			
<p>演習形式で、教員とともに設定した目的を達成するために動物実験を主体とした実験計画を立案する。月曜日に1週間の報告と計画の修正を行う。最終的に6週間の成果をまとめ、学会発表形式でプレゼンテーションが行えるように進める。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>特に定めないが、先進医工学研究センターのウェブサイトに記載した研究内容を熟読してくることが望ましい。</p>			
成績評価の基準等			
<p>研究に取り組む姿勢や熱意を評価の対象とし、実験結果の成功や失敗は問わない。月曜日の全体ミーティングにおける発表によって進捗を評価し、期末の最終発表プレゼンテーションで成果を評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>本コースでは臨床で即戦力となる外科的手技・手術・体外循環装置の操作などを実際に手を動かして学ぶことができます。また再生医療研究の実際、医学と工学の境界領域で生まれる最先端の医療機器と治療法を体験することができます。研究の本質は、背景から導き出させる課題の設定と未知への挑戦です。課題を解決する論理プロセスを学習し、臨床と研究どちらにも生かすことのできる論理的思考を習得してください。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書 名	著者名	発行所	価格
適宜配布します。			

83-37. 医学研究特論(必修)
【講座等名 リハビリテーション科】
(コース名 運動学コース)

担当教員	大田哲生、及川 欧、遠藤寿子、伊達 歩		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後 期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>超高齢社会においてQOLの高い生活を送るためには何が必要でしょうか。それは健康寿命を長くすることだと思います。2022年度の国民生活基礎調査では介護が必要となった主な原因の第1位は認知症、第2位は脳血管疾患、第3位は骨折・転倒となっています。</p> <p>リハビリテーション医学では認知面と歩行の関係や歩行がフレイルに及ぼす影響、転倒予防などが研究の対象となっており、歩行分析から病態を推測したり、より安定した歩行に向けた対応の検討などを行っています。</p> <p>下肢人工関節置換術後、脳血管疾患後の片麻痺、および下肢・足部切断後の歩行パターンはそれぞれ異なる特徴を呈しており、各病態にあった運動方法を検討する必要がありますが、健康人の歩行様式にもまだ未解明なところがあります。今回、健康歩行について、シート式足圧接地足跡計測装置を用いた分析を行うとともに、各疾患の歩行について文献的考察を行い、歩行についての理解を深めることを目的とします。</p>			
授業の形式			
<p>講義形式の授業は行いません。所定の時間に集合して測定方法の習得、課題の進捗状況の確認、測定結果の検討、文献的考察などを行います。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>特に定めませんが、基本的な歩行様式について学習しておくことが望ましい。</p>			
成績評価の基準等			
<p>出席状況(20%)、研究に取り組む態度(40%)、成果のまとめへの貢献や文献的知識(40%)を総合的に判断して評価します。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>普段は歩行について考えることはないかと思います。何気ない動作の中にも未知のことが含まれています。なにかに疑問を持つこと。疑問を持ったら研究して調べてみる。これから皆さんに必要なことだと思います。身近な歩行の解析から少しづつやってみましょう。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書 名	著者名	発行所	価格
なし			

83-38. 医学研究特論(必修)
【講座等名 形成・再建外科】
(コース名 形成外科臨床研究コース)

担当教員	林 利彦、山尾 健、西尾卓哉		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>形成外科学は、先天性・後天性の各種疾患や外傷による皮膚・軟部組織、硬性組織、または臓器の一部を含めた変形・欠損に対し、組織移植に代表される各種の形成再建外科を用いた手法により再建修復を行う外科治療学です。再建外科領域では、機能および整容の改善を目指し高いレベルでの治療を通じてQOL (quality of life) の向上を目的とします。具体的には再建外科手術では、マイクロサージャリーを用いた遊離皮弁移植による頭頸部再建やリンパ管静脈吻合によるリンパ浮腫の治療などを行います。これらの治療を行う上で重要な研究テーマは、再建後の機能評価や脈管系の特性、すなわち血管とリンパ管の流路の特徴を評価することです。本コースにおいては、頭頸部再建後の機能やリンパ管の流路の特徴を検討するために過去の論文データや、今まで我々が得た臨床データを参考に統計学的手法を通して科学的にその特性を明らかにすることを目的とします。</p>			
授業の形式			
<p>今までの臨床データから腓骨を用いた下顎骨再建後の機能や頭頸部皮膚がん患者から得られた皮膚リンパ流の特性について過去の文献を参考にした仮説を立て、次にその仮説が正しいかどうかを統計学的手法で検討する。次に結果を考察して、最後に指導教官も参加した論議から結論を導き出す。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>キーワードからPubMedなどを用いて文献を検索を行い、実習前に基本的な知識を身につけておくことが望ましい。また、PowerPointや動画等を用いたプレゼンテーションの準備は自身のPCで行う。</p>			
成績評価の基準等			
<ol style="list-style-type: none"> 1 レポートあるいは発表内容 (50%) 2 実習への参加の姿勢、意欲 (50%) 3 欠席については減点の対象となることがあります 			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>履修希望者は事前に本教室と連絡を取り、指導予定教官と相談すること。学生の希望によっては履修内容の構成も変更することもあります。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格

83-39. 医学研究特論(必修)
【講座等名 薬剤部】
(コース名 薬剤部臨床研究コース)

担当教員	田崎 嘉一、中馬 真幸		
対象学年	開講時期	単位数	コマ数
第4学年	後期	5単位	150コマ
履修目的・授業概要			
<p>本コースは、「医薬品を適正に使用する」ための研究を通じて、将来、医学者/医療人として活躍するために必要な研究マインドを育むことを目的とする。</p> <p>医薬品が上市されるまでの臨床試験では、厳格な適格基準と除外基準が設定されている。そのため、対象集団や状況は限定されているが、実際の臨床現場では様々な背景や合併症を有する患者にも治療を行う必要がある。したがって、使用実態下で生じる様々な疑問を解決する調査・研究が必要である。</p> <p>薬剤部では、多岐に渡る疾患に対する治療薬の「有効性と安全性を評価する」研究を展開しており、最近では、実臨床を反映した「real-world data」と称される大規模医療情報(医療ビッグデータ)の解析を積極的に進めている。必要に応じて診療情報を用いた研究やメタ解析など他の手法と統合した解析をすすめ、臨床的疑問の解決ならびにエビデンス創出を行っている。</p> <p>研究内容やテーマは、学生から個々の興味を聴取し、適性を考慮して決定する。</p> <p>本コースの履修を通じて、情報収集、論理的思考および成果発表に関する能力の向上を目指す。</p>			
授業の形式			
<p>最大2名を1つのプロジェクトチームとして、チーム全員で進める。テーマ決定度、「検討したい内容」の新規性と重要性を確認する文献検索、計画の立案およびデータ解析などを行う。また、その成果をまとめ、最終日に行われる「発表会」で発表する。各作業や解析は、随時、担当教官と相談しながら進める。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量			
<p>テーマ決定後、必要に応じて自主的な文献検索ならびに資料の参照などを進める。</p>			
成績評価の基準等			
<p>研究・調査結果の是非は問わない。研究の立案から発表まで一連の過程における理解度と研究に対する自主性などを総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ(履修上の心得など)			
<p>医療と医薬品は切っても切り離せません。今後、診療活動を行うにつれて、多くの臨床的疑問が生じるでしょう。その疑問を解決するために、様々な臨床研究のデザインを知っておくことは、将来必ず役に立つと思います。薬剤部の研究内容や医療ビッグデータ解析に興味をもつ学生の参加を期待しています。</p>			

〈教科書・参考図書〉

書名	著者名	発行所	価格
随時、必要資料は配布する。			

オフィスアワー 一覧表

オフィスアワーとは、学生の皆さんからの授業に関すること、履修に関することなど、質問や相談等に応じるための時間帯をいいます。

学生の皆さんが、気軽に研究室を訪問してオフィス・アワーを積極的に活用することで、履修上の問題解決に役立てることを目的としています。

講座・学科目名	氏名	実施場所	実施日時	概要
心理学	池上 将永	講義実習棟4F 心理学准教授室	随時	事前にメールで確認してください。 (ikegamim@asahikawa-med.ac.jp)
数学	加藤 勲	講義実習棟4F 数学	随時	気軽に訪問してください。 (isao_kato_84@asahikawa-med.ac.jp)
数理情報科学	高橋 龍尚	講義実習棟4F 数理情報科学教授室	随時(昼休み時間も含む)	気軽に訪問してください。 (ryushow@asahikawa-med.ac.jp)
物理学	本間 龍也	講義実習棟3F 物理学教授室	随時	わからないことがあったら気軽に質問に来ること。 (honma@asahikawa-med.ac.jp)
	稲垣 克彦	講義実習棟3F 物理学研究室	随時	わからないことがあったら気軽に質問に来ること。 (kina@asahikawa-med.ac.jp)
	藤井 敏之	講義実習棟3F 物理学研究室	随時	わからないことがあったら気軽に質問に来ること。 (tfujii@asahikawa-med.ac.jp)
化学	眞山 博幸	講義実習棟3F 化学研究室1	月～金	事前にメールで確認してください。 (mayama@asahikawa-med.ac.jp)
	室崎 喬之	講義実習棟3F 化学研究室1	月～金	事前にメールで確認してください。 (murosaki@asahikawa-med.ac.jp)
生物学	日下部 博一	講義実習棟3F 生物学准教授室	随時	気軽に訪問してください。 (hkusa55@asahikawa-med.ac.jp)
	日野 敏昭	講義実習棟3F 生物学研究室	随時	気軽に訪問してください。 (hino@asahikawa-med.ac.jp)
生命科学	津村 直美	看護学科棟4F 409号室	随時	気軽に訪問してください。 (nshi@asahikawa-med.ac.jp)
英語	三好 暢博	講義実習棟4F 英語2	随時	事前にメールで確認してください。 (ed-miyoshi@ed.asahikawa-med.ac.jp)
	桑名 保智	講義実習棟4F 英語3	随時	事前にメールで確認してください。 (yasukuwa@asahikawa-med.ac.jp)
社会学	工藤 直志	講義実習棟4F 社会学	随時	事前にメールで確認してください。 (kudot@asahikawa-med.ac.jp)
教育センター	佐藤 伸之	教育センター	随時	まずは、メールでご相談ください。 educ@asahikawa-med.ac.jp
	野津 司	地域医療教育学 医局	随時	まずはメールで相談して下さい educ@asahikawa-med.ac.jp
	井上 裕靖	教育センター	月～金 16:00-18:00	メールで予定確認 inoueh5p@asahikawa-med.ac.jp 医療安全、休業中の実習相談、学修全般など
地域共生 医育統合センター	牧野 雄一	医育統合センター(臨床研究棟2F)	月火金13:00以降	気軽に訪問してください
研究推進本部 病院臨床研究支援センター 研究技術支援センター	松本 成史	研究推進本部・教授室	随時	まずはメールで相談して下さい。 matsums@asahikawa-med.ac.jp
研究技術支援センター	伊藤 拓哉	未定	随時	まずはメールで相談して下さい。 takuya@asahikawa-med.ac.jp
	笹島 仁			まずはメールで相談して下さい。 hits@asahikawa-med.ac.jp
	宮園 貞治			まずはメールで相談して下さい。 miyazono@asahikawa-med.ac.jp
先進医工学研究 センター	武輪 能明 井上 雄介 寺澤 武 佐藤 康史	総合研究棟3F R333b	随時	講座事務室に連絡して下さい (内線2332)
解剖学講座 (機能形態学分野)	吉田 成孝	総合研究棟2階 解剖学講座(機能形態学分野)教員研究室	金曜午後 5時-6時	指定時間外でも対応可 syoshida@asahikawa-med.ac.jp
	扇谷 昌宏		随時	事前にメールで確認してください。 ohgidani@asahikawa-med.ac.jp
解剖学講座 (顕微解剖学分野)	渡部 剛	解剖学講座(顕微解剖学分野) 多目的研究室	月～金 17:00-18:00	会議などで渡部不在の場合には、甲賀准教授が対応します。
生理学講座 (自律機能分野)	入部 玄太郎	講座セミナー室	随時	前もって電話又はメールで相談してください。 (iribe@asahikawa-med.ac.jp)
	金子 智之			気軽に入室してください。 (kaneko@asahikawa-med.ac.jp)
	千葉 弓子			前もって電話またはメールで相談してください。 (yumikochiba@asahikawa-med.ac.jp)

講座・学科目名	氏名	実施場所	実施日時	摘要
生理学講座 (神経機能分野)	高草木 薫	生理神経機能スタッフ室	随時	事前に電話でご確認下さい。(68-2884)
	野口 智弘			事前にメールで確認して下さい。 (tnoguchi@asahikawa-med.ac.jp)
	千葉 龍介			事前にメールで確認して下さい。 (rchiba@asahikawa-med.ac.jp)
	高橋 未来			事前にメールで確認して下さい。 (mirai@asahikawa-med.ac.jp)
生化学講座	川辺 淳一	総合研究棟(8階)生化学講座会議室	随時	予め講座事務局(68-2352)へ予約
	大保 貴嗣			
	山崎 和生			
	矢澤 隆志			
	江口 良二			
薬理学講座	中山 恒	薬理学講座オフィス	月～金 13:00-17:00	・気軽に訪問してください。 ・体調不良等で講義、実習等を欠席する場合は メールで連絡してください。 e-mail:pharmacology@asahikawa-med.ac.jp
	結城 幸一			
	谷内 秀輔			
	小林 之乃			
病理学講座 (腫瘍病理分野)	高澤 啓	腫瘍病理図書室	随時	事前に予約してください。 (atakasawa@asahikawa-med.ac.jp)
	後藤 正憲		随時	気軽に訪問してください。 (gotom@asahikawa-med.ac.jp)
	田中 宏樹		随時	気軽に訪問してください。 (hiroki-t@asahikawa-med.ac.jp)
病理学講座 (免疫病理分野)	小林 博也	病理学講座	随時	気軽に訪問して下さい。 (hiroya@asahikawa-med.ac.jp)
	大栗 敬幸			
	長門 利純			
	小坂 朱			
感染症学講座 (微生物学分野)	原 英樹	微生物学講座図書室		まずはメールでご相談ください。 (hhara@asahikawa-med.ac.jp)
	松田 泰幸			まずはメールでご相談ください。 (matsuda@asahikawa-med.ac.jp)
	山内 肇			まずはメールでご相談ください。 (hyamauchi@asahikawa-med.ac.jp)
社会医学講座	西條 泰明	社会医学講座	随時	可能な限り事前にメールで確認してください。 (y-saijo@asahikawa-med.ac.jp)
	吉岡 英治			可能な限り事前にメールで確認してください。 (e-yoshi@asahikawa-med.ac.jp)
	神田 浩路			可能な限り事前にメールで確認してください。 (kkanda@asahikawa-med.ac.jp)
	佐藤 遊洋			可能な限り事前にメールで確認してください。 (yukihito-sato@asahikawa-med.ac.jp)
	金谷 智子			可能な限り事前にメールで確認してください。 (tomoko-k@asahikawa-med.ac.jp)
	九里 優輝			可能な限り事前にメールで確認してください。 (y-kunori@asahikawa-med.ac.jp)
感染症学講座 (寄生虫学分野)	迫 康仁	総合研究棟 寄生虫学講座 図書室	随時	講座事務局に連絡してください。 Tel (68-2422)
	伴戸 寛徳			
先端医科学講座	船越 洋	機器センター(2)5F 先端医科学講座教授室	随時	気軽に訪問して下さい。 (hfuna@asahikawa-med.ac.jp)
法医学講座	清水 恵子	法医学講座	随時	講座事務局に連絡ください。 Tel 68-2433 メール (tsukumim@asahikawa-med.ac.jp)
	浅利 優			
	奥田 勝博			

講座・学科目名	氏名	実施場所	実施日時	摘要
内科学講座 (循環器・腎臓内科学分野) (呼吸器・脳神経内科学分野)	佐藤 伸之	一内図書室・教育センター	随時	まずは、メールで相談ください。 (nsato@asahikawa-med.ac.jp)
	竹内 利治	一内図書室	随時	まずはメールで相談ください。 (take21@asahikawa-med.ac.jp)
	田邊 康子	一内図書室	随時	まずはメールで相談ください。 (yasuko-t@asahikawa-med.ac.jp)
	坂本 央	病院輸血センター部長室	随時	まずはメールで相談ください。 (nakasaka@asahikawa-med.ac.jp)
	澤田 潤	一内図書室	随時	まずはメールでご相談ください。 (sawajun@asahikawa-med.ac.jp)
	中川 直樹	一内図書室	随時	まずはメールでご相談ください。 (naka-nao@asahikawa-med.ac.jp)
地域医療再生フロンティア 研究室	長内 忍	地域医療再生フロンティア研究室	随時	事務室に連絡ください。 TEL: 0166-68-2839 メール: shinobuo@asahikawa-med.ac.jp
保健管理センター	川村 祐一郎	保健管理センター	月14:00-16:00	事務室に連絡ください。(68-2768)
心血管再生・先端医療 開発講座				※生化学講座事務室(68-2352)までご連絡ください。
内科学講座(内分泌・代謝・膠原病内科学分野) (旧第2内科)	滝山 由美	2内図書室(医局)	随時	いつでも気軽に訪問してください。
	麻生 和信			
	北野 陽平			
	岡田 充巧			
	岡本 健作			
	橋内 博哉			
	高橋 賢治			
内科学講座 (消化器内科学分野) (旧第3内科)	藤谷 幹浩	総合研究棟 内科学講座 消化器 内科学分野 図書室 他	随時	講座図書室で予約受付しています。
	水上 裕輔			
	田邊 裕貴			
	澤田 康司			
内科学講座 (血液内科学分野) (旧第3内科)	進藤 基博	総合研究棟6F 内科学講座 血液内科学分野 図書室	随時	事前にメールで確認してください。 (m-shindo@asahikawa-med.ac.jp)
精神医学講座	橋岡 禎征	精神医学講座医局	月 13:00-15:00	事前に講座事務室に連絡し、アポイントを取ってからお越しください。 (68-2473)
	坂内 聖	"	木 15:00-17:00	
	大宮 友貴	"	金 15:00-17:00	
	市川 香織	"	火 10:00-12:00	
小児科学講座	長屋 建	小児科医局	随時	講座事務室までお越し下さい。 (総合研究棟7階小児科医局)
	岡本 年男			
	高橋 悟			
	中右 弘一			
	鈴木 滋			
	長森 恒久			
	吉田 陽一郎			

講座・学科目名	氏名	実施場所	実施日時	摘要
外科学講座 (血管・呼吸・腫瘍病態 外科学分野)	東 信良	一外医局	12:00-13:00 17:00以降	講座事務室に連絡してください。 (tel 68-2494)
	北田 正博			
	内田 大貴			
	菊地 信介			
	宮城 久之			
	吉田 有里			
	竜川 貴光			
	石井 大介			
	大平 成真			
	栗山 直也			
外科学講座 (心臓大血管外科学分 野)	紙谷 寛之	一外医局	12:00-13:00 17:00以降	講座事務室に連絡してください。 (tel 68-2494)
	石川 成津矢			
	筒井 真博			
	小山 恭平			
	國岡 信吾			
	広藤 愛菜			
	鈴木 文隆			
	大久保 諒			
外科学講座(肝胆膵・移 植外科学分野)	松野 直徒	移植医工学治療開発講座	随時	事前に講座へ確認して下さい。 (2ge@asahikawa-med.ac.jp)
	横尾 英樹	教授室		
	今井 浩二	カンファレンスルーム		
	高橋 裕之			
	島田 慎吾			
外科学講座 (消化管外科学分野)	角 泰雄	教授室	随時	事前に講座へ確認して下さい。 (2ge@asahikawa-med.ac.jp)
	長谷川 公治	カンファレンスルーム		
	庄中 達也			
	谷 誓良			
	大谷 将秀			
	北 健吾			
	大原 みずほ			
	武田 智宏			

講座・学科目名	氏名	実施場所	実施日時	摘要
整形外科学講座	伊藤 浩	整形外科学講座医局 (図書室)	随時	事前にメールで確認してください。 (kuni38@asahikawa-med.ac.jp)
	小林 徹也			
	丹代 晋			
	谷野 弘昌			
	入江 徹			
	阿部 里見			
	三好 直樹			
	妹尾 一誠			
	柴田 宏明			
	小原 和宏			
	佐々木 祐介			
	光武 遼			
人工関節講座	前田 陽平			
皮膚科学講座	岸部 麻里	皮膚科図書室	随時	講座事務室に連絡してください。 68-2523
国際交流推進センター	本間 大	皮膚科図書室	随時	皮膚科秘書に連絡(2523)
腎泌尿器外科学講座	橋田 岳也	腎泌尿器外科学講座	随時	68-2533に連絡して下さい。
	堀 淳一			68-2533に連絡して下さい。
	和田 直樹			68-2533に連絡して下さい。
	小林 進			68-2533に連絡して下さい。
眼科学講座	長岡 泰司	眼科学講座 研究室1	随時	事前にメールで確認してください。 ganka@asahikawa-med.ac.jp
	木ノ内 玲子			
	西川 典子			
	善岡 尊文			
	神谷 隆行			
	宇都宮 嗣了			
	高橋 賢伍			
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	林 達哉	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	随時	まずはメールでご相談ください。 (3387beya@asahikawa-med.ac.jp) <先生の名前を必ず明記してください。>
	高原 幹			
	岸部 幹			
	大原 賢三			
	山木 英聖			
	熊井 琢美			
産婦人科学講座	片山 英人	産婦人科医局図書室	随時	(68-2562)に連絡して予約
	加藤 育民			
	市川 英俊			
	高橋 知昭			
放射線医学講座	教員全員	放射線医学講座医局 又は読影室	随時	講座事務室に連絡 (tel68-2572・メール radasahi@asahikawa-med.ac.jp)
麻酔・蘇生学講座	教員全員	総合研究棟3階 麻酔・蘇生学講座医局	随時	講座事務室に連絡 (68-2583) またはメールでご 相談ください。 (asahikawa.masui.office@gmail.com)

講座・学科名	氏名	実施場所	実施日時	摘要
脳神経外科学講座	木下 学	総合研究棟 脳神経外科医局	随時	講座事務室に連絡・又は訪問ください。 (68-2594) neurosurgery@asahikawa-med.ac.jp
歯科口腔外科学講座	竹川 政範	臨床研究棟5F 歯科口腔外科図書室	随時	事前にメールで確認してください。 mt906@asahikawa-med.ac.jp
	吉田 将亜			事前にメールで確認してください。 yo4718@asahikawa-med.ac.jp
	小神 順也			事前にメールで確認してください。 gamioy@asahikawa-med.ac.jp
救急医学講座	岡田 基	医局(急ぎの時は特定しない)	随時	講座事務室に電話してください。(68-2852) 事前にメール(kyukyugaku@asahikawa- med.ac.jp)で相談してください。 急ぎの時の連絡はSP5972
	中嶋 駿介			まずはメールで相談してください。 naka-g@asahikawa-med.ac.jp
地域医療教育学講座	野津 司	地域医療教育学 医局	随時	まずはメールで相談して下さい。 educ@asahikawa-med.ac.jp
形成・再建外科学講座	林 利彦	機器センター(2) 4階 形成外科医局	適宜	メール、電話等でご連絡下さい。 (toshi116@asahikawa-med.ac.jp、医局 68- 2801)
	山尾 健			電話等でご連絡下さい。(医局 68-2801)
	西尾 拓哉			メール、電話等でご連絡下さい。(keisei- nishio@asahikawa-med.ac.jp、医局 68-2801)
看護学科	伊藤 俊弘	看護学科棟607号室	随時	気軽に入室してください。部屋にいないことも多いので事前にメールで確認されることをお奨めします。(toshitoh@asahikawa-med.ac.jp)
	長谷川 博亮	看護学科棟507号室	随時	気軽に訪室してください。 (hiroh@asahikawa-med.ac.jp)
	濱田 珠美	看護学科棟401号室	随時	事前にメールで確認してください。 (thamada@asahikawa-med.ac.jp)
	藤井 智子	看護学科棟608号室	随時	気軽に訪問してください。事前にメールをいただくと確実です。 (koitomo@asahikawa-med.ac.jp)
	升田 由美子	看護学科棟4階403研究室	随時	気軽に訪問してください。 事前にメールをいただくと確実です。 (y-yumiko@asahikawa-med.ac.jp)
	山内 まゆみ	看護学科棟407号室	随時	気軽に入室してください。部屋にいないことも多いので事前にメールで確認されることをお奨めします。(asayama@asahikawa-med.ac.jp)
	山根 由起子	看護学科棟502研究室	随時	事前にメールで確認してください。 (yamane@asahikawa-med.ac.jp)
	荒 ひとみ	看護学科棟603号室	随時	事前にメールで確認してください。 (hitomara@asahikawa-med.ac.jp)
	一條 明美	看護学科棟402研究室	随時	気軽に訪問してください。 (aichijo@asahikawa-med.ac.jp) 件名に学年と氏名を記してください。
	塩川 幸子	看護学科棟606号室	随時	気軽に訪問してください。事前にメールいただくと確実です。 (shio32@asahikawa-med.ac.jp)
	野中 雅人	看護学科棟508号室	随時	気軽に訪問してください。 (masato-n@asahikawa-med.ac.jp)
	平 義樹	看護学科棟408号室	随時	気軽に入室してください。 (hira@asahikawa-med.ac.jp)
	森 浩美	看護学科棟413号室	随時	事前にメールで確認してください。 (ekubo-h@asahikawa-med.ac.jp)
	石川 千恵	看護学科棟405号室	随時	気軽に入室してください。 (chiei@asahikawa-med.ac.jp)
	神成 陽子	看護学科棟5階 506研究室	随時	気軽に訪問してください。事前にメールをいただくと確実です。件名に学籍番号と氏名を記してください。 (ykannari@asahikawa-med.ac.jp)
	苦米地 真弓	看護学科棟503号室	随時	事前にメールで確認してください。 (bechieco@asahikawa-med.ac.jp)
	綱元 亜依	看護学科棟404号室	随時	気軽に訪問してください。事前にメールいただくと確実です。 (march22@asahikawa-med.ac.jp)
	巻島 愛	看護学科棟505号室	随時	気軽に訪問してください。 (sai-mizu@asahikawa-med.ac.jp)
	牧野 志津	看護学科棟404号室	随時	気軽に訪問してください。 (km1208@asahikawa-med.ac.jp)
	松田 奈緒美	看護学科棟404号室	随時	気軽に訪問してください。 (kikui@asahikawa-med.ac.jp)
山口 希美	看護学科棟505号室	随時	気軽に入室してください。 (nozomi-y@asahikawa-med.ac.jp)	
山田 咲恵	看護学科棟504号室	随時	気軽に訪問してください。 (syamada@asahikawa-med.ac.jp)	

講座・学科目名	氏名	実施場所	実施日時	摘要
看護学科	水口 和香子	看護学科棟504号室	随時	気軽に訪問してください。事前にメールをいただくと確実です。 (mizu-w@asahikawa-med.ac.jp)
	吉原 菜寿	看護学科棟504号室	随時	気軽に訪問してください。事前にメールをいただくと確実です。 (maamo@asahikawa-med.ac.jp)
	出村 唯	看護学科棟505号室	随時	事前にメールで確認してください。 (demu@asahikawa-med.ac.jp)
リハビリテーション科	大田 哲生	共通棟(B)リハビリ科教授室	随時	事前にメールで確認してください。 tetsuota@asahikawa-med.ac.jp
	及川 欧	共通棟(B)リハビリ科医局	随時	事前にメールで確認してください。 oikawa@asahikawa-med.ac.jp
	伊達 歩	共通棟(B)リハビリ科医局	随時	事前にメールで確認してください。 ayudate@asahikawa-med.ac.jp
	遠藤 寿子	共通棟(B)リハビリ科医局	随時	事前にメールで確認してください。 hendo66@asahikawa-med.ac.jp
臨床検査・輸血部	坂本 央	臨床検査・輸血部 部長室	随時	まずはメールで確認してください。 rinken@asahikawa-med.ac.jp
手術部	林 達哉	手術部視聴覚教育室	随時	事前にメールで確認してください。 thayashi@asahikawa-med.ac.jp
病理部	谷野 美智枝	病理部部長室	随時	まずはメールで相談して下さい。 mtanino@asahikawa-med.ac.jp
集中治療部	小北 直宏	医局(急ぎの時は特定しない)	随時	救急医学講座事務室に電話してください。(68-2852)事前にメール(kyukyugaku@asahikawa-med.ac.jp)で相談してください。急ぎの時の連絡はSP5971
総合診療部	野津 司			事前にメールで確認してください。 tnozu@asahikawa-med.ac.jp
経営企画部	谷 祐児	経営企画部 副部長室	随時	事前にメールで確認してください。 y_tani@asahikawa-med.ac.jp
腫瘍センター	田邊 裕貴	腫瘍センター	要連絡	センターに連絡をしてください。 (tel:69-3232)
緩和ケア診療部	小野寺 美子	緩和ケア診療部	月・水・木 13:00-15:00	事前にメールで確認してください。 yonodera@asahikawa-med.ac.jp
遺伝子診療 カウンセリング室	蒔田 芳男	教育センター	不定時	事前にメールで予定を確認してね makita5p@asahikawa-med.ac.jp
薬剤部	田崎 嘉一	病院2階 薬剤部内	随時	事前にメールで確認するか (tasakiy@asahikawa-med.ac.jp)、病院2階の薬剤部薬務室を訪問してください。
	中馬 真幸			事前にメールで確認するか(chuma-masayuki@asahikawa-med.ac.jp)、病院2階の薬剤部薬務室を訪問してください。

令和6年度 学年暦

前期 後期	授業からの週数	月日～月日	医学科						看護学科				備考						
			1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	1学年	2学年	3学年	4学年							
前期	1	4.1～4.5	入学式(4/5)						入学式(4/5)				4月5日(金) 入学式・ガイダンス 4月8日(月)・9日(火) 新入生研修						
	2	4.8～4.12	授業 (4/8～7/12)						授業 (4/8～7/5)				定期健康診断 4月10日(水)・16日(火)・24日(水) 5月8日(水) 12時30分～14時30分						
	3	4.15～4.19																	
	4	4.22～4.26																	
	5	4.29～5.3																	
	6	5.6～5.10																	
	7	5.13～5.17											臨床実習 (4/1～6/21)		臨床実習 (4/1～6/28)		授業 (4/8～7/22)		看護学科第2学年対象 B型肝炎ワクチン第1回接種日 5月14日(火) 受付は15時20分～16時20分 医学科第3学年対象 B型肝炎ワクチン第1回接種日 5月9日(木) 受付は13時30分～15時00分
	8	5.20～5.24																	
	9	5.27～5.31																	
	10	6.3～6.7																	
	11	6.10～6.14																	
	12	6.17～6.21	臨床実習 (5/20～7/26)		臨床実習 (5/20～7/26)		6月7日(金)～6月9日(日) 医大祭 (医学科5・6年及び看護学科4年を除き休講) 6月10日(月) 医大祭後片付け (医学科5・6年及び看護学科4年を除き午前休講)												
	13	6.24～6.28																	
	14	7.1～7.5																	
	15	7.8～7.12																	
	16	7.15～7.19					試験週① (7/11～7/19) CBT模擬試験 (7/22)		臨床実習 (6/24～8/2)		臨床実習 (6/24～8/2)		看護学科第2学年対象 B型肝炎ワクチン第2回接種日 6月11日(火) 受付は15時20分～16時20分 医学科第3学年対象 B型肝炎ワクチン第2回接種日 6月12日(水) 受付は15時20分～17時00分						
	17	7.22～7.26					夏季休業 (7/15～8/16)		試験週② (9/12～9/20) 共用試験CBT (9/28)		臨床実習 (6/24～8/2)		夏季休業 (7/8～8/16)						
	18	7.29～8.2																	
	19	8.5～8.9																	
	20	8.12～8.16																	
	21	8.19～8.23									夏季休業 (8/5～8/30)		夏季休業 (7/3～8/23)		夏季休業 (7/15～8/16)		【早期体験実習Ⅱ】 15.16.17.18.19 週のうち1週間 (予定)		
	22	8.26～8.30	授業 (8/23～9/13)		授業 (8/19～9/6)						授業 (8/19～9/13)		授業 (8/19～9/6)						
	23	9.2～9.6	前期試験週 (9/9～9/20)		試験週② (9/12～9/20) 共用試験CBT (9/28)						臨床実習 (8/26～9/20)		前期試験週 (9/9～9/19)						
	24	9.9～9.13	前期試験週 (9/16～9/27)		前期試験週 (9/9～9/20)						臨床実習 (8/26～9/20)		前期試験週 (9/9～9/19)						
	25	9.16～9.20	前期試験週 (9/16～9/27)		前期試験週 (9/9～9/20)						臨床実習 (8/26～9/20)		前期試験週 (9/9～9/19)						
	26	9.23～9.27	前期試験週 (9/16～9/27)		前期試験週 (9/9～9/20)						臨床実習 (8/26～9/20)		前期試験週 (9/9～9/19)						
後期	27	9.30～10.4	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				9月25日(水) 解剖体慰霊式						
	28	10.7～10.11	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				医学科第4学年対象 B型肝炎ワクチン効果測定等採血日 9月30日(月) 受付は15時20分～17時00分 看護学科第2学年対象 B型肝炎ワクチン第3回接種日 10月8日(火) 受付は15時20分～16時20分 医学科第3学年対象 B型肝炎ワクチン第3回接種日 10月9日(水) 受付は15時20分～17時00分						
	29	10.14～10.18	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				総実習 (9/30～10/11)						
	30	10.21～10.25	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				授業 (9/30～10/18)						
	31	10.28～11.1	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				授業 (10/14～10/25)						
	32	11.4～11.8	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				後期試験週 (10/28～11/8)						
	33	11.11～11.15	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				後期試験週 (10/28～11/8)						
	34	11.18～11.22	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				11月5日(火) 本学記念日						
	35	11.25～11.29	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				看護学科第2学年対象 B型肝炎ワクチン効果測定等採血日 11月13日(水) 受付は15時20分～16時20分						
	36	12.2～12.6	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	37	12.9～12.13	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	38	12.16～12.20	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	39	12.23～12.27	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	40	1.3～1.7	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	41	1.10～1.14	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	42	1.17～1.21	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	43	1.24～1.28	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	44	1.31～2.4	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	45	2.7～2.11	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	46	2.14～2.18	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	47	2.21～2.25	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	48	2.28～3.3	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	49	3.6～3.10	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	50	3.13～3.17	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	51	3.20～3.24	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	52	3.27～3.31	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	53	4.3～4.7	前期試験週 (9/16～9/27)						前期試験週 (9/16～9/27)				卒業研究発表会 (12/5)						
	摘要		令和7年度授業開始日 4月7日(月)(予定)																

備考 この学年暦の日程は、一部変更することがあります。

令和6年度 カレンダ－

*欄外は予定

4/5 入学式
4/8 授業開始
4/8、4/9 新入生研修

6/7～9 医大祭

夏季休業
医学科1学年 7/22～8/22
医学科2・3学年 7/15～8/16
医学科4学年 7/23～8/20
看護学科1学年 7/15～8/16
看護学科2学年 7/8～8/16
看護学科3学年 7/23～8/16
看護学科4学年 7/29～8/16

9/25 解剖体慰霊式

始業からの週数	前 期							始業からの週数	後 期							
	4								10							
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土	
1		1	2	3	4	5	6	28	6	7	8	9	10	11	12	
2	7	8	9	10	11	12	13	29	13	14	15	16	17	18	19	
3	14	15	16	17	18	19	20	30	20	21	22	23	24	25	26	
4	21	22	23	24	25	26	27	31	27	28	29	30	31			
5	28	29	30													
	5								11							
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	3	4							1	2
6	5	6	7	8	9	10	11	32	3	4	5	6	7	8	9	
7	12	13	14	15	16	17	18	33	10	11	12	13	14	15	16	
8	19	20	21	22	23	24	25	34	17	18	19	20	21	22	23	
9	26	27	28	29	30	31		35	24	25	26	27	28	29	30	
	6								12							
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土	
							1		1	2	3	4	5	6	7	
10	2	3	4	5	6	7	8	36	8	9	10	11	12	13	14	
11	9	10	11	12	13	14	15	37	15	16	17	18	19	20	21	
12	16	17	18	19	20	21	22	38	22	23	24	25	26	27	28	
13	23	24	25	26	27	28	29	39	29	30	31					
	30							40								
	7								1							
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土	
							6					1	2	3	4	
14		1	2	3	4	5	6	41	5	6	7	8	9	10	11	
15	7	8	9	10	11	12	13	42	12	13	14	15	16	17	18	
16	14	15	16	17	18	19	20	43	19	20	21	22	23	24	25	
17	21	22	23	24	25	26	27	44	26	27	28	29	30	31		
18	28	29	30	31												
	8								2							
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	3								1	
19	4	5	6	7	8	9	10	45	2	3	4	5	6	7	8	
20	11	12	13	14	15	16	17	46	9	10	11	12	13	14	15	
21	18	19	20	21	22	23	24	47	16	17	18	19	20	21	22	
22	25	26	27	28	29	30	31	48	23	24	25	26	27	28		
	9								3							
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土	
							7								1	
23	1	2	3	4	5	6	7	49	2	3	4	5	6	7	8	
24	8	9	10	11	12	13	14	50	9	10	11	12	13	14	15	
25	15	16	17	18	19	20	21	51	16	17	18	19	20	21	22	
26	22	23	24	25	26	27	28	52	23	24	25	26	27	28	29	
27	29	30						53	30	31						

後期授業開始 医学科1・2学年 9/30
医学科3学年 9/24
医学科4学年 9/30
看護学科1・2学年 9/30
看護学科3学年 9/20
看護学科4学年 9/30

11/5 本学記念日

冬季休業
医学科1学年 12/16～1/13
医学科2学年 12/18～1/13
医学科3学年 12/18～1/6
医学科4学年 12/23～1/9
看護学科1学年 12/16～1/14
看護学科2学年 12/16～1/14
看護学科3学年 12/23～1/17
看護学科4学年 12/9～1/3

1/18～19 大学入学共通テスト

2/25～26 一般入試前期日程(予定)

2/25～ 春季休業
(医学科 4学年: 3/24～)
(看護学科3学年: 3/3～)
(看護学科4学年: 2/10～)

3/12 一般入試後期日程(予定)

3/25 学位記授与式

令和7年度入学式 4月4日(金) 授業開始4月7日(月) 予定

医学科(令和6年度医学科第1学年)

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

区分	授業科目	単位	形式	1年	備考
基礎教育科目	発生遺伝学	1	講義	○	必修
	基礎生物学実習	1	実習	○	必修
	心理・コミュニケーション実習	1	実習	○	必修
	初年次セミナー	1	演習	○	必修
ICM科目	早期体験実習 I	1	実習	○	必修
	地域医療学	1	講義	○	必修
	医療概論 I	1	講義	○	必修
	症候学	1	演習	○	必修
	単位合計	8			

医学科(令和6年度医学科第2～3学年)
実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

区分	授業科目	単位	形式	2年	3年	備考
ICM科目	早期体験実習Ⅱ	1	実習	○		必修
	医学チュートリアルⅠ	1	演習	○		必修
	医学チュートリアルⅡ	1	演習		○	必修
	医学チュートリアルⅢ	1	演習		○	必修
	医療概論Ⅱ	1	講義	○		必修
	医療概論Ⅲ	1	講義		○	必修
	選択必修コースⅠ	1	講義		○	選択必修
	選択必修コースⅡ	1	講義		○	選択必修
基礎医学科目	機能形態基礎医学Ⅰ	3	講義	○		必修
	機能形態基礎医学Ⅱ	6	講義	○		必修
	生化学Ⅰ	2	講義	○		必修
	生化学Ⅱ	2	講義	○		必修
	免疫学	2	講義	○		必修
	形態学実習Ⅰ	1.5	実習	○		必修
	形態学実習Ⅱ	3	実習	○		必修
	生化学実習	1	実習	○		必修
	病理学	3	講義		○	必修
	薬理学	2	講義	○		必修
	基礎医学特論	1	講義	○		必修
	生理学実習・演習	1	実習	○		必修
	病理学実習	1	実習		○	必修
臨床医学科目	心肺病態制御医学	4	講義		○	必修
	生体調節医学	3	講義		○	必修
	生体防御医学	2	講義		○	必修
	消化器医学	3	講義		○	必修
	精神・神経病態医学	4	講義		○	必修
	感覚器病態医学	5	講義		○	必修
	生殖発達医学	5	講義		○	必修
	臨床放射線学	1	講義		○	必修
	臨床検査学	1	講義		○	必修
	単位合計	64.5				

医学科(令和6年度医学科第4～6学年)
実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

区分	授業科目	単位	形式	4年	5年	6年	備考
ICM科目	医学チュートリアルⅢ	1	演習	○			必修
	医学チュートリアルⅣ	1	演習	○			必修
	医学チュートリアルⅤ	1	演習	○			必修
	医療概論Ⅳ	1	講義	○			必修
	医療情報学	1	講義	○			必修
	医療安全	1	講義	○			必修
基礎医学科目	衛生・公衆衛生	2	講義	○			必修
	衛生・公衆衛生実習	0.7	実習	○			必修
	法医学実習・演習	0.3	実習	○			必修
臨床医学科目	腫瘍学2	1	講義	○			必修
	整形外科学	2	講義	○			必修
	麻酔科学	1	講義	○			必修
	救急医学	1	講義	○			必修
	症候別・課題別講義	3	講義	○			必修
	臨床放射線学	1	講義	○			必修
	臨床検査学	1	講義	○			必修
	臨床薬剤・薬理・治療学	2	講義	○			必修
	臨床疫学	1	講義	○			必修
	健康弱者のための医学	2	講義	○			必修
	臨床実習序論	4	演習	○			必修
	単位合計	28					